

君津市高齢者保健福祉計画
・第7期介護保険事業計画
実態調査（アンケート）に係る
分析結果報告書

平成29年3月

君津市

目次

1	調査の概要	1
	調査の目的	1
	調査の対象者等	1
	調査の回収結果	1
2	調査の集計結果	2
	(1) 在宅介護実態調査	2
	A票の聞き取りを行った相手の方	2
	問1 世帯類型について、ご回答ください	2
	問2 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか（同居していない子どもや親族等からの介護を含む）	3
	問3 主な介護者の方は、どなたですか	3
	問4 主な介護者の方の性別について、ご回答ください	4
	問5 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください	4
	問6 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください	5
	問7 ご家族やご親族の中で、ご本人（認定調査対象者）の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）	5
	問8 現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ご回答ください	6
	問9 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、ご回答ください	7
	問10 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください	8
	問11 ご本人（認定調査対象者）が、現在抱えている傷病について、ご回答ください	9
	問12 ご本人（認定調査対象者）は、現在、訪問診療を利用していますか	10
	問13 現在、（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスを利用していますか	10
	問14 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか	11
	問1 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください	12
	問2 問1で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか	12
	問3 問1で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか（3つまで選択可）	13
	問4 問1で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか	13
	問5 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください（現状で行っているか否かは問いません）（3つまで選択可）	14
	調査時の年齢	15
	性別	15

日常生活圏域	15
要介護度	16
認知症高齢者の日常生活自立度	16
（２）介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	17
調査票を記入されたのはどなたですか	17
問１（１）あなた（この調査票のあて名のご本人）の性別をお答えください	17
問１（２）あなたの年齢をお答えください	18
問１（３）家族構成をお答えください	19
問１（４）あなたのお住まいの地区をお答えください	19
問１（５）あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか	20
問１（５）① あなたの介護認定についてお答えください	21
問１（５）② 介護・介助が必要になった主な原因は何ですか	21
問１（５）③ 主にどなたの介護、介助を受けていますか	21
問１（５）④ 主な介護者、介助者の年齢をお答えください	22
問１（６）現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか	23
問１（７）お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか	24
問２（１）階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	25
問２（２）椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	25
問２（３）15分位続けて歩いていますか	25
問２（４）過去１年間に転んだ経験がありますか	25
問２（５）転倒に対する不安は大きいですか	25
運動機能のリスク判定	26
転倒のリスク判定	27
問２（６）週に１回以上は外出していますか	29
問２（７）昨年と比べて外出の回数が減っていますか	29
閉じこもり傾向	29
問２（８）外出を控えていますか	31
問２（８）① 外出を控えている理由は、次のどれですか	31
問２（９）外出する際の移動手段は何ですか	31
問３（１）身長・体重・BMI	32
低栄養が疑われる高齢者	33
問３（２）半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	34
問３（３）お茶や汁物等でむせることがありますか	34
問３（４）口の渇きが気になりますか	34
咀嚼機能の低下が疑われる高齢者	35
口腔機能が低下している高齢者	36
問３（５）歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか	38
問３（６）歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください	38
問３（６）① 噛み合わせは良いですか	39
問３（６）② 毎日入れ歯の手入れをしていますか	39
問３（７）６か月間で２～３kg以上の体重減少がありましたか	39
低栄養状態にある高齢者	40
問３（８）どなたかと食事をともにする機会がありますか	41
問４（１）物忘れが多いと感じますか	42
問４（２）自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	42

問4 (3) 今日が何月何日かわからないときがありますか	42
認知機能が低下している高齢者	42
問4 (4) バスや電車を使って1人で外出していますか (自家用車でも可)	44
問4 (5) 自分で食品・日用品の買物をしていますか	44
問4 (6) 自分で食事の用意をしていますか	44
問4 (7) 自分で請求書の支払いをしていますか	44
問4 (8) 自分で預貯金の出し入れをしていますか	44
IADLが低下している高齢者	45
問4 (9) 年金などの書類 (役所や病院などに出す書類) が書けますか	47
問4 (10) 新聞を読んでいますか	47
問4 (11) 本や雑誌を読んでいますか	47
問4 (12) 健康についての記事や番組に関心がありますか	47
問4 (13) 友人の家を訪ねていますか	47
問4 (14) 家族や友人の相談にのっていますか	47
問4 (15) 病人を見舞うことができますか	47
問4 (16) 若い人に自分から話しかけることができますか	47
問4 (17) 趣味はありますか	48
問4 (18) 生きがいはありますか	49
問5 (1) ① ボランティアのグループにどのくらいの頻度で参加していますか	50
問5 (1) ② スポーツ関係のグループやクラブにどのくらいの頻度で参加していますか	50
問5 (1) ③ 趣味関係のグループにどのくらいの頻度で参加していますか	51
問5 (1) ④ 学習・教養サークルにどのくらいの頻度で参加していますか	51
問5 (1) ⑤ 老人クラブにどのくらいの頻度で参加していますか	52
問5 (1) ⑥ 町内会・自治会にどのくらいの頻度で参加していますか	52
問5 (1) ⑦ 収入のある仕事にどのくらいの頻度で参加していますか	53
問5 (2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか	54
問5 (3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営 (お世話役) として参加してみたいと思いますか	55
問6 (1) あなたの心配事や愚痴 (ぐち) を聞いてくれる人	56
問6 (2) 反対に、あなたが心配事や愚痴 (ぐち) を聞いてあげる人	56
問6 (3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人	56
問6 (4) 反対に、看病や世話をしてあげる人	56
問6 (5) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください	57
問6 (6) 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか	57
問6 (7) この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか	57
問6 (8) よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。	58
問7 (1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか	59
問7 (2) あなたは、現在どの程度幸せですか	60
問7 (3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	61
問7 (4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	61

うつ傾向の高齢者	61
問7 (5) お酒は飲みますか	63
問7 (6) タバコは吸っていますか	64
問7 (7) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか	65
問8 保健・福祉サービスの利用状況	67
問8 保健・福祉サービスの今後の利用意向	68
問9 (1) あなたがふだん気をつけたり、心がけたりしていること、または取り組みたいと思う ことに近いものは何ですか	69
問9 (2) 日常生活であなたが特に不便に感じていることはどんなことですか	70
問9 (3) あなたが認知症や高齢により財産の適正な管理や活用に不安が生じた場合、どのよう にしたいと思えますか	71
問10 (1) もし、あなたが常に介護が必要になった場合、どこで介護を受けて生活したいですか	72
問10 (2) 介護保険料とサービス提供のあり方についてどのようにお考えですか。	72
問10 (3) あなたは、「地域包括支援室（センター）」を知っていますか	73
問10 (4) あなたは、「介護予防・日常生活支援総合事業」を知っていますか	74
問10 (5) 今後、力を入れてほしい施策はどのようなものですか	75
問10 (6) 介護保険制度や保健・福祉サービスなどについて、ご意見・ご要望などございましたら、 自由にお書きください	76
複合リスクの判定	77
 (3) 特別養護老人ホーム入所希望者実態調査	79
この調査に回答される方はどなたですか。	79
問2-1. ご本人（特別養護老人ホームへの入所を希望されている方）の性別をお答えください。	79
問2-2. ご本人の年齢をお答えください。	79
問2-3. ご本人の要介護度はどれですか。	80
問2-4. ご本人のお住まいの地区について、お答えください。	80
問2-5. ご本人の現在の世帯構成はどれですか。	80
問2-5-1. 同居されているご家族について、お答えください。	81
問2-6. ご本人の現在のお住まいについて、お答えください。	81
問2-6-1. 自宅では、どのような介護サービスを利用していますか。	82
問2-7. ご本人が介護・介助が必要になった主な原因について、お答えください。	82
問2-8. ご本人は、次のいずれかの医療や処置を日常的に受けていますか。	83
問3-1. ご本人が特別養護老人ホームへ入所を申し込んだ理由は何ですか。	84
問3-2. 特別養護老人ホームに最初に入所の申し込みをしたのはいつですか。	85
問3-3. 入所の申し込みをしている特別養護老人ホームは何か所ありますか。	85
問3-4. どちらの地区の特別養護老人ホームへの入所を希望していますか。	85
問3-5. 特別養護老人ホームに入所したい時期はいつですか。	86
問3-6. 特別養護老人ホーム以外で入所申し込みをしている、または入所を検討している施設 をお答えください。	86
問3-7. ご本人の施設入所に対する考えは、次のうちどれにもっとも近いですか。	87
問4-1. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護という在宅サービスがありますが、このサービスの 利用についてお答えください。	87
問4-2. どのようなサービス等があれば、自宅で安心して暮らすことができると思えますか。	88

問 5-1. 君津市の介護サービスの整備について、どのように思いますか。	89
問 5-2. 介護保険料と特別養護老人ホームの整備に関する考え方は、次のどれにもっとも近い ですか。	89
問 6-1. ご本人の介護を主に（一番長い時間）行っている方は、ご本人から見てどのような 関係にある方ですか。	90
問 6-2. 主に介護している方の年齢はいくつですか。	90
問 6-3. 主に介護をしている方が、ご本人を介護してから現在までの期間は、どのくらいで すか。	91
問 6-4. どのくらいの頻度で介護をしていますか。	91
問 6-5. 介護に負担や悩みを感じることはありますか。	92
問 6-5-1. どのようなことで、負担や悩みを感じることはありますか。	92
問 6-6. ご本人の介護にあたり、介護の悩みをどなた（どちら）に相談しますか。	93
問 6-7. 特別養護老人ホームへの入所についてどのように考えていますか。	93
問 6-8. 介護をするなかで、充実を望むことは何ですか。	94
 (4) 介護サービス事業者実態調査	95
問 1-1 貴事業者（法人等）の所在地をお聞きします。	95
問 1-2 貴事業者の運営主体をお聞きします。	95
問 1-3 介護サービスの運営年数はどれくらいですか。	95
問 2-1 (1) 本市内で提供中の介護サービス	96
問 2-1 (2) 介護サービスを提供している地区	97
問 2-1 (3) 今後（平成 32 年度まで）の意向	98
問 2-1 (4) 今後の意向の理由	99
問 2-2 (1) 新設や拡充の予定年度	101
問 2-2 (2) 新設や拡充の規模	101
問 2-2 (3) 新設や拡充の予定地区	102
問 2-3 新規事業に参入する際に課題となることは何ですか。	102
問 2-4 新たに介護サービスの新設をすることを考えた場合、どのような支援があると良いと思 いますか。	103
問 2-5 事業を運営するうえで問題となっていることは何ですか。	104
問 3-1 職員数の過不足を感じていますか。	104
問 3-2 職員数が不足している主な理由は何ですか。	105
問 3-3 職員を新たに確保する際に課題になっていることはありますか。	105
問 3-4 人材確保に向けた取り組みを行っていますか。	106
問 3-5 職員の定着についてどのような状況ですか。	106
問 3-6 職員を定着させるために取り組んでいることは何ですか。	107
問 3-7 介護人材の確保や定着などに向けて、行政からどのような支援があると良いと思 いますか。	108
問 4-1 (1) 不足しているまたは今後不足すると感じている介護サービス	108
問 4-1 (2) 不足しているまたは今後不足すると感じている地区	110
問 4-2 君津市の高齢者向け福祉施策をどのように評価していますか。	111
問 4-3 今後の君津市の高齢者向け福祉施策に必要なことはどのようなことだと考えていま すか。	112
問 5-1 地域包括ケアシステムの構築に向けて、取り組むべき課題-1 医療・介護の連携強化	113

問5-1 地域包括ケアシステムの構築に向けて、取り組むべき課題-2 介護サービスの充実強化	113
問5-1 地域包括ケアシステムの構築に向けて、取り組むべき課題-3 介護予防の推進	114
問5-1 地域包括ケアシステムの構築に向けて、取り組むべき課題-4 多様な担い手による生活支援サービスの提供	114
問5-1②地域包括ケアシステムの構築に向けて、取り組むべき課題-5 高齢期になっても住み続けることのできるバリアフリーの高齢者の住まいの整備	115
問6 その他君津市の介護保険・福祉行政に関して、ご意見などありましたら、自由にお書きください	115
問7-1 (1) 介護予防訪問介護(要支援1、2)の利用者数	116
問7-1 (2) (1)のうち、サービス内容に、身体介護が含まれている利用者数	116
問7-1 (3) (1)のうち、訪問介護員による専門的な介護が必要と認められる利用者数	116
問7-2 (1) 「訪問型サービスA」への参入の意向について	116
問7-2 (2) (1)で「参入意向はない」を選択した理由	117
問7-3 「訪問型サービスA」への参入にあたっての条件として何を重視しますか。	117
問7-4 本市において、「訪問型サービスA」を導入することを想定した場合、留意すべき事項や、緩和すべき基準など【単価について】	117
問7-4 本市において、「訪問型サービスA」を導入することを想定した場合、留意すべき事項や、緩和すべき基準など【人員・設備・運営基準について】	118
問7-4 本市において、「訪問型サービスA」を導入することを想定した場合、留意すべき事項や、緩和すべき基準など【その他】	118
問8-1 (1) 介護予防通所介護の週あたり利用回数別の利用者数	118
問8-1 (2) 介護予防通所介護の1回あたりの利用時間別の利用者数	118
問8-2 8-1の利用者のうち、通所介護事業所の従業者による専門的な介護が必要と認められる利用者数	119
問8-3 (1) 「通所型サービスA」への参入の意向について	119
問8-3 (2) (1)で「参入意向はない」を選択した理由	119
問8-4 「通所型サービスA」への参入にあたっての条件として何を重視しますか。	120
問8-5 本市において、「通所型サービスA」を導入することを想定した場合、留意すべき事項や、緩和すべき基準など【単価について】	120
問8-5 本市において、「通所型サービスA」を導入することを想定した場合、留意すべき事項や、緩和すべき基準など【人員・設備・運営基準について】	120
問8-5 本市において、「通所型サービスA」を導入することを想定した場合、留意すべき事項や、緩和すべき基準など【その他】	120

1 調査の概要

調査の目的

この調査は、平成30年度から始まる新しい高齢者保健福祉計画・第7期介護保険事業計画の策定にあたり、65歳以上の市民やその家族等を対象に、日常生活や社会参加、介護予防の状況、支援のニーズ等を把握するほか、介護サービス事業者を対象に、施策・事業に対するご意見、今後の意向等を把握することを目的に実施しました。

調査の対象者等

調査種別	対象者	調査方法	調査時期
①在宅介護実態調査	在宅で生活をし、介護保険の要支援・要介護認定を受けている方のうち、認定の更新(区分変更)申請をした方	戸別訪問	平成28年11月 ～ 平成29年2月
②介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	65歳以上で、介護保険の要介護1～5の認定を受けていない方	郵送による配布・回収	平成29年2月
③特別養護老人ホーム入所希望者実態調査	平成29年1月時点で、特別養護老人ホームへ入所の申し込みをしている方	郵送による配布・回収	
④介護サービス事業者実態調査	市内で介護サービスを提供している法人	郵送による配布・回収	

調査の回収結果

調査種別	対象数	回収数	無効	有効回収数	有効回収率
①在宅介護実態調査	136	136	—	136	100.0%
②介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	3,500 (※)	2,513	—	2,513	71.8%
③特別養護老人ホーム入所希望者実態調査	128	71	—	71	55.5%
④介護サービス事業者実態調査	75	41	—	41	54.7%

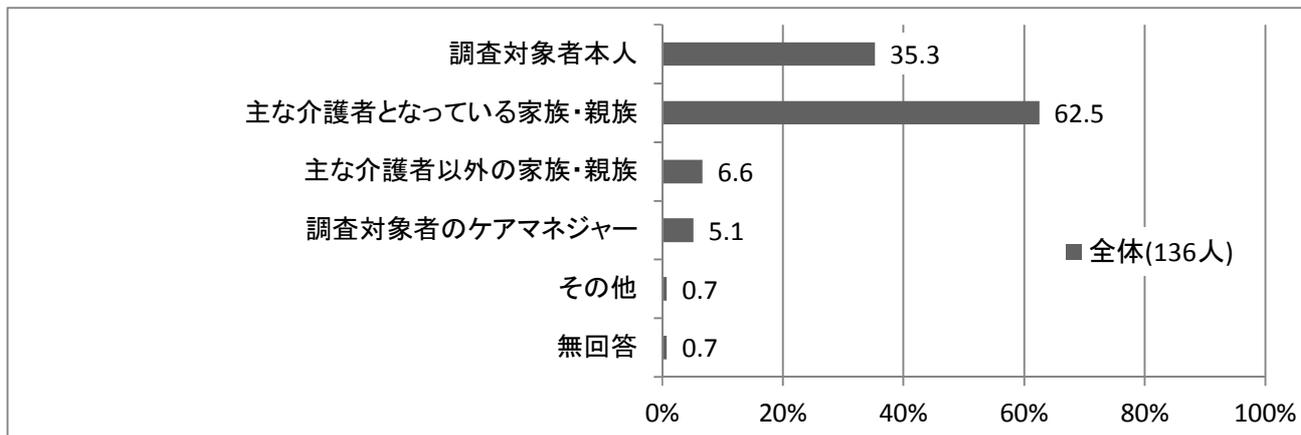
※ 各日常生活圏域（君津地区、小糸地区、清和地区、小櫃地区、上総地区）で男女各350人を無作為に抽出

2 調査の集計結果

(1) 在宅介護実態調査

A票の聞き取りを行った相手の方（複数選択可）

「主な介護者となっている家族・親族」が62.5%と最も高く、次いで「調査対象者本人」が35.3%、「主な介護者以外の家族・親族」が6.6%と続いています。

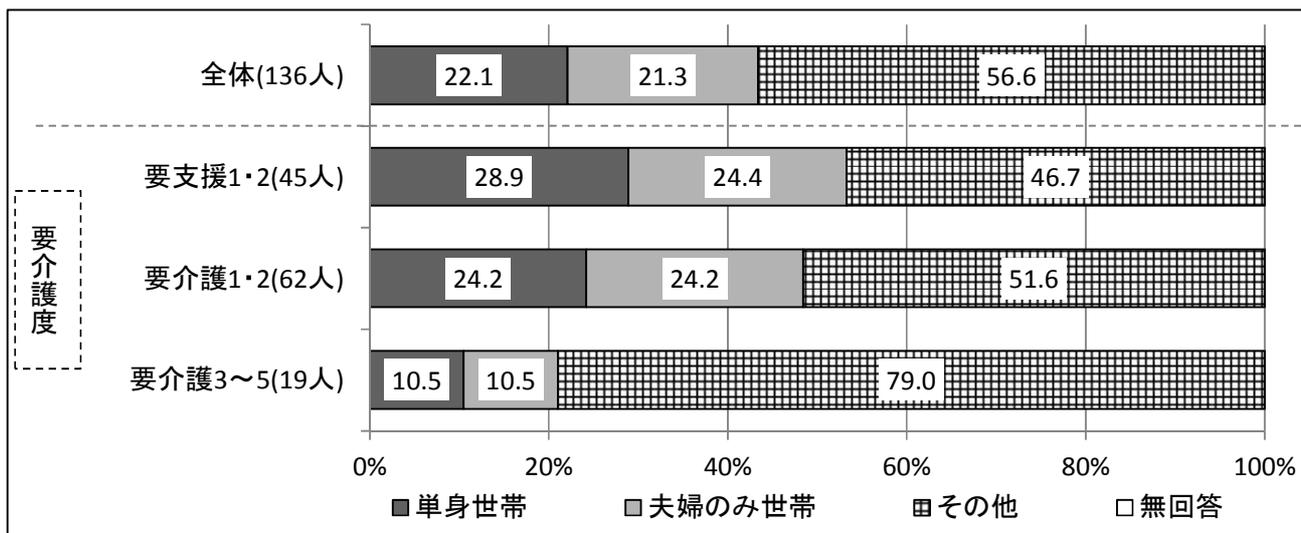


A票

問1 世帯類型について、ご回答ください（1つを選択）

「その他」が56.6%と最も高く、次いで「単身世帯」が22.1%、「夫婦のみ世帯」が21.3%と続いています。

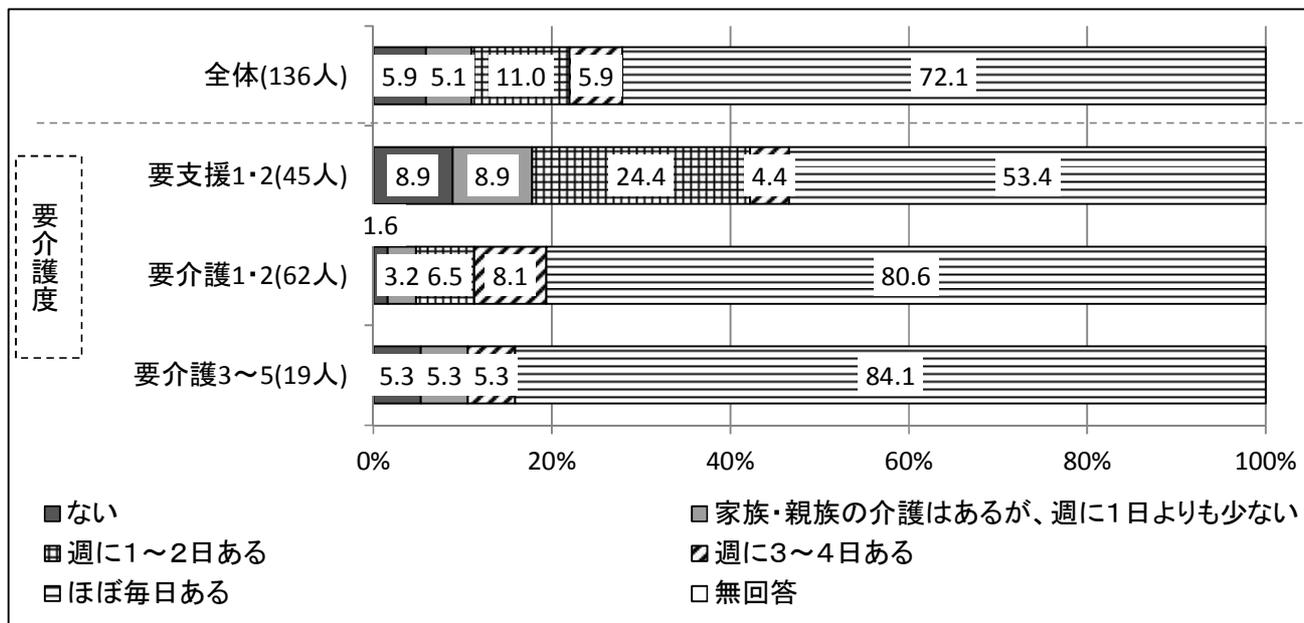
要介護度別では、いずれも「その他」が最も高く、要支援1・2は「単身世帯」が28.9%と比較的高くなっています。



問2 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか（同居していない子どもや親族等からの介護を含む）（1つを選択）

「ほぼ毎日ある」が72.1%と最も高く、次いで「週に1～2日ある」が11%、「ない」が5.9%、「週に3～4日ある」が同じく5.9%と続いています。

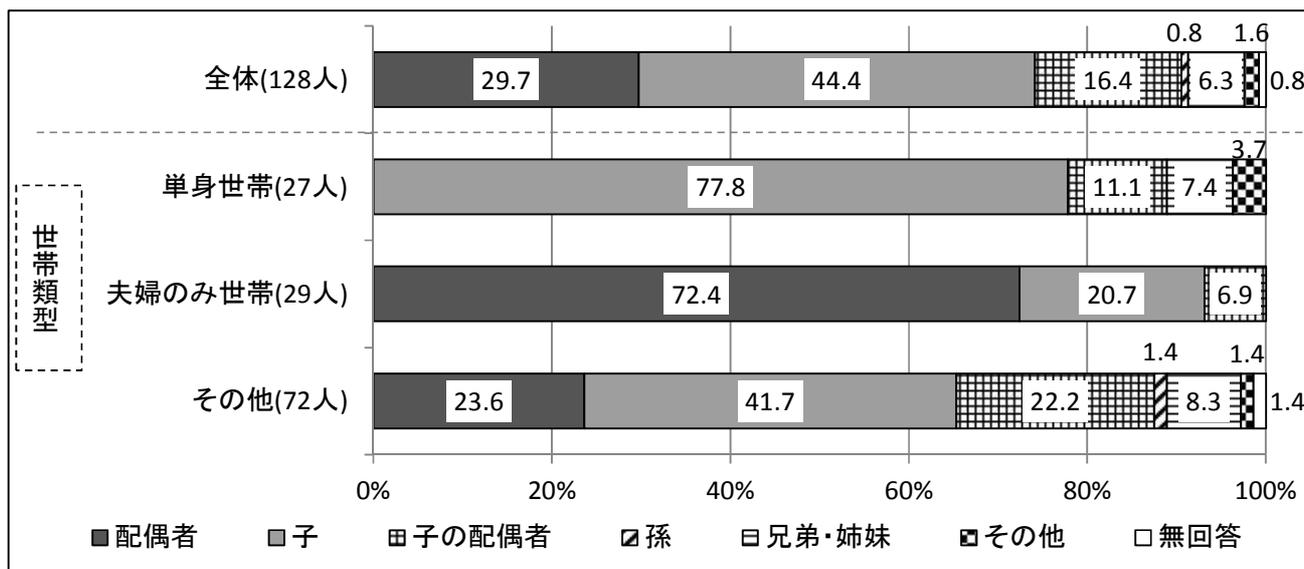
要介護度別では、いずれも「ほぼ毎日ある」が最も高く、要支援1・2は「週に1～2日ある」が24.4%と比較的高くなっています。



問3 主な介護者の方は、どなたですか（1つを選択）

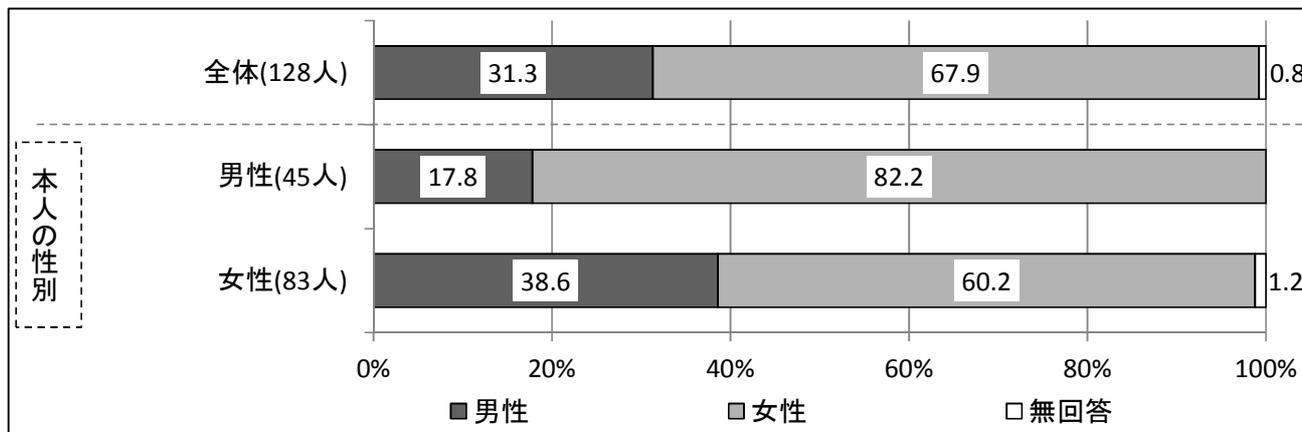
「子」が44.4%と最も高く、次いで「配偶者」が29.7%、「子の配偶者」が16.4%、「兄弟・姉妹」が6.3%と続いています。

世帯類型別では、単身世帯は「子」が77.8%、夫婦のみ世帯は「配偶者」が72.4%と最も高くなっています。



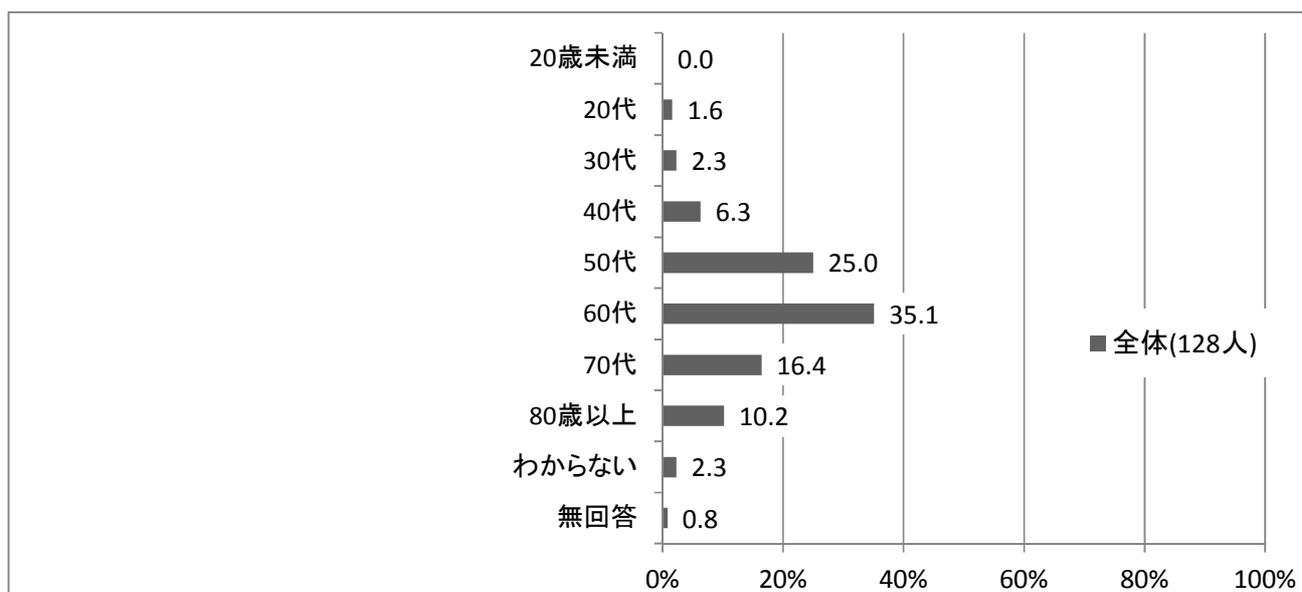
問4 主な介護者の方の性別について、ご回答ください（1つを選択）

「女性」が67.9%、「男性」が31.3%と、「女性」の比率が高くなっています。
本人の性別では、本人が男性の場合は「女性」が82.2%となっています。



問5 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください（1つを選択）

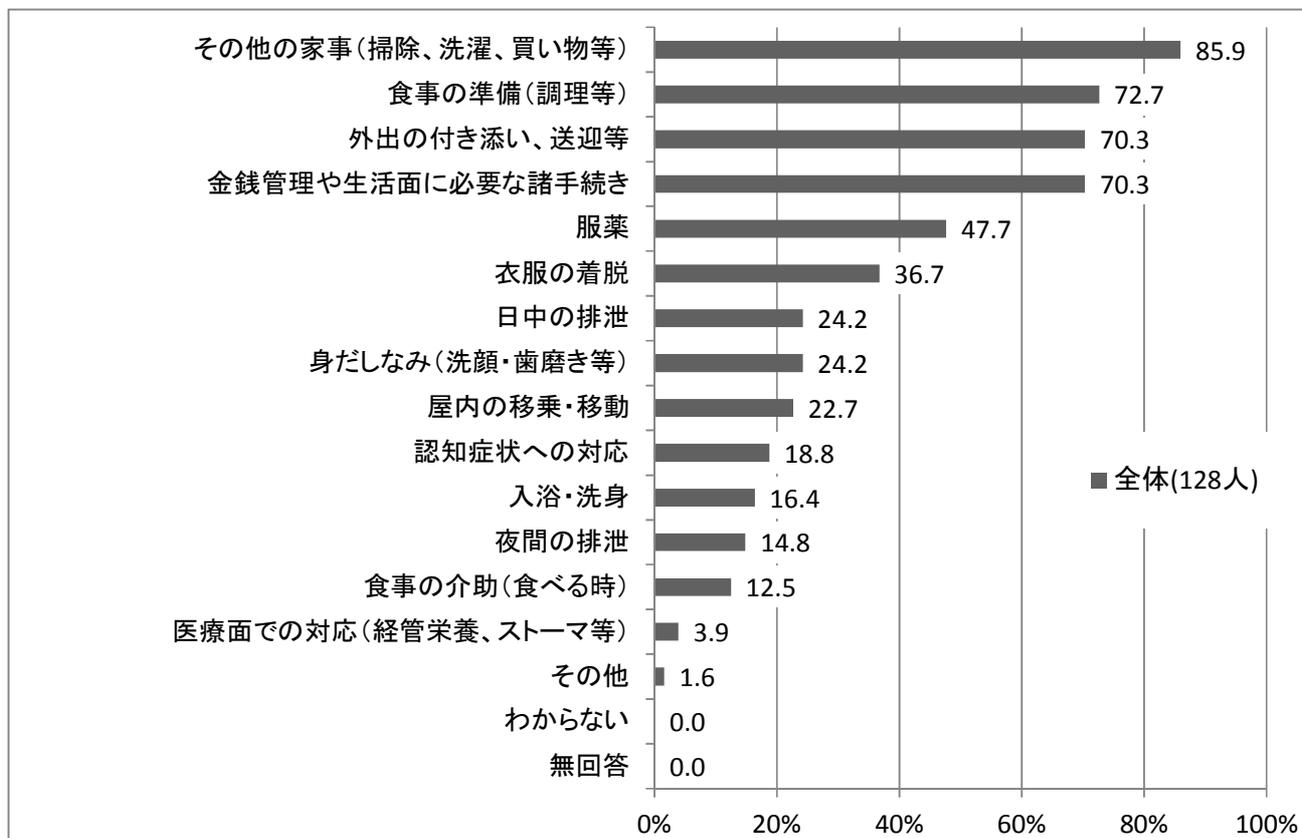
「60代」が35.1%と最も高く、次いで「50代」が25%、「70代」が16.4%、「80歳以上」が10.2%と続いています。



問6 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください（複数選択可）

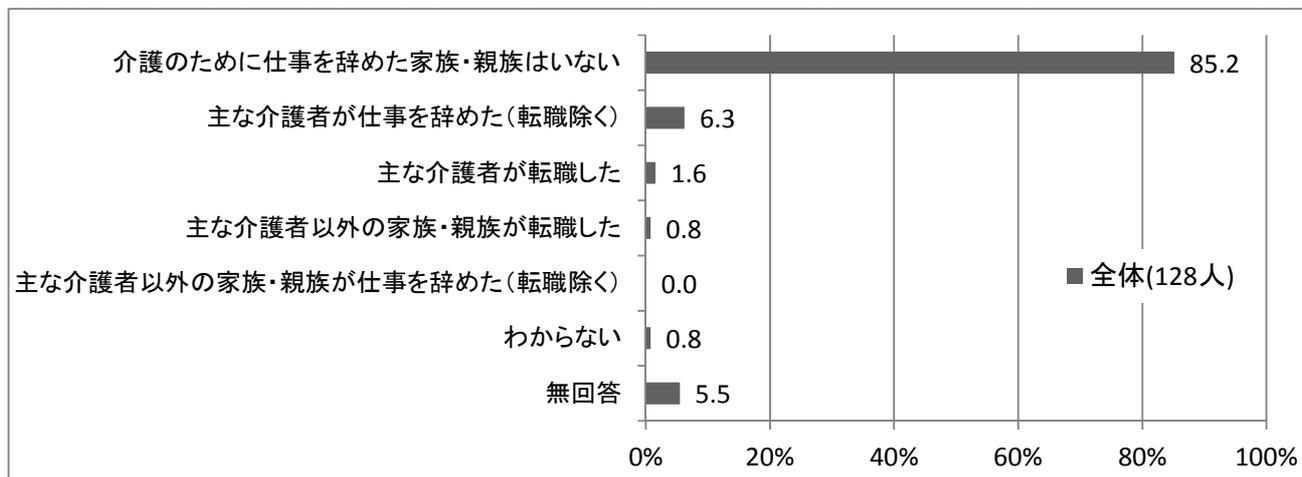
「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が85.9%と最も高く、次いで「食事の準備（調理等）」が72.7%、「外出の付き添い、送迎等」が70.3%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が同じく70.3%と続いています。

なお、「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」が3.9%となっています。



問7 ご家族やご親族の中で、ご本人（認定調査対象者）の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）（複数選択可）

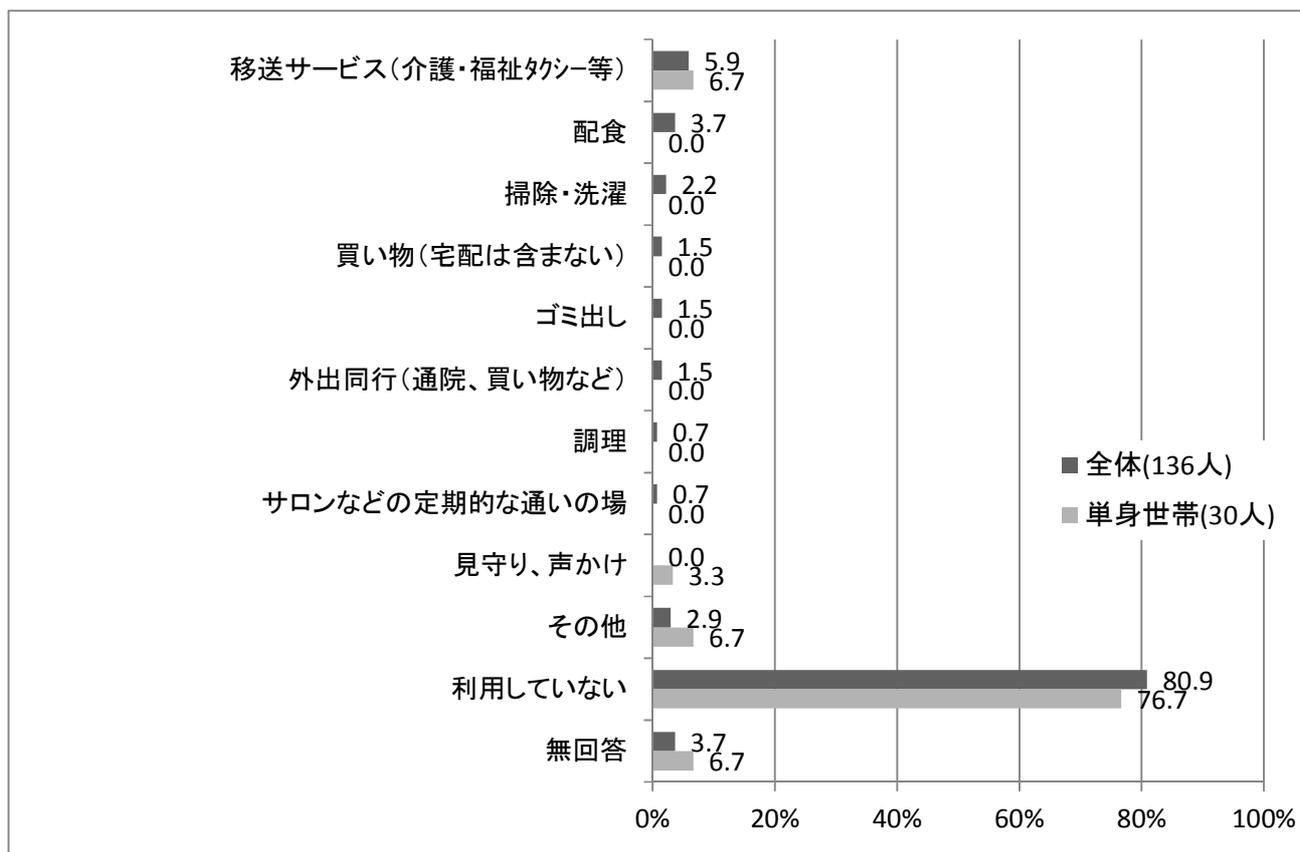
「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が85.2%と最も高くなっており、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が6.3%、「主な介護者が転職した」が1.6%、「主な介護者以外の家族・親族が転職した」が0.8%の3つを合わせると8.6%となっています。



問8 現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ご回答ください（複数選択可）

「利用していない」が80.9%と最も高くなっており、利用サービスとしては「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が5.9%、「配食」が3.7%、「掃除・洗濯」が2.2%と続いています。

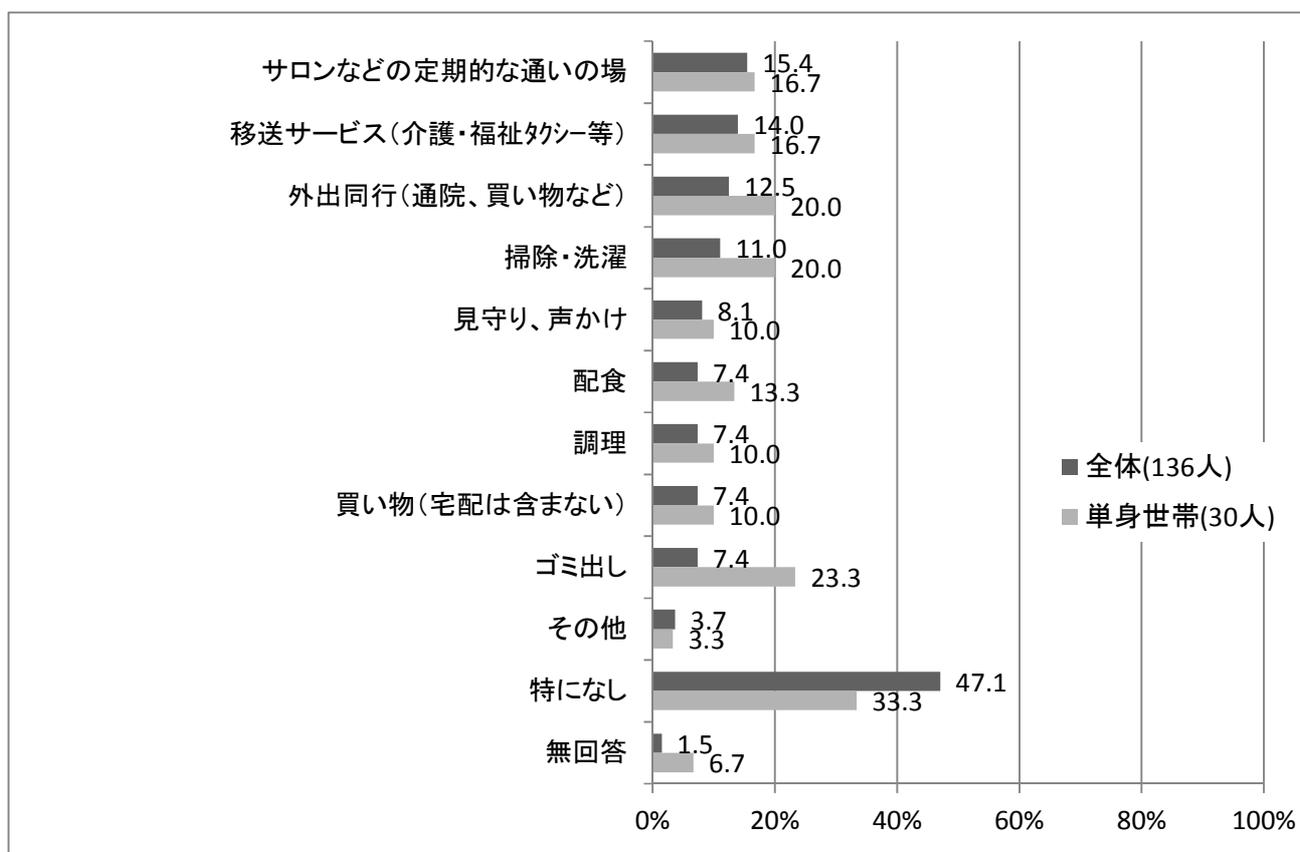
単身世帯の場合も、全体との大きな違いはなく、「利用していない」が76.7%と最も高くなっており、利用サービスとしては「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が6.7%となっています。



問9 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、ご回答ください（複数選択可）

「特になし」が47.1%と最も高くなっており、必要と感じる支援・サービスとしては、「サロンなどの定期的な通いの場」が15.4%と最も高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が14%、「外出同行（通院、買い物など）」が12.5%、「掃除・洗濯」が11%と続いています。

単身世帯の場合は、「特になし」が33.3%と、全体と比べて低く、必要と感じる支援・サービスとして、「ゴミ出し」が23.3%、「外出同行（通院、買い物など）」が20%、「掃除・洗濯」が同じく20%と、全体と比べて高くなっています。



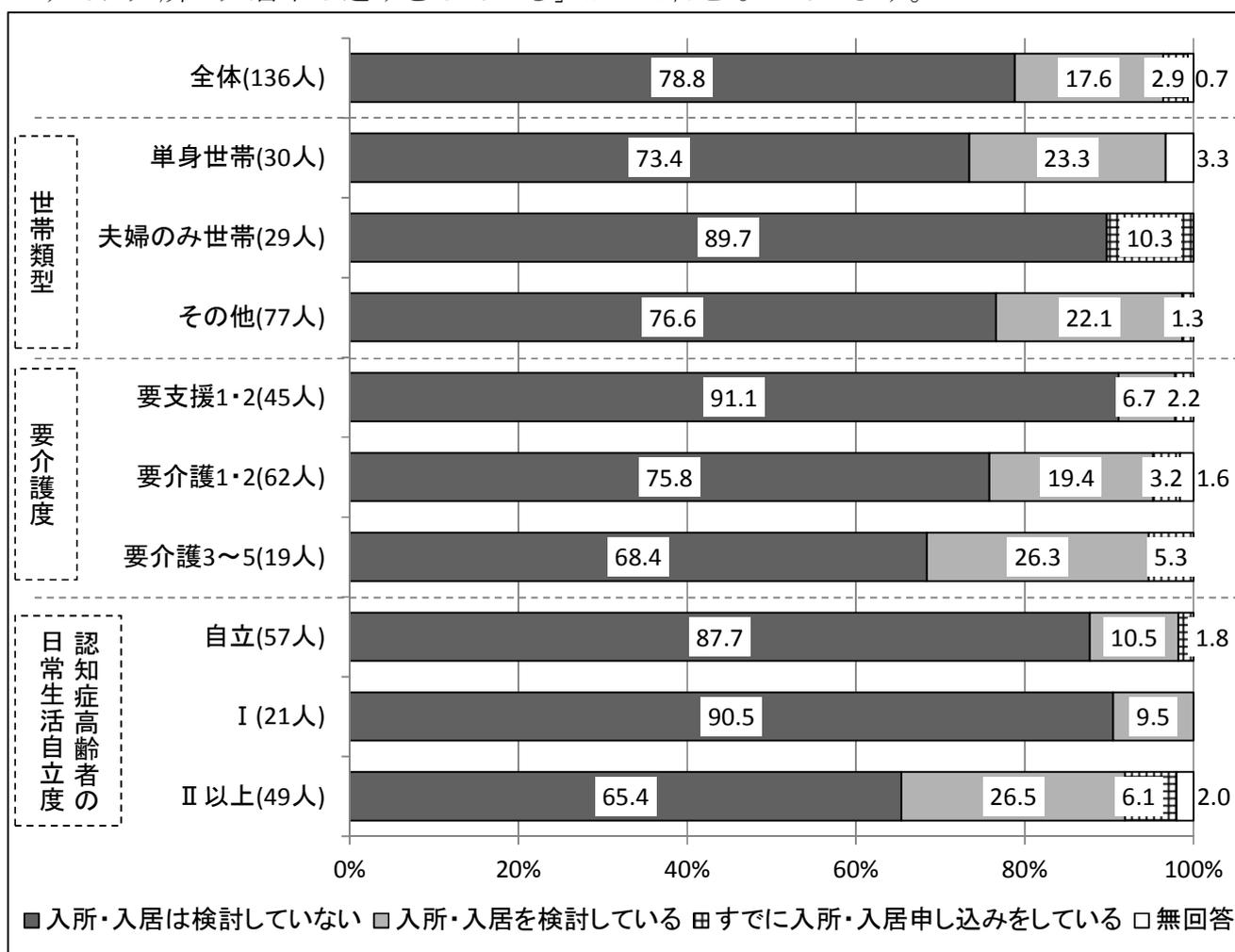
問 10 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください（1つを選択）

「入所・入居は検討していない」が78.8%、「入所・入居を検討している」が17.6%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が2.9%となっています。

世帯類型別では、単身世帯は「入所・入居を検討している」が23.3%、夫婦のみ世帯は「すでに入所・入居申し込みをしている」が10.3%となっています。

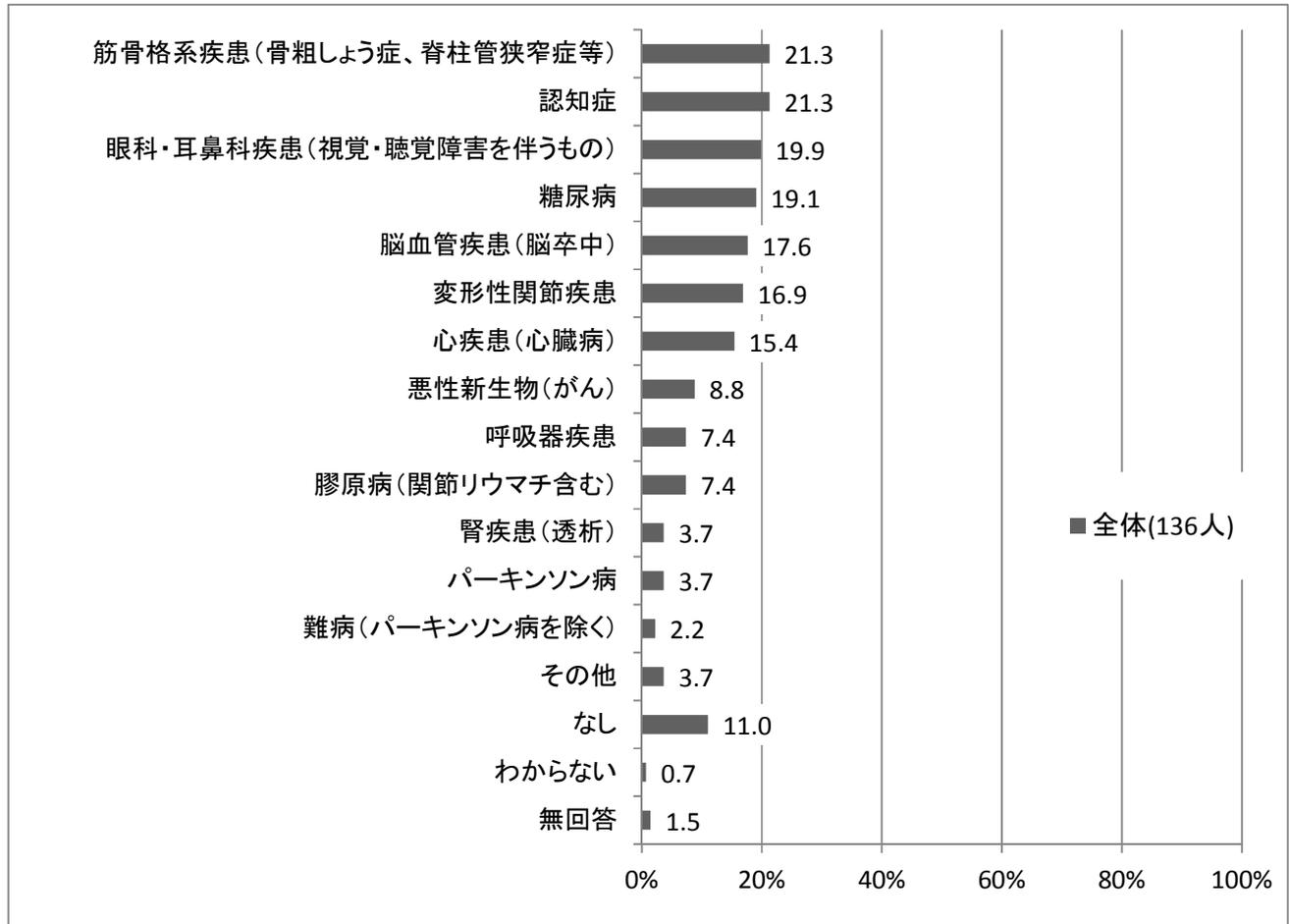
要介護度別では、要介護3～5は「入所・入居を検討している」が26.3%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が5.3%となっています。

認知症高齢者の日常生活自立度別では、Ⅱ以上は「入所・入居を検討している」が26.5%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が6.1%となっています。



問 11 ご本人（認定調査対象者）が、現在抱えている傷病について、ご回答ください（複数選択可）

「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が 21.3%、「認知症」が同じく 21.3%と最も高く、次いで「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が 19.9%、「糖尿病」が 19.1%、「脳血管疾患（脳卒中）」が 17.6%と続いています。

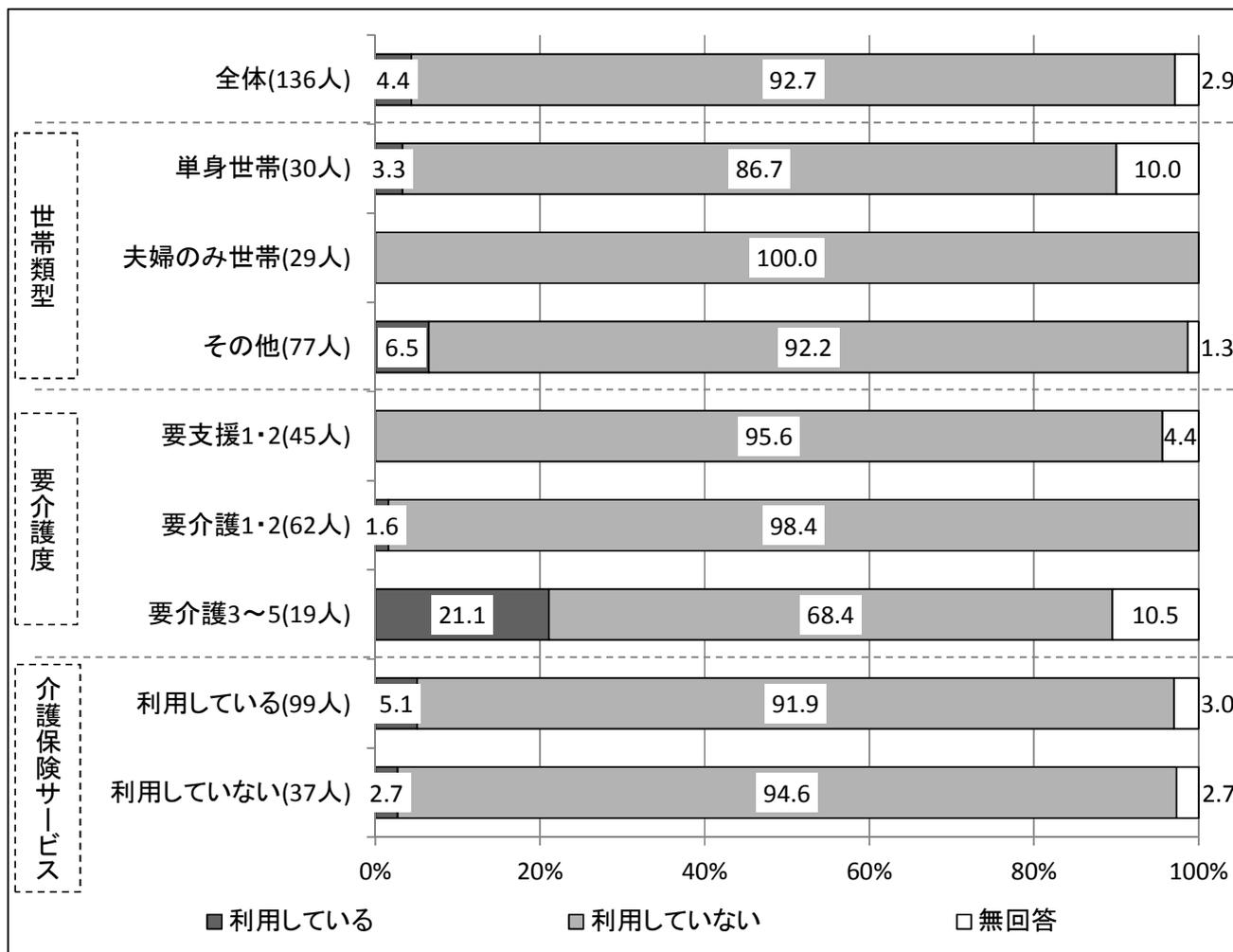


問 12 ご本人（認定調査対象者）は、現在、訪問診療を利用していますか（1つを選択）

「利用している」が4.4%、「利用していない」が92.7%となっています。

要介護度別では、要介護3～5は「利用している」が21.1%と、20%以上の方が訪問診療を利用中となっています。

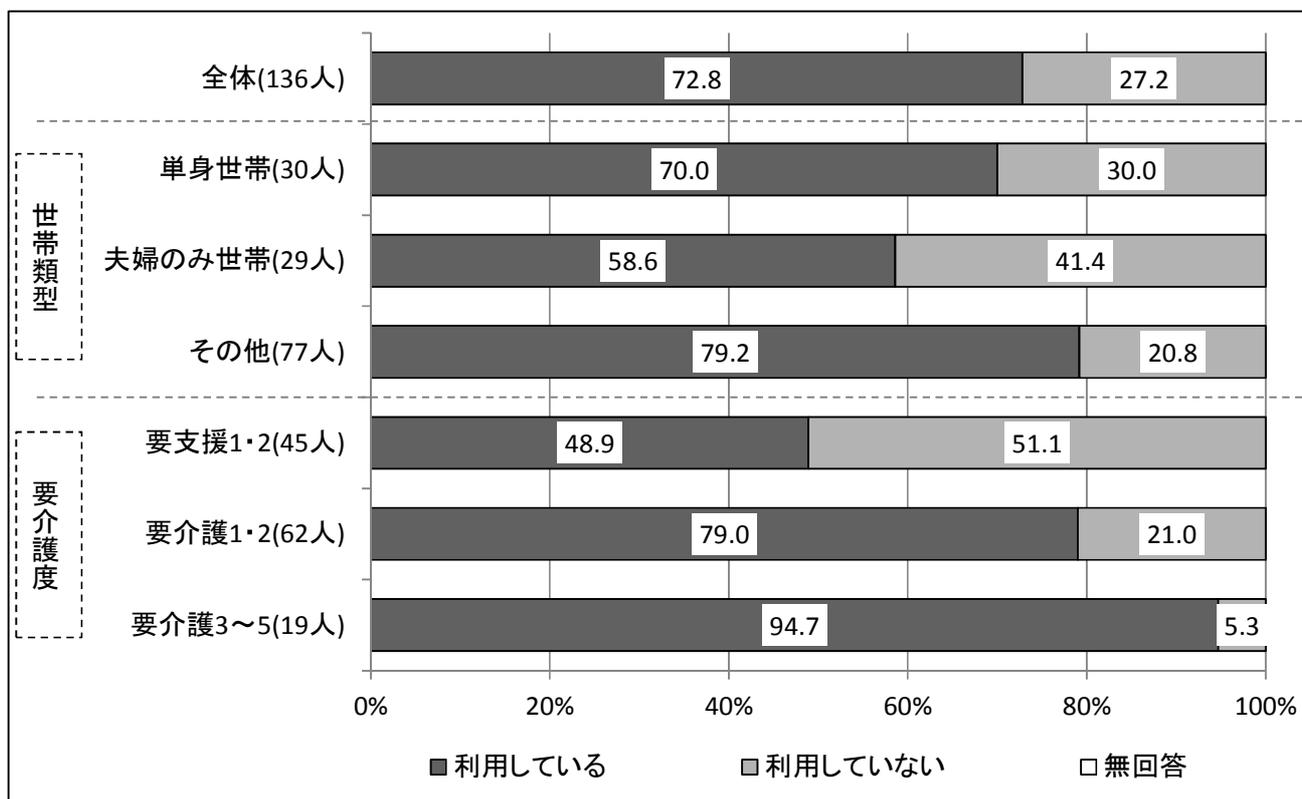
介護保険サービスの利用では、介護保険サービスと訪問診療を併用している比率は5.1%となっています。



問 13 現在、（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスを利用していますか（1つを選択）

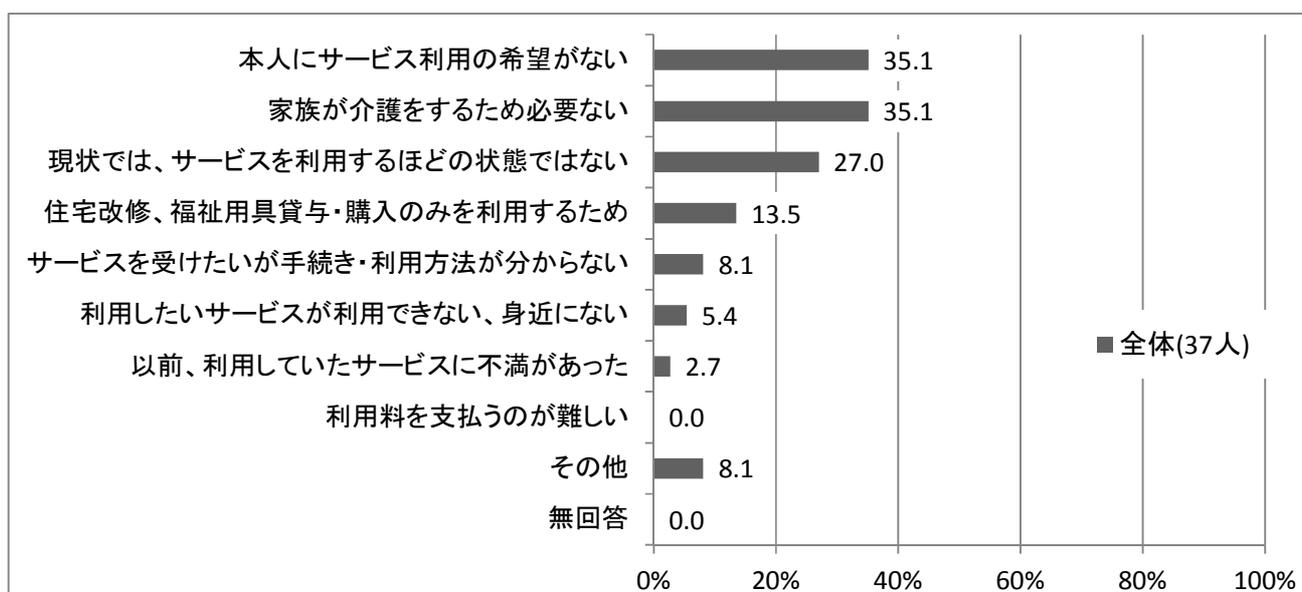
「利用している」が72.8%、「利用していない」が27.2%となっています。

要介護度別では、要介護3～5が約95%（94.7%）が「利用している」と回答しており、同回答は要介護1・2では79.0%、要支援1・2では48.9%となっています。



問 14 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか（複数選択可）

「本人にサービス利用の希望がない」が 35.1%、「家族が介護をするため必要ない」が同じく 35.1%と最も高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 27%、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が 13.5%、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が 8.1%と続いています。

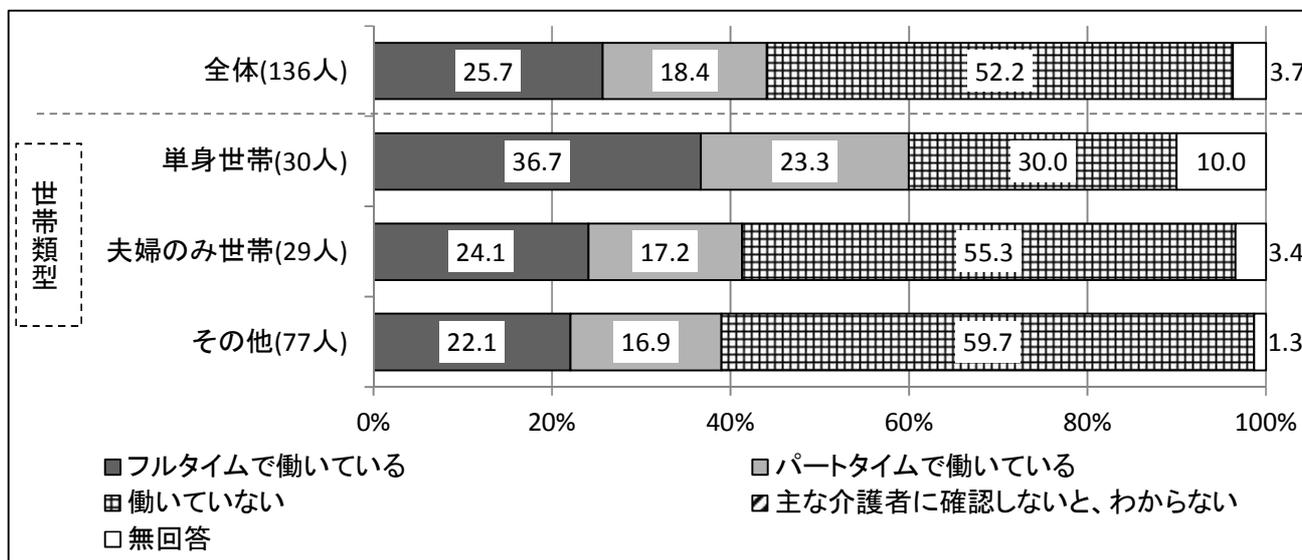


B票

問1 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください（1つを選択）

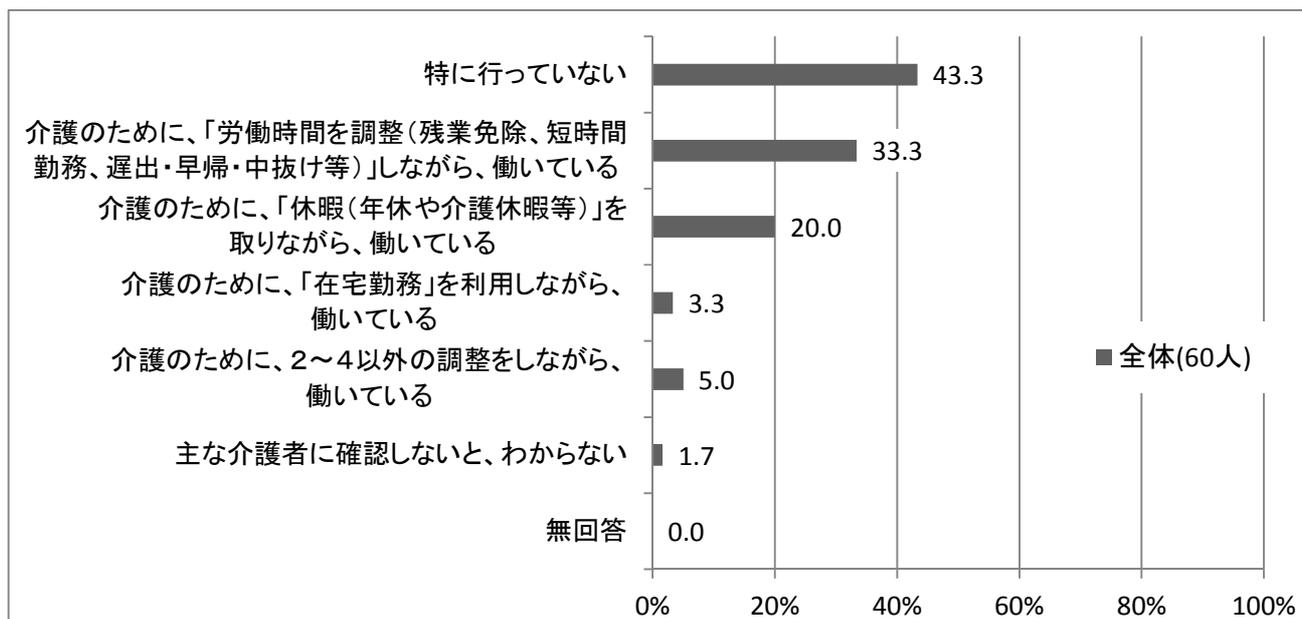
「働いていない」が 52.2%と最も高く、次いで「フルタイムで働いている」が 25.7%、「パートタイムで働いている」が 18.4%と続いています。

世帯類型別では、単身世帯は「フルタイムで働いている」が 36.7%と最も高く、「パートタイムで働いている」の 23.3%と合わせて 60%となっています。



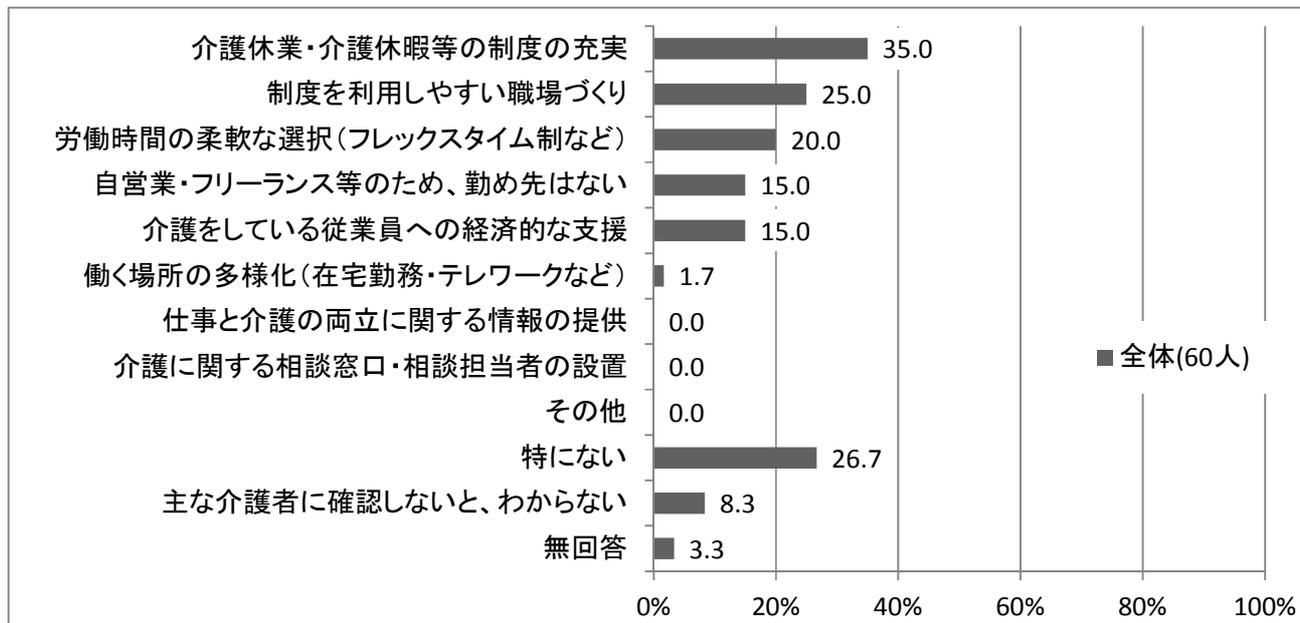
問2 問1で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等を行っていますか（複数選択可）

「特に行っていない」が 43.3%と最も高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が 33.3%、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が 20%と続いています。



問3 問1で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか（3つまで選択可）

「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が35%と最も高く、次いで「特にない」が26.7%、「制度を利用しやすい職場づくり」が25%、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が20%と続いています。

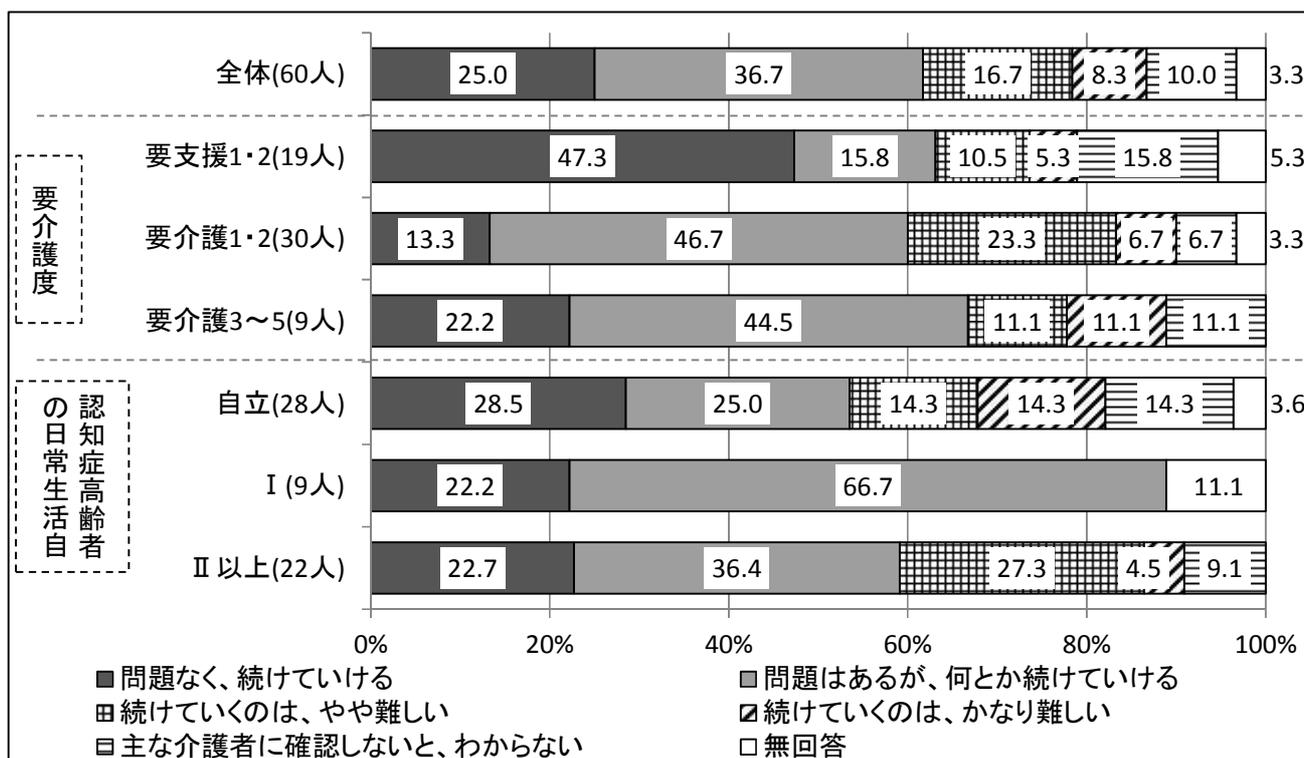


問4 問1で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか（1つを選択）

「問題はあるが、何とか続けていける」が36.7%と最も高く、次いで「問題なく、続けていける」の25%と合わせると61.7%となっています。

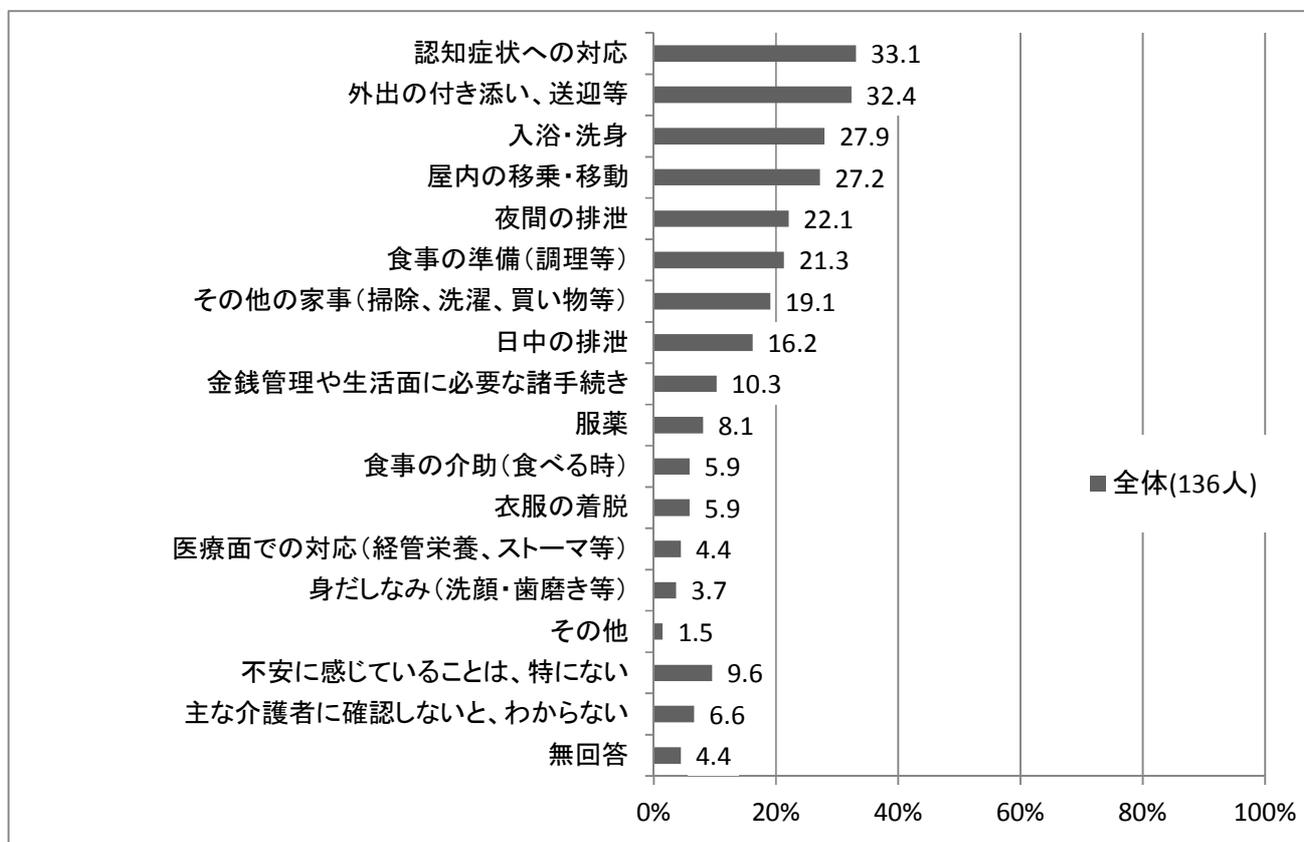
要介護度別では、要支援1・2は「問題なく、続けていける」が47.3%となっている一方、同回答は要介護1・2では13.3%、要介護3～5では22.2%となっています。

認知症高齢者の日常生活自立度別では、Ⅱ以上は「問題はあるが、何とか続けていける」が36.4%と最も高く、次いで「続けていくのは、やや難しい」が27.3%と続いています。



問5 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください（現状で行っているか否かは問いません）（3つまで選択可）

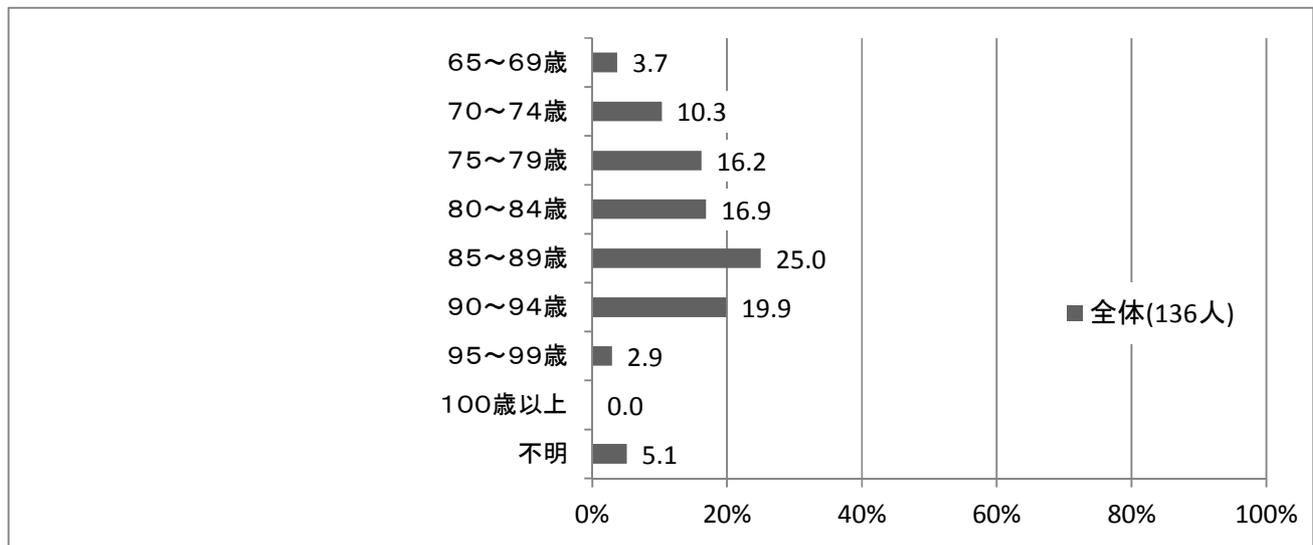
「認知症状への対応」が 33.1%と最も高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が 32.4%、「入浴・洗身」が 27.9%、「屋内の移乗・移動」が 27.2%と続いています。



本人の基礎情報

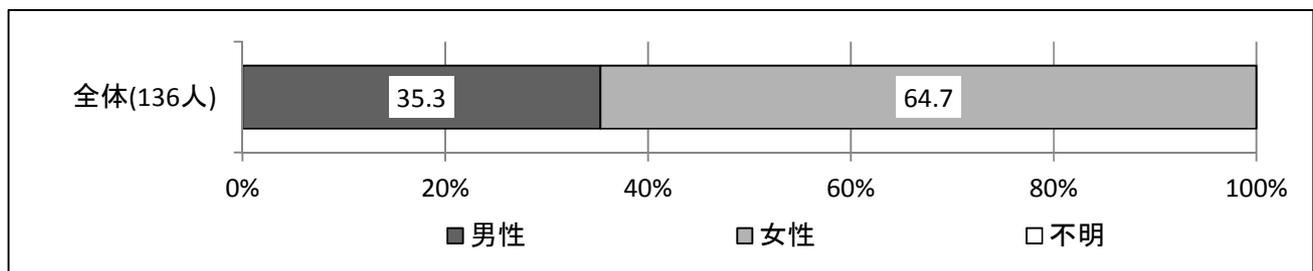
調査時の年齢

「85～89歳」が25%と最も高く、次いで「90～94歳」が19.9%、「80～84歳」が16.9%、80歳以上が64.7%となっています。



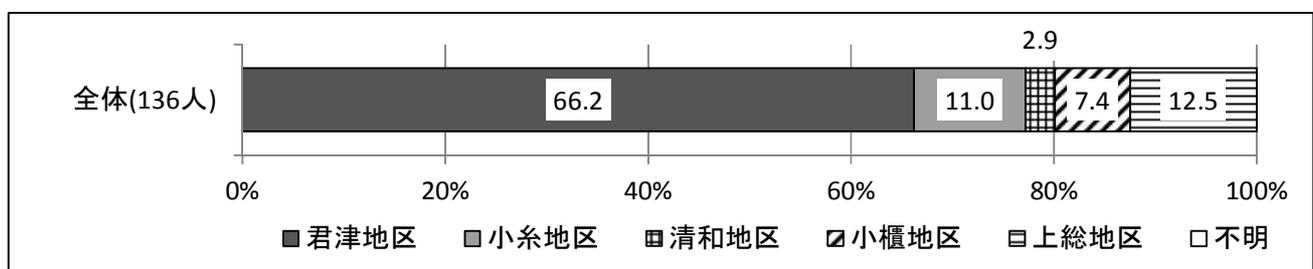
性別

「男性」が35.3%、「女性」が64.7%となっています。



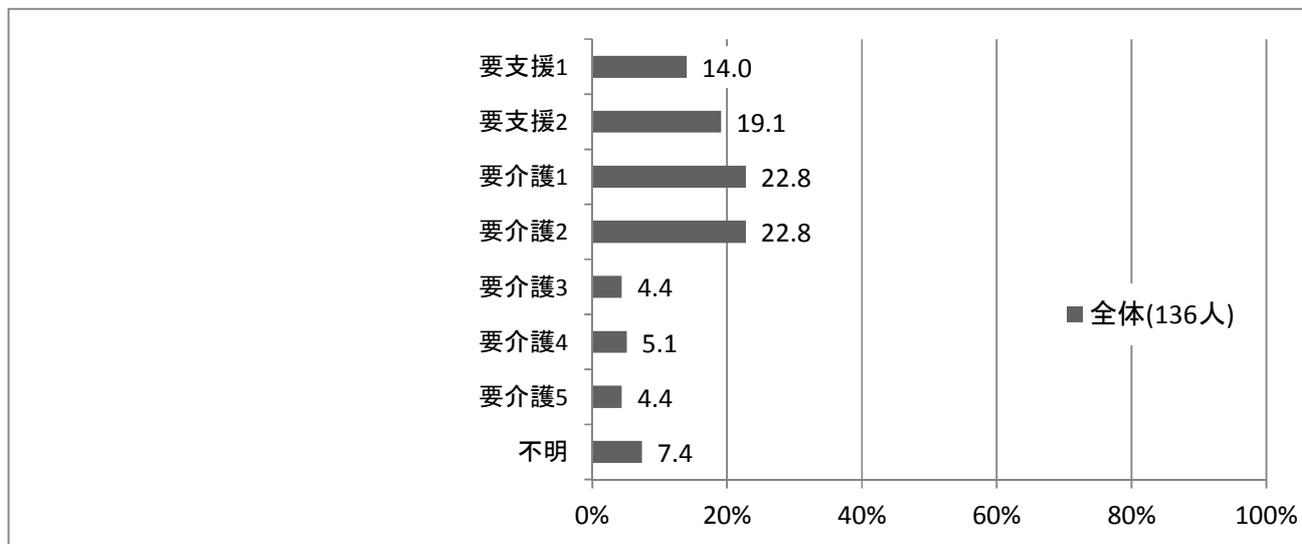
日常生活圏域

「君津地区」が66.2%と最も高く、次いで「上総地区」が12.5%、「小糸地区」が11%、「小櫃地区」が7.4%、「清和地区」が2.9%となっています。



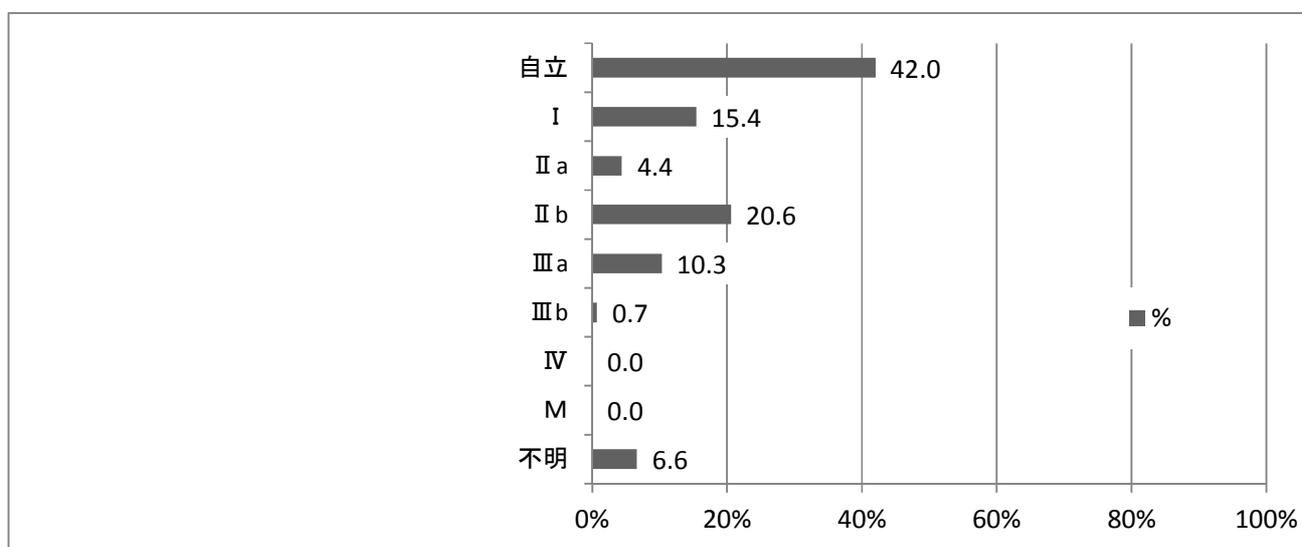
要介護度

「要介護 1」が 22.8%、「要介護 2」が同じく 22.8%と最も高く、次いで「要支援 2」が 19.1%、「要支援 1」が 14%と続いています。



認知症高齢者の日常生活自立度

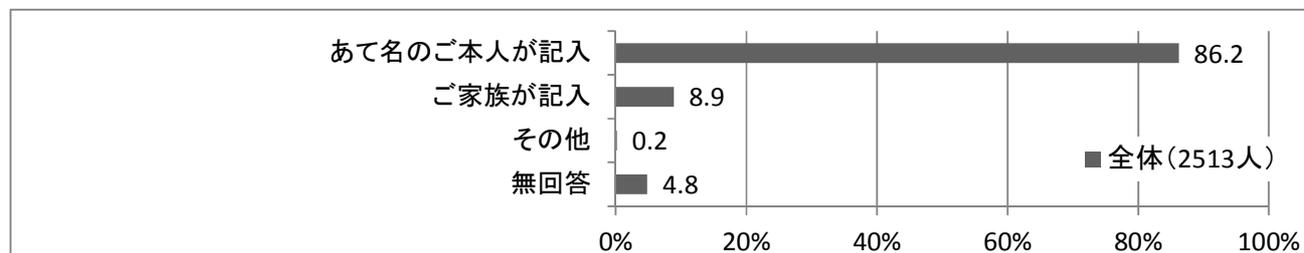
「自立」が 42.0%と最も高く、次いで「Ⅱb」が 20.6%、「Ⅰ」が 15.4%と続いており、Ⅱ以上が 36%となっています。



(2) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

調査票を記入されたのはどなたですか

「あて名のご本人が記入」が86.2%と最も高く、次いで「ご家族が記入」が8.9%、「その他」が0.2%となっています。

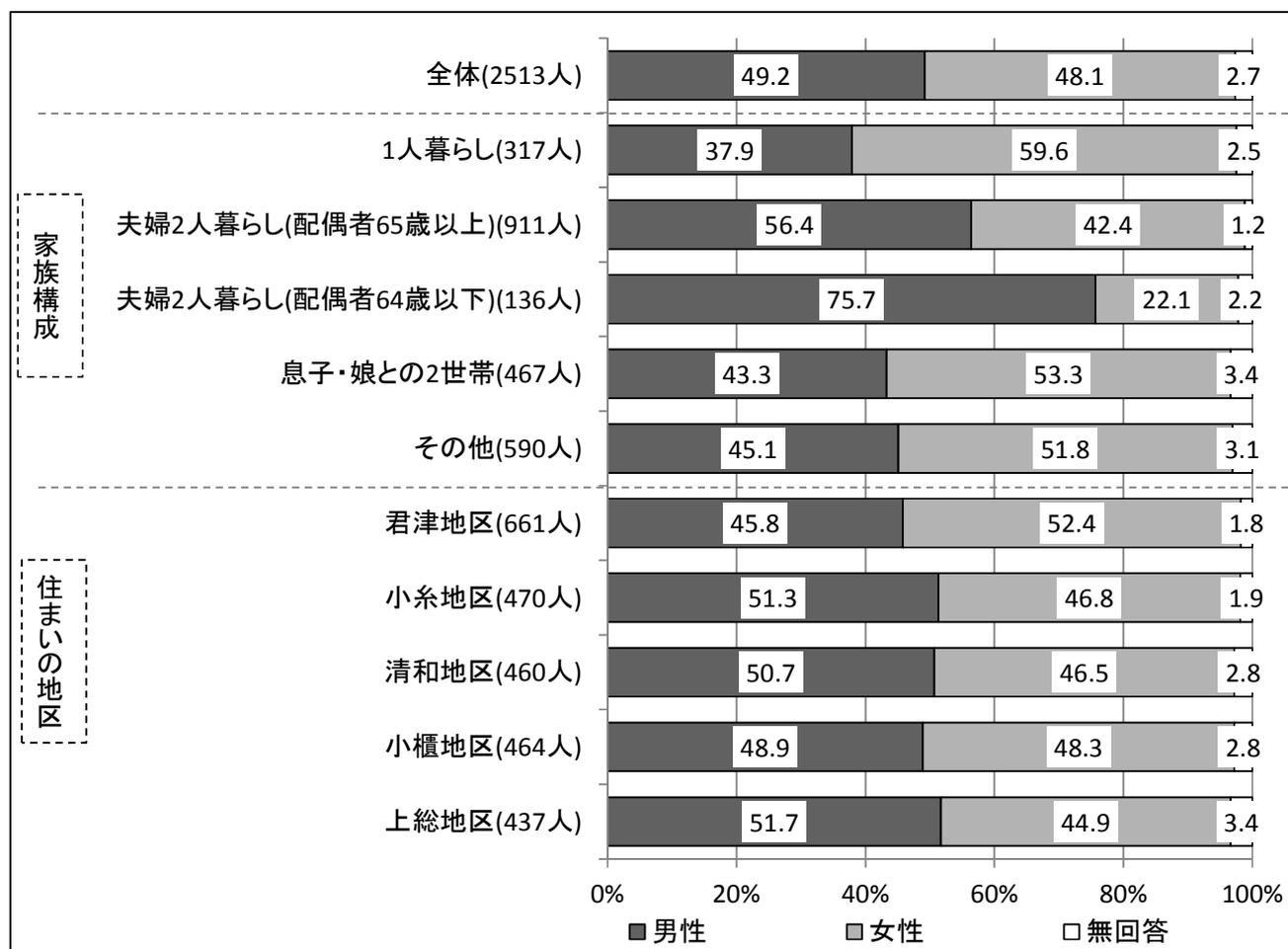


問1 あなたやご家族について

問1 (1) あなた（この調査票のあて名のご本人）の性別をお答えください

「男性」が49.2%、「女性」が48.1%となっています。

家族構成別では、1人暮らしの場合は「男性」が37.9%、「女性」が59.6%と、「女性」の比率が高くなっています。

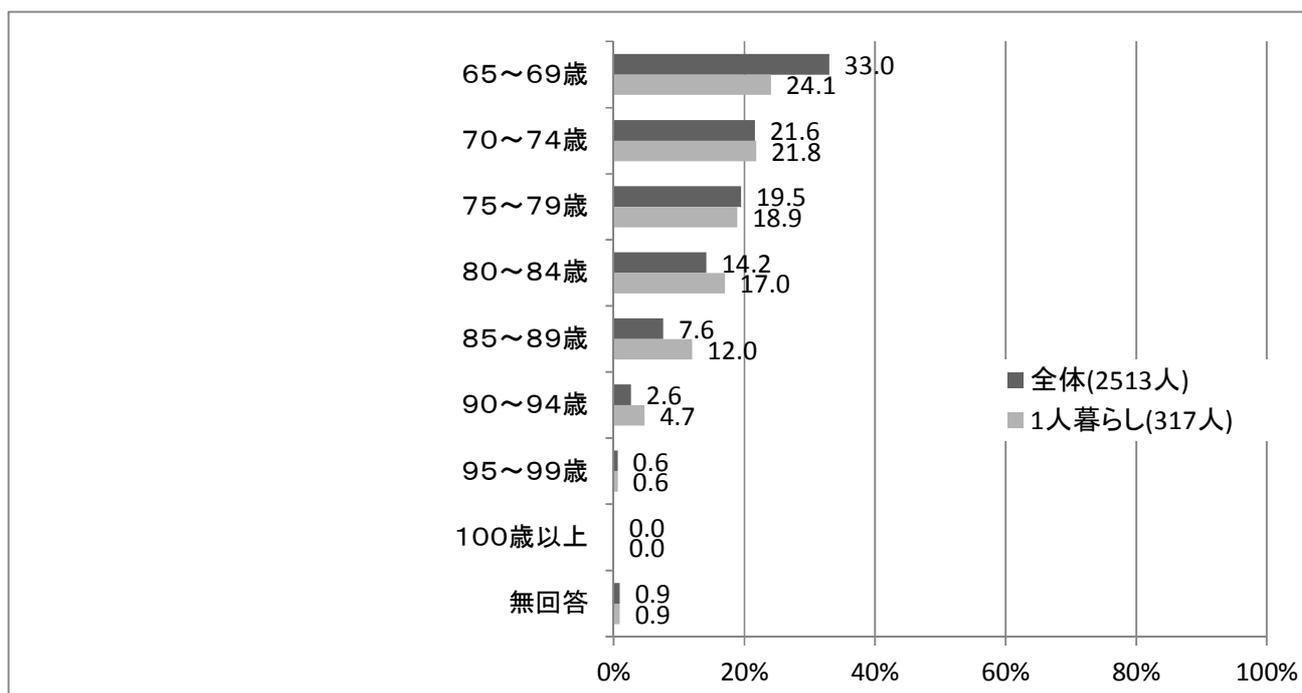


問1 (2) あなたの年齢をお答えください

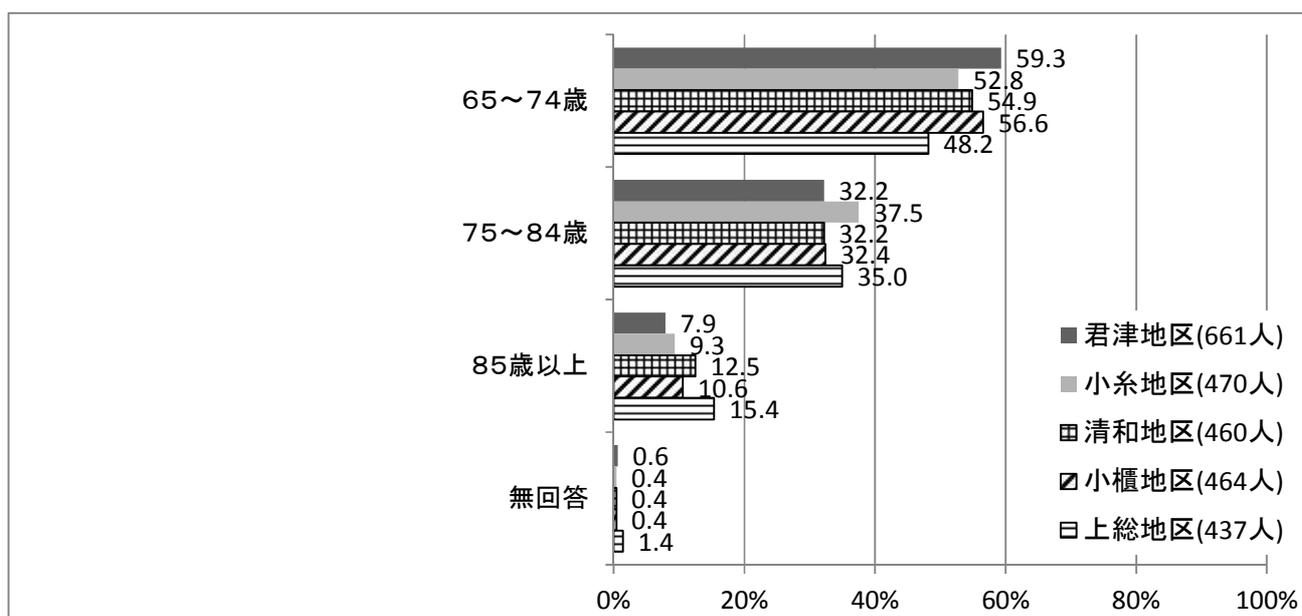
「65～69歳」が33%と最も高く、次いで「70～74歳」が21.6%、「75～79歳」が19.5%、「80～84歳」が14.2%と続いており、65歳から74歳までの前期高齢者が54.6%、75歳以上の後期高齢者が44.5%となっています。

1人暮らしの場合は、「65～69歳」が24.1%と、全体と比べて低く、「80～84歳」が17%、「85～89歳」が12%と、80歳以上の比率が高くなっています。

住まいの地区別では、いずれの地区も「65～74歳」の前期高齢者が最も高く、同回答は君津地区で59.3%と比較的高く、上総地区で48.2%と比較的低くなっています。反対に、「85歳以上」は上総地区で15.4%と比較的高く、君津地区で7.9%と比較的低くなっています。



【住まいの地区別】

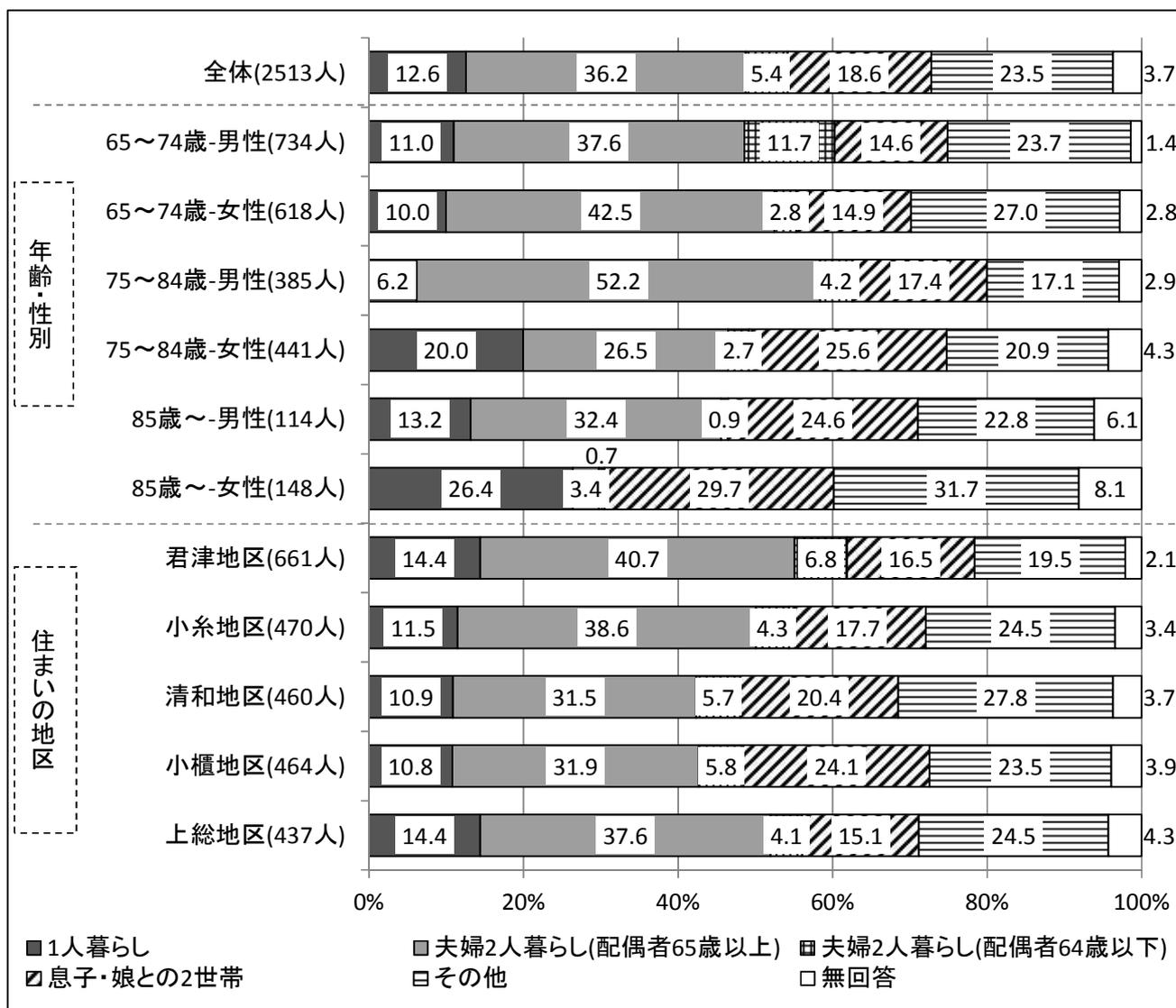


問1 (3) 家族構成をお答えください

「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が36.2%と最も高く、次いで「その他」が23.5%、「息子・娘との2世帯」が18.6%、「1人暮らし」が12.6%と続いています。

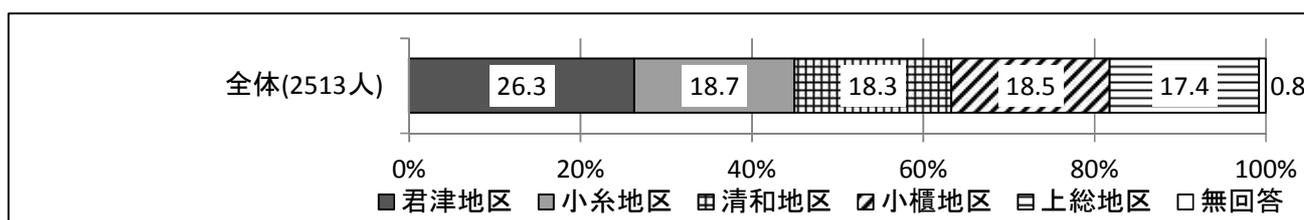
年齢・性別では、75～84歳-女性の20%、85歳～-女性の26.4%が「1人暮らし」となっています。

住まいの地区別では、君津地区と上総地区で「1人暮らし」がいずれも14.4%となっています。



問1 (4) あなたのお住まいの地区をお答えください

「君津地区」が26.3%と最も高く、次いで「小糸地区」が18.7%、「小櫃地区」が18.5%、「清和地区」が18.3%、「上総地区」が17.4%となっています。



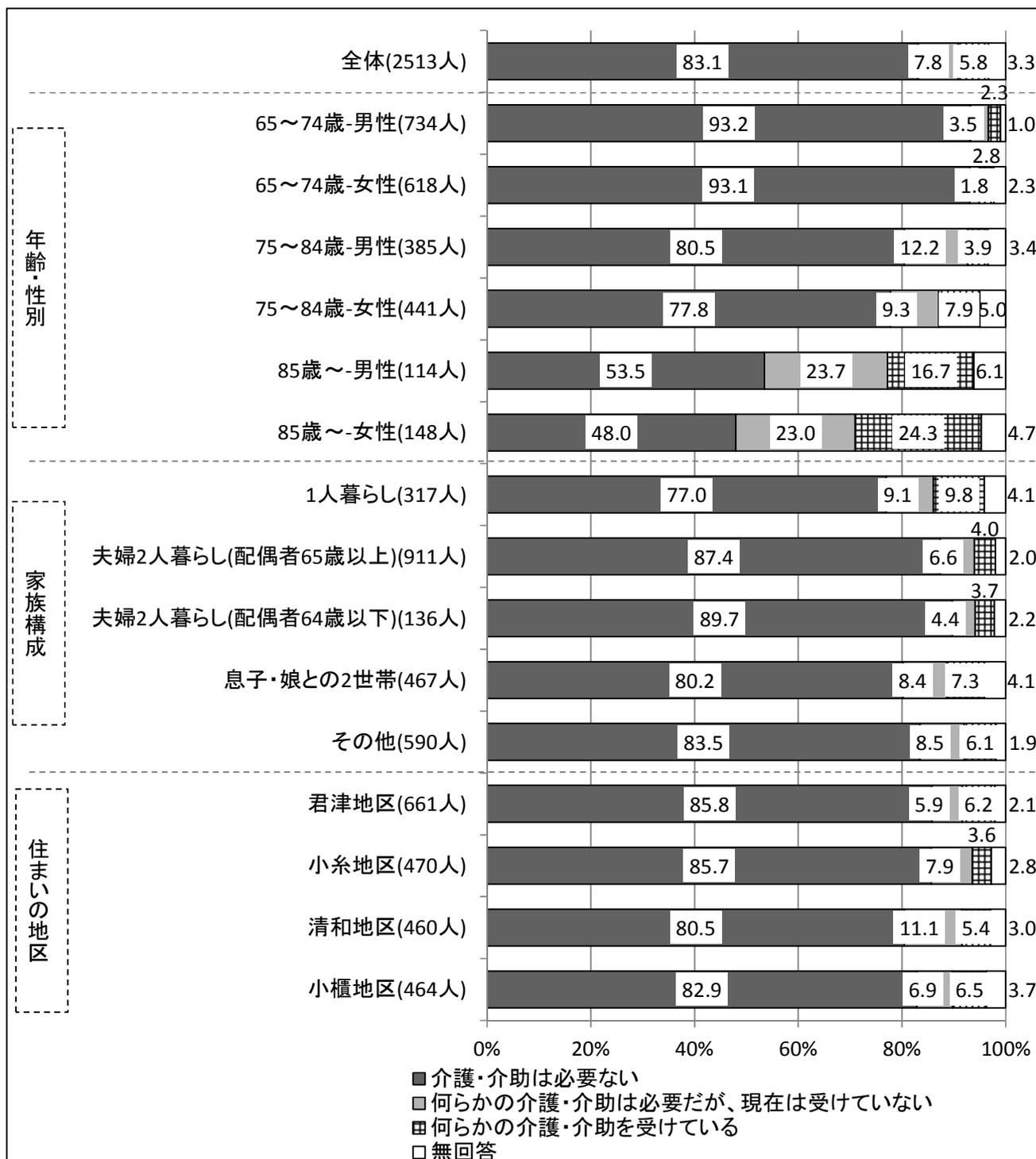
問1 (5) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか

「介護・介助は必要ない」が83.1%と最も高く、次いで「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が7.8%、「何らかの介護・介助を受けている」が5.8%となっています。

年齢・性別では、85歳～-男性、85歳～-女性ともに「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」と「何らかの介護・介助を受けている」を合わせた割合（要介護・介助率）が40%を超えています。

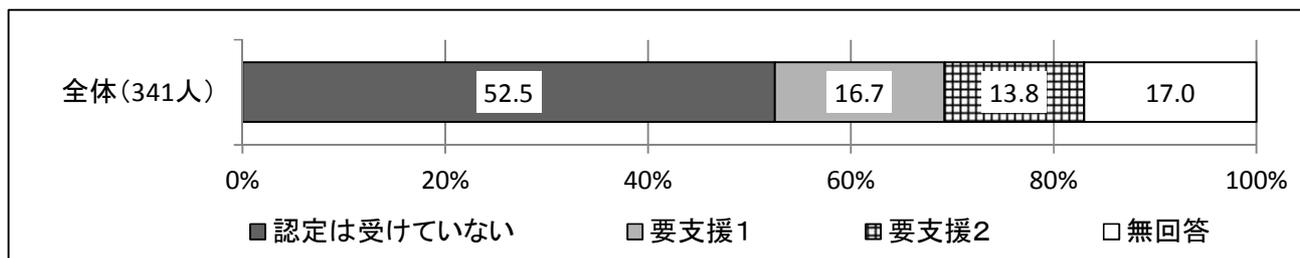
家族構成別では、1人暮らしは要介護・介助率が18.9%となっています。

住まいの地区別では、清和地区は要介護・介助率が16.5%となっています。



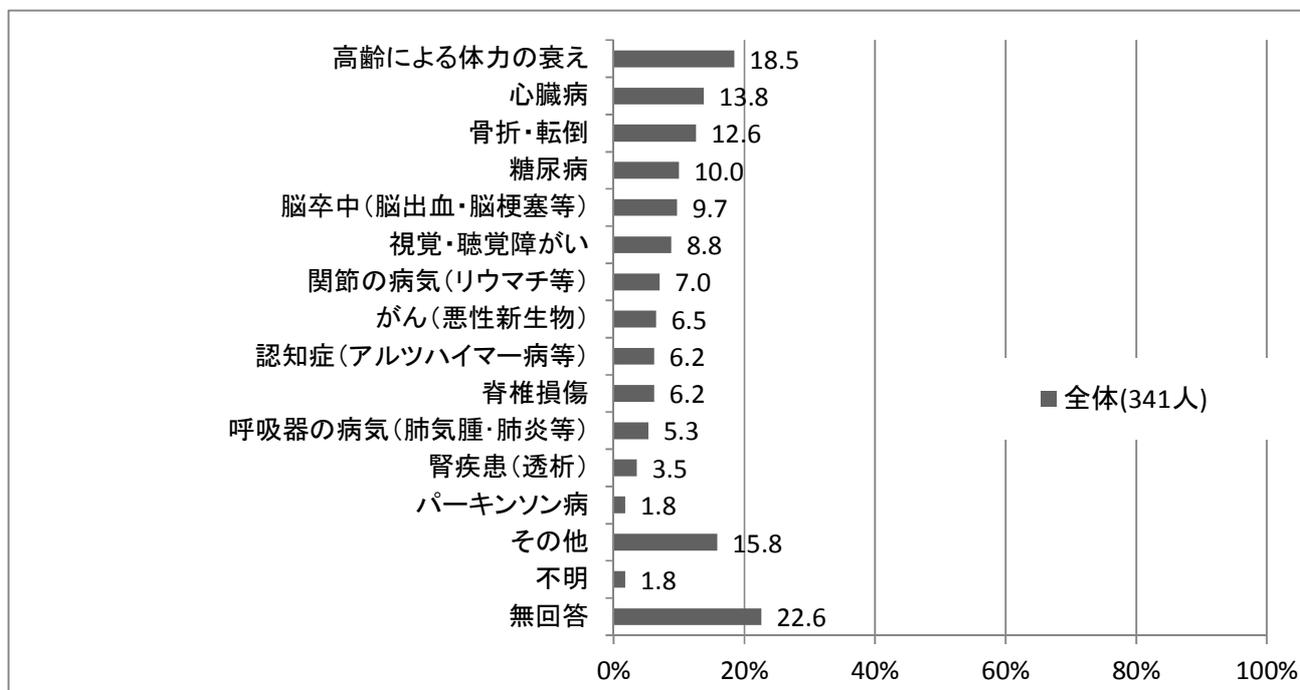
問1 (5) ① あなたの介護認定についてお答えください

「認定は受けていない」が52.5%と最も高く、次いで「要支援1」が16.7%、「要支援2」が13.8%となっています。



問1 (5) ② 介護・介助が必要になった主な原因は何ですか (いくつでも)

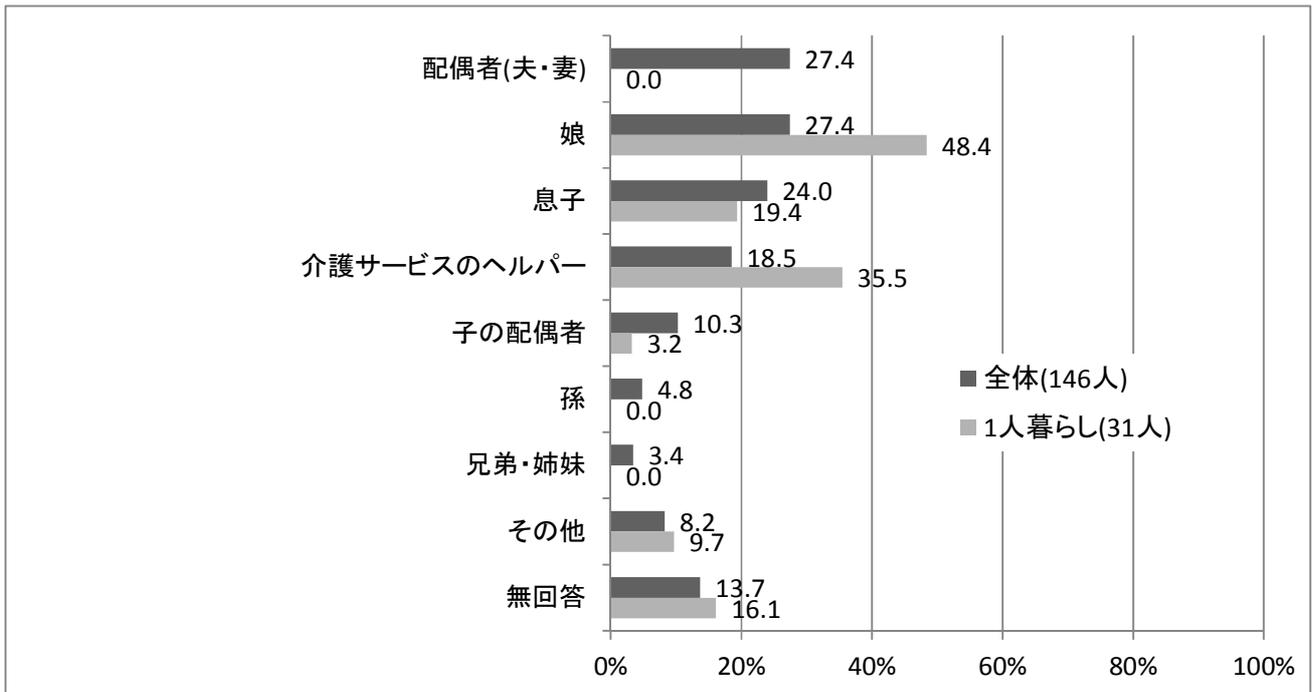
「高齢による体力の衰え」が18.5%と最も高く、次いで「その他」が15.8%、「心臓病」が13.8%、「骨折・転倒」が12.6%と続いています。



問1 (5) ③ 主にどなたの介護、介助を受けていますか (いくつでも)

「配偶者(夫・妻)」が27.4%、「娘」が同様に27.4%と最も高く、次いで「息子」が24%、「介護サービスのヘルパー」が18.5%と続いています。

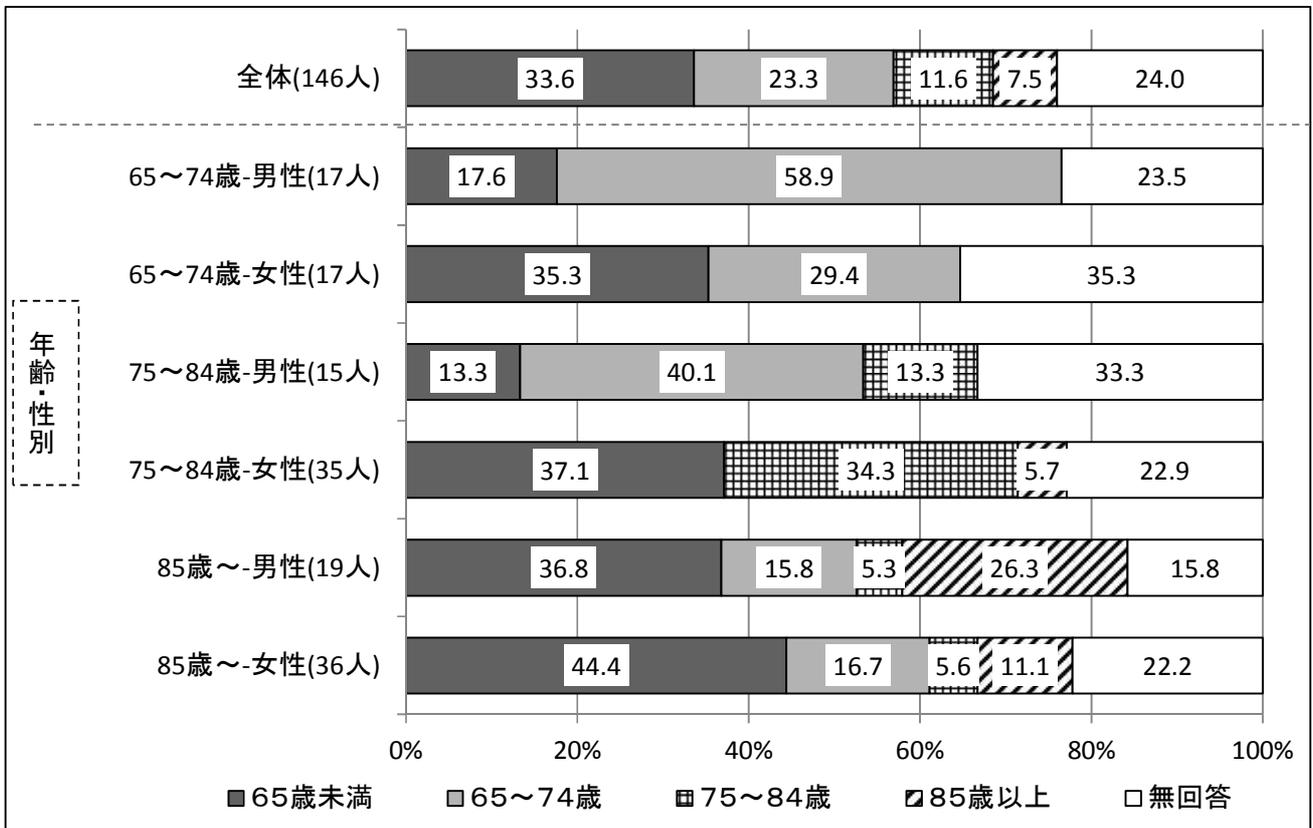
1人暮らしの場合では、「娘」が48.4%と最も高く、次いで「介護サービスのヘルパー」が35.5%、「息子」が19.4%と続いています。



問1 (5) ④ 主な介護者、介助者の年齢をお答えください

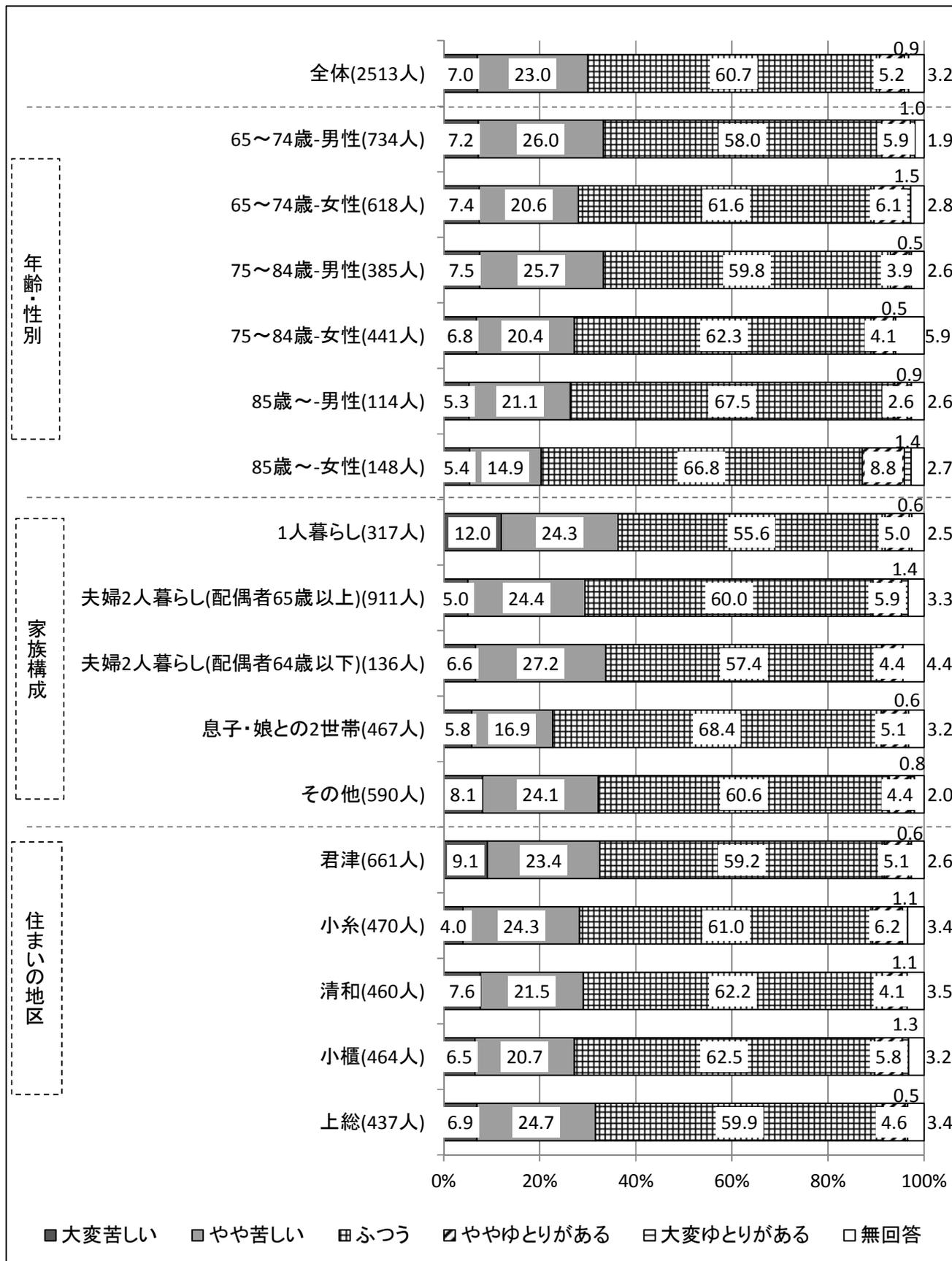
「65歳未満」が33.6%と最も高く、次いで「65～74歳」が23.3%、「75～84歳」が11.6%、「85歳以上」が7.5%となっています。

年齢・性別では、85歳～-男性は「85歳以上」が26.3%、85歳～-女性は同回答が11.1%となっています。



問1 (6) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか

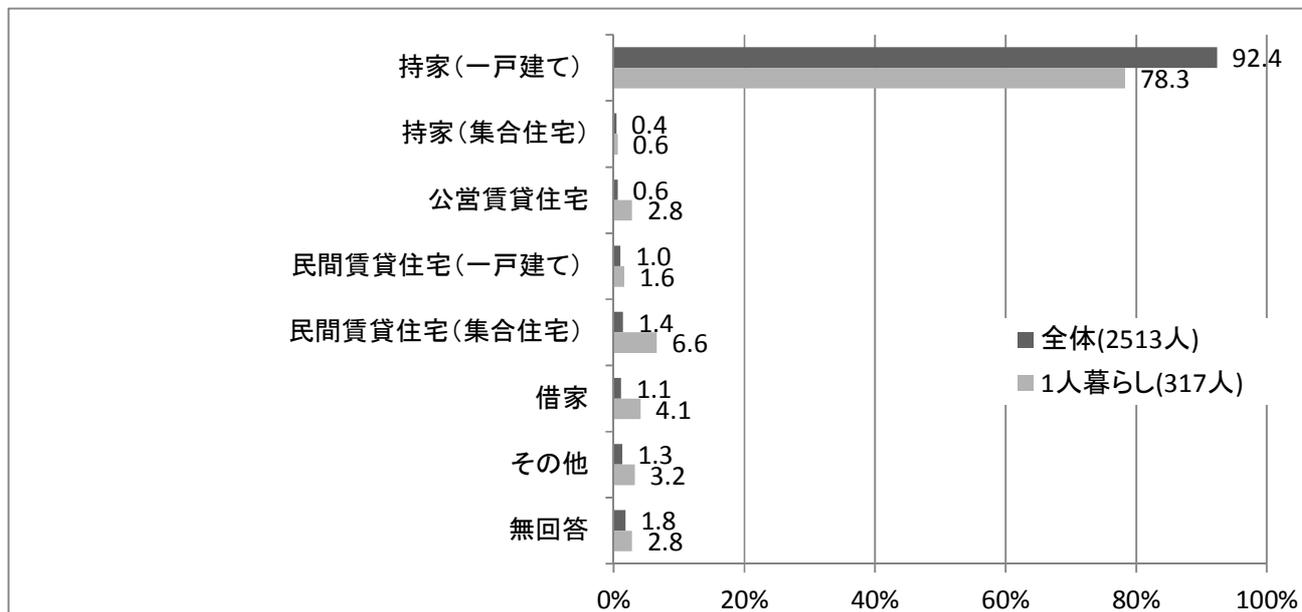
「ふつう」が60.7%と最も高くなっており、「やや苦しい」の23%と「大変苦しい」の7%を合わせると30%となっています。



問1(7) お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか

「持家(一戸建て)」が92.4%と最も高く、次いで「民間賃貸住宅(集合住宅)」が1.4%、「その他」が1.3%、「借家」が1.1%と続いています。

1人暮らしの場合では、「持家(一戸建て)」が78.3%、次いで「民間賃貸住宅(集合住宅)」が6.6%、「借家」が4.1%「その他」が3.2%と続いています。



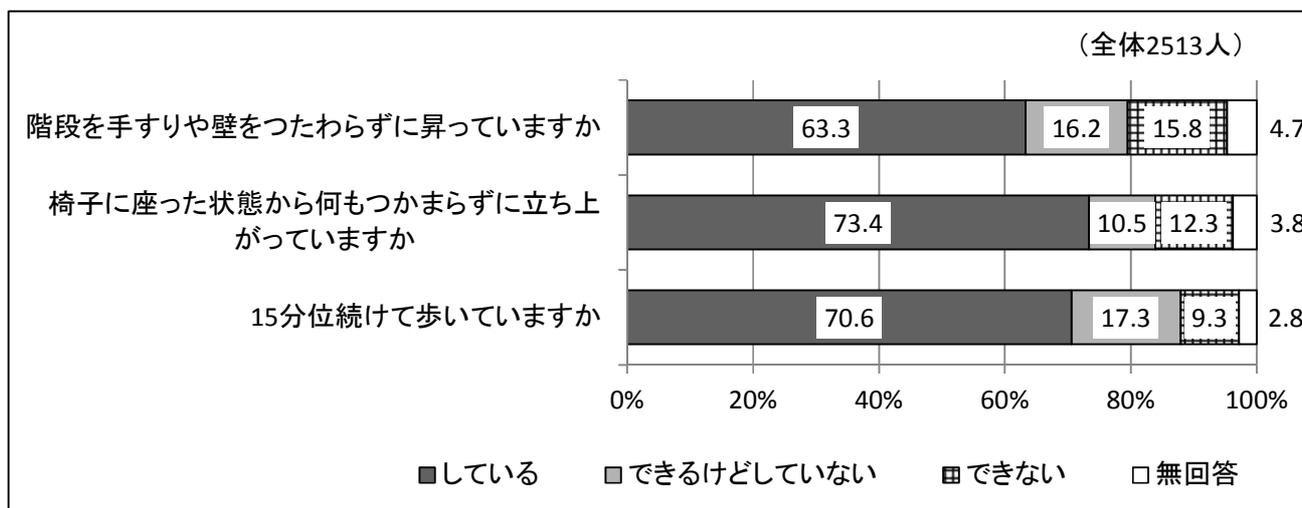
問2 からだを動かすことについて

問2（1）階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか

問2（2）椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか

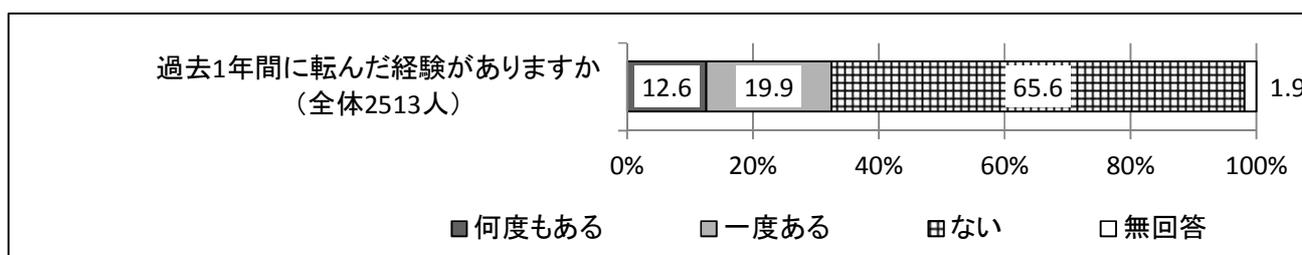
問2（3）15分位続けて歩いていますか

運動器の機能低下を問う3つの設問のうち、「階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか」という設問では、「できるけどしていない」が16.2%、「できない」が15.8%と、合わせて30%以上（32%）がしていない、またはできない状況です。



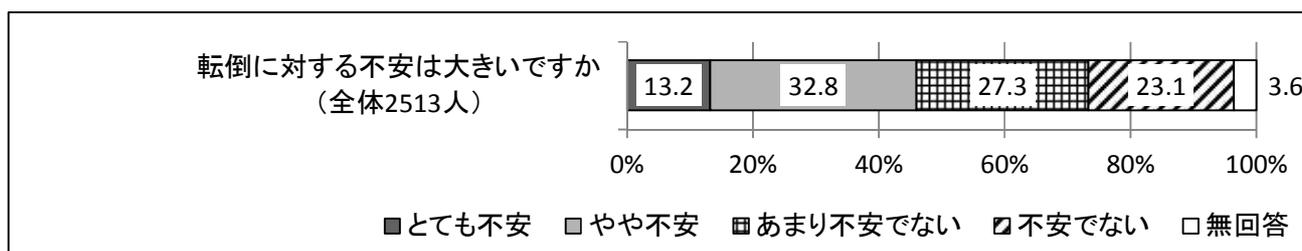
問2（4）過去1年間に転んだ経験がありますか

転倒リスクを問う“過去1年間に転んだ経験がありますか”という設問では、「一度ある」が19.9%、「何度もある」が12.6%と、合わせて30%以上（32.5%）となっています。



問2（5）転倒に対する不安は大きいですか

転倒リスクを問う“転倒に対する不安は大きいですか”という設問では、「やや不安」が32.8%と最も高く、「とても不安」が13.2%と合わせると半数近く（46%）となっています。



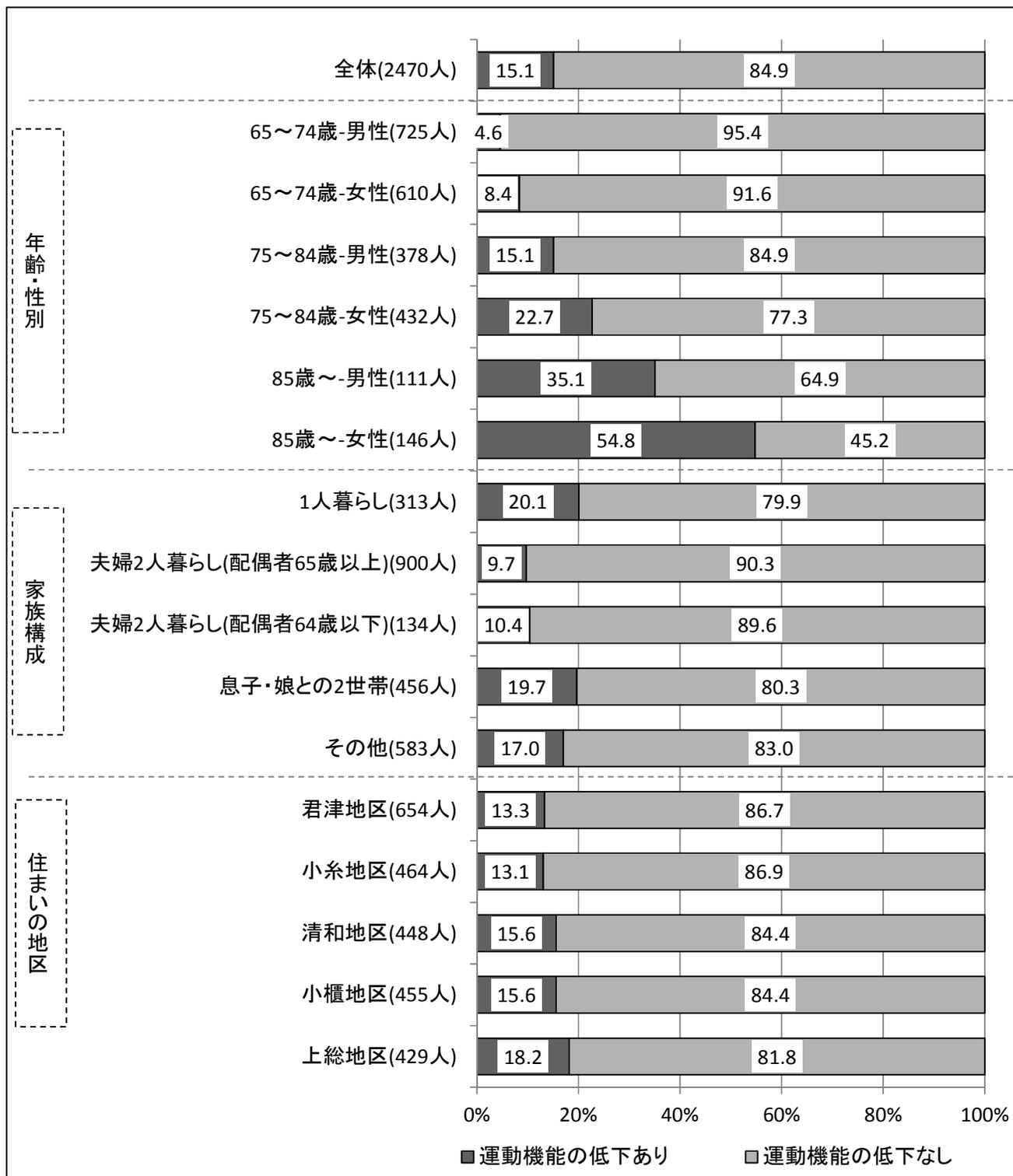
運動機能のリスク判定

「運動機能の低下あり」が15.1%、「運動機能の低下なし」が84.9%となっています。

年齢・性別では、いずれの年齢でも男性より女性が「運動機能の低下あり」の比率が高くなっており、85歳～-女性は半数以上（54.8%）となっています。

家族構成別では、1人暮らしは「運動機能の低下あり」が20.1%、息子・娘との2世帯は同回答が19.7%となっています。

住まいの地区別では、いずれの地区も「運動機能の低下あり」が10%台となっています。



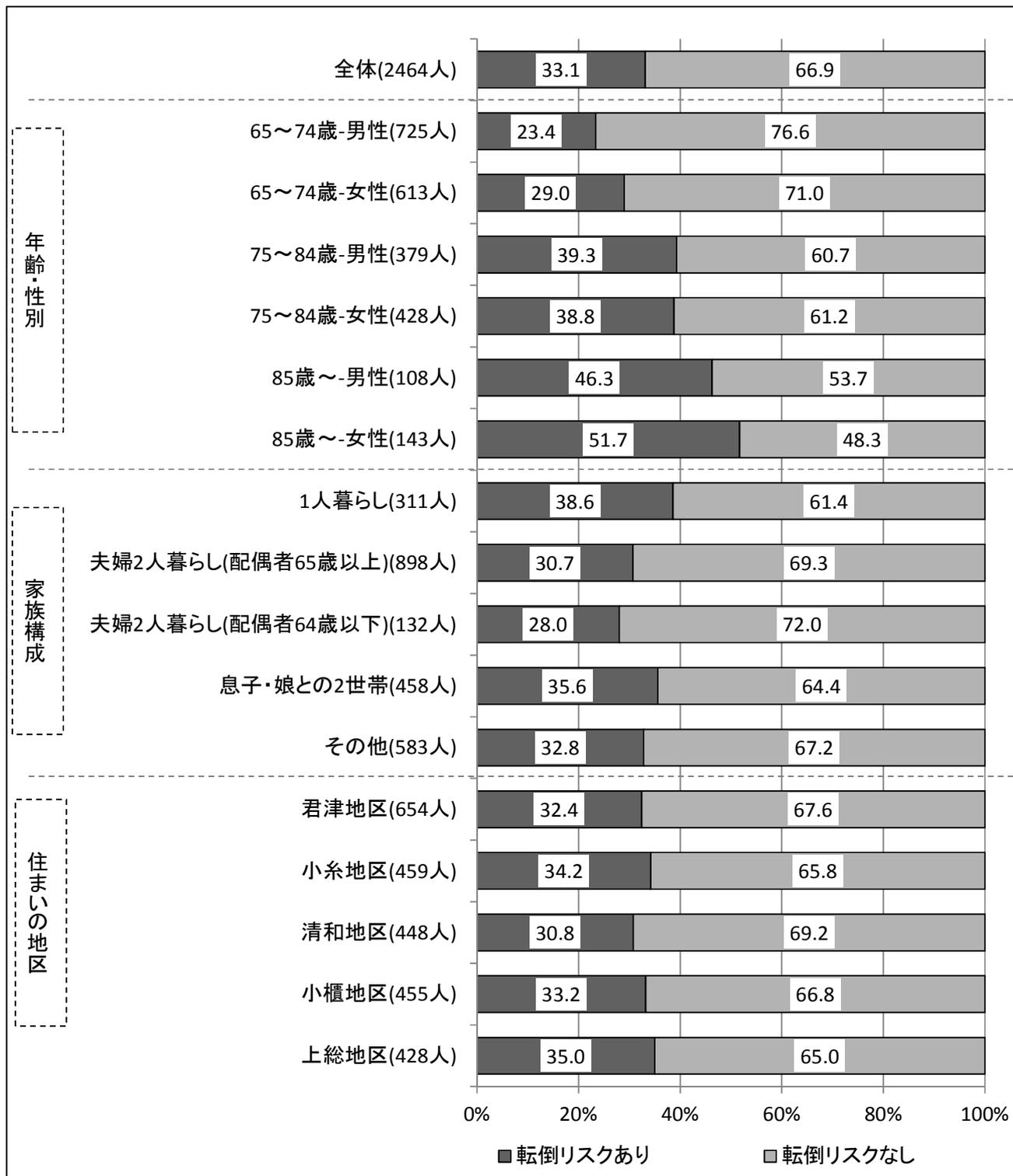
転倒のリスク判定

「転倒リスクあり」が33.1%、「転倒リスクなし」が66.9%となっています。

年齢・性別では、いずれの年齢層でも運動機能ほどの大きな男女差は見られません。

家族構成別では、1人暮らしは「転倒リスクあり」が38.6%、息子・娘との2世帯は同回答が35.6%となっています。

住まいの地区別では、いずれの地区も「転倒リスクあり」が30%台となっています。



【参考1】運動機能のリスク判定について

次の5つの設問で3問以上、該当する選択肢（枠囲みの箇所）が回答された場合は「運動器機能の低下あり」と判定

設問内容	選択肢
問2（1）階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
問2（2）椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
問2（3）15分位続けて歩いていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
問2（4）過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない
問2（5）転倒に対する不安は大きいですか	1. とても不安である 2. やや不安である 3. あまり不安でない 4. 不安でない

資料：厚生労働省「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」

【参考2】転倒のリスク判定について

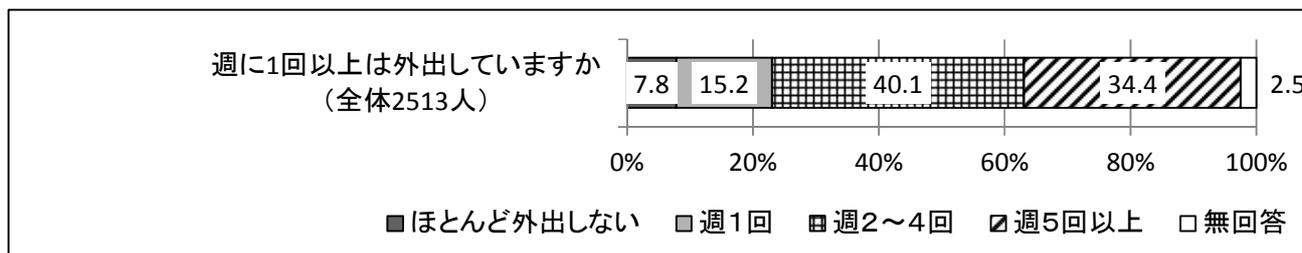
次の設問で該当する選択肢（枠囲みの箇所）が回答された場合は「転倒リスクあり」と判定

設問内容	選択肢
問2（4）過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない

資料：厚生労働省「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」

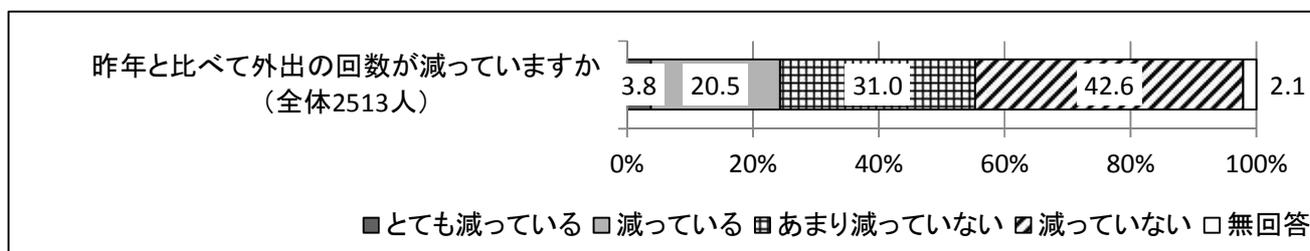
問2（6）週に1回以上は外出していますか

閉じこもり傾向を問う設問として、「週2～4回」が40.1%と最も高く、次いで「週5回以上」が34.4%、「週1回」が15.2%、「ほとんど外出しない」が7.8%となっています。



問2（7）昨年と比べて外出の回数が減っていますか

閉じこもり傾向を問う設問として、「減っていない」が42.6%と最も高く、次いで「あまり減っていない」が31%と続いており、「減っている」の20.5%、「とても減っている」の3.8%を合わせて24.3%となっています。



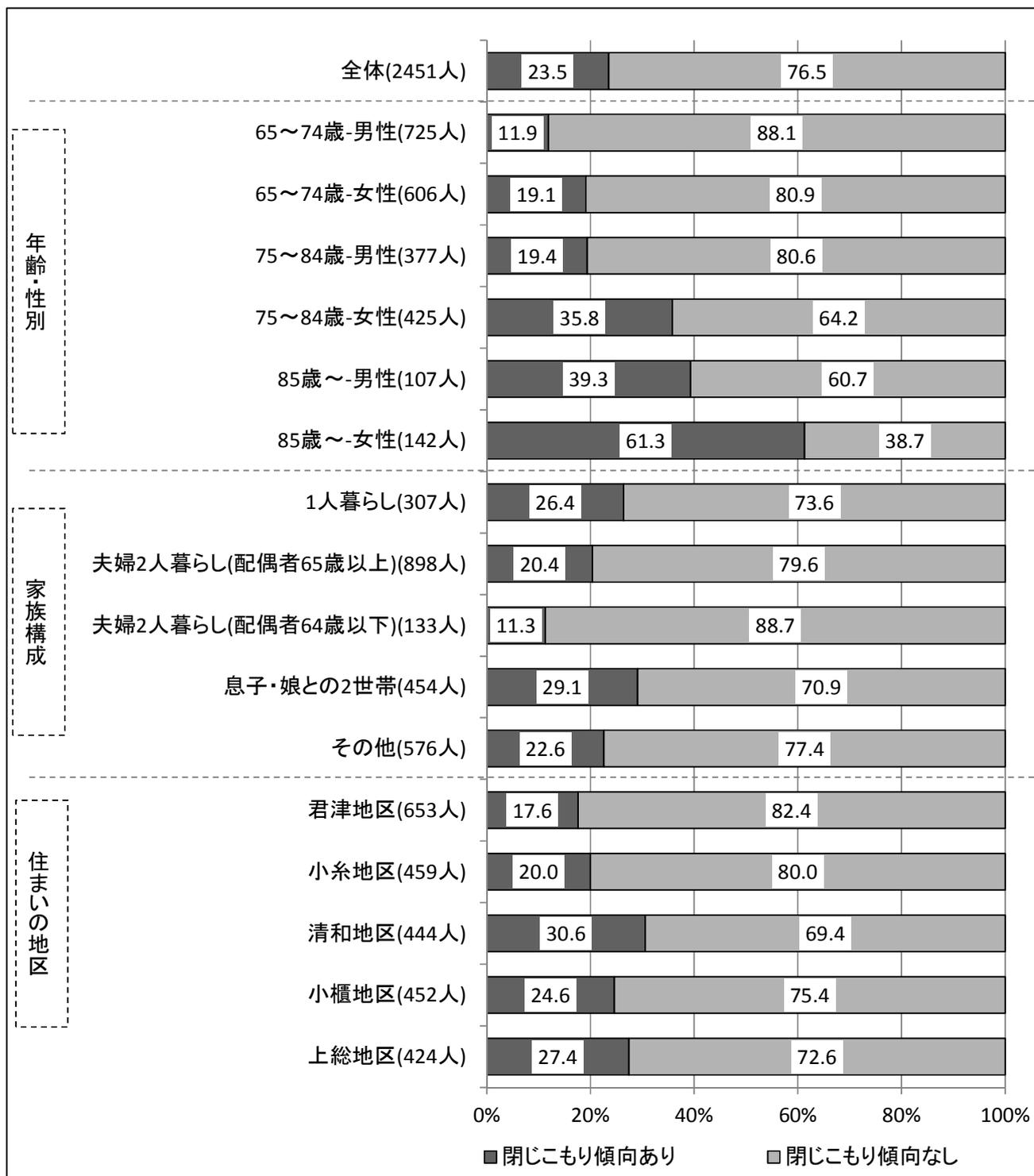
閉じこもり傾向

「閉じこもり傾向あり」が23.5%、「閉じこもり傾向なし」が76.5%となっています。

年齢・性別では、「閉じこもり傾向あり」は、いずれの年齢層でも男性よりも女性の同回答の比率が高くなっており、85歳～-女性では60%以上（61.3%）となっています。

家族構成別では、息子・娘との2世帯は「閉じこもり傾向あり」が29.1%、1人暮らしは同回答が26.4%となっています。

住まいの地区別では、清和地区は「閉じこもり傾向あり」が30%以上（30.6%）となっています。



【参考3】 閉じこもり傾向について

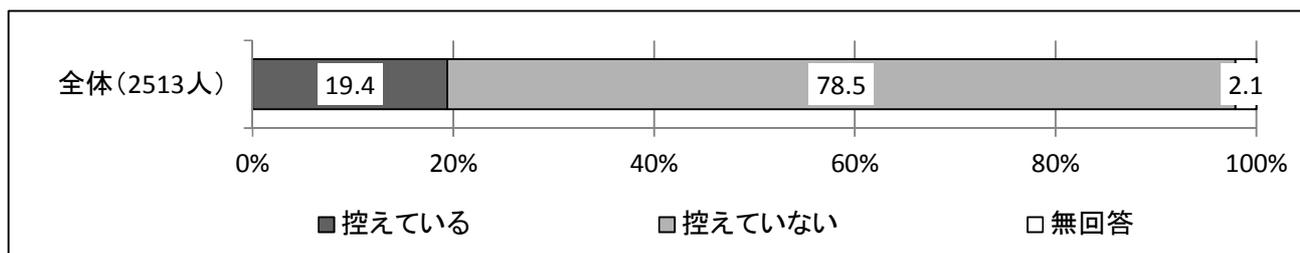
次の設問で該当する選択肢（枠囲みの箇所）が回答された場合は「閉じこもり傾向あり」と判定

設問内容	選択肢
問2（6）週に1回以上は外出していますか	1. ほとんど外出しない 2. 週1回 3. 週2～4回 4. 週5回以上

資料：厚生労働省「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」

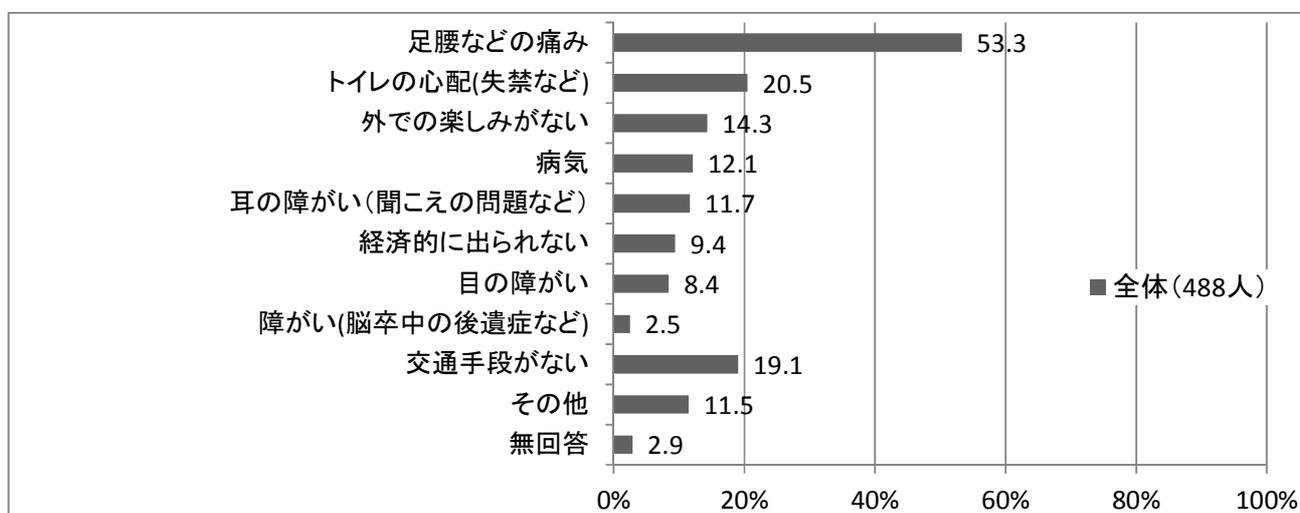
問2(8) 外出を控えていますか

「控えていない」が78.5%、「控えている」が19.4%となっています。



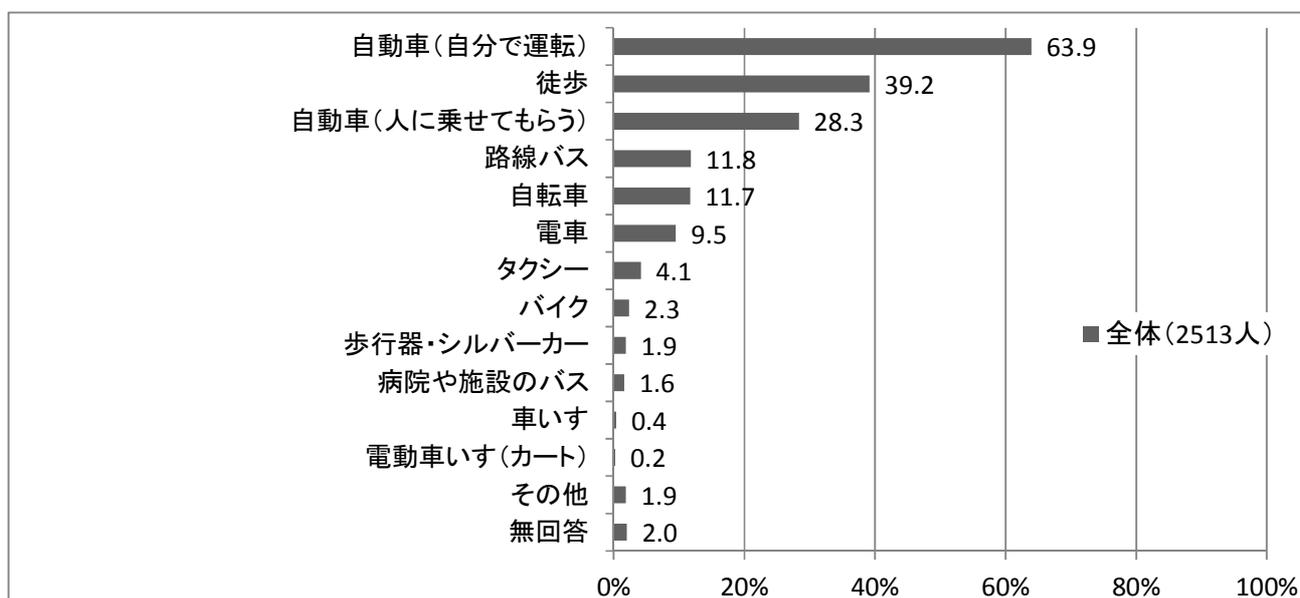
問2(8)① 外出を控えている理由は、次のどれですか(いくつでも)

「足腰などの痛み」が53.3%と最も高く、次いで「トイレの心配(失禁など)」が20.5%、「交通手段がない」が19.1%、「外での楽しみがない」が14.3%と続いています。



問2(9) 外出する際の移動手段は何ですか(いくつでも)

「自動車(自分で運転)」が63.9%と最も高く、次いで「徒歩」が39.2%、「自動車(人に乗せてもらう)」が28.3%、「路線バス」が11.8%と続いています。



問3 食べることについて

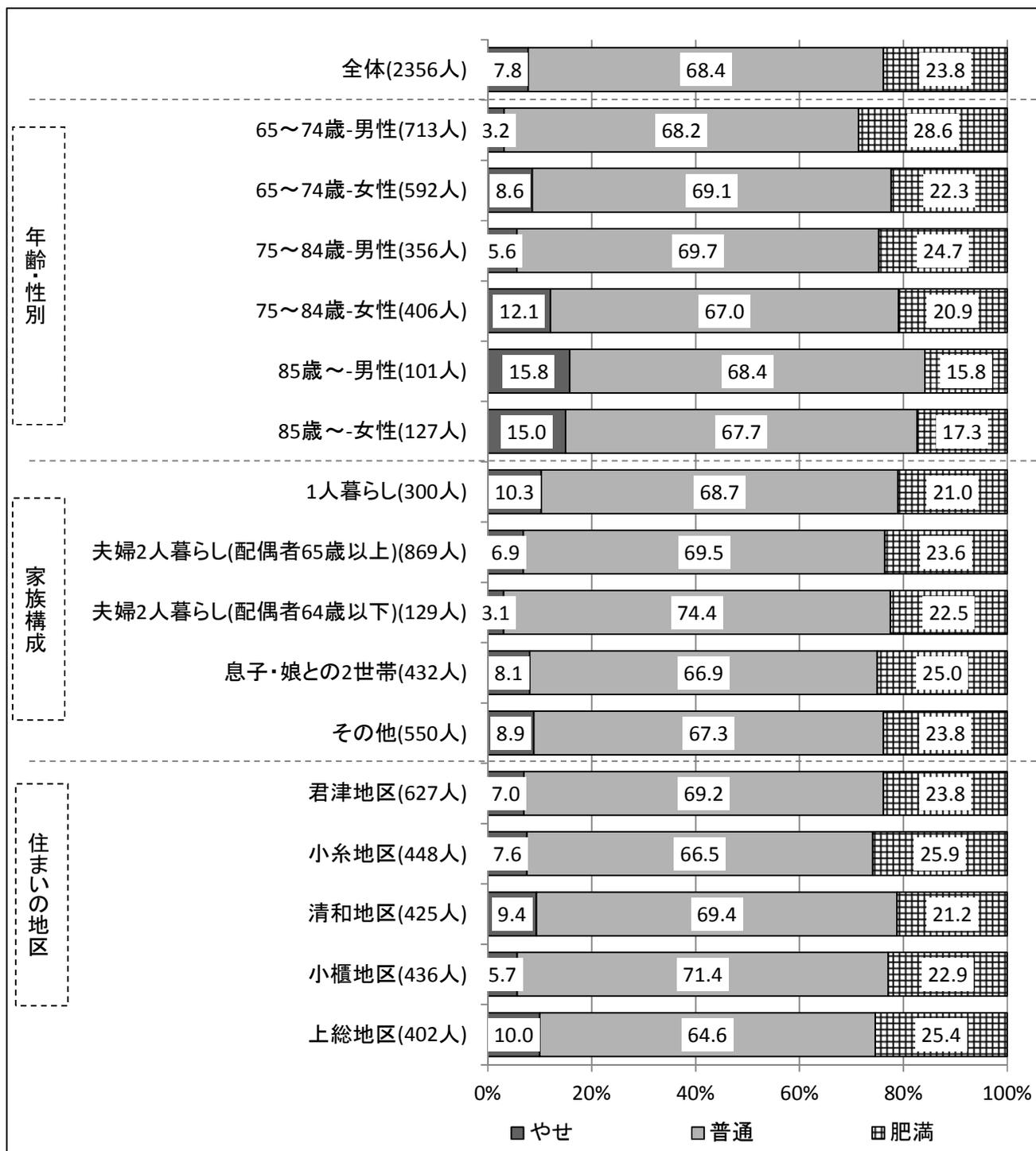
問3 (1) 身長・体重・BMI

低栄養の傾向を問うにあたり、身長・体重からBMI（肥満度を表す体格指数）を算出したところ、「普通」が68.4%と最も高く、「肥満」が23.8%、「やせ」が7.8%となっています。

年齢・性別では、85歳～は男女ともに「やせ」が15%以上となっており、65～74歳-男性は「肥満」が28.6%となっています。

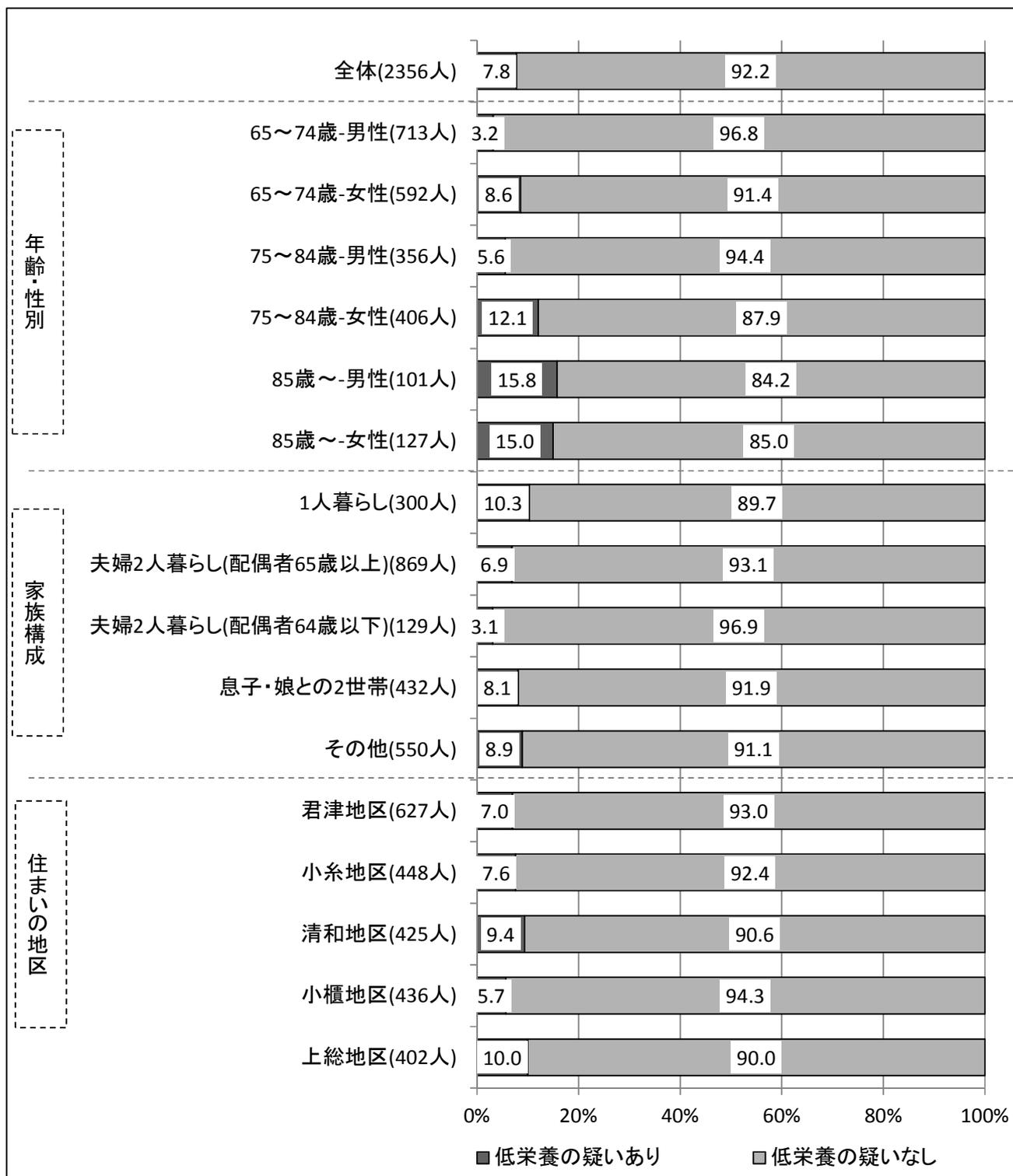
家族構成別では、1人暮らしは「やせ」が10.3%となっています。

住まいの地区別では、上総地区は「やせ」が10%、清和は同回答が9.4%となっています。



低栄養が疑われる高齢者

「低栄養の疑いあり」が7.8%、「低栄養の疑いなし」が92.2%となっています。
 年齢・性別では、85歳～は男女ともに「低栄養の疑いあり」が15%以上となっています。
 家族構成別では、1人暮らしは「低栄養の疑いあり」が10.3%となっています。
 住まいの地区別では、上総地区は「低栄養の疑いあり」が10%、清和は同回答が9.4%となっています。



【参考4】BMIについて

BMI（Body Mass Index）は、肥満度を表す体格指数で、次の算出方法と基準に基づき、問3（1）にて回答された身長・体重から肥満度を判定します。

設問内容	BMI（Body Mass Index）の算出方法と判定基準
問3（1）身長・体重	<p>[算出方法]</p> $BMI = \text{体重 (kg)} \div \{ \text{身長 (m)} \times \text{身長 (m)} \}$ <p>[判定基準]</p> <p>やせ：BMIが18.5未満</p> <p>普通：BMIが18.5～25未満</p> <p>肥満：BMIが25以上</p>

【参考5】低栄養が疑われる高齢者について

上記のBMIによる判定の結果、「やせ：BMIが18.5未満」に該当した場合を低栄養が疑われる高齢者と判定

資料：厚生労働省「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」

問3（2）半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか

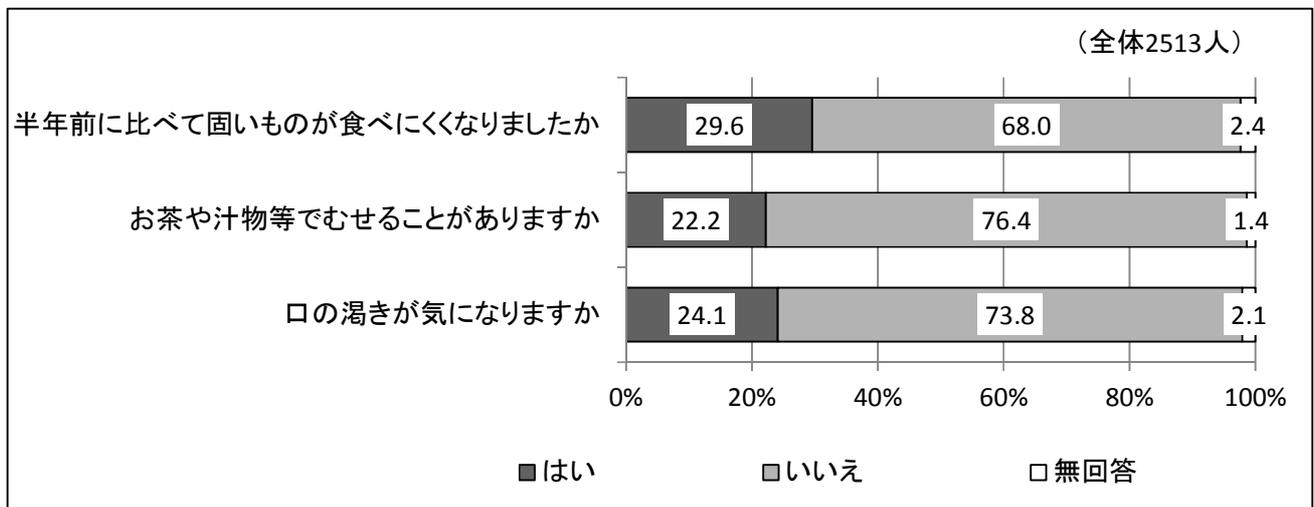
問3（3）お茶や汁物等でむせることがありますか

問3（4）口の渇きが気になりますか

口腔機能の低下のうち、咀嚼機能そしゃくきのうの低下を問う“半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか”という設問では、「いいえ」が68%、「はい」が29.6%となっています。

嚥下機能の低下を問う“お茶や汁物等でむせることがありますか”という設問では、「いいえ」が76.4%、「はい」が22.2%となっています。

肺炎発症リスクを把握する“口の渇きが気になりますか”という設問では、「いいえ」が73.8%、「はい」が24.1%となっています。



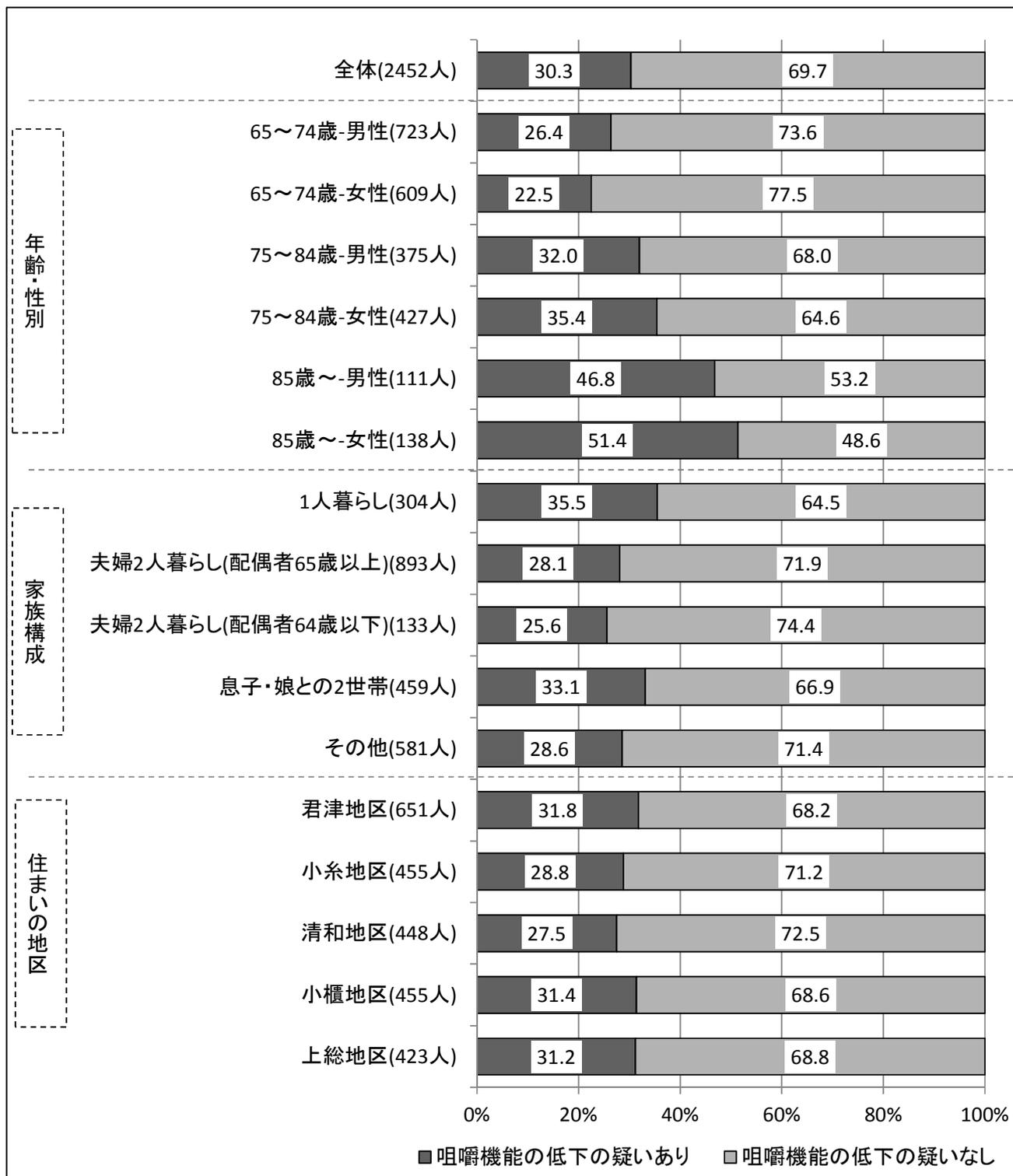
咀嚼機能の低下が疑われる高齢者

「咀嚼機能の低下の疑いあり」が30.3%、「咀嚼機能の低下の疑いなし」が69.7%となっています。

年齢・性別では、85歳～は男女ともに「咀嚼機能の低下の疑いあり」が50%前後となっています。

家族構成別では、1人暮らしは「咀嚼機能の低下の疑いあり」が35.5%となっています。

住まいの地区別では、いずれの地区も「咀嚼機能の低下の疑いあり」が30%前後となっています。



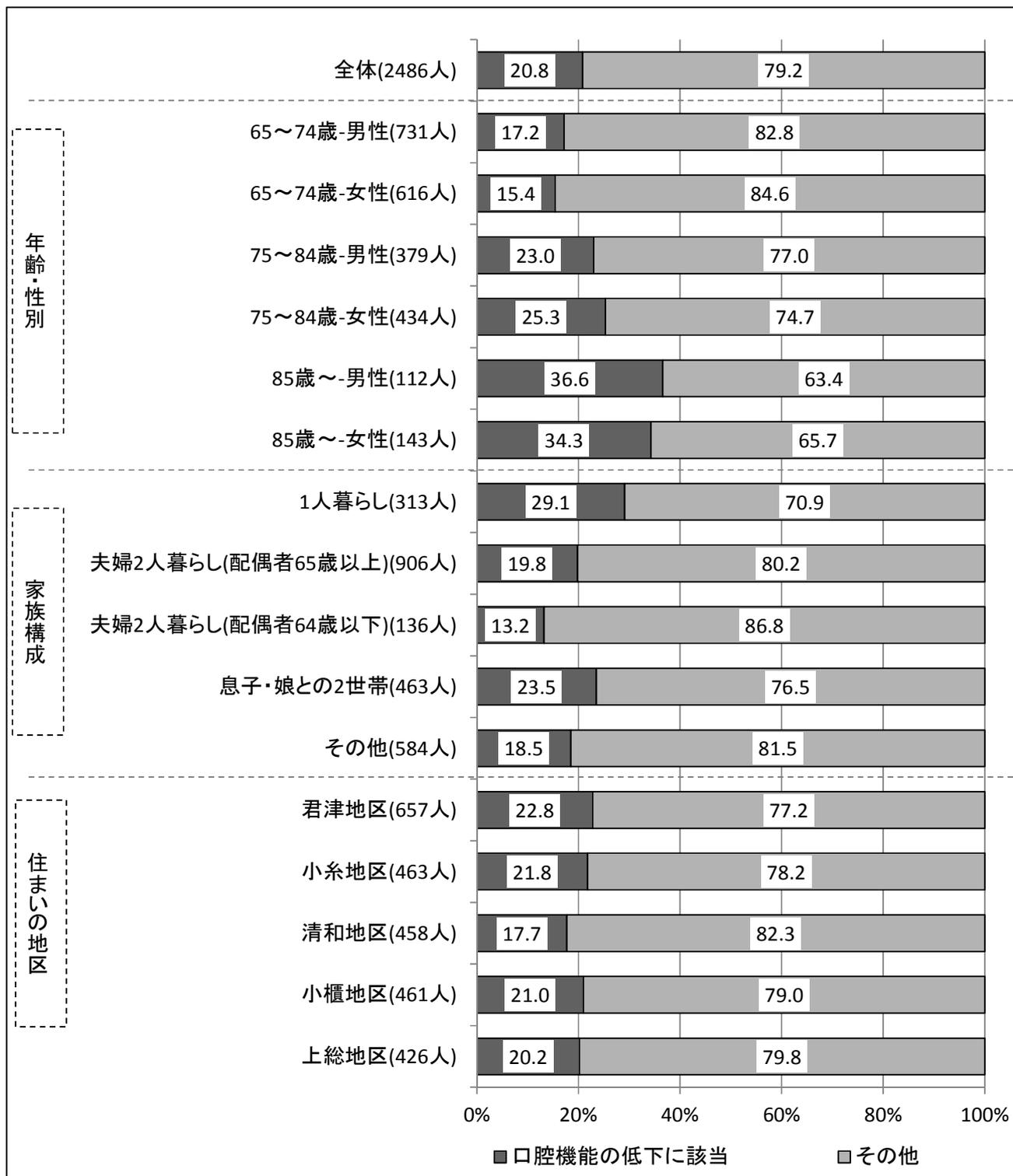
口腔機能が低下している高齢者

「口腔機能の低下に該当」が20.8%、「その他」が79.2%となっています。

年齢・性別では、85歳～は男女ともに「口腔機能の低下に該当」が30%以上となっています。

家族構成別では、1人暮らしは「口腔機能の低下に該当」が29.1%となっています。

住まいの地区別では、いずれの地区も「口腔機能の低下に該当」が20%前後となっています。



【参考6】咀嚼機能の低下が疑われる高齢者について

次の設問で該当する選択肢（枠囲みの箇所）が回答された場合は「咀嚼機能の低下の疑いあり」と判定

設問内容	選択肢
問3（2）半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい 2. いいえ

資料：厚生労働省「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」

【参考7】口腔機能が低下している高齢者について

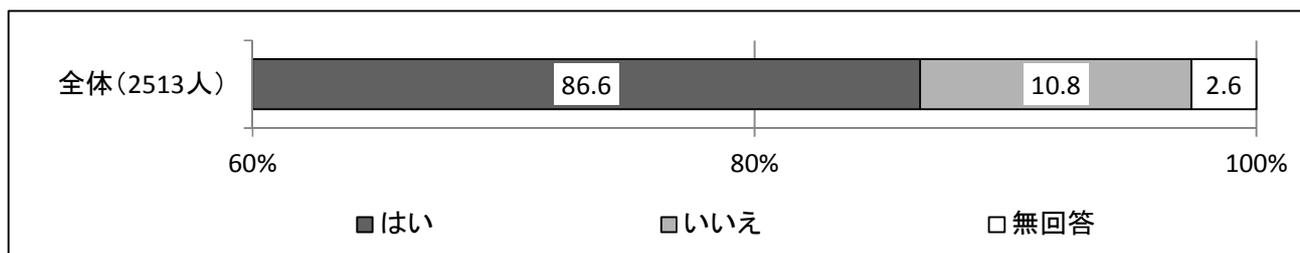
次の3つの設問で2問以上、該当する選択肢（枠囲みの箇所）が回答された場合は「口腔機能の低下に該当」と判定

設問内容	選択肢
問3（2）半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい 2. いいえ
問3（3）お茶や汁物等でむせることがありますか	1. はい 2. いいえ
問3（4）口の渇きが気になりますか	1. はい 2. いいえ

資料：厚生労働省「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」

問3 (5) 歯磨き(人にやってもらう場合も含む)を毎日していますか

「はい」が86.6%、「いいえ」が10.8%となっています。

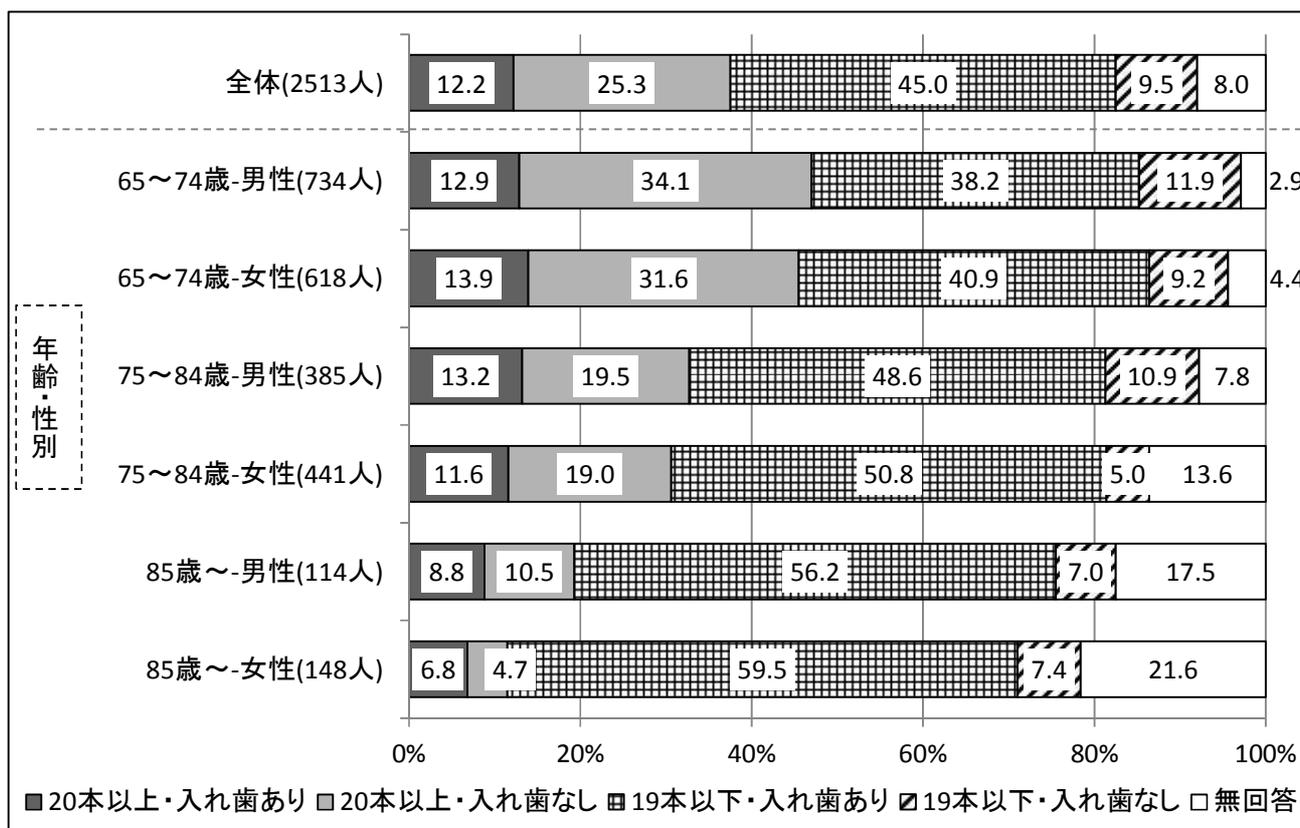


問3 (6) 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください

「19本以下・入れ歯あり」が45%と最も高く、次いで「20本以上・入れ歯なし」が25.3%、「20本以上・入れ歯あり」が12.2%、「19本以下・入れ歯なし」が9.5%となっており、入れ歯なしは合わせて34.8%となっています。

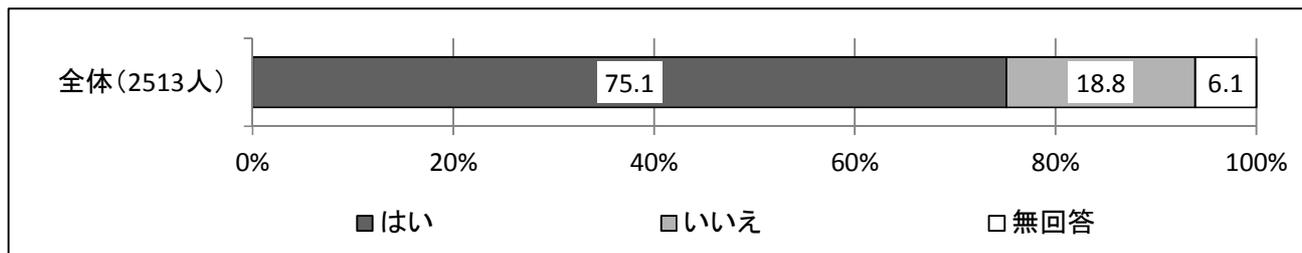
年齢・性別では、75～84歳は「20本以上・入れ歯なし」が男性で19.5%、女性で19%と、男女ともに、いわゆる“8020(ハチマルニイマル)”は約20%となっています。

※8020(ハチマルニイマル) 80歳になっても20本以上自分の歯を保っている状態のことをいいます。



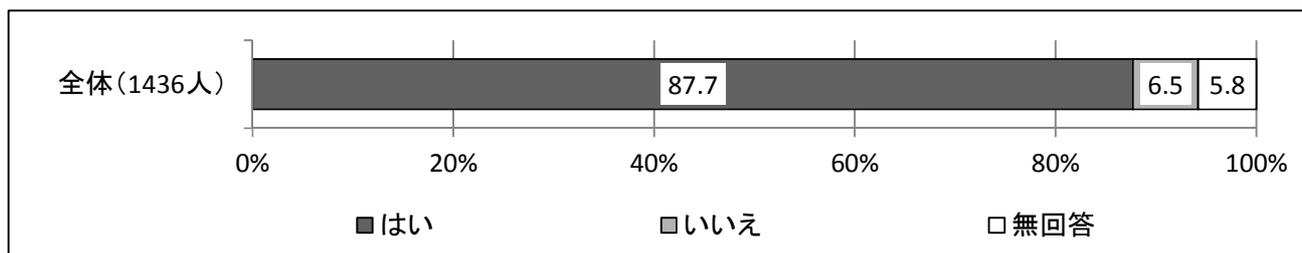
問3(6)① 噛み合わせは良いですか

「はい」が75.1%、「いいえ」が18.8%となっています。



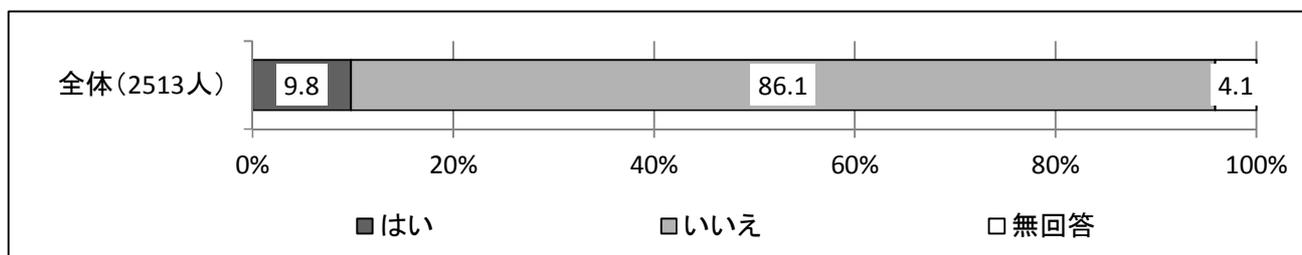
問3(6)② 毎日入れ歯の手入れをしていますか

「はい」が87.7%、「いいえ」が6.5%となっています。



問3(7) 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか

BMIとあわせて低栄養状態を把握する設問として、「はい」が9.8%、「いいえ」が86.1%となっています。



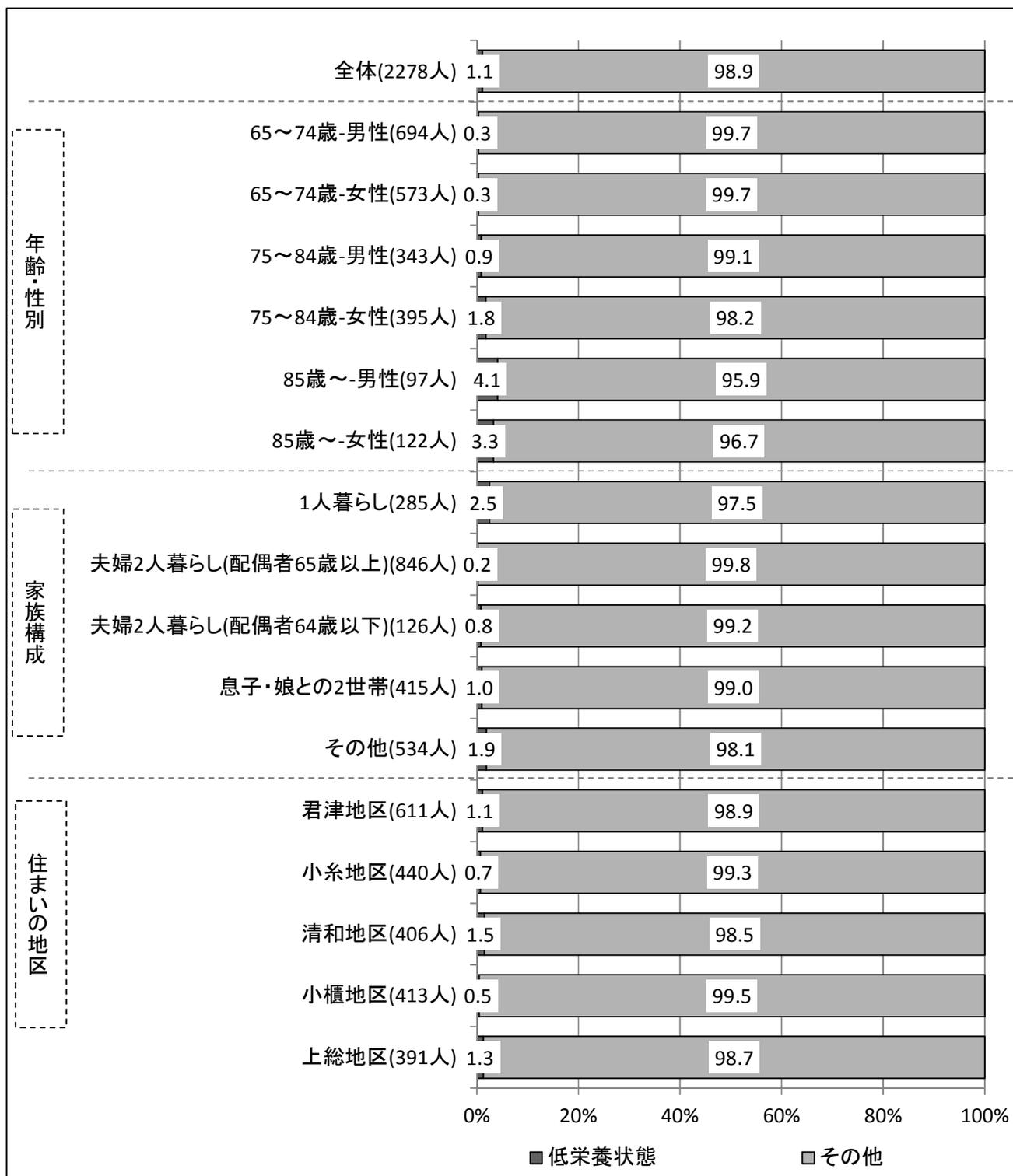
低栄養状態にある高齢者

「低栄養状態」が1.1%、「その他」が98.9%となっています。

年齢・性別では、85歳～は男女ともに「低栄養状態」が3%以上となっています。

家族構成別では、1人暮らしは「低栄養状態」が2.5%となっています。

住まいの地区別では、清和地区は「低栄養状態」が1.5%、上総地区は同回答が1.3%となっています。



【参考 8】低栄養状態にある高齢者について

次の2つの設問で、2問ともに該当する選択肢（枠囲みの箇所）が回答された場合は「低栄養状態」と判定

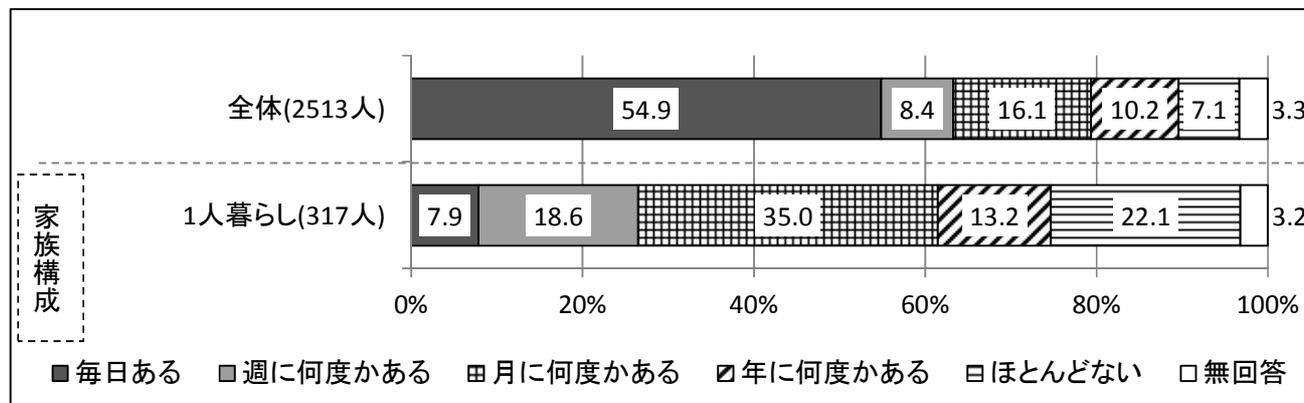
設問内容	選択肢等
問3（1）身長・体重	[算出方法] $BMI = \text{体重 (kg)} \div \{\text{身長 (m)} \times \text{身長 (m)}\}$ [判定基準] やせ：BMIが18.5未満 普通：BMIが18.5～25未満 肥満：BMIが25以上
問3（7）6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	1. はい 2. いいえ

資料：厚生労働省「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」

問3（8）どなたかと食事をとにもする機会がありますか

「毎日ある」が54.9%と最も高く、次いで「月に何度かある」が16.1%、「年に何度かある」が10.2%、「週に何度かある」が8.4%と続いており、「ほとんどない」は7.1%となっています。

1人暮らしの場合では、「ほとんどない」が22.1%となっています。



問4 毎日の生活について

問4（1）物忘れが多いと感じますか

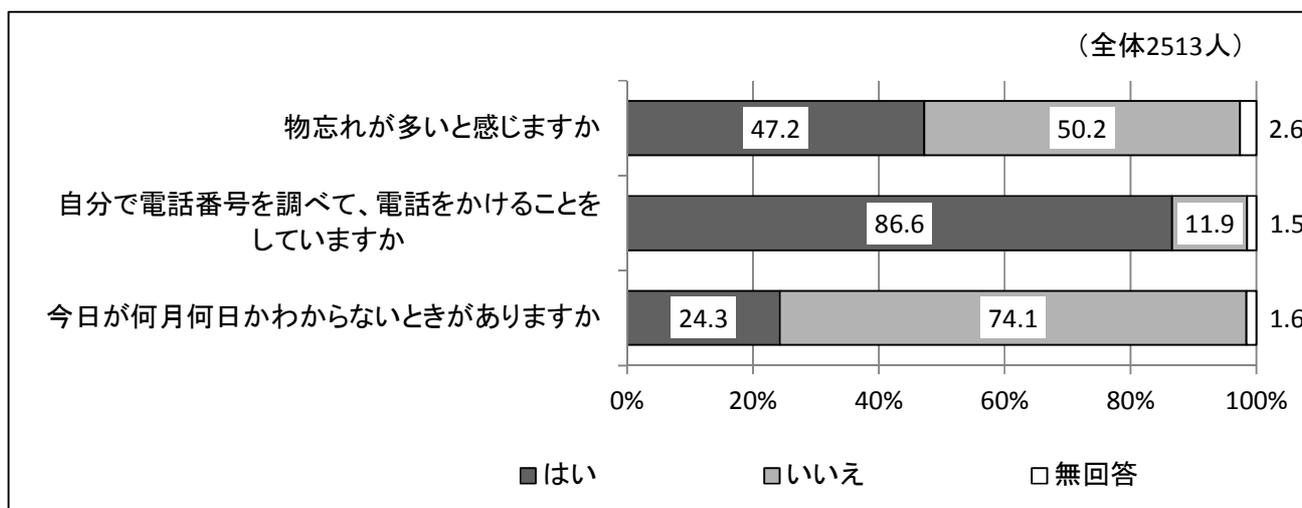
問4（2）自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか

問4（3）今日が何月何日かわからないときがありますか

認知機能の低下を問う3つの設問のうち、“物忘れが多いと感じますか”という設問では、「はい」が47.2%、「いいえ」が50.2%となっています。

“自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか”という設問では、「はい」が86.6%、「いいえ」が11.9%となっています。

“今日が何月何日かわからないときがありますか”という設問では、「はい」が24.3%、「いいえ」が74.1%となっています。



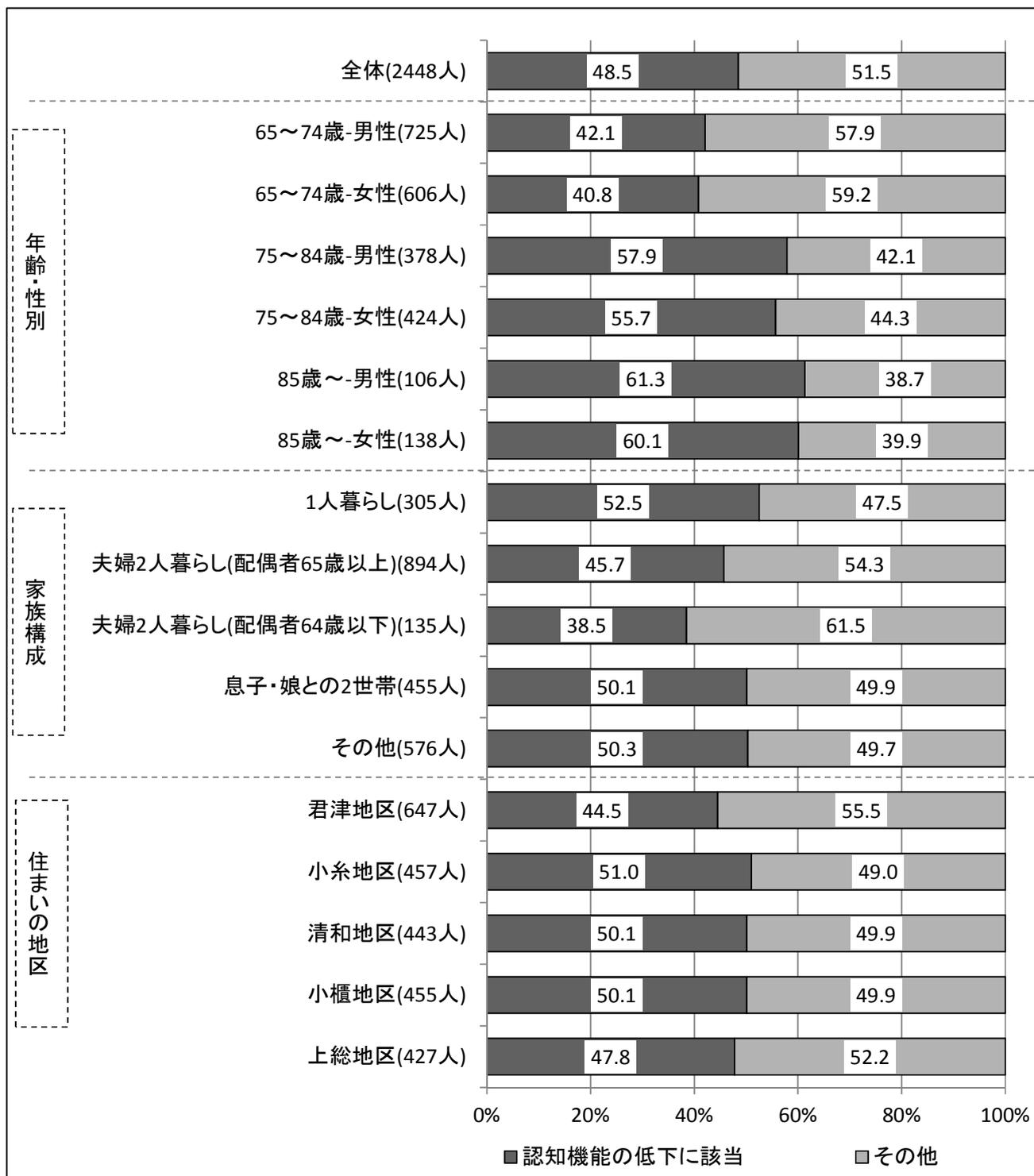
認知機能が低下している高齢者

「認知機能の低下に該当」が48.5%、「その他」が51.5%となっています。

年齢・性別では、75歳以上は男女ともに「認知機能の低下に該当」が半数以上となっています。

家族構成別では、1人暮らしは「認知機能の低下に該当」が52.5%となっています。

住まいの地区別では、君津地区以外の4地区は「認知機能の低下に該当」が50%前後で、君津地区は同回答が44.5%となっています。



【参考 9】 認知機能が低下している高齢者について

次の設問で該当する選択肢（枠囲みの箇所）が回答された場合は「認知機能の低下に該当」と判定

設問内容	選択肢
問 4 （1）物忘れが多いと感じますか	1. はい 2. いいえ

資料：厚生労働省「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」

問4 (4) バスや電車を使って1人で外出していますか (自家用車でも可)

問4 (5) 自分で食品・日用品の買物をしていますか

問4 (6) 自分で食事の用意をしていますか

問4 (7) 自分で請求書の支払いをしていますか

問4 (8) 自分で預貯金の出し入れをしていますか

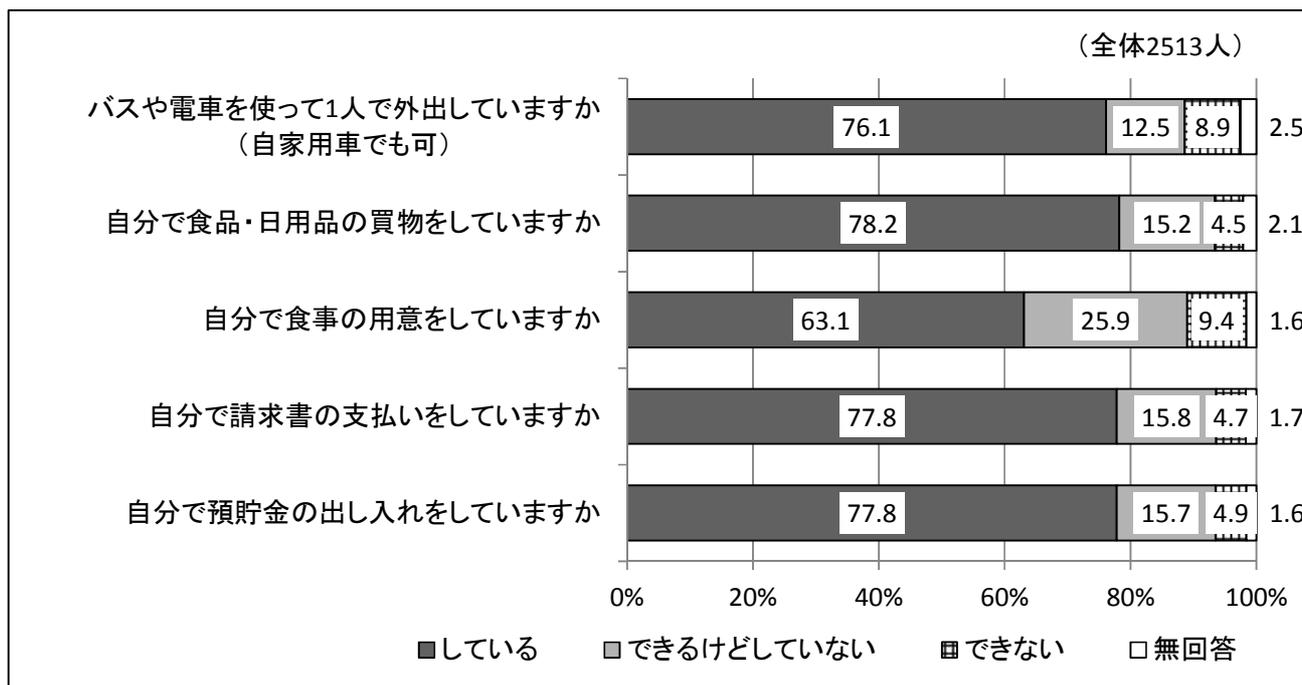
IADL (手段的日常生活動作) の低下を問う5つの設問のうち、“バスや電車を使って1人で外出していますか (自家用車でも可)” という設問では、「している」が76.1%、「できるけどしていない」が12.5%、「できない」が8.9%となっています。

“自分で食品・日用品の買物をしていますか” という設問では、「している」が78.2%、「できるけどしていない」が15.2%、「できない」が4.5%となっています。

“自分で食事の用意をしていますか” という設問では、「している」が63.1%となっており、「できるけどしていない」の25.9%と「できない」の9.4%を合わせると30%以上(35.3%)となっています。

“自分で請求書の支払いをしていますか” という設問では、「している」が77.8%、「できるけどしていない」が15.8%、「できない」が4.7%となっています。

“自分で預貯金の出し入れをしていますか” という設問では、「している」が77.8%、「できるけどしていない」が15.7%、「できない」が4.9%となっています。



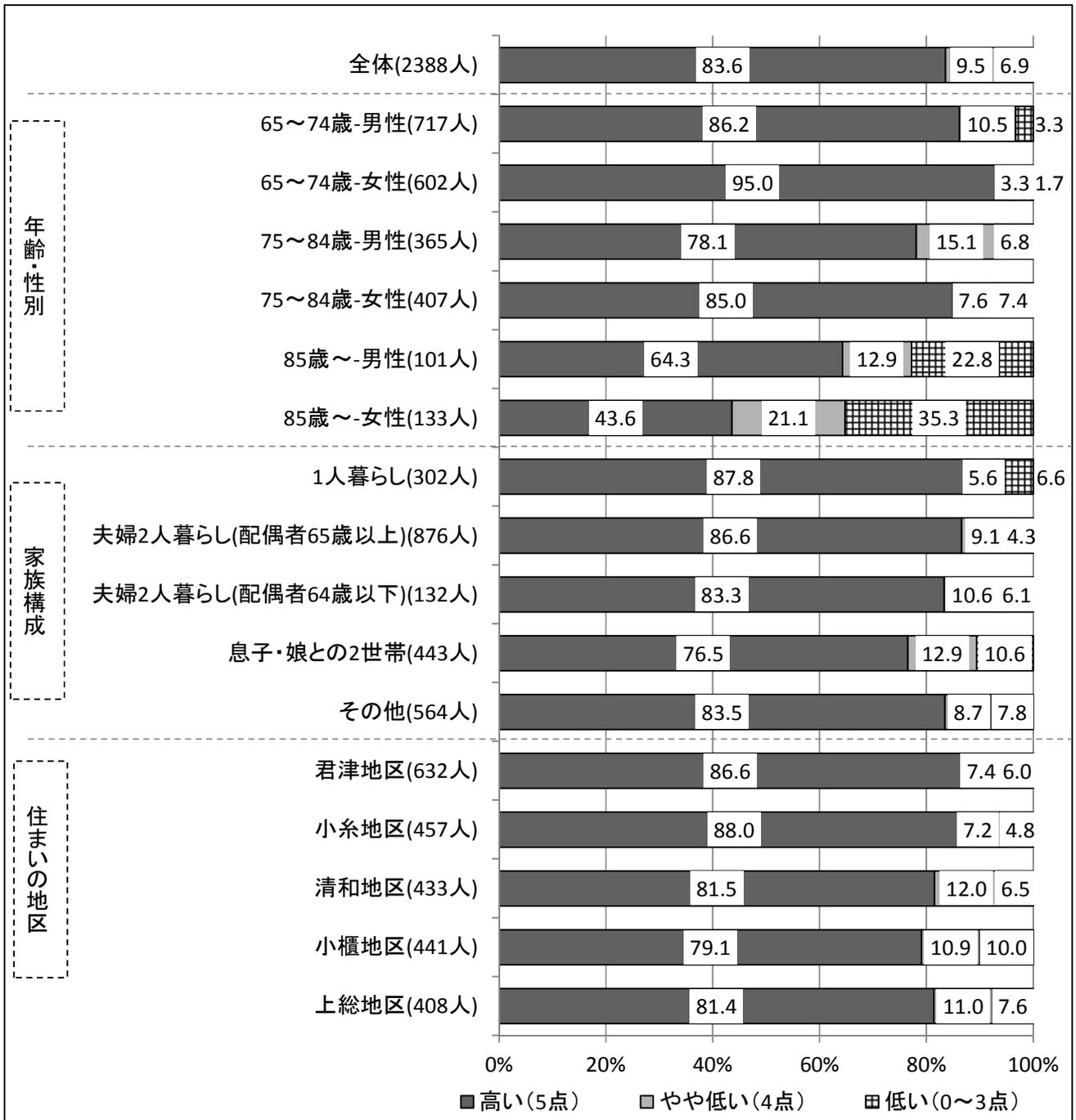
I ADLが低下している高齢者

「高い(5点)」が83.6%となっており、「やや低い(4点)」の9.5%、「低い(0~3点)」の6.9%となっています。

年齢・性別では、85歳～-女性は「やや低い(4点)」の21.1%、「低い(0~3点)」の35.3%を合わせると半数以上(56.4%)となっており、85歳～-男性(35.7%)と比べて高い比率となっています。

家族構成別では、息子・娘との2世帯は「やや低い(4点)」の12.9%、「低い(0~3点)」の10.6%を合わせると20%以上(23.5%)となっています。

住まいの地区別では、小櫃地区は「やや低い(4点)」の10.9%、「低い(0~3点)」の10%を合わせると20%以上(20.9%)となっています。



【参考 10】 I A D L が低下している高齢者について

次の5つの設問で、該当する選択肢(枠囲みの箇所)が回答された場合は1点とし、5つの設問の合計点で、「高い(5点)」、「やや低い(4点)」、「低い(0~3点)」と判定

設問内容	選択肢
問4(4) バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
問4(5) 自分で食品・日用品の買物をしていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
問4(6) 自分で食事の用意をしていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
問4(7) 自分で請求書の支払いをしていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
問4(8) 自分で預貯金の出し入れをしていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

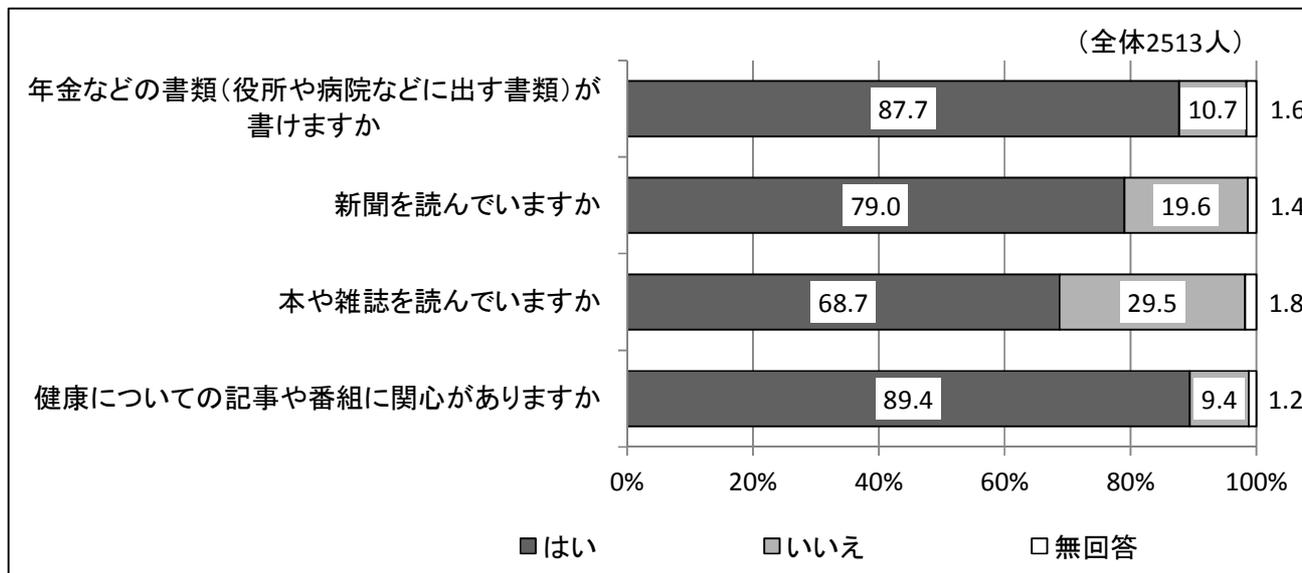
問4 (9) 年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか

問4 (10) 新聞を読んでいますか

問4 (11) 本や雑誌を読んでいますか

問4 (12) 健康についての記事や番組に関心がありますか

知的能動性を把握する4つの設問のうち、“本や雑誌を読んでいますか”という設問では、「はい」が68.7%、「いいえ」が約30%(29.5%)と、他の設問と比べて「いいえ」の比率が高くなっています。



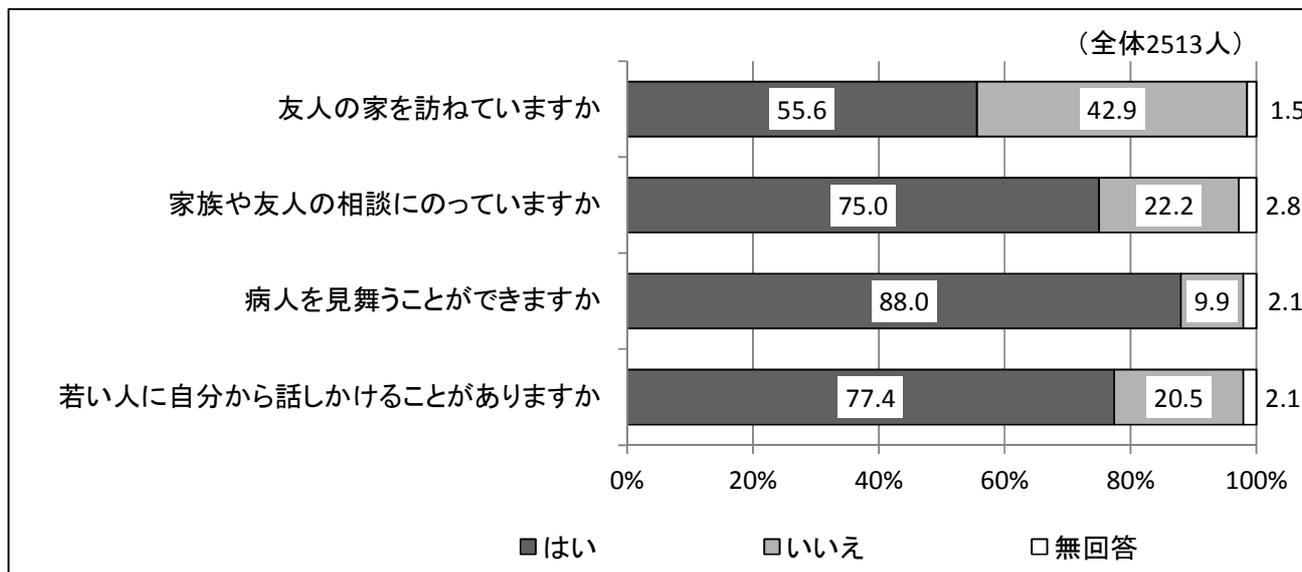
問4 (13) 友人の家を訪ねていますか

問4 (14) 家族や友人の相談にのっていますか

問4 (15) 病人を見舞うことができますか

問4 (16) 若い人に自分から話しかけることがありますか

他者との関わりを把握する4つの設問のうち、“友人の家を訪ねていますか”という設問では、「はい」が55.6%、「いいえ」が約40%(42.9%)と、他の設問と比べて「いいえ」の比率が高くなっています。

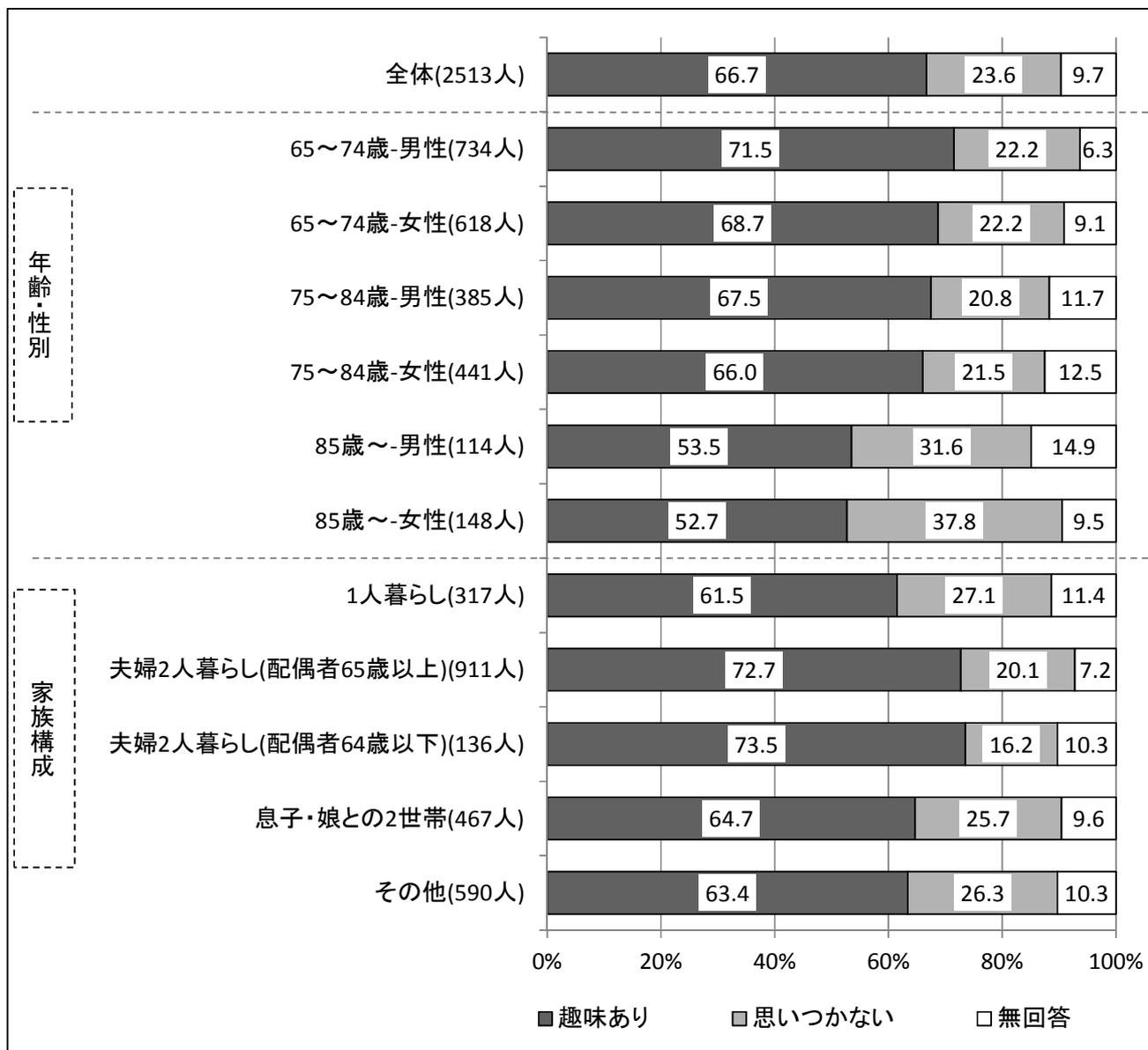


問4 (17) 趣味はありますか

全体で「趣味あり」が66.7%、「思いつかない」が23.6%となっています。

年齢・性別では、65～74歳は男女ともに「趣味あり」が70%前後となっています。

家族構成別では、夫婦2人暮らしは配偶者の年齢に関わらず「趣味あり」が70%以上となっており、1人暮らしは同回答が約60%（61.5%）となっています。



趣味の内容上位10

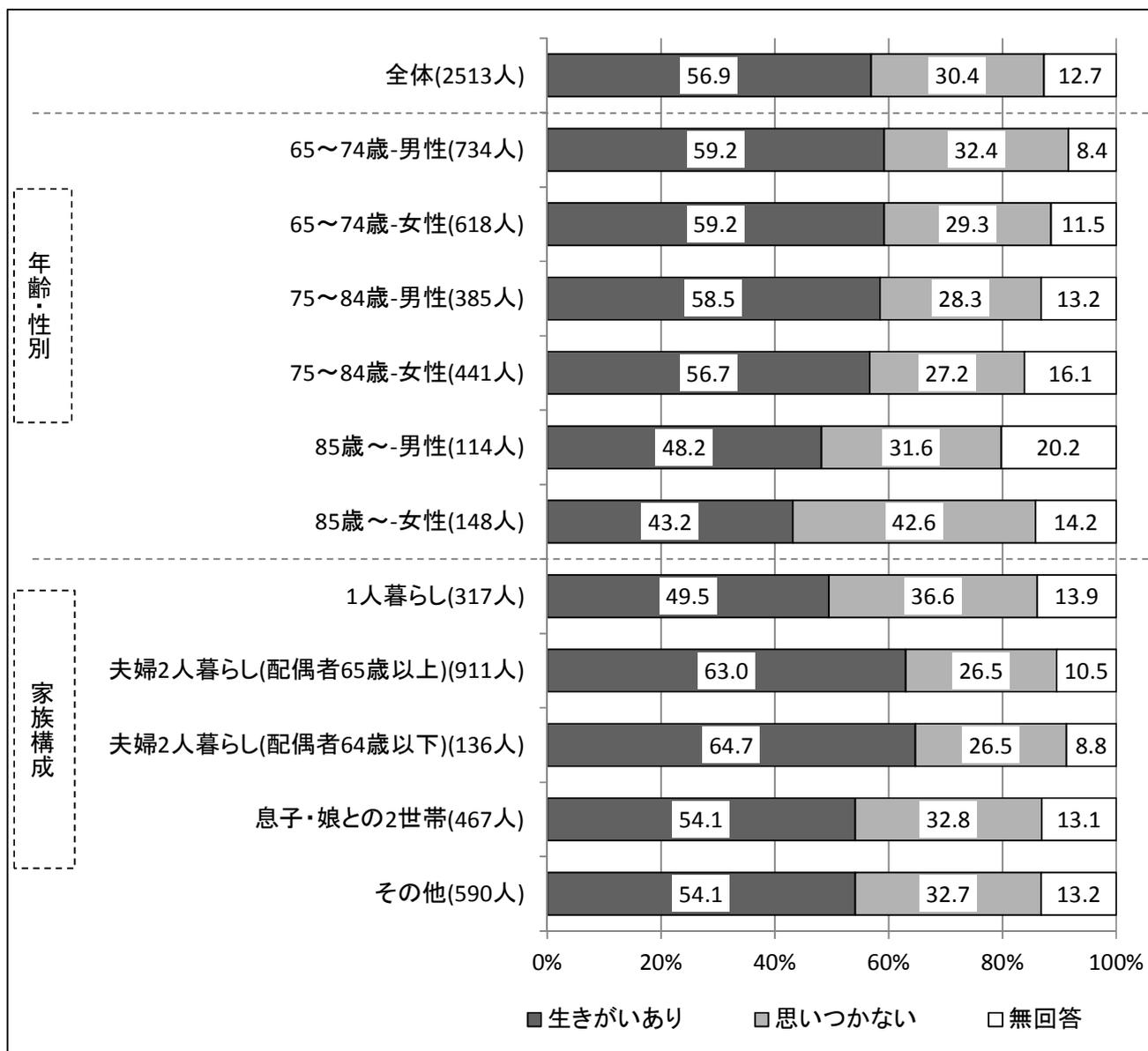
1	野菜づくり・畑仕事・家庭菜園	199件	6	カラオケ	110件
2	ゴルフ・グラウンドゴルフ	196件	7	釣り	75件
3	ガーデニング・園芸・花	163件	8	手芸・編み物	63件
4	読書	132件	9	植木・盆栽	45件
5	旅行	111件	10	ウォーキング	30件

問4 (18) 生きがいがありますか

「生きがいあり」が56.9%、「思いつかない」が30.4%となっています。

年齢・性別では、85歳未満は男女ともに「生きがいあり」が55%以上、85歳以上では男女ともに同回答が50%未満となっています。

家族構成別では、夫婦2人暮らしは配偶者の年齢に関わらず「生きがいあり」が60%以上となっており、1人暮らしは同回答が約50%（49.5%）となっています。



生きがいの内容上位10

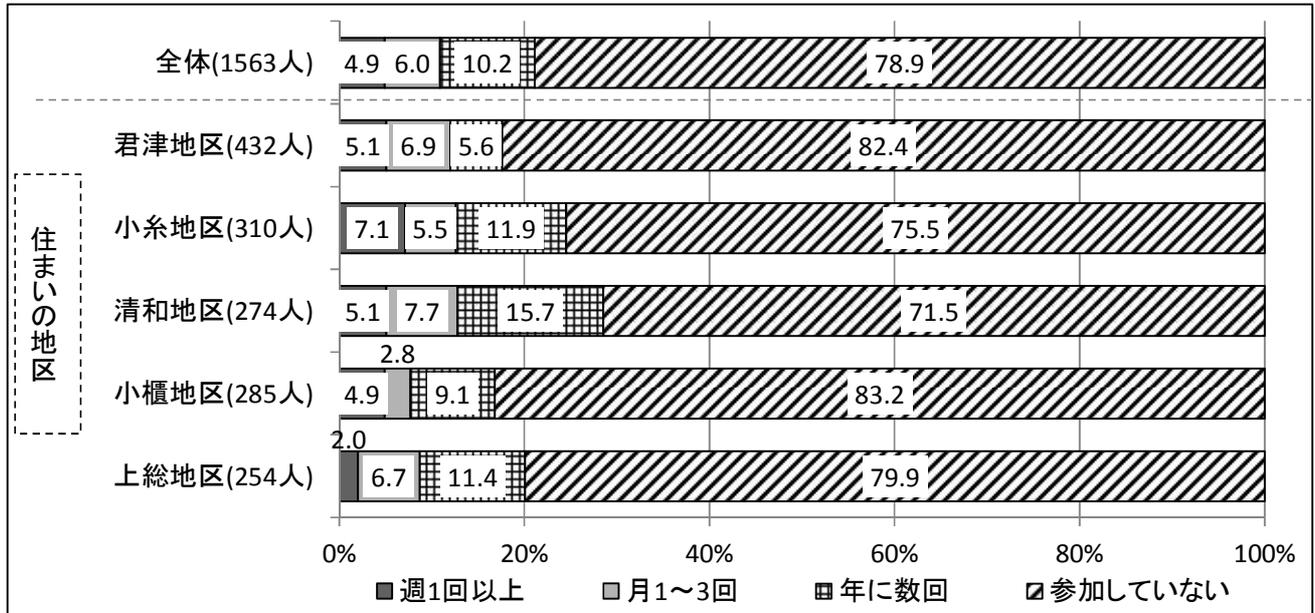
1 野菜づくり・畑仕事・家庭菜園	145件	6 カラオケ	71件
2 ガーデニング・園芸・花	138件	7 釣り	42件
3 ゴルフ・グラウンドゴルフ	125件	8 手芸・編み物	42件
4 読書	93件	9 植木・盆栽	30件
5 旅行	85件	10 ウォーキング	20件

問5 地域の活動について

問5 (1) ① ボランティアのグループにどのくらいの頻度で参加していますか

「年に数回」が10.2%、「月1～3回」が6%、「週1回以上」が4.9%と、合わせた参加率は21.1%となっています。

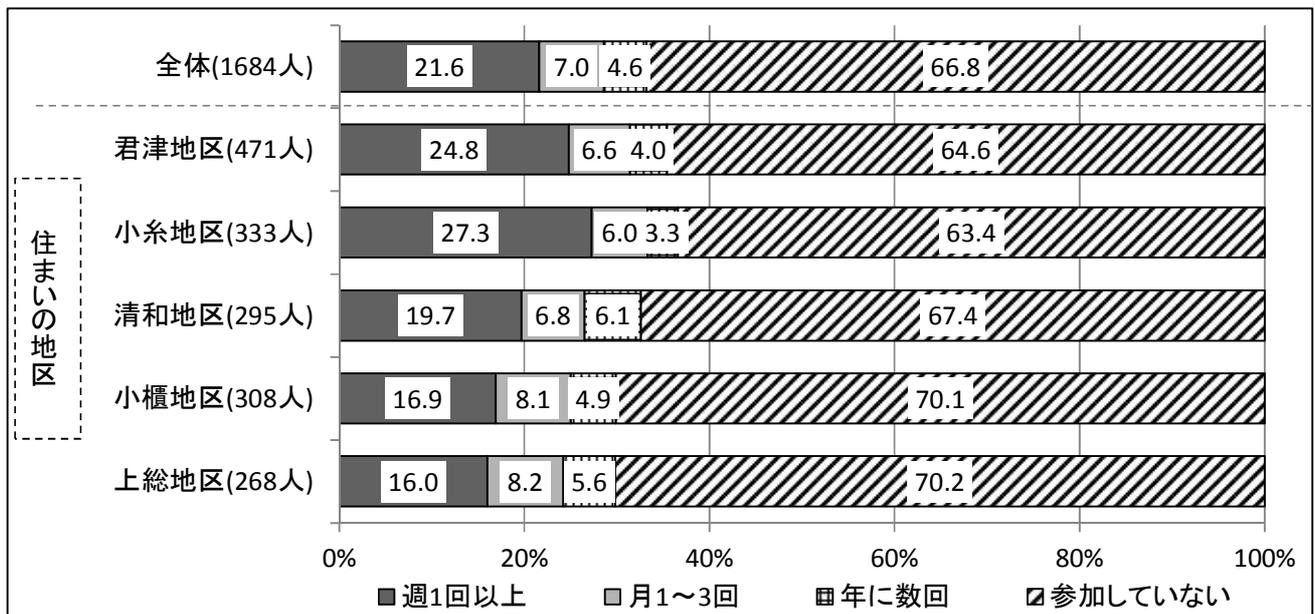
住まいの地区別では、清和地区は参加率が28.5%、小糸地区が24.5%と、2地区が20%以上となっています。



問5 (1) ② スポーツ関係のグループやクラブにどのくらいの頻度で参加していますか

「週1回以上」が21.6%、「月1～3回」が7%、「年に数回」が4.6%と、合わせた参加率は33.2%となっています。

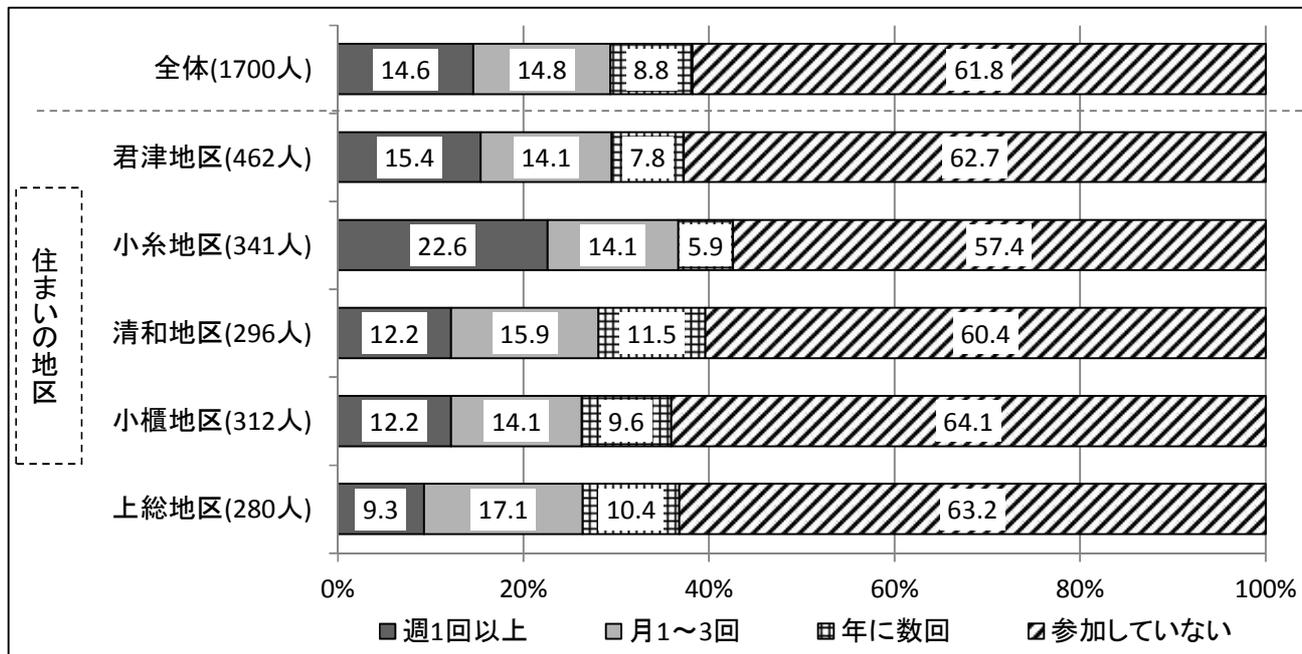
住まいの地区別では、小糸地区は参加率が36.6%、君津地区が35.4%と、この2地区が比較的高い比率となっています。



問5 (1) ③ 趣味関係のグループにどのくらいの頻度で参加していますか

「月1～3回」が14.8%、「週1回以上」が14.6%、「年に数回」が8.8%と、合わせた参加率は38.2%となっています。

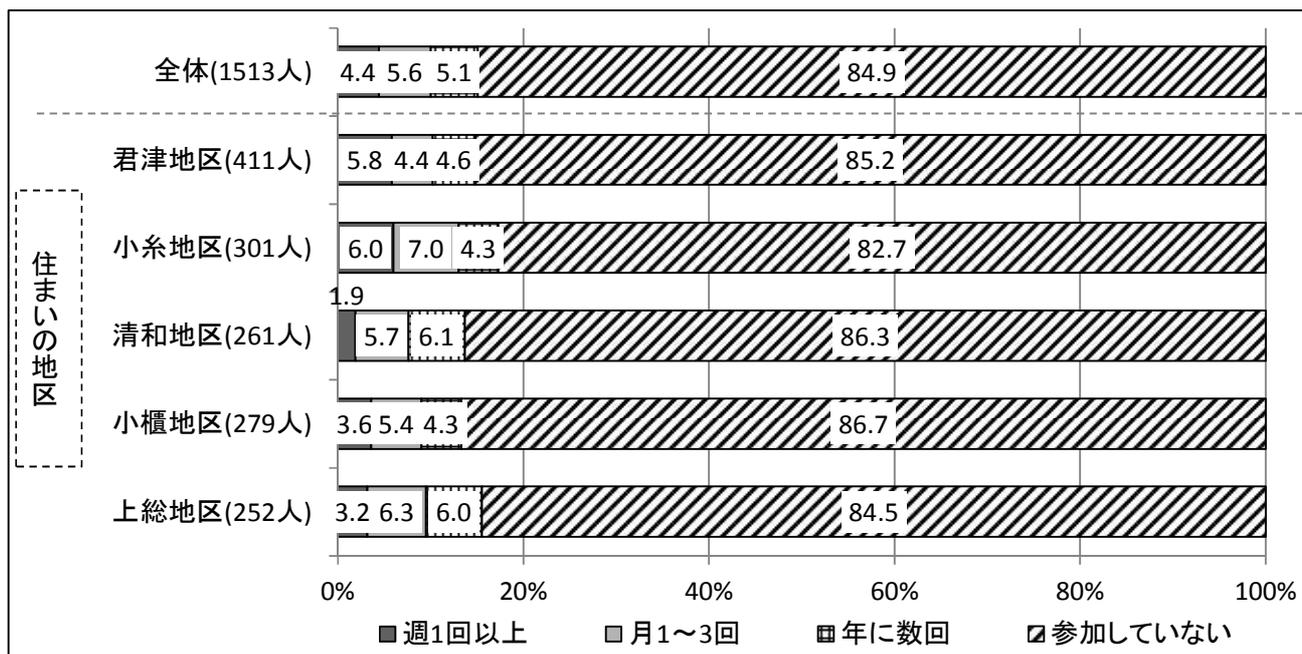
住まいの地区別では、小糸地区は参加率が42.6%と、40%以上は小糸地区のみとなっています。



問5 (1) ④ 学習・教養サークルにどのくらいの頻度で参加していますか

「月1～3回」が5.6%、「年に数回」が5.1%、「週1回以上」が4.4%と、合わせた参加率は15.1%となっています。

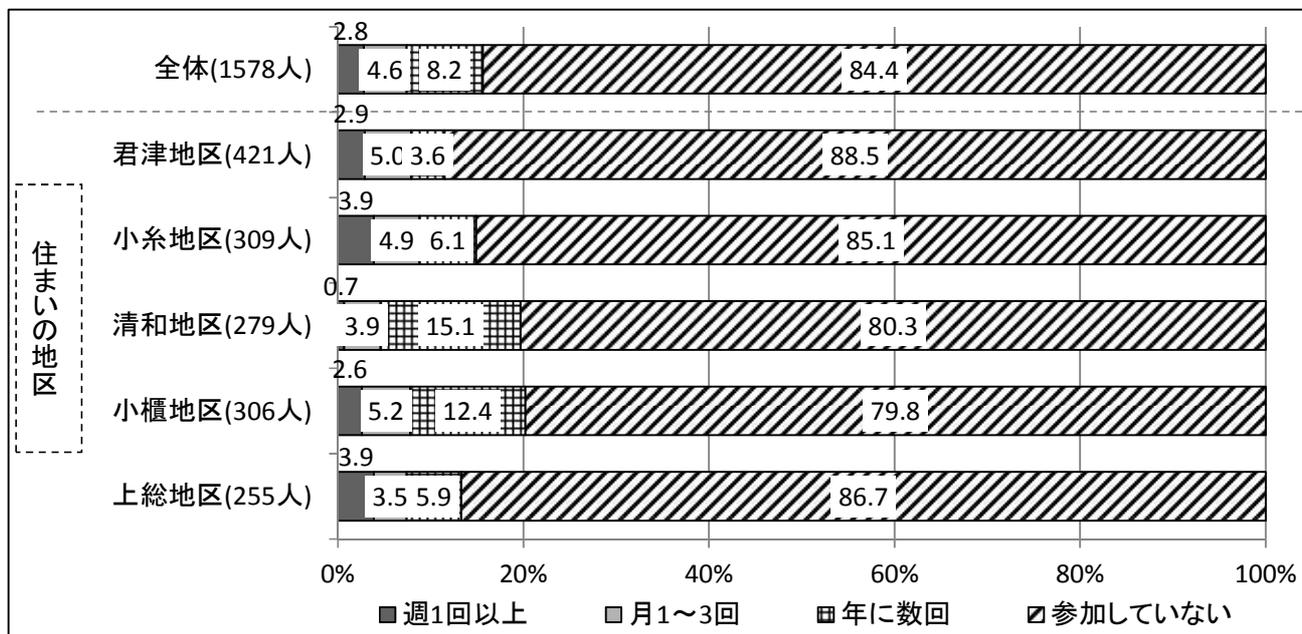
住まいの地区別では、いずれの地区も参加率は10%台となっており、小糸地区は17.3%となっています。



問5 (1) ⑤ 老人クラブにどのくらいの頻度で参加していますか

「年に数回」が 8.2%、「月1～3回」が 4.6%、「週1回以上」が 2.8%と、合わせた参加率は 15.6%となっています。

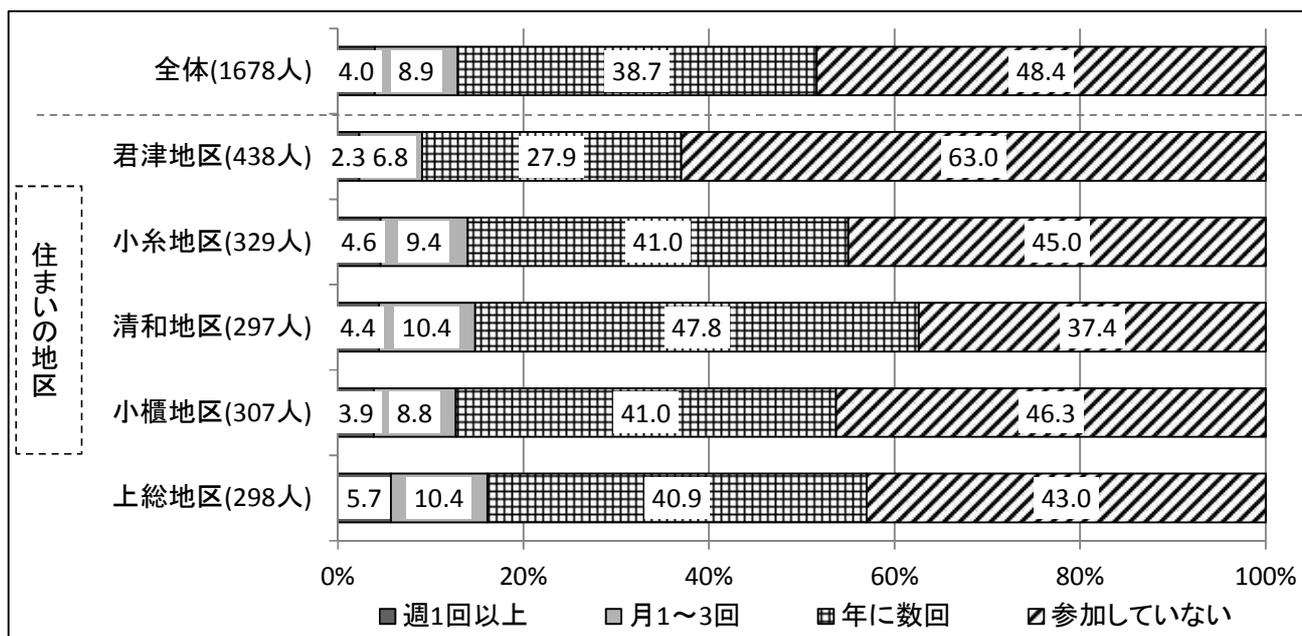
住まいの地区別では、清和地区と小櫃地区は参加率が 20%前後となっており、他の地区と比べて参加率に差が見られます。



問5 (1) ⑥ 町内会・自治会にどのくらいの頻度で参加していますか

「年に数回」が 38.7%、「月1～3回」が 8.9%、「週1回以上」が 4%と、合わせた参加率は 51.6%となっています。

住まいの地区別では、清和地区は参加率が 62.6%と最も高く、他地区の参加率を大きく上回っています。

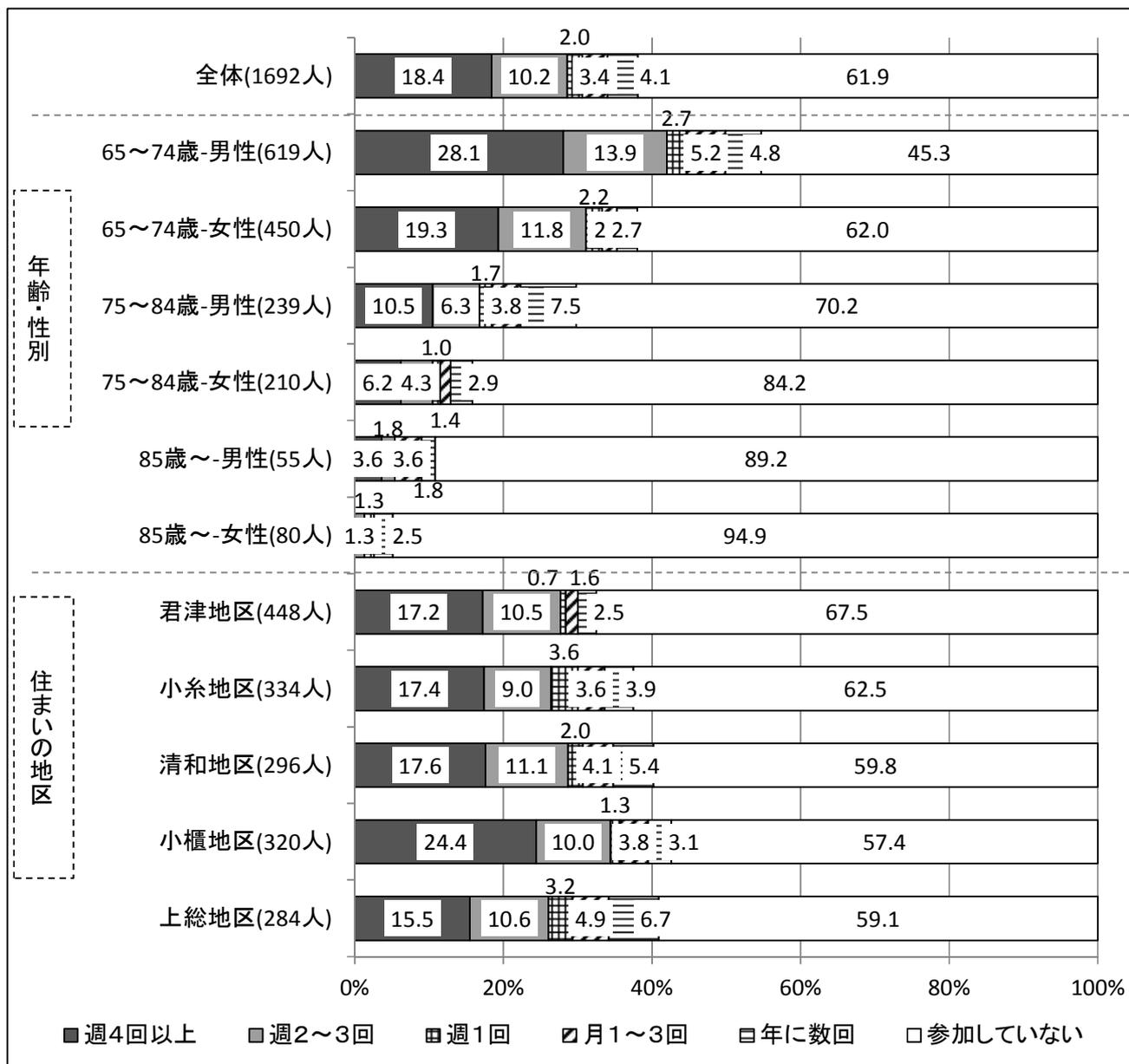


問5 (1) ⑦ 収入のある仕事にどのくらいの頻度で参加していますか

「参加していない」が61.9%と最も高く、次いで「週4回以上」が18.4%、「週2～3回」が10.2%、「年に数回」が4.1%と続いており、合わせた参加率は38.1%となっています。

年齢・性別では、65～74歳-男性は「週4回以上」が28.1%で、週1回以上の比率は40%以上(44.7%)となっています。65～74歳-女性は「週4回以上」が19.3%で、週1回以上の比率は30%以上(33.3%)となっています。

住まいの地区別では、小櫃地区は「週4回以上」が24.4%で、週1回以上の比率は35.7%となっており、他の地区と比べて参加率に差が見られます。

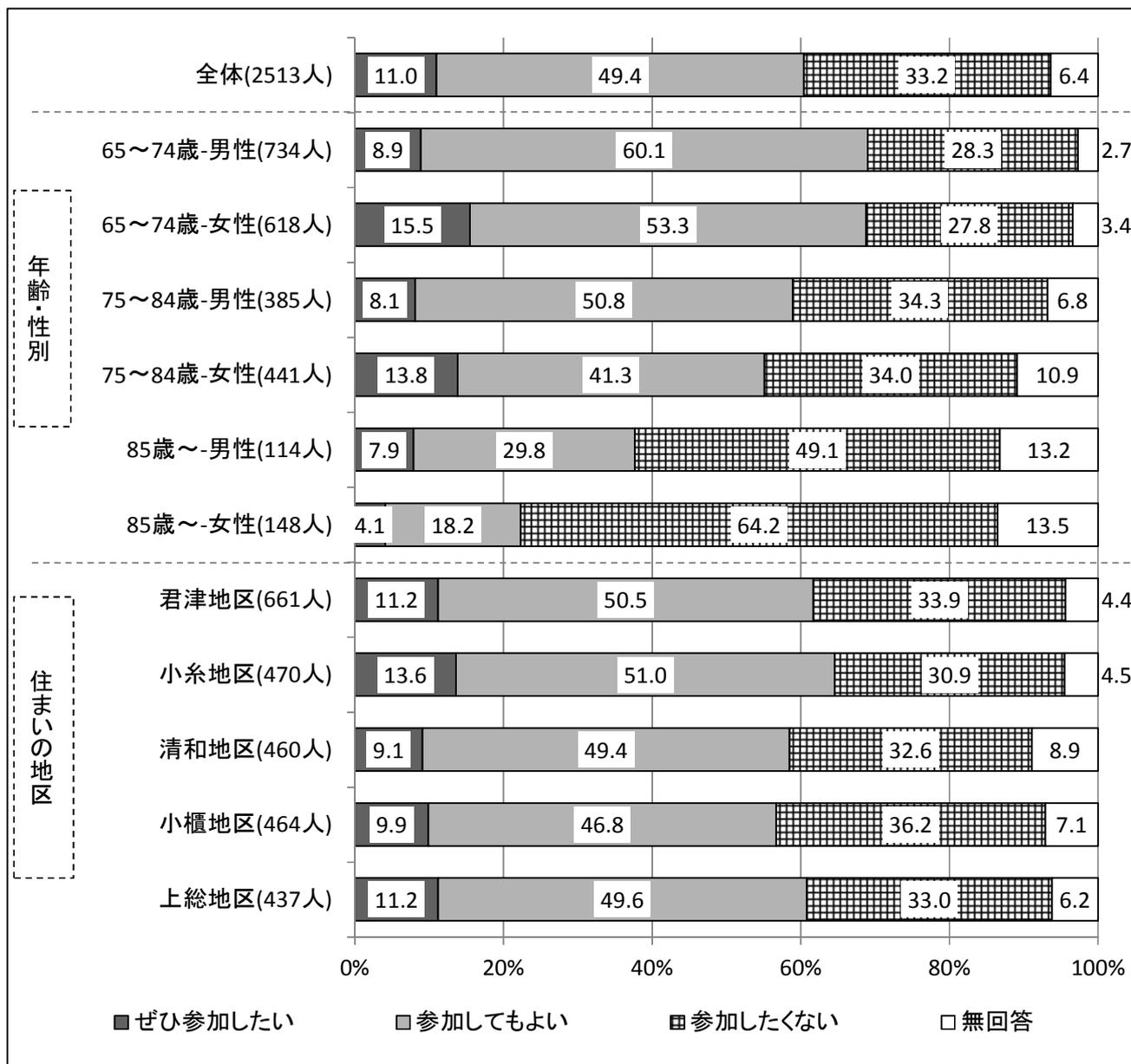


問5 (2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか

「参加してもよい」が49.4%と最も高く、「ぜひ参加したい」の11%を合わせると約60% (60.4%) が参加意向を持っています。

年齢・性別では、65～74歳は男女ともに約70%が参加意向を持っています。

住まいの地区別では、小糸地区は64.6%が参加意向を持っており、他の地区と比べて意向に差が見られます。

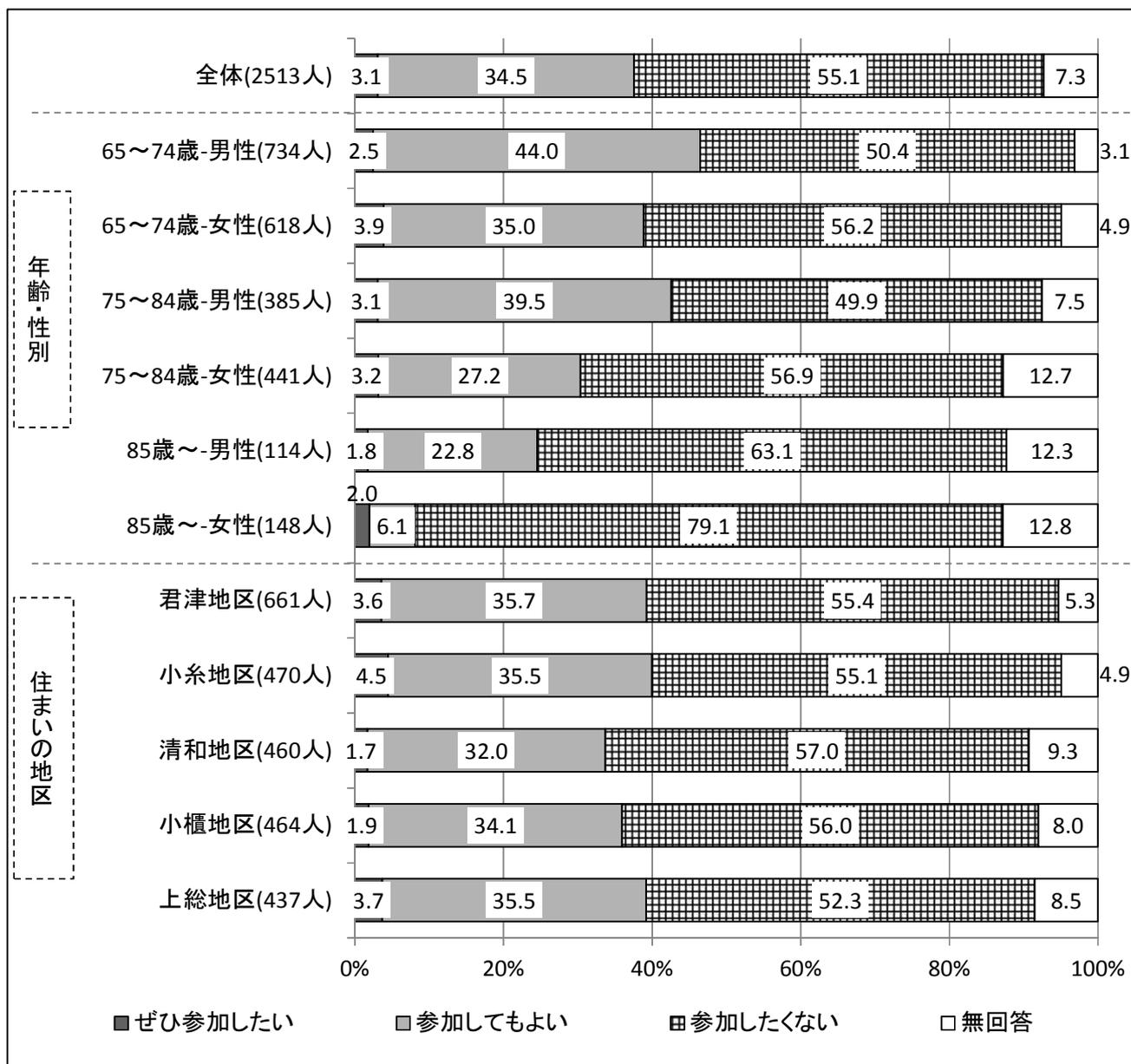


問5 (3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか

「参加したくない」が55.1%と最も高く、次いで「参加してもよい」が34.5%、「ぜひ参加したい」が3.1%で、参加意向を持つ人は37.6%となっています。

年齢・性別では、いずれの年齢・性別も「参加したくない」が最も高く、女性よりも男性の方が参加意向の比率が多くなっています。

住まいの地区別では、参加意向を持つ人は君津地区と小糸地区、上総地区は40%近くとなっています。



問6 たすけあいについて

問6 (1) あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人(いくつでも)

問6 (2) 反対に、あなたが心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人(いくつでも)

問6 (3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人(いくつでも)

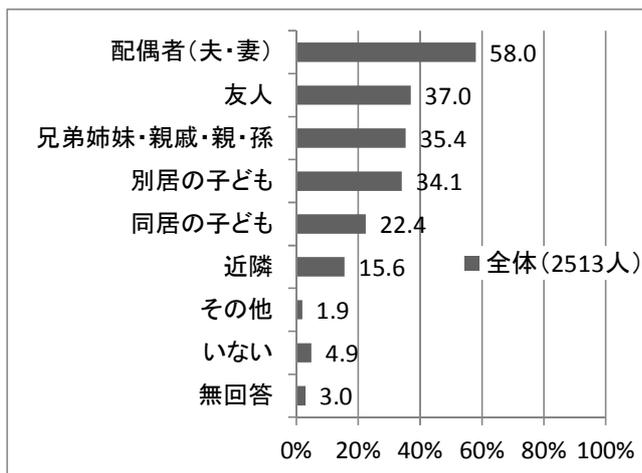
問6 (4) 反対に、看病や世話をしてあげる人(いくつでも)

たすけあいの状況を把握する4つの設問については、いずれの設問も「配偶者(夫・妻)」が半数以上と最も高くなっています。

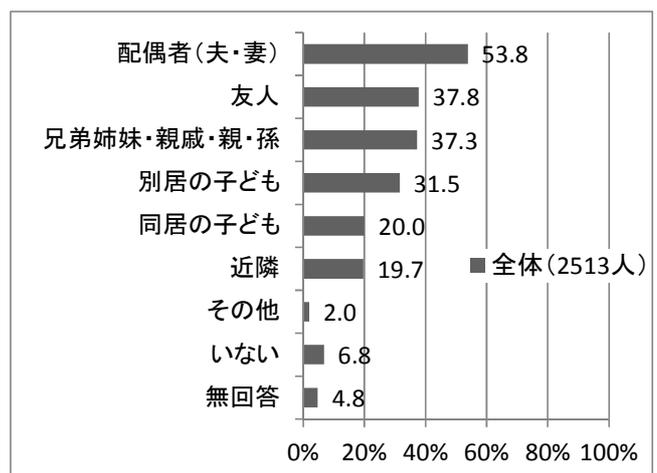
次いで、“あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人”と“反対に、あなたが心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人”は、いずれも「友人」の比率が高く、“あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人”は「別居の子ども」が32.2%と続いています。

また、“反対に、看病や世話をしてあげる人”は、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が27.2%と続いています。

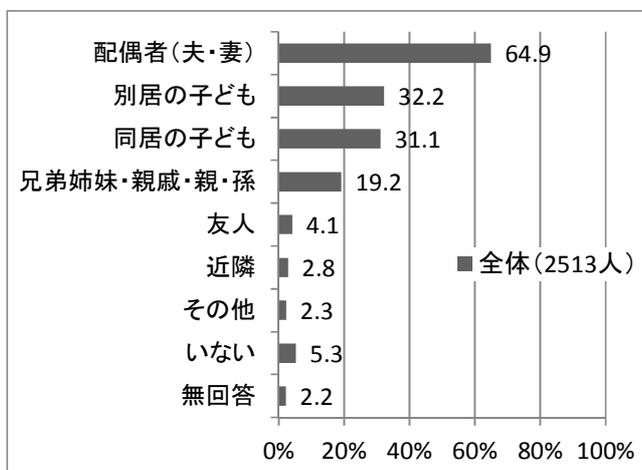
(1) 心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人



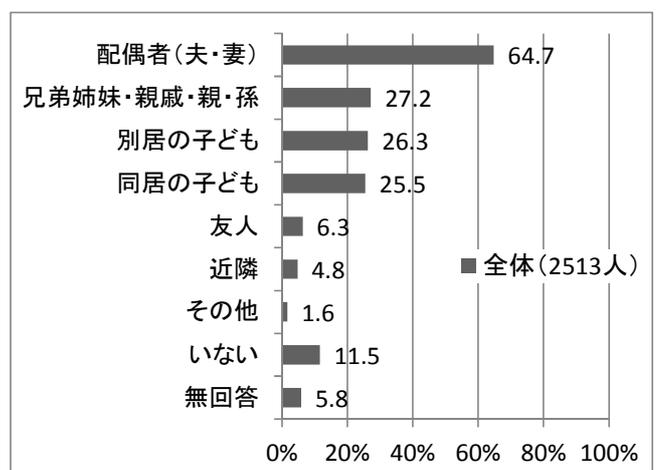
(2) 心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人



(3) 看病や世話をしてくれる人



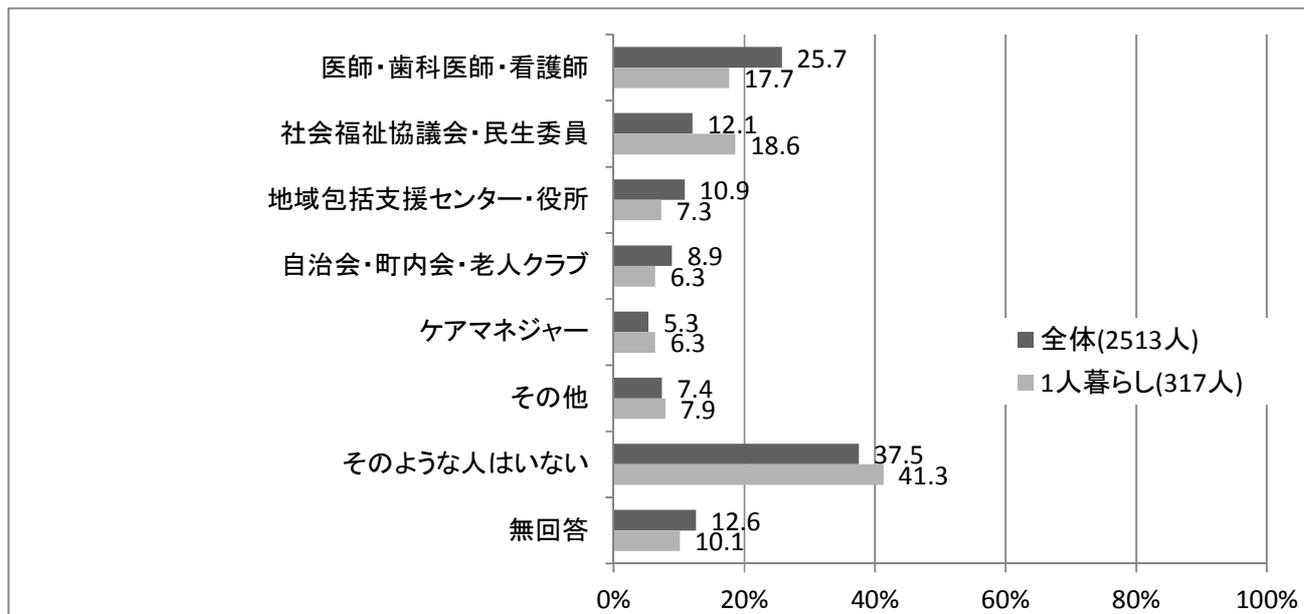
(4) 看病や世話をしてあげる人



問6 (5) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください (いくつでも)

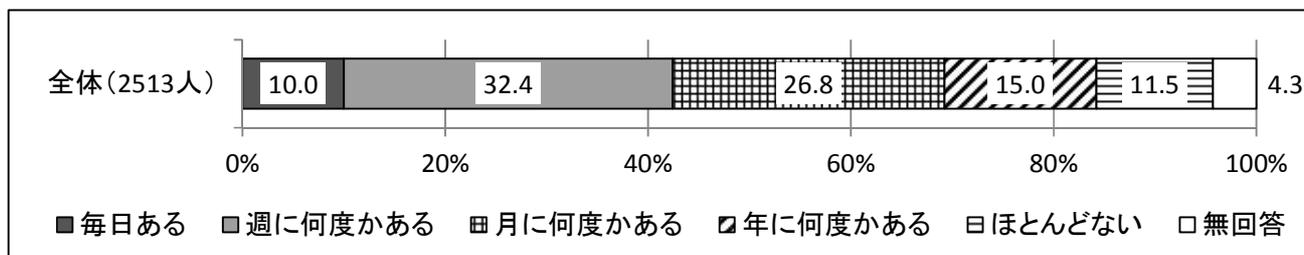
「そのような人はいない」が 37.5%で、相談する相手としては「医師・歯科医師・看護師」が 25.7%と最も高く、次いで「社会福祉協議会・民生委員」が 12.1%、「地域包括支援センター・役所」が 10.9%と続いています。

1人暮らしの場合では、「そのような人はいない」が 41.3%で、相談する相手としては「社会福祉協議会・民生委員」が 18.6%と、全体と比べて高い比率となっています。



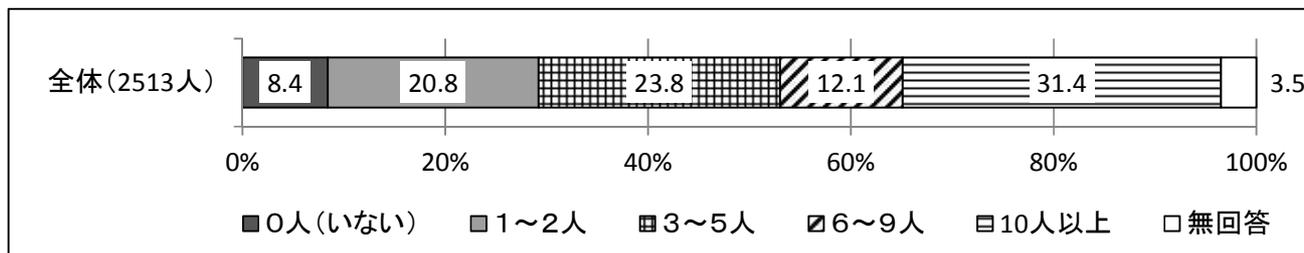
問6 (6) 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか

「週に何度かある」が 32.4%と最も高く、次いで「月に何度かある」が 26.8%、「年に何度かある」が 15%、「ほとんどない」が 11.5%と続いています。



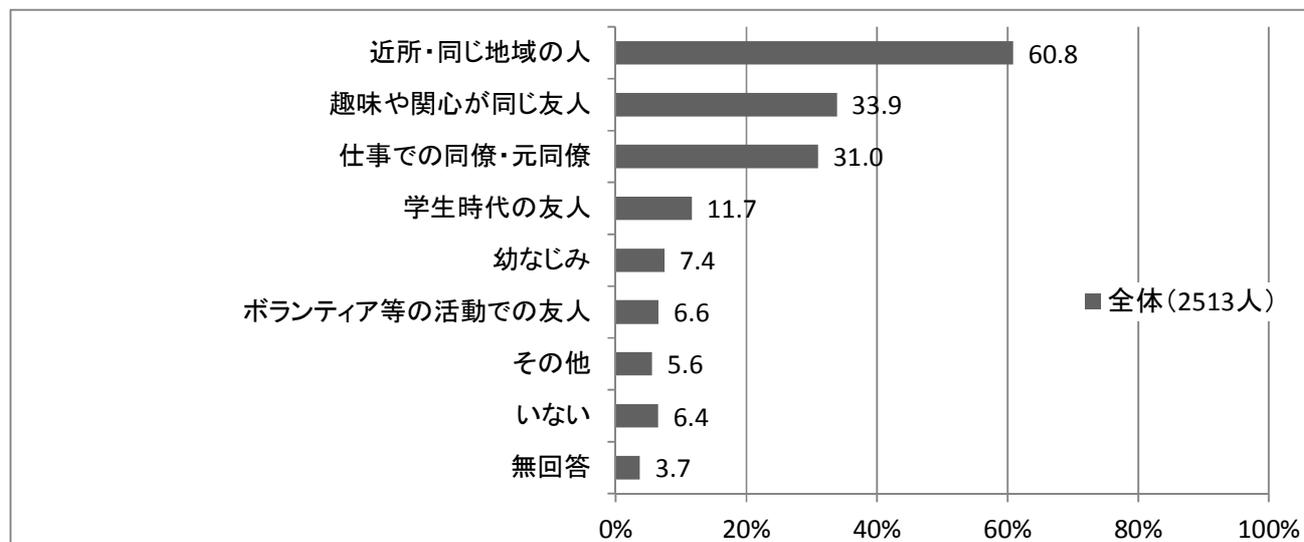
問6 (7) この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか

「10人以上」が 31.4%と最も高く、次いで「3～5人」が 23.8%、「1～2人」が 20.8%と続いております、「0人(いない)」は 8.4%となっています。



問6（8）よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。（いくつでも）

「近所・同じ地域の人」が60.8%と最も高く、次いで「趣味や関心が同じ友人」が33.9%、「仕事での同僚・元同僚」が31%、「学生時代の友人」が11.7%と続いています。



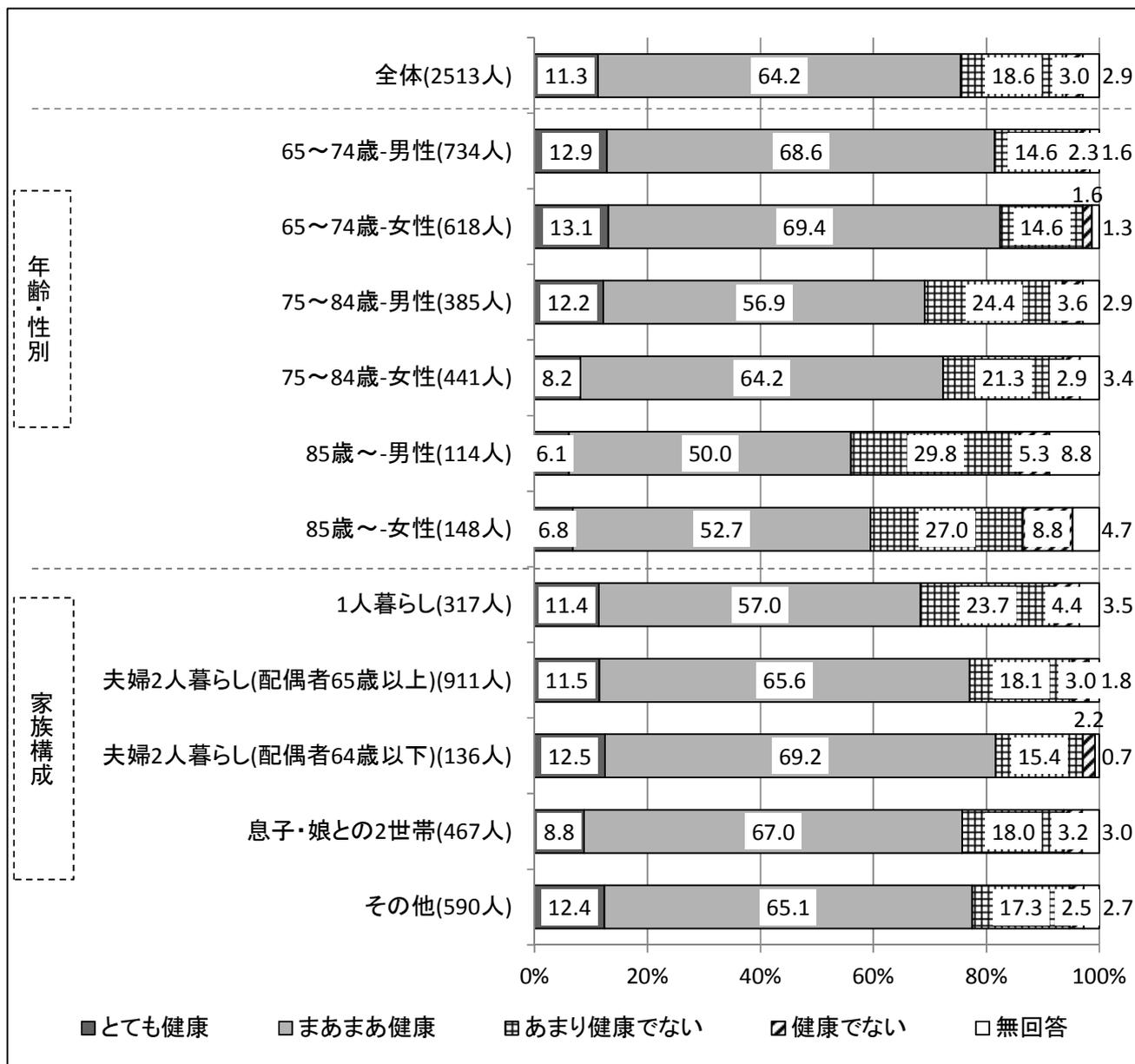
問7 健康について

問7 (1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか

「まあまあ健康」が64.2%と最も高く、「とても健康」の11.3%と合わせると肯定的な評価が75.5%となっています。

年齢・性別では、65～74歳は男女ともに肯定的な評価が80%を超える一方で、85歳～は男女ともに60%を下回っています。

家族構成別では、夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)は肯定的な評価が81.7%に対し、1人暮らしは68.4%となっています。



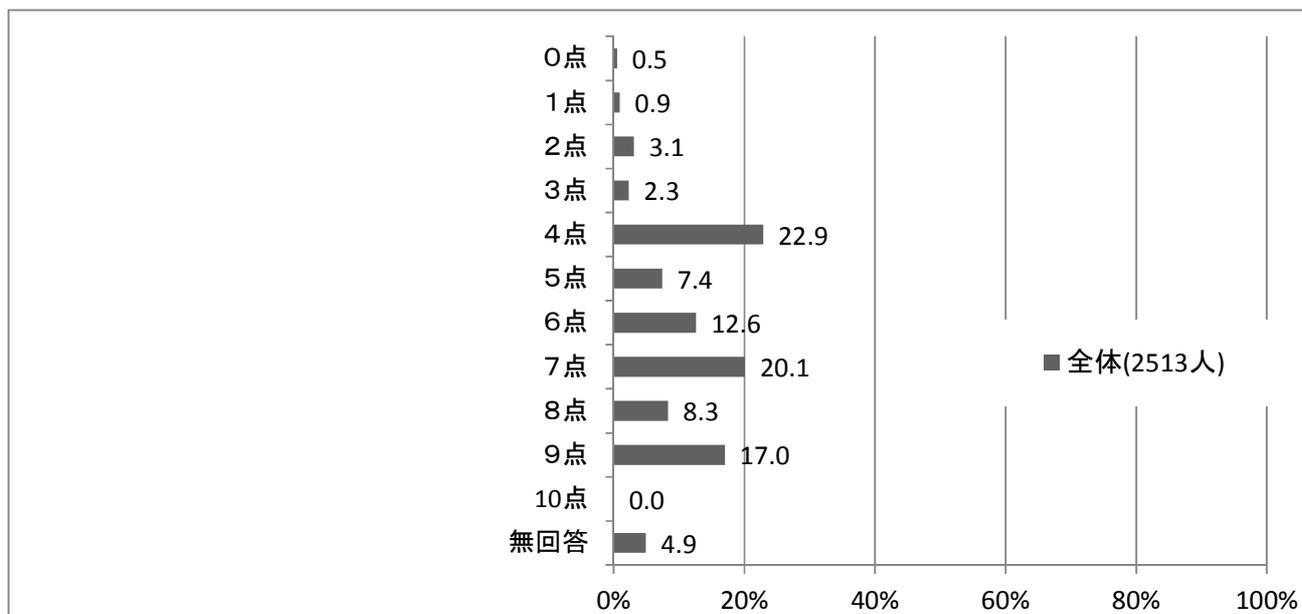
問7（2）あなたは、現在どの程度幸せですか

主観的幸福感を問う本設問（10点を“とても幸せ”、0点を“とても不幸”とする）では、「4点」が22.9%と最も高く、次いで「7点」が20.1%、「9点」が17%、「6点」が12.6%と続いており、全体平均は6.1点となっています。

年齢・性別では、85歳～-女性の平均点が6.4点と最も高く、いずれの年齢層でも男性よりも女性の点数が高くなっています。

家族構成別では、夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）が6.6点と最も高く、1人暮らしは5.4点と最も低くなっています。

住まいの地区別では、小櫃地区が6.2点と最も高くなっています。



【平均点】

全体 (2513 人)	6.1 点
-------------	-------

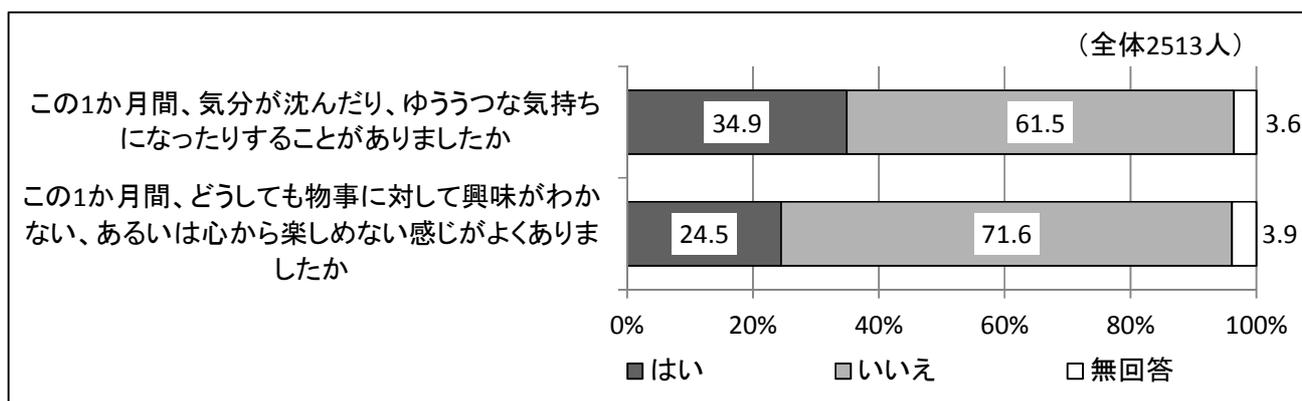
年齢・性別	平均点	家族構成別	平均点	住まいの地区別	平均点
65～74 歳-男性(734 人)	6.0 点	1人暮らし(317 人)	5.4 点	君津地区(661 人)	6.0 点
65～74 歳-女性(618 人)	6.3 点	夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)(911 人)	6.1 点	小糸地区(470 人)	6.1 点
75～84 歳-男性(385 人)	5.7 点	夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)(136 人)	6.6 点	清和地区(460 人)	6.1 点
75～84 歳-女性(441 人)	6.3 点	息子・娘との2世帯(467 人)	6.3 点	小櫃地区(464 人)	6.2 点
85 歳～-男性(114 人)	5.7 点	その他(590 人)	6.0 点	上総地区(437 人)	5.9 点
85 歳～-女性(148 人)	6.4 点				

問7 (3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか

問7 (4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか

うつ傾向を問う2つの設問のうち、“この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか”という設問では、「はい」が34.9%となっています。

“この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか”という設問では、「はい」が24.5%となっています。



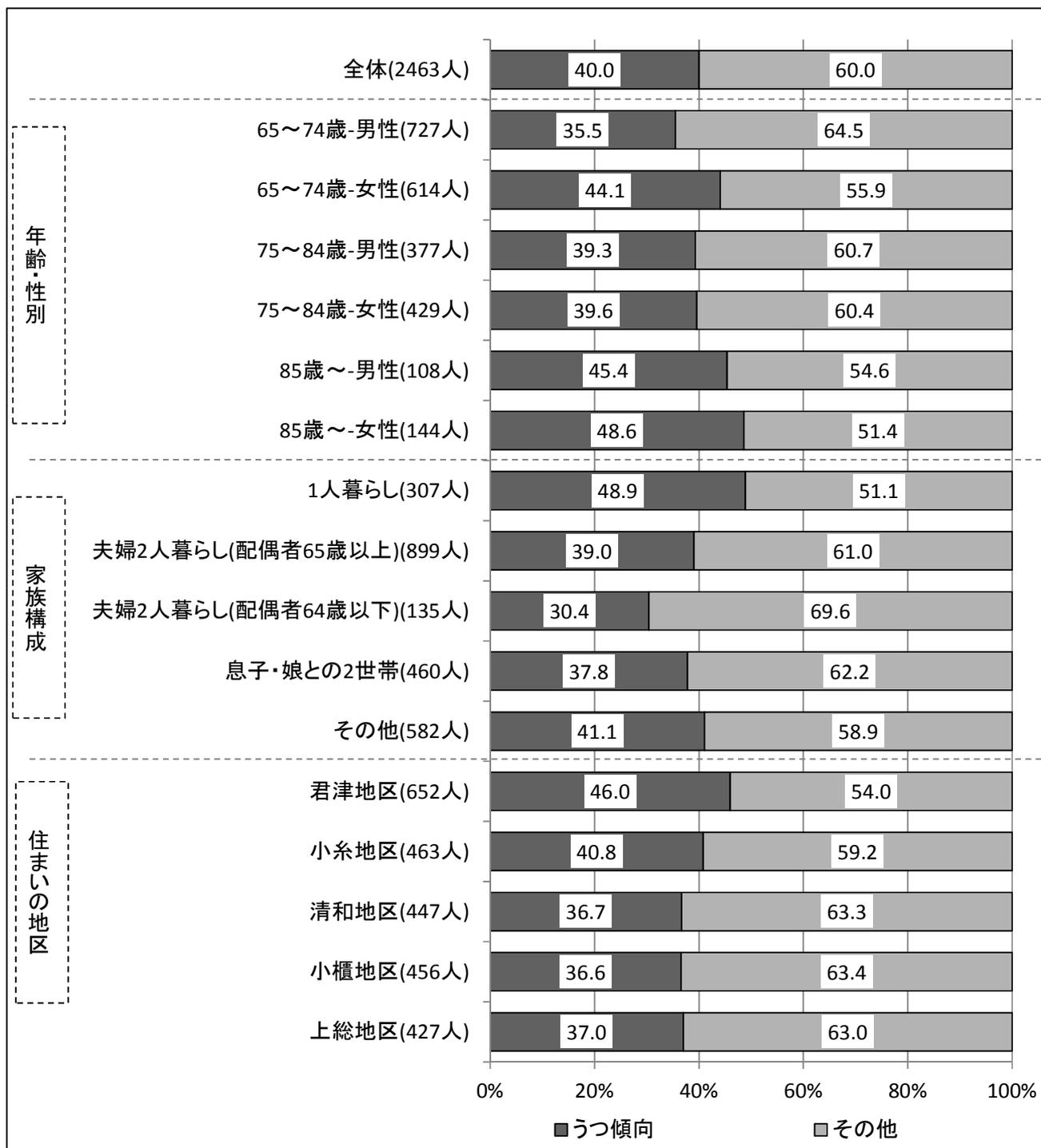
うつ傾向の高齢者

「うつ傾向」が40%、「その他」が60%となっています。

年齢・性別では、65～74歳-女性、85歳～の男女は「うつ傾向」がいずれも40%以上となっています。

家族構成別では、1人暮らしは「うつ傾向」が半数近く(48.9%)となっています。

住まいの地区別では、君津地区は「うつ傾向」が46%で、小糸地区は40.8%でともに40%台となっています。



【参考 11】 うつ傾向の高齢者について

次の2つの設問のいずれかで該当する選択肢（枠囲みの箇所）が回答された場合は「うつ傾向」と判定

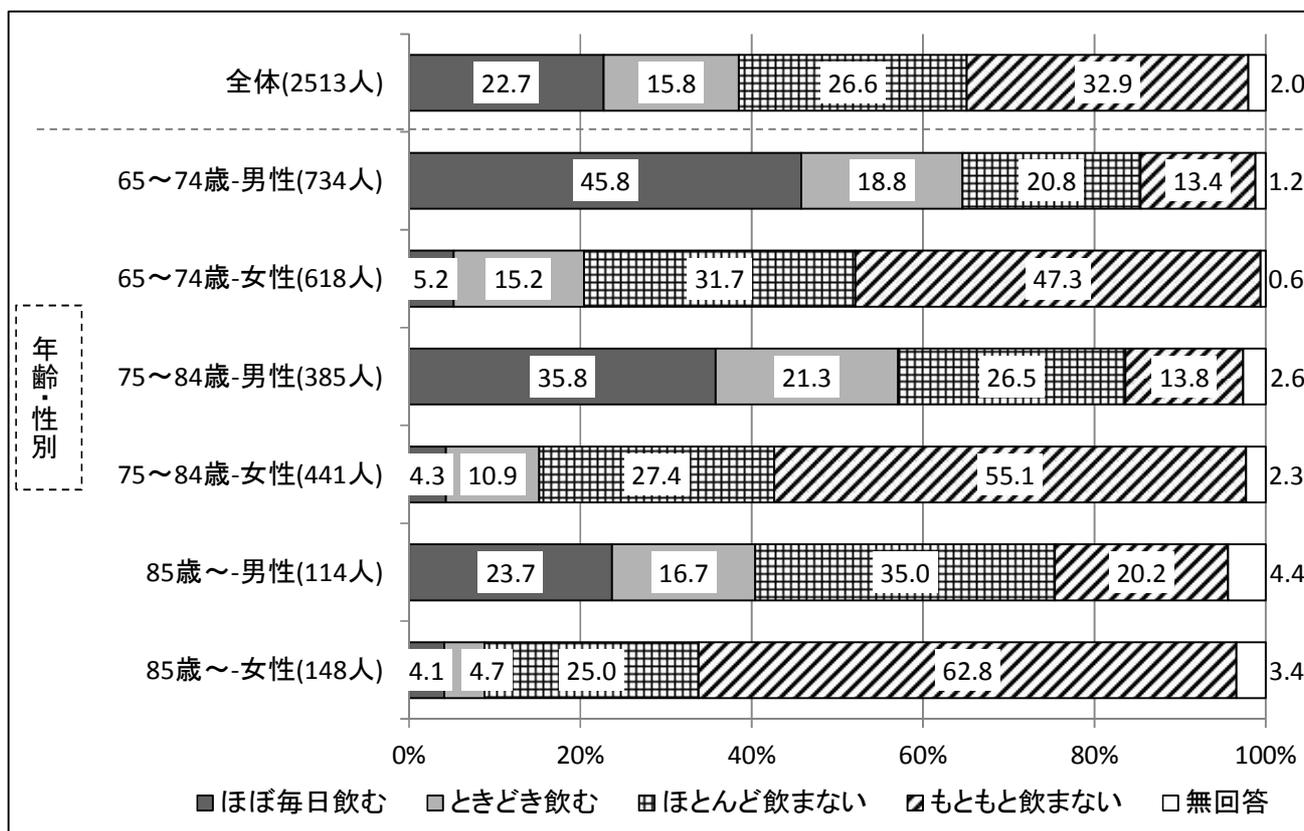
設問内容	選択肢
問7（3）この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	1. はい 2. いいえ
問7（4）この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	1. はい 2. いいえ

資料：厚生労働省「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」

問7 (5) お酒は飲みますか

「もともと飲まない」が32.9%と最も高く、次いで「ほとんど飲まない」が26.6%、「ほぼ毎日飲む」が22.7%、「ときどき飲む」が15.8%となっており、飲酒率は38.5%となっています。

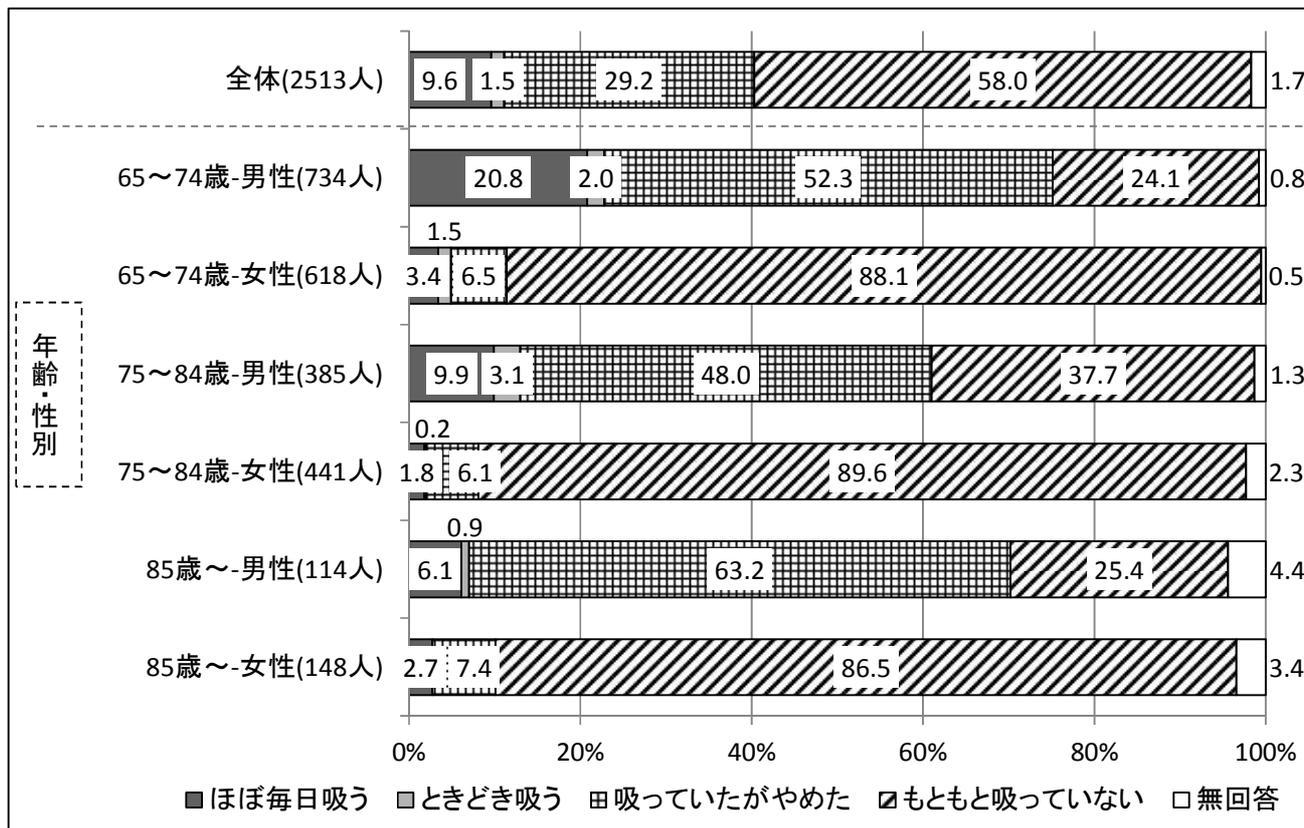
年齢・性別では、男性の飲酒率は65～74歳で64.6%、75～84歳で57.1%となっており、65～74歳は「ほぼ毎日飲む」が45.8%となっています。男性と比べて、女性の飲酒率はいずれの年齢層でも低くなっています。



問7 (6) タバコは吸っていますか

「もともと吸っていない」が58%と最も高く、次いで「吸っていたがやめた」が29.2%、「ほぼ毎日吸う」が9.6%、「ときどき吸う」が1.5%となっており、喫煙率は11.1%となっています。

年齢・性別では、男性の喫煙率は65～74歳で22.8%、75～84歳で13%となっており、65～74歳は「ほぼ毎日吸う」が20.8%となっています。男性と比べて、女性の喫煙率はいずれの年齢層でも低くなっています。

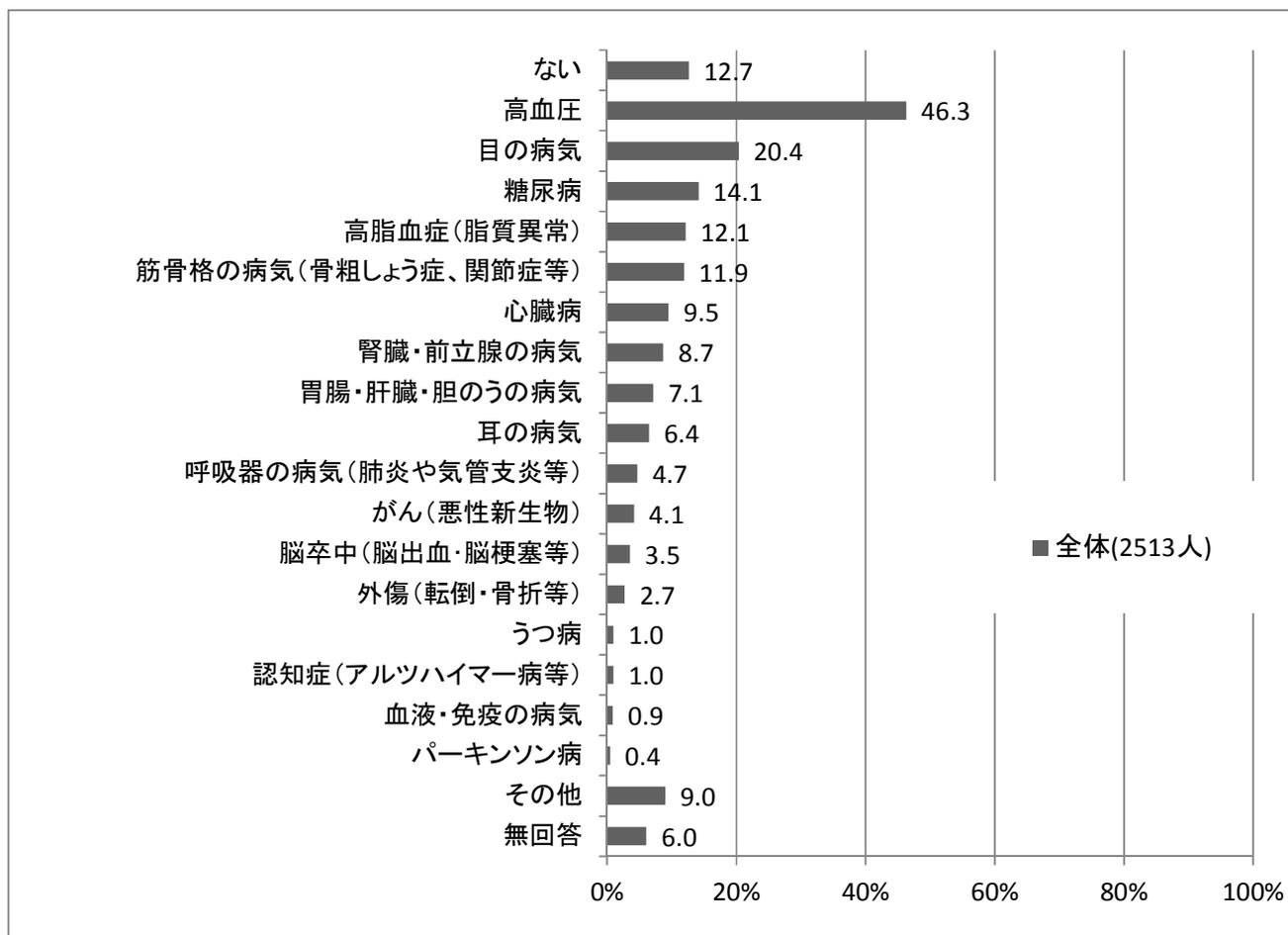


問7（7）現在治療中、または後遺症のある病気はありますか（いくつでも）

「高血圧」が46.3%と最も高く、次いで「目の病気」が20.4%、「糖尿病」が14.1%、「高脂血症（脂質異常）」が12.1%と続いており、「ない」は12.7%となっています。

年齢・性別では、いずれの年齢層や性別も「高血圧」が最上位となっており、同回答は85歳～-女性で60.1%と比較的高くなっています。また、75～84歳-女性や85歳～-女性は「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」がいずれも20%を超えています。65～74歳-女性は「高脂血症（脂質異常）」が20.6%と、他の年齢層や男性と比べて高くなっています。

住まいの地区別では、いずれの地区も「高血圧」が最上位となっており、同回答は小櫃地区で52.8%と比較的高くなっています。



【年齢・性別 現在治療中、または後遺症のある病気上位5つ】

順位	65～74歳 -男性(734人)	65～74歳 -女性(618人)	75～84歳 -男性(385人)	75～84歳 -女性(441人)	85歳～ -男性(114人)	85歳～ -女性(148人)
第1位	高血圧 (46.2%)	高血圧 (38.5%)	高血圧 (50.9%)	高血圧 (48.8%)	高血圧 (48.2%)	高血圧 (60.1%)
第2位	糖尿病 (17.7%)	高脂血症(脂 質異常) (20.6%)	目の病気 (22.3%)	目の病気 (29.9%)	目の病気 (25.4%) 腎臓・前立腺 の病気 (25.4%)	筋骨格の病気 (骨粗しょう 症、関節症 等)(29.1%)
第3位	目の病気 (12.9%)	目の病気 (19.4%)	腎臓・前立腺 の病気(20%)	筋骨格の病気 (骨粗しょう 症、関節症 等)(24%)		目の病気 (27%)
第4位	腎臓・前立腺 の病気 (12.4%)	筋骨格の病気 (骨粗しょう 症、関節症 等)(14.1%)	糖尿病 (19.5%)	高脂血症(脂 質異常) (10.2%)	心臓病 (20.2%)	心臓病 (16.2%)
第5位	高脂血症(脂 質異常) (11.7%)	糖尿病 (10.8%)	心臓病 (12.5%)	糖尿病(9.8%)	糖尿病 (12.3%)	糖尿病 (11.5%) 耳の病気 (11.5%)

【住まいの地区別 現在治療中、または後遺症のある病気上位5つ】

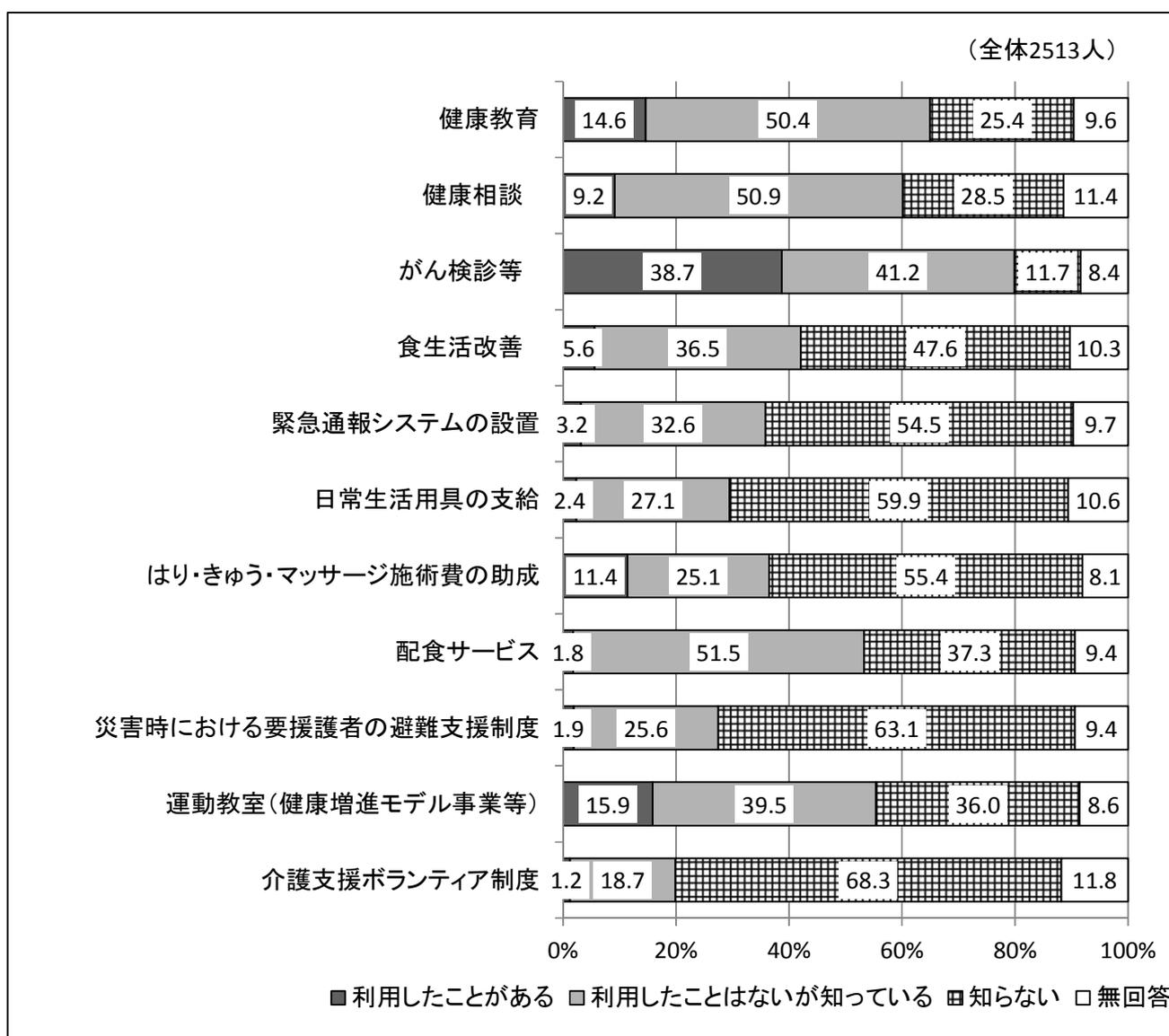
順位	君津地区(661人)	小糸地区(470人)	清和地区(460人)	小櫃地区(464人)	上総地区(437人)
第1位	高血圧(42.7%)	高血圧(45.7%)	高血圧(44.3%)	高血圧(52.8%)	高血圧(48.3%)
第2位	目の病気(19.8%)	目の病気(20.4%)	目の病気(18.9%)	目の病気(20.7%)	目の病気(22%)
第3位	高脂血症(脂質異 常)(14.2%)	糖尿病(16%)	糖尿病(13.5%)	糖尿病(15.5%)	糖尿病(13.7%)
第4位	筋骨格の病気(骨 粗しょう症、関節症 等)(13.6%)	高脂血症(脂質異 常)(13.8%)	筋骨格の病気 (骨粗しょう症、 関節症等) (13.3%)	高脂血症(脂質異 常)(10.8%)	高脂血症(脂質異 常)(10.3%)
第5位	糖尿病(13%)	筋骨格の病気 (骨粗しょう症、 関節症等) (13.2%)	高脂血症(脂質異 常)(11.1%)	心臓病(8.8%)	筋骨格の病気 (骨粗しょう症、関 節症等)(9.6%)

問8 保健・福祉サービスについて

問8 保健・福祉サービスの利用状況

がん検診は「利用したことがある」が38.7%と、他のサービスと比べて利用率が高く、利用率は、次いで「運動教室（健康増進モデル事業等）」が15.9%、「健康教育」が14.6%と続いています。

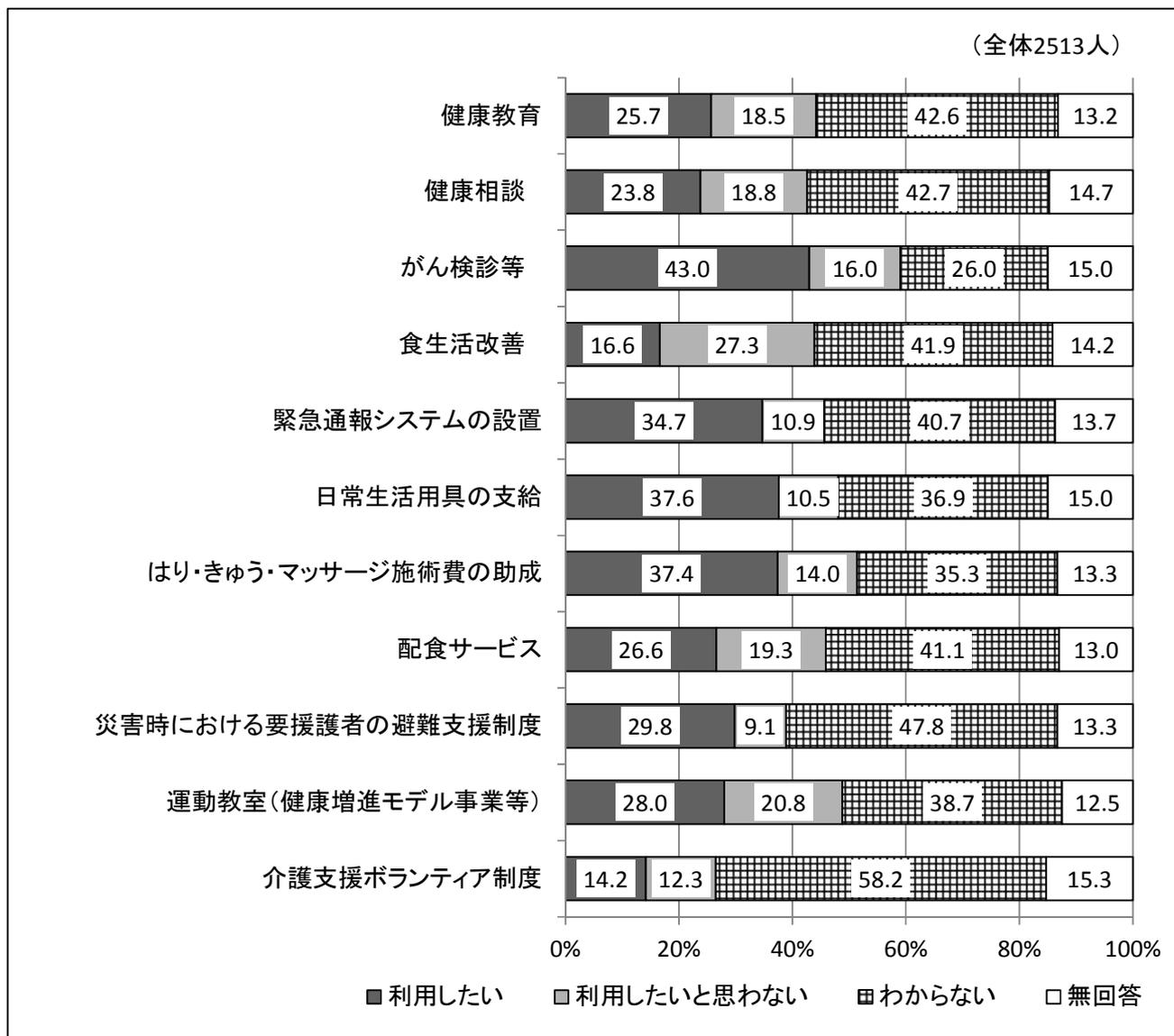
サービスの認知度（「利用したことがある」と「利用したことはないが知っている」を合わせた比率）は、「がん検診等」が79.9%と最も高く、次いで「健康教育」が65.0%、「健康相談」が60.1%、「運動教室（健康増進モデル事業等）」が55.4%と続いており、「介護支援ボランティア制度」（19.9%）や「災害時における要援護者の避難支援制度」（27.5%）は認知度が比較的低くなっています。



問8 保健・福祉サービスの今後の利用意向

がん検診は「利用したい」が43.0%と、利用希望率が最も高く、次いで「日常生活用具の支給」が37.6%、「はり・きゅう・マッサージ施術費の助成」が37.4%、「緊急通報システムの設置」が34.7%と続いています。

「食生活改善」(16.6%)や「介護支援ボランティア制度」(14.2%)は他のサービスと比べて利用希望率が低くなっています。

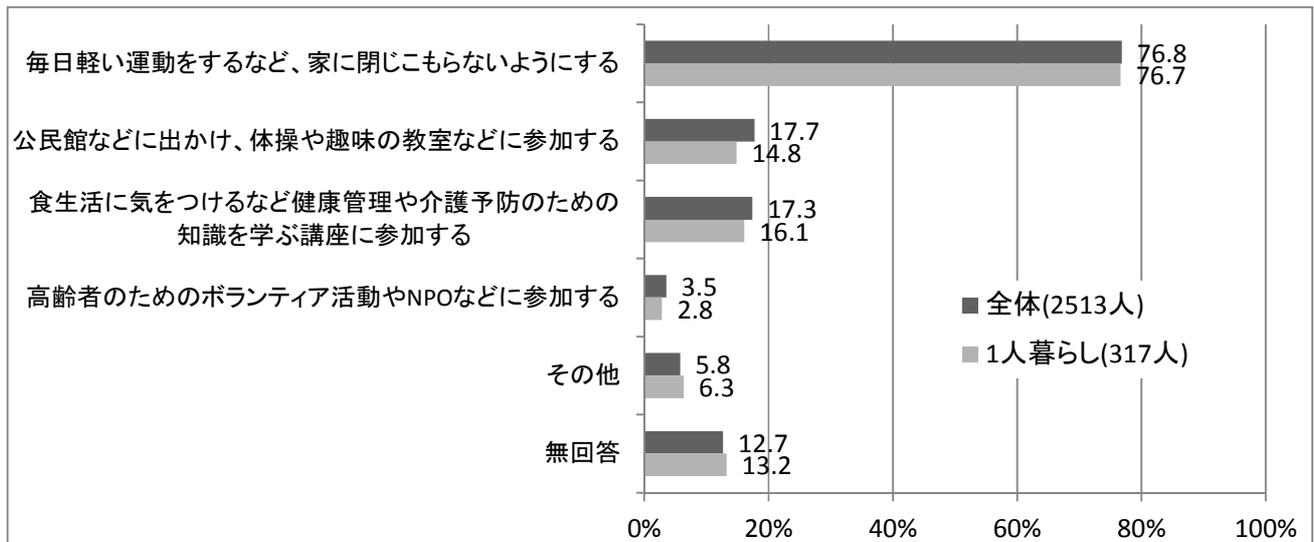


問9 生活上の不安や不便等について

問9 (1) あなたがふだん気をつけたり、心がけたりしていること、または取り組みたいと思うことに近いものは何ですか (〇は2つまで)

「毎日軽い運動をするなど、家に閉じこもらないようにする」が76.8%と最も高く、次いで「公民館などに出かけ、体操や趣味の教室などに参加する」が17.7%、「食生活に気をつけるなど健康管理や介護予防のための知識を学ぶ講座に参加する」が17.3%と続いています。

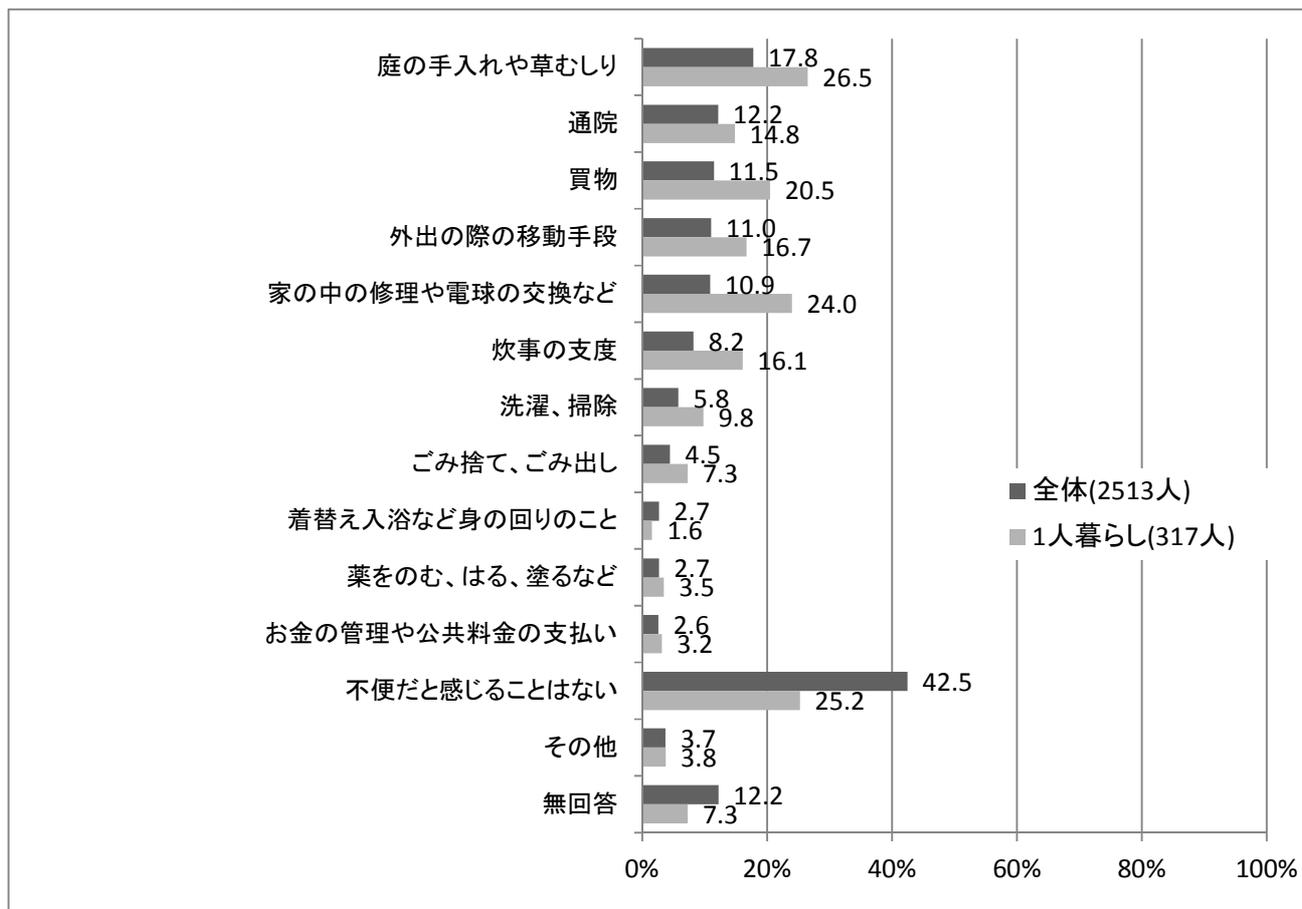
1人暮らしの場合も、全体の傾向と大きな差は見られません。



問9 (2) 日常生活であなたが特に不便に感じていることはどんなことですか (〇は3つまで)

「不便だと感じることはない」が 42.5%となっており、不便に感じていることの中では「庭の手入れや草むしり」が 17.8%と最も高く、次いで「通院」が 12.2%、「買物」が 11.5%と続いています。

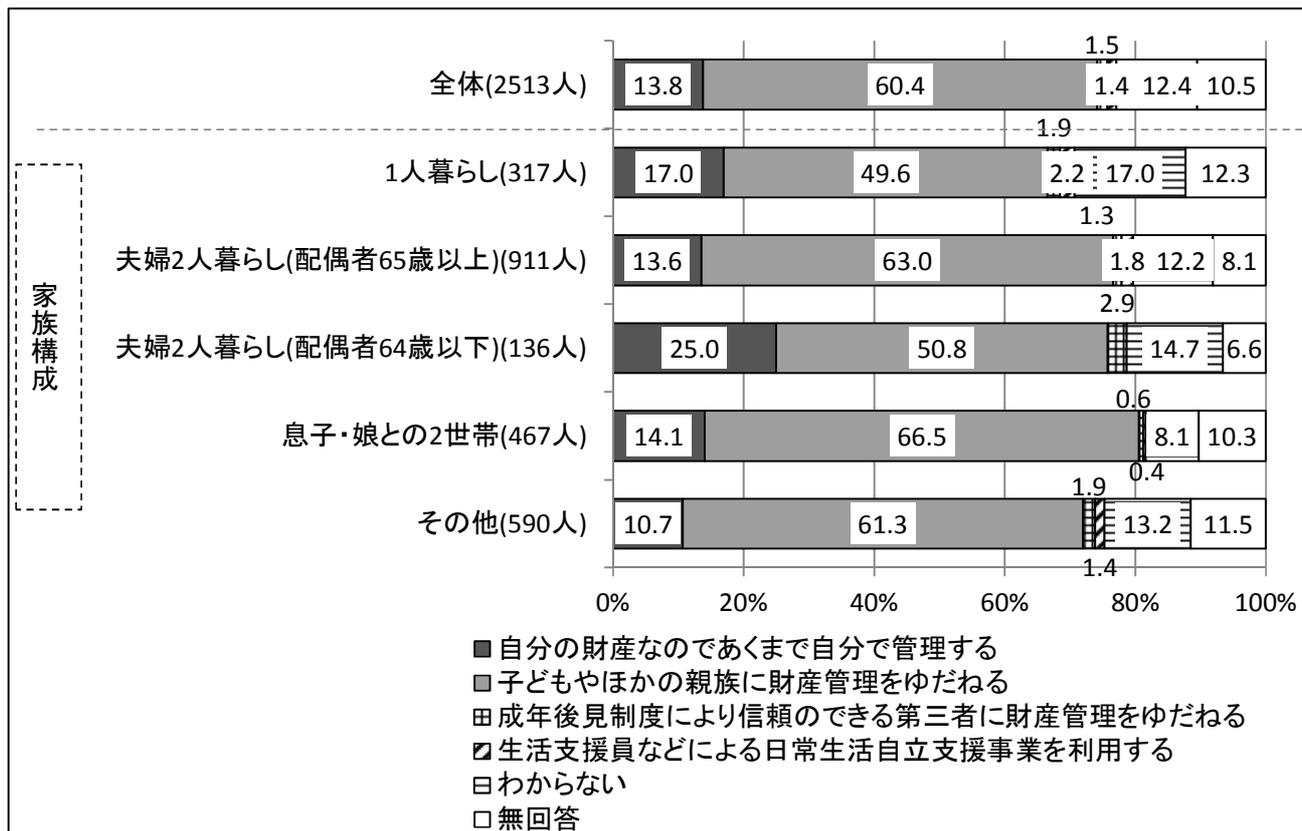
1人暮らしの場合では、「庭の手入れや草むしり」が 26.5%と最も高く、次いで「不便だと感じることはない」が 25.2%、「家の中の修理や電球の交換など」が 24%、「買物」が 20.5%と続いています。



問9 (3) あなたが認知症や高齢により財産の適正な管理や活用に不安が生じた場合、どのようにしたいと思いますか

「子どもやほかの親族に財産管理をゆだねる」が60.4%と最も高く、次いで「自分の財産なのであくまで自分で管理する」が13.8%、「わからない」が12.4%、「成年後見制度により信頼のできる第三者に財産管理をゆだねる」が1.5%と続いています。

家族構成別では、1人暮らしは「子どもやほかの親族に財産管理をゆだねる」が49.6%と、全体と比べて低く、「わからない」が17%と、全体と比べて高くなっています。

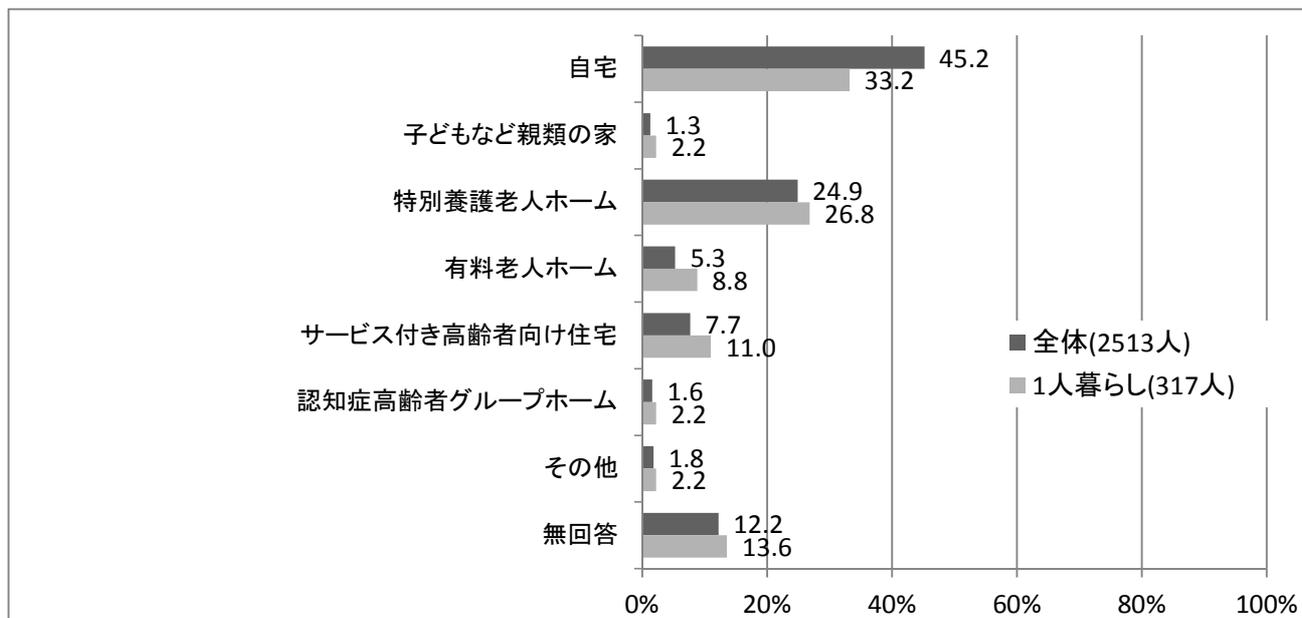


問 10 介護保険制度や今後の高齢者施策について

問 10（1）もし、あなたが常に介護が必要になった場合、どこで介護を受けて生活したいですか

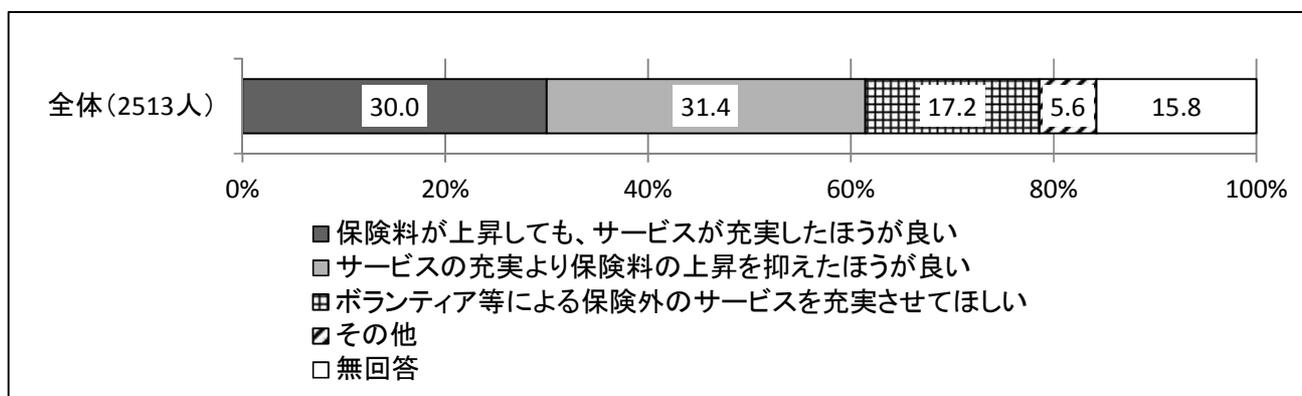
「自宅」が45.2%と最も高く、次いで「特別養護老人ホーム」が24.9%、「サービス付き高齢者向け住宅」が7.7%、「有料老人ホーム」が5.3%と続いています。

1人暮らしの場合では、「自宅」が33.2%と、全体と比べて低く、「特別養護老人ホーム」「サービス付き高齢者向け住宅」、「有料老人ホーム」がそれぞれ全体と比べて若干高くなっています。



問 10（2）介護保険料とサービス提供のあり方についてどのようにお考えですか。

「サービスの充実より保険料の上昇を抑えたほうが良い」が31.4%と最も高く、次いで「保険料が上昇しても、サービスが充実したほうが良い」が30%、「ボランティア等による保険外のサービスを充実させてほしい」が17.2%と続いています。

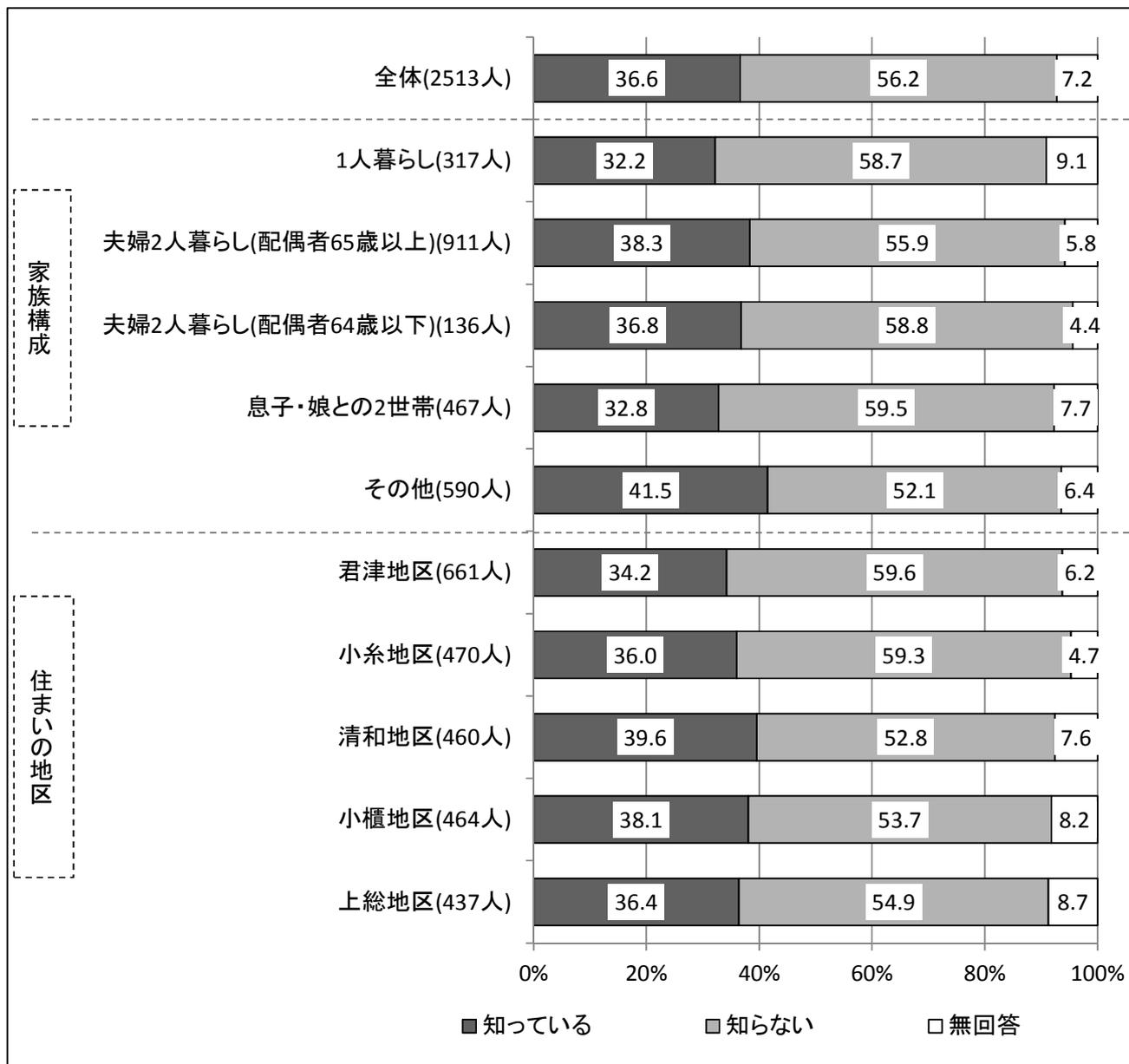


問 10 (3) あなたは、「地域包括支援室 (センター)」を知っていますか

「知っている」が 36.6%、「知らない」が 56.2%となっています。

家族構成別では、1人暮らしは「知っている」が 32.2%となっています。

住まいの地区別では、清和地区は「知っている」が 39.6%となっており、君津地区(34.2%)などと比べて認知度に差が見られます。

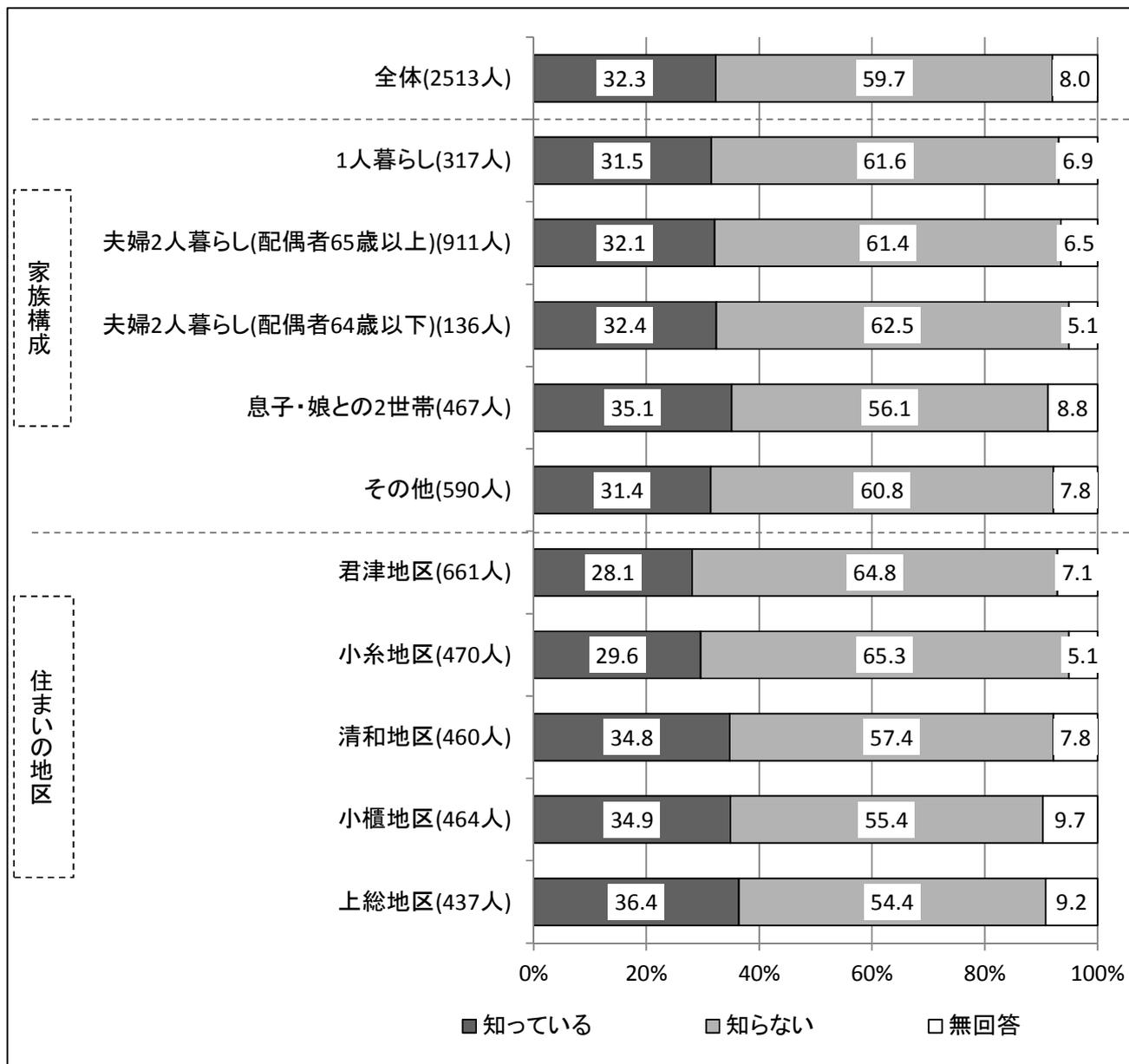


問 10（4）あなたは、「介護予防・日常生活支援総合事業」を知っていますか

「知っている」が32.3%、「知らない」が59.7%となっています。

家族構成別では、家族構成による大きな差は見られません。

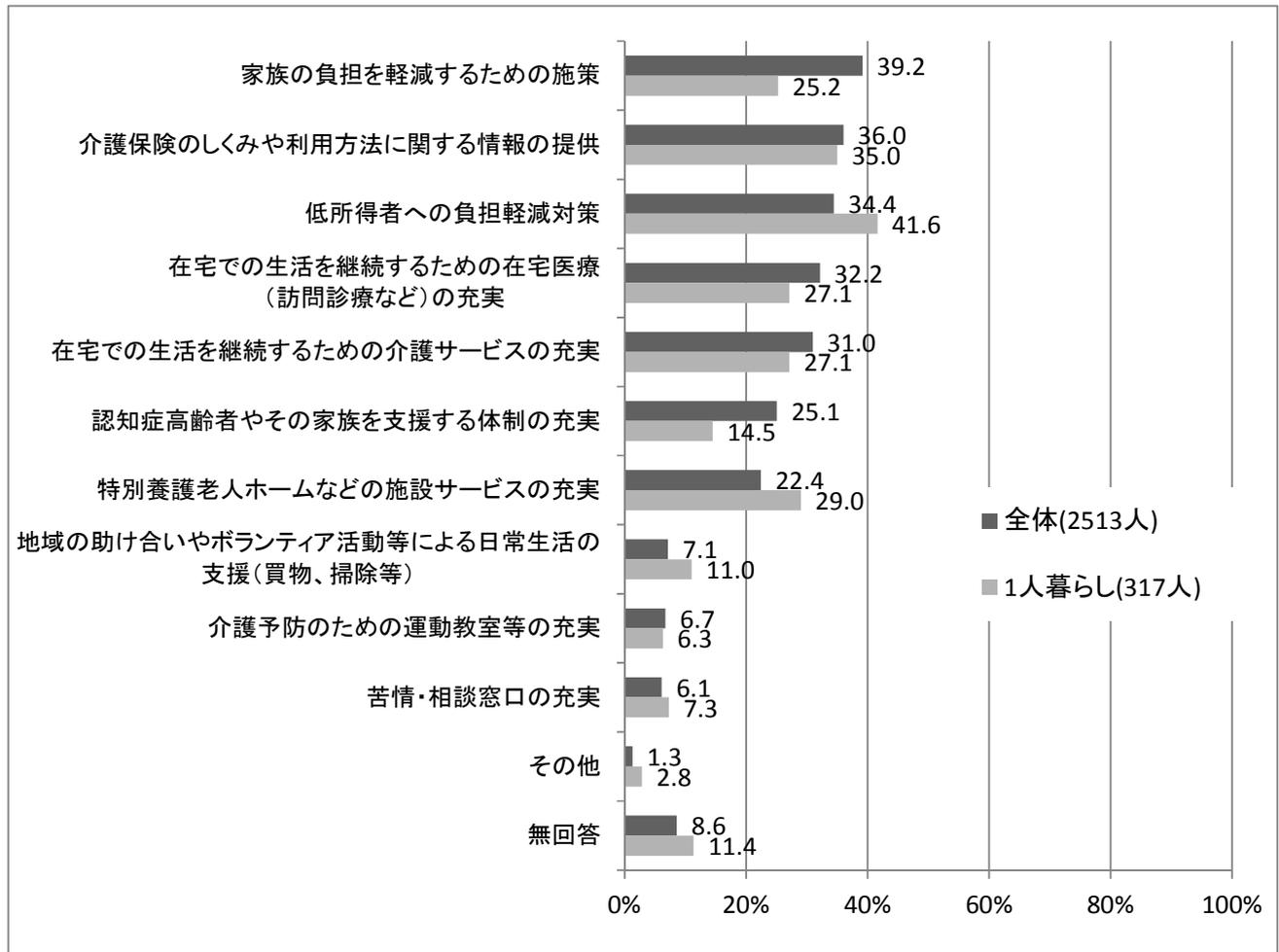
住まいの地区別では、上総地区は「知っている」が36.4%となっており、君津地区(28.1%)などと比べて認知度に差が見られます。



問 10（5）今後、力を入れてほしい施策はどのようなものですか（〇は3つまで）

「家族の負担を軽減するための施策」が 39.2%と最も高く、次いで「介護保険のしくみや利用方法に関する情報の提供」が 36%、「低所得者への負担軽減対策」が 34.4%、「在宅での生活を継続するための在宅医療（訪問診療など）の充実」が 32.2%と続いています。

1人暮らしの場合では、「低所得者への負担軽減対策」が 41.6%と最も高く、次いで「介護保険のしくみや利用方法に関する情報の提供」が 35%、「特別養護老人ホームなどの施設サービスの充実」が 29%、「在宅での生活を継続するための在宅医療（訪問診療など）の充実」が 27.1%、「在宅での生活を継続するための介護サービスの充実」が同じく 27.1%と続いています。



問 10（6）介護保険制度や保健・福祉サービスなどについて、ご意見・ご要望などございましたら、自由にお書きください

「制度やサービス等に関する情報提供の充実」が 48 件と最も多く、次いで「介護保険料の上昇抑制」が 29 件、「介護施設への円滑な入所・低所得でも入所できる施設等の整備」が 28 件、「経済的な支援・低所得者対策の充実」が 25 件、「運転ができなくなった場合への不安・買い物支援」が 16 件、「コミュニティバス・デマンドタクシー等交通利便性の向上」が同じく 16 件と続いています。

意見要旨	件数
制度やサービス等に関する情報提供の充実	48
介護保険料の上昇抑制	29
介護施設への円滑な入所・低所得でも入所できる施設等の整備	28
経済的な支援・低所得者対策の充実	25
運転ができなくなった場合への不安・買い物支援	16
コミュニティバス・デマンドタクシー等交通利便性の向上	16
健康づくり・健康な人（介護保険を利用しない人）への支援の充実	13
行政・施設等へのお礼・感謝	10
介護認定への不満	9
質の高いサービスの提供	8
介護保険料の負担の仕組みの改善	6
在宅医療・訪問診療の充実	6
身近な集いの場・おしゃべりの場の整備	6
介護予防の取り組みの充実	5
在宅介護の充実	5
身近な助け合いの仕組みづくり	5
介護職の待遇改善	4
相談支援の充実	4
1人暮らしを支える制度の充実	4
介護家族の負担軽減	3
救急医療の充実	3
介護サービスを受けられていない人への支援	2
介護保険制度全般の改善	2
高齢者がもっと活躍できる環境づくり	2
サービス利用手続きの簡素化	2
認知症予防対策の充実	2
民生委員の活動の充実	2
若い世代の負担軽減	2
アンケートの内容が高齢者には難しい	1
介護支援ボランティア制度の推進	1
介護職の人材確保	1

意見要旨	件数
各種手続きの土日対応	1
行政の縦割りの解消	1
高齢者の書道教室の実施	1
高齢者のための総合的なまちづくり	1
高齢者の定義の変更（65歳→70歳ぐらい）	1
シルバー人材センターの仕事の種類、内容の改善	1
認知症高齢者の見守りの体制づくり	1
魅力的な君津地区を作る工夫	1
友人・知人等との共同生活の仕組みづくり	1
小櫃地区における子どももお年寄りも散歩したり遊んだりできる場の整備	1
小櫃地区のサービス事業所が少ない	1
地域包括ケアシステムを構築し、公民館を中心にした活動の展開	1
病院、学校（小学校から大学）、地域、会社、商店、コンビニ、郵便局等を巻き込んだ行動	1
その他（身の上話、漠然とした不安等）	89
合計	373

複合リスクの判定

本調査において把握されたリスクに関して、各リスク同士の関連をクロス集計した結果（複合リスク）では、すべてのリスクにおいて「認知機能の低下に該当」が上位3つに入っています。

“運動機能の低下あり”の場合は、「転倒リスクあり」が70%を超えている（70.5%）ほか、「うつ傾向」も半数以上（59.2%）となっています。

“転倒リスクあり”の場合は、「うつ傾向（50.6%）」や「咀嚼機能の低下の疑いあり（41.3%）」が上位にあがっています。

“閉じこもり傾向あり”の場合は、「うつ傾向（47.1%）」や「転倒リスクあり（44.7%）」が上位にあがっています。

“認知機能の低下に該当”の場合は、「うつ傾向（51%）」や「転倒リスクあり（40.5%）」のほか、「咀嚼機能の低下の疑いあり（38.6%）」も上位にあがっています。

“IADL低い（0～3点）”の場合は、「咀嚼機能の低下の疑いあり（64.6%）」と「閉じこもり傾向あり（62.8%）」がいずれも60%を超えています。

“うつ傾向”の場合は、「転倒リスクあり（41.8%）」や「咀嚼機能の低下の疑いあり（39.6%）」が上位にあがっています。

【各リスク別 複合リスク上位3つ】

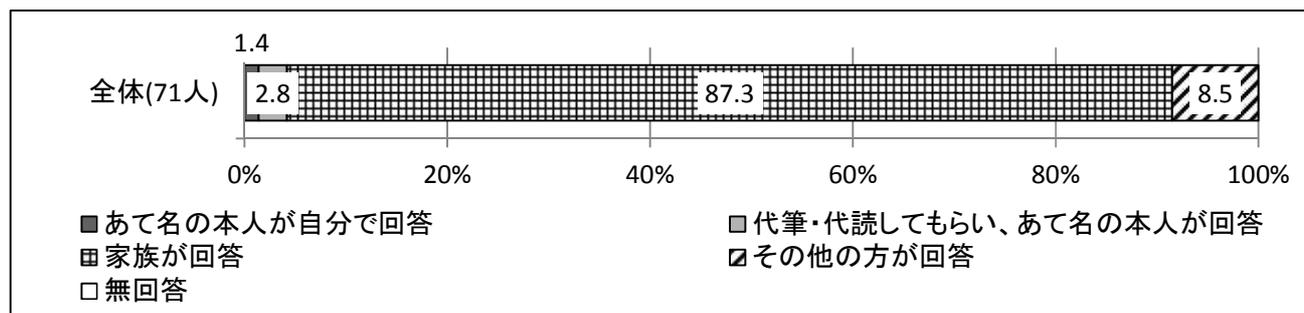
各リスクあり	複合リスク		
	第1位	第2位	第3位
運動機能の低下あり(373 人)	転倒リスクあり (70.5%)	認知機能の低下に該 当(63.8%)	うつ傾向(59.2%)
転倒リスクあり(815 人)	認知機能の低下に 該当(59%)	うつ傾向(50.6%)	咀嚼機能の低下の疑 いあり(41.3%)
閉じこもり傾向あり(577 人)	認知機能の低下に 該当(56.5%)	うつ傾向(47.1%)	転倒リスクあり(44.7%)
低栄養の疑いあり(184 人)	認知機能の低下に 該当(48.4%)	うつ傾向(38%)	転倒リスクあり(37.5%)
低栄養状態(24 人)	認知機能の低下に該当(70.8%) うつ傾向(70.8%)		閉じこもり傾向あり (62.5%)
咀嚼機能の低下の疑いあり(744 人)	認知機能の低下に 該当(61.6%)	口腔機能の低下に該 当(53.6%)	うつ傾向(52.4%)
口腔機能の低下に該当(518 人)	咀嚼機能の低下の 疑いあり(77%)	認知機能の低下に該 当(72.8%)	うつ傾向(60.8%)
認知機能の低下に該当(1187 人)	うつ傾向(51%)	転倒リスクあり(40.5%)	咀嚼機能の低下の疑 いあり(38.6%)
IADLやや低い(4点)(227 人)	認知機能の低下に 該当(57.7%)	転倒リスクあり(44.5%)	うつ傾向(41.9%)
IADL低い(0~3点)(164 人)	認知機能の低下に 該当(70.1%)	咀嚼機能の低下の疑 いあり(64.6%)	閉じこもり傾向あり (62.8%)
うつ傾向(986 人)	認知機能の低下に 該当(61.4%)	転倒リスクあり(41.8%)	咀嚼機能の低下の疑 いあり(39.6%)
やせ(184 人)	認知機能の低下に 該当(48.4%)	うつ傾向(38%)	転倒リスクあり(37.5%)
肥満(560 人)	認知機能の低下に 該当(46.1%)	うつ傾向(37.5%)	転倒リスクあり(32.5%)

(3) 特別養護老人ホーム入所希望者実態調査

問1 この調査の回答者について

この調査に回答される方はどなたですか。(〇はひとつ)

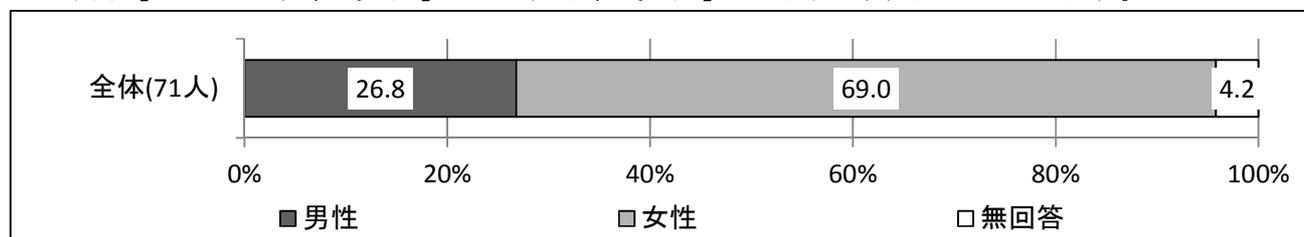
「家族が回答」が87.3%と最も高く、次いで「その他の方が回答」が8.5%、「代筆・代読してもらい、あて名の本人が回答」が2.8%、「あて名の本人が自分で回答」が1.4%となっています。



問2 あて名のご本人について

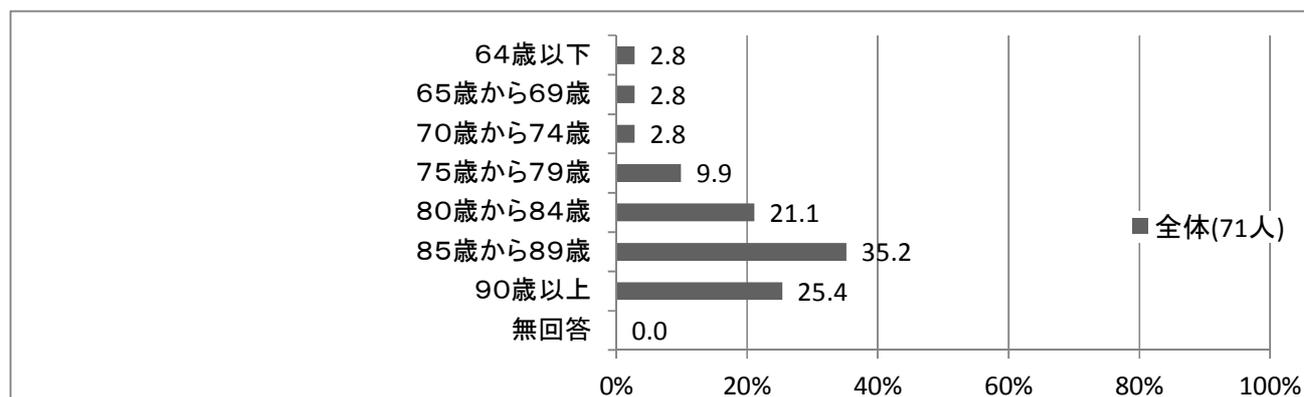
問2-1. ご本人（特別養護老人ホームへの入所を希望されている方）の性別をお答えください。(〇はひとつ)

「男性」が26.8%、「女性」が69.0%と、「女性」の比率が高くなっています。



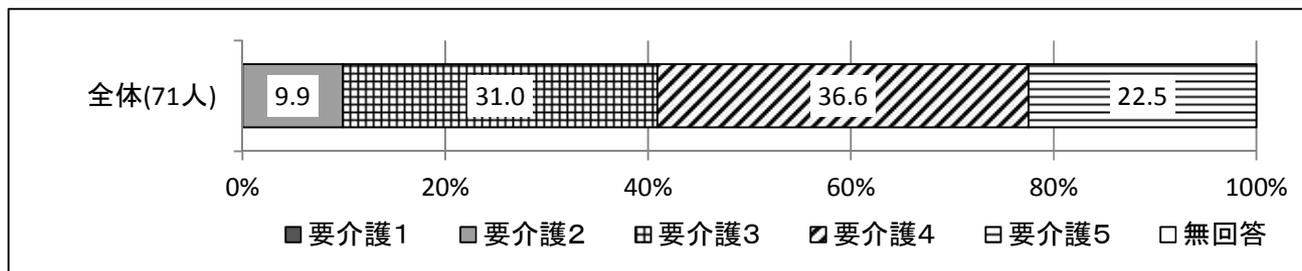
問2-2. ご本人の年齢をお答えください。(〇はひとつ)

「85歳から89歳」が35.2%と最も高く、次いで「90歳以上」が25.4%、「80歳から84歳」が21.1%、「75歳から79歳」が9.9%と続いており、75歳以上の後期高齢者が90%以上(91.6%)となっています。



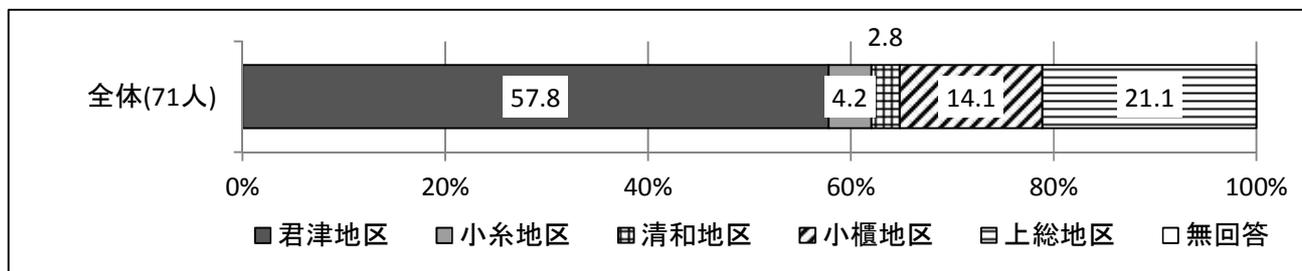
問2-3. ご本人の要介護度はどれですか。(〇はひとつ)

「要介護4」が36.6%と最も高く、次いで「要介護3」が31%、「要介護5」が22.5%、「要介護2」が9.9%となっています。



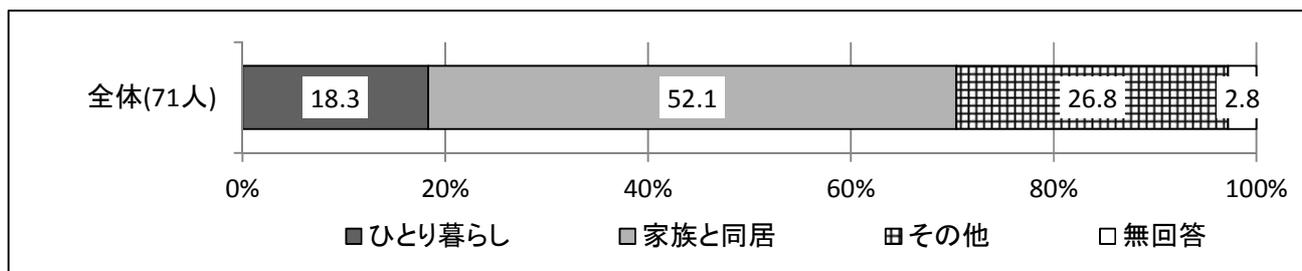
問2-4. ご本人のお住まいの地区について、お答えください。(〇はひとつ)

「君津地区」が57.8%と最も高く、次いで「上総地区」が21.1%、「小櫃地区」が14.1%、「小糸地区」が4.2%、「清和地区」が2.8%となっています。



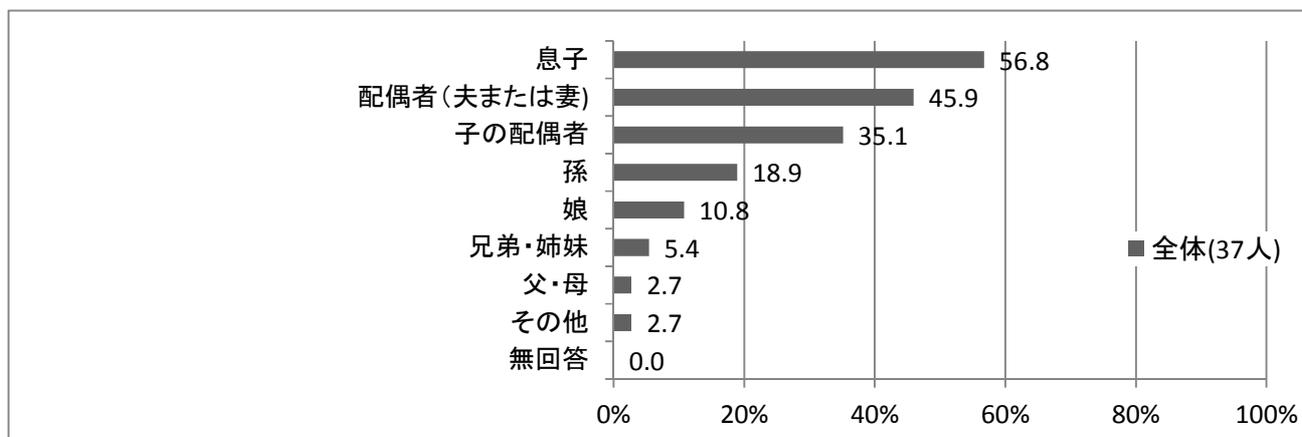
問2-5. ご本人の現在の世帯構成はどれですか。(〇はひとつ)

「家族と同居」が52.1%と最も高く、次いで「その他」が26.8%、「ひとり暮らし」が18.3%となっています。



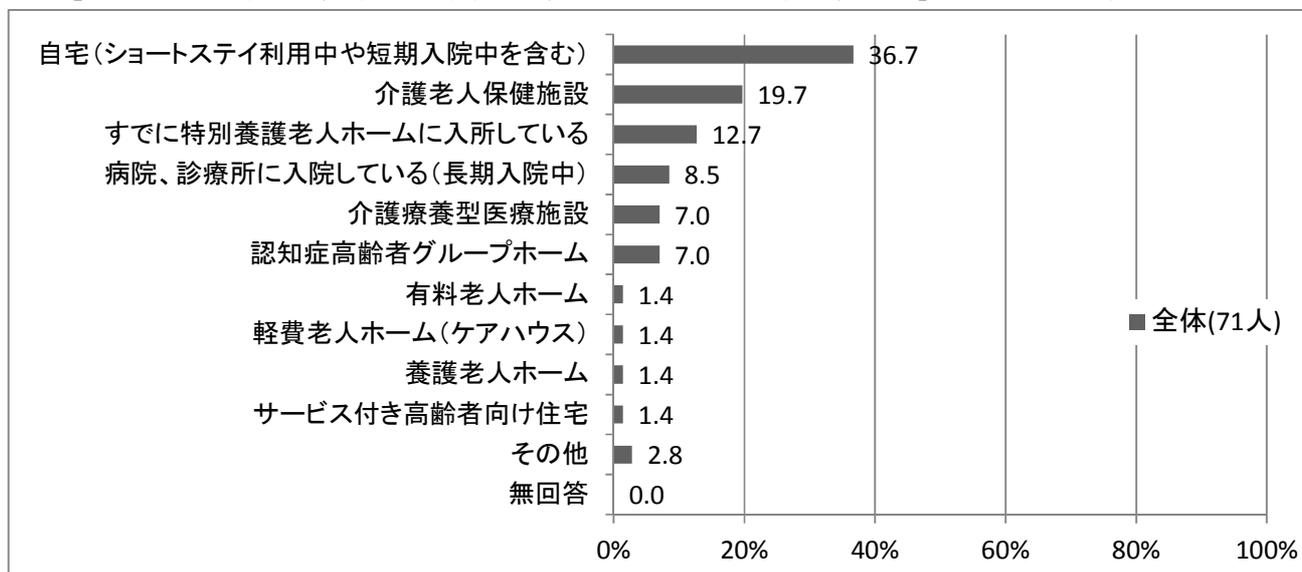
問 2-5-1. 同居されているご家族について、お答えください。(あてはまるものすべてに○)

「息子」が 56.8%と最も高く、次いで「配偶者(夫または妻)」が 45.9%、「子の配偶者」が 35.1%、「孫」が 18.9%と続いています。



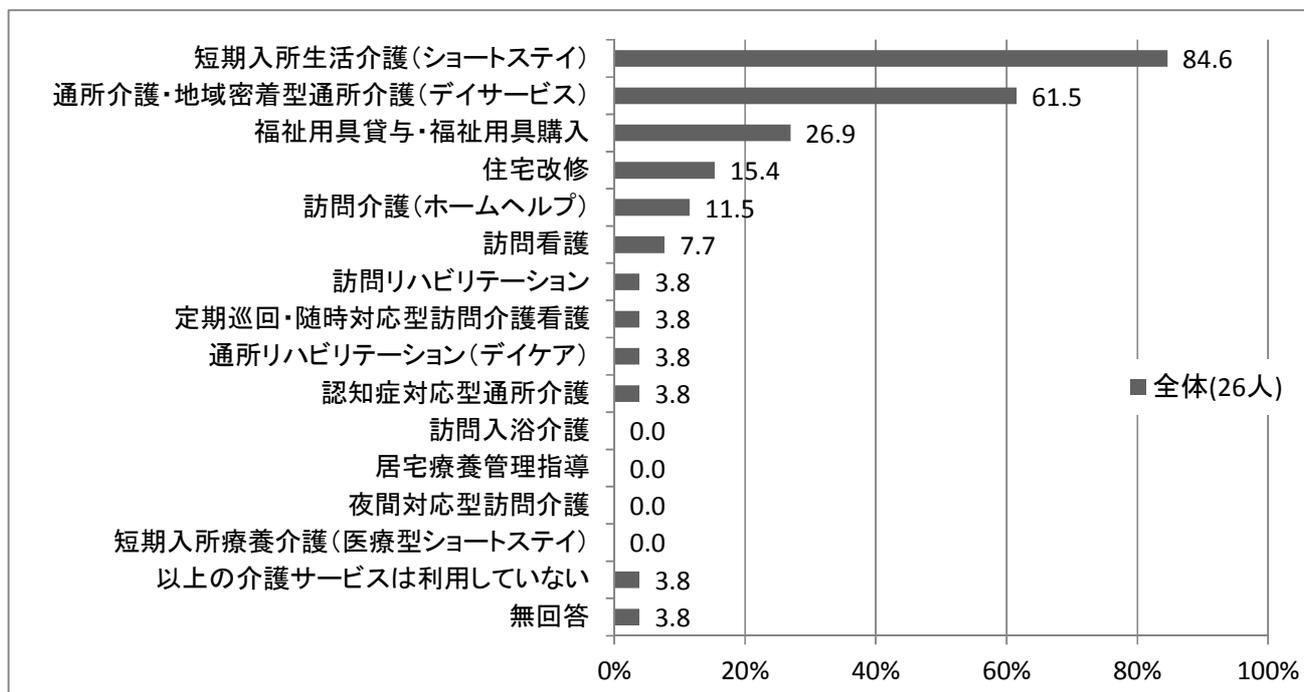
問 2-6. ご本人の現在のお住まいについて、お答えください。(○はひとつ)

「自宅(ショートステイ利用中や短期入院中を含む)」が 36.7%と最も高く、次いで「介護老人保健施設」が 19.7%、「すでに特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設)に入所している」が 12.7%、「病院、診療所に入所している(長期入院中)」が 8.5%と続いています。



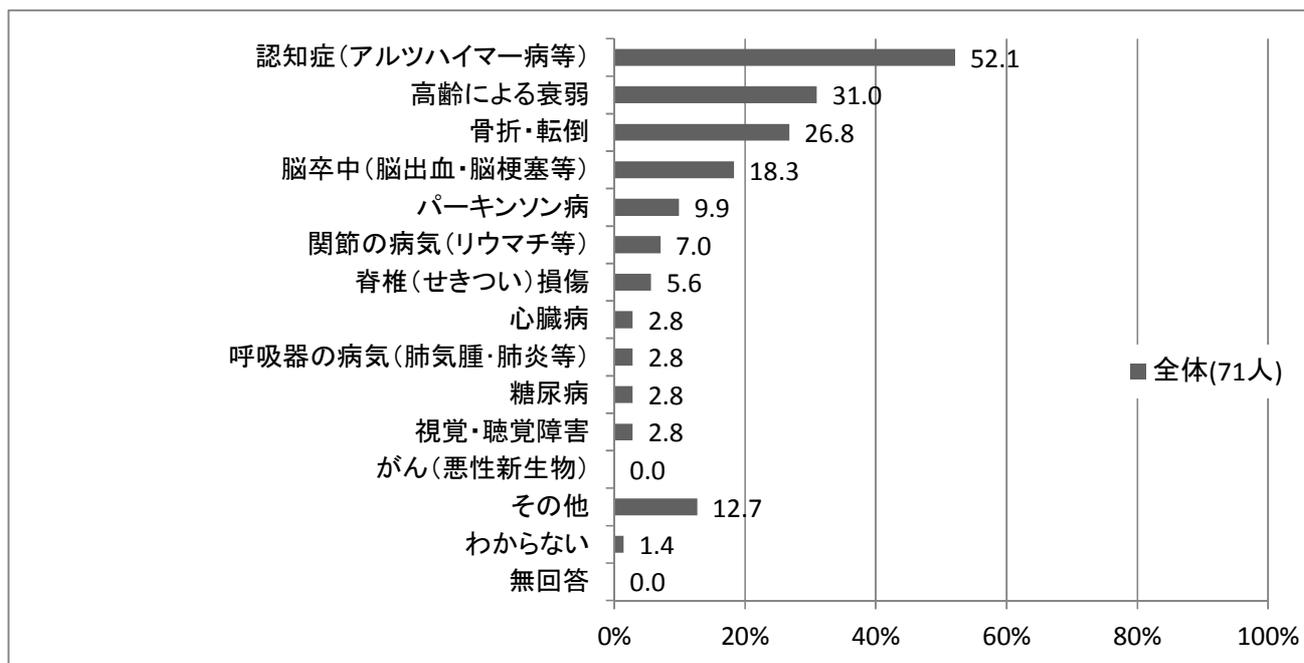
問2-6-1. 自宅では、どのような介護サービスを利用していますか。(〇はいくつでも)

「短期入所生活介護（ショートステイ）」が84.6%と最も高く、次いで「通所介護・地域密着型通所介護（デイサービス）」が61.5%、「福祉用具貸与・福祉用具購入」が26.9%、「住宅改修」が15.4%と続いています。



問2-7. ご本人が介護・介助が必要になった主な原因について、お答えください。(〇はいくつでも)

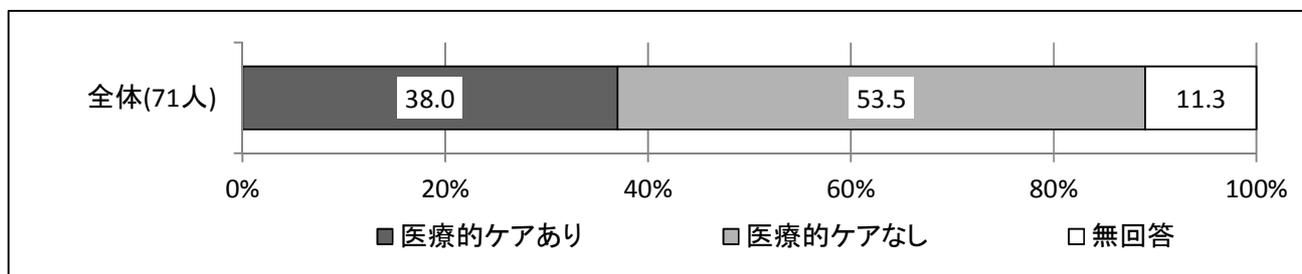
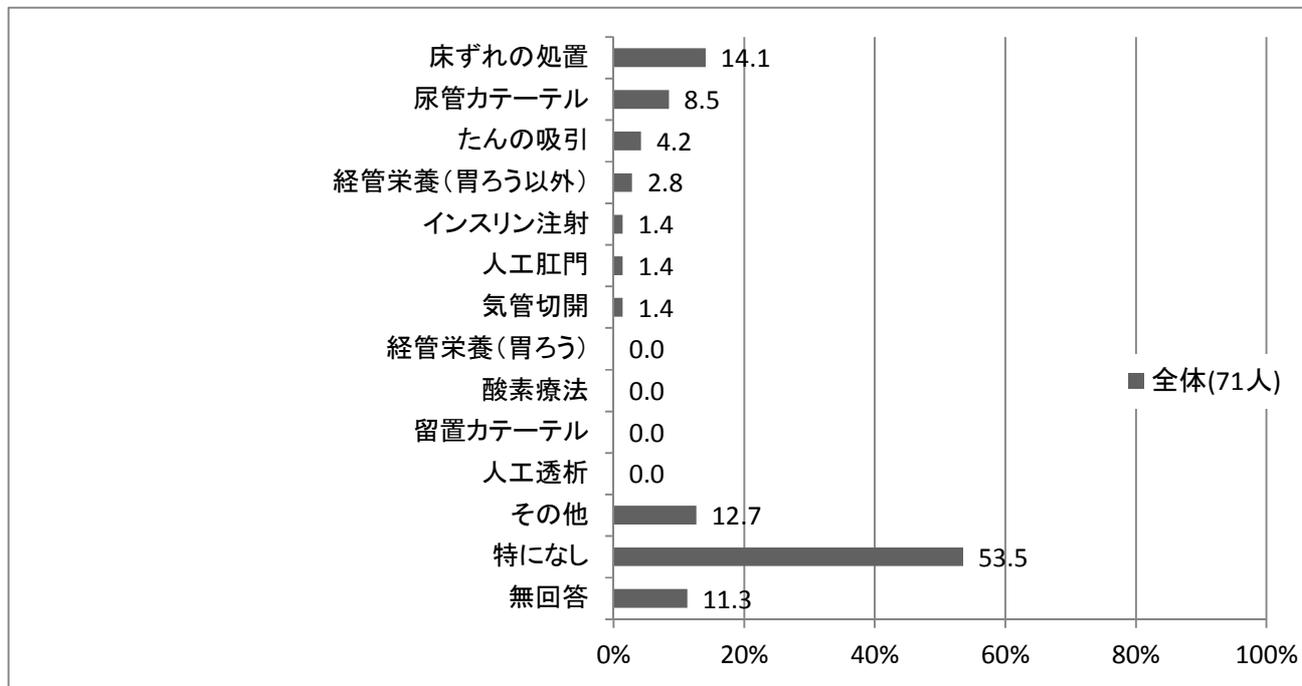
「認知症(アルツハイマー病等)」が52.1%と最も高く、次いで「高齢による衰弱」が31%、「骨折・転倒」が26.8%、「脳卒中(脳出血・脳梗塞等)」が18.3%と続いています。



問 2-8. ご本人は、次のいずれかの医療や処置を日常的に受けていますか。(〇はいくつでも)

「特になし」が 53.5%となっており、医療や処置の中では「床ずれの処置」が 14.1%と最も高く、次いで「その他」が 12.7%、「尿管カテーテル」が 8.5%と続いています。

「医療的ケアあり」は全体の 38%となっています。

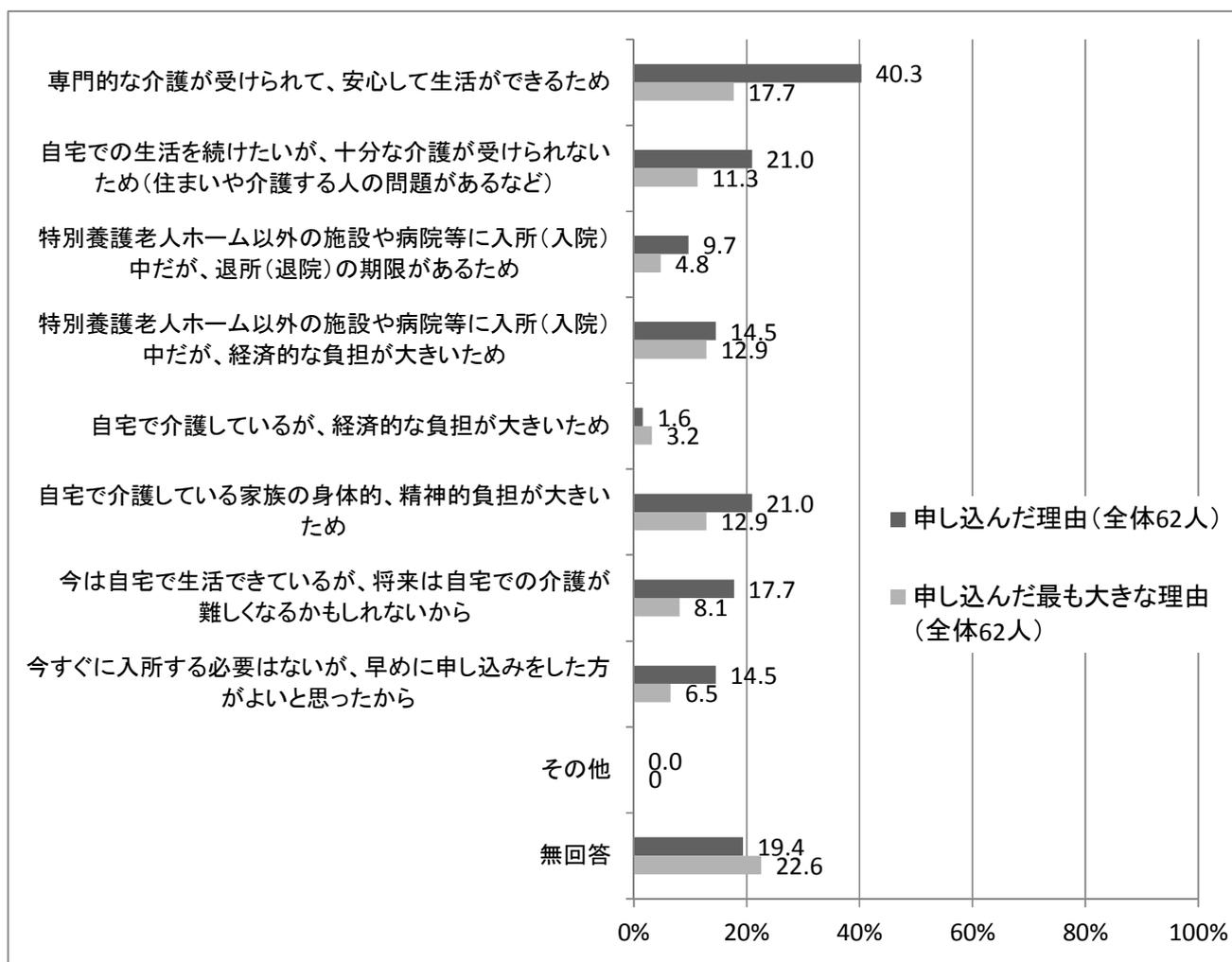


問3 特別養護老人ホームへの入所希望について

問3-1. ご本人が特別養護老人ホームへ入所を申し込んだ理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○をして、最も大きな理由1つに◎)

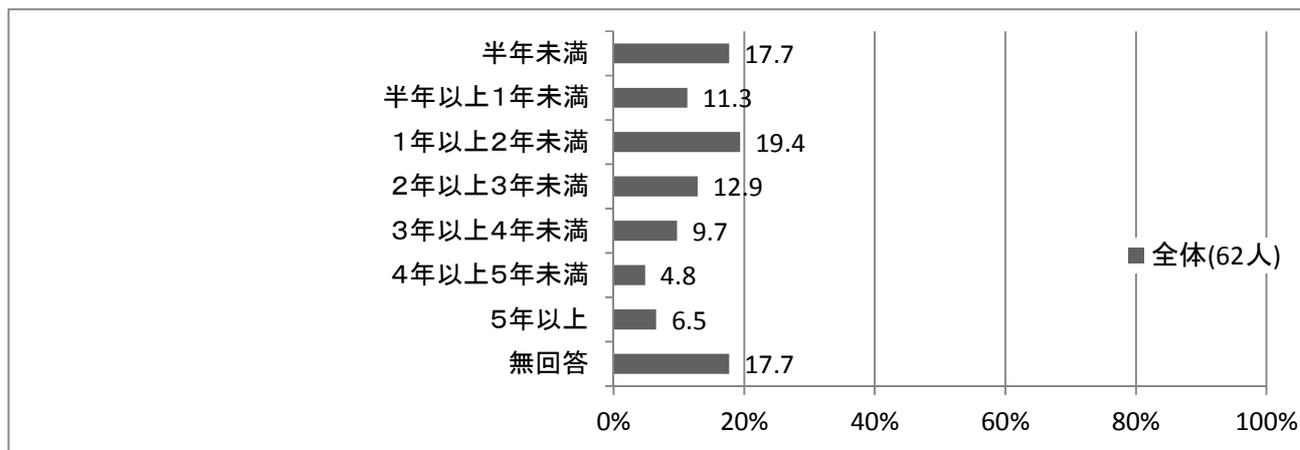
申し込んだ理由は、「専門的な介護が受けられて、安心して生活ができるため」が40.3%と最も高く、次いで「自宅での生活を続けたいが、十分な介護が受けられないため(住まいや介護する人の問題があるなど)」が21%、「自宅で介護している家族の身体的、精神的負担が大きいため」が同じく21%、「今は自宅で生活できているが、将来は自宅での介護が難しくなるかもしれないから」が17.7%と続いています。

申し込んだ最も大きな理由は、「専門的な介護が受けられて、安心して生活ができるため」が17.7%と最も高く、次いで「特別養護老人ホーム以外の施設や病院等に入所(入院)中だが、経済的な負担が大きいため」と「自宅で介護している家族の身体的、精神的負担が大きいため」が同じく12.9%と続いています。



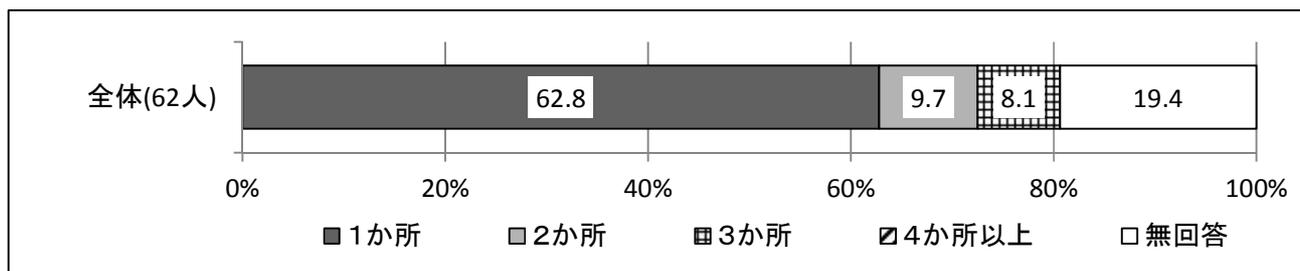
問3-2. 特別養護老人ホームに最初に入所の申し込みをしたのはいつですか。(〇はひとつ)

「1年以上2年未満」が19.4%と最も高く、次いで「半年未満」が17.7%、「2年以上3年未満」が12.9%、「半年以上1年未満」が11.3%と続いています。



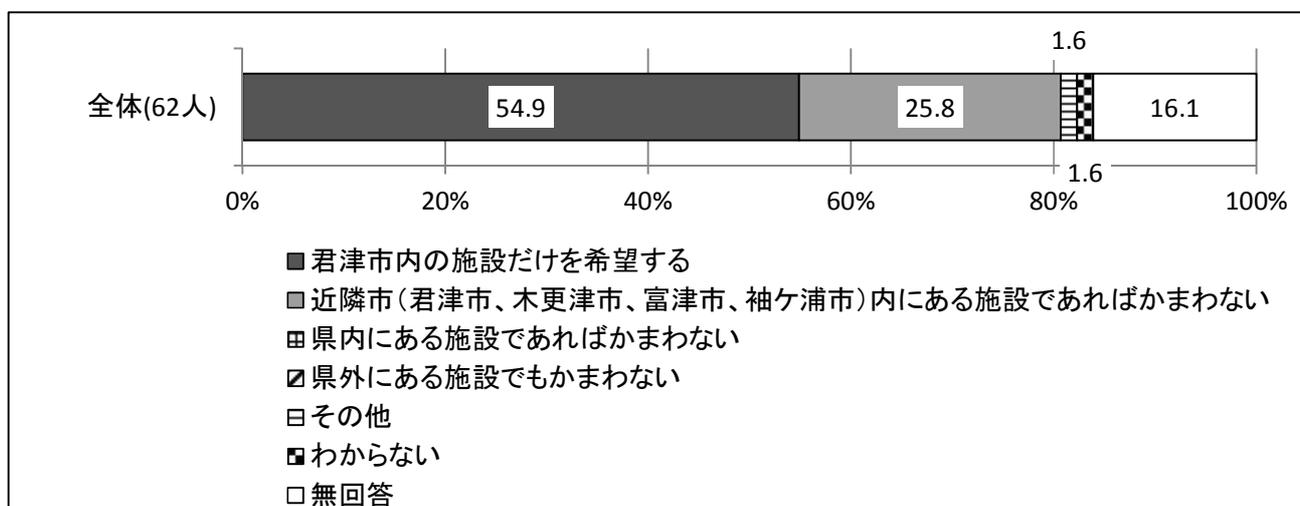
問3-3. 入所の申し込みをしている特別養護老人ホームは何か所ありますか。(〇はひとつ)

「1か所」が62.8%と最も高く、次いで「2か所」が9.7%、「3か所」が8.1%となっており、「4か所以上」という回答はありません。



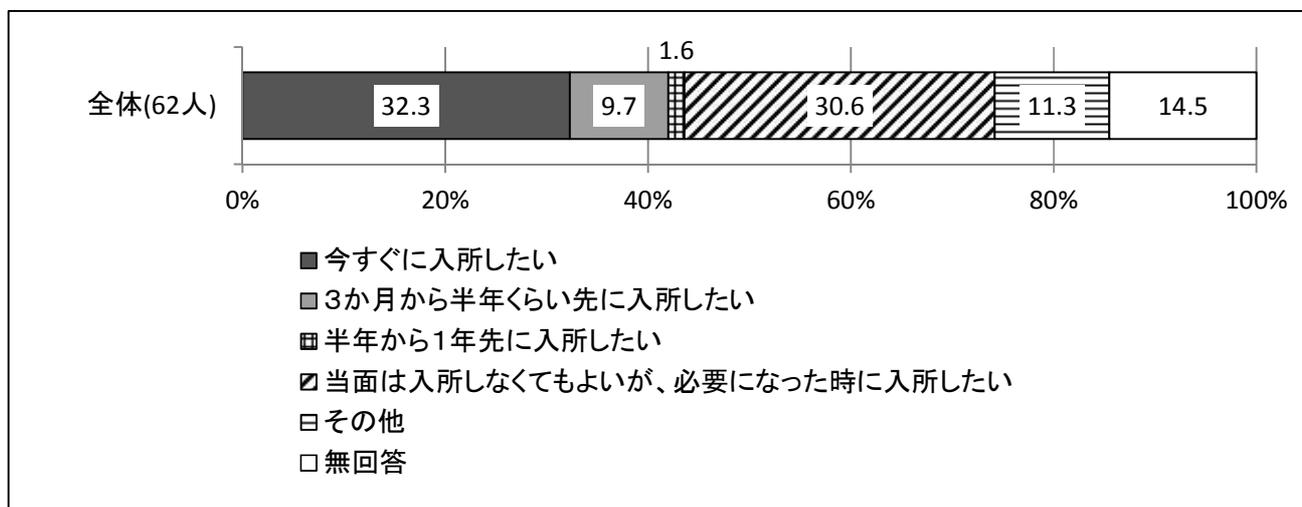
問3-4. どちらの地区の特別養護老人ホームへの入所を希望していますか。(〇はひとつ)

「君津市内の施設だけを希望する」が54.9%と最も高く、次いで「近隣市(君津市、木更津市、富津市、袖ヶ浦市)内にある施設であればかまわない」が25.8%となっています。



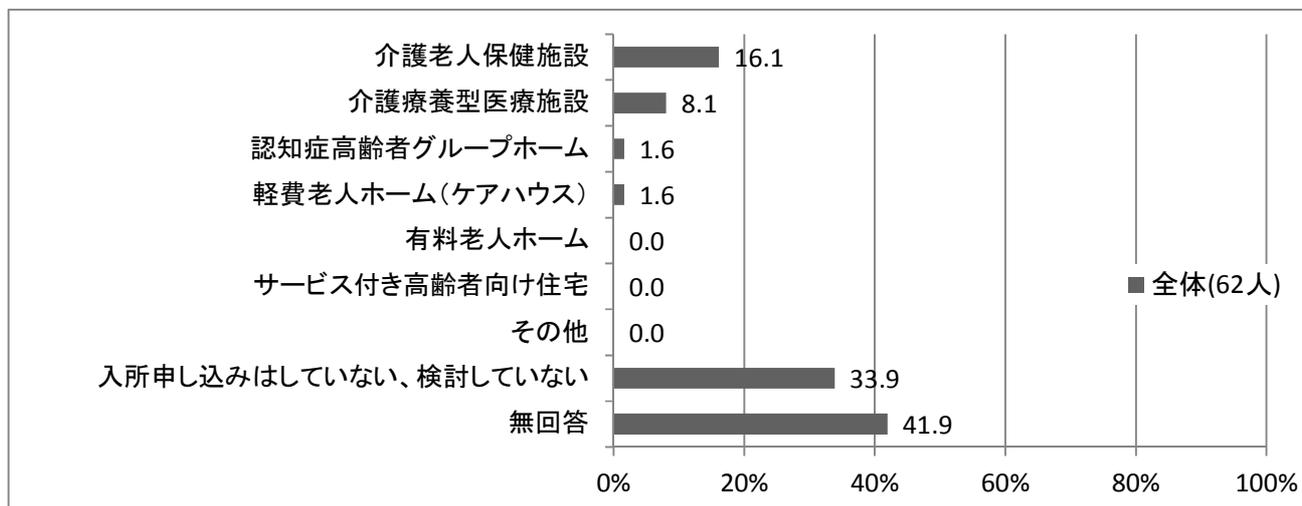
問3-5. 特別養護老人ホームに入所したい時期はいつですか。(〇はひとつ)

「今すぐに入所したい」が32.3%と最も高く、次いで「当面は入所しなくてもよいが、必要になったときに入所したい」が30.6%、「その他」が11.3%、「3か月から半年くらい先に入所したい」が9.7%と続いています。



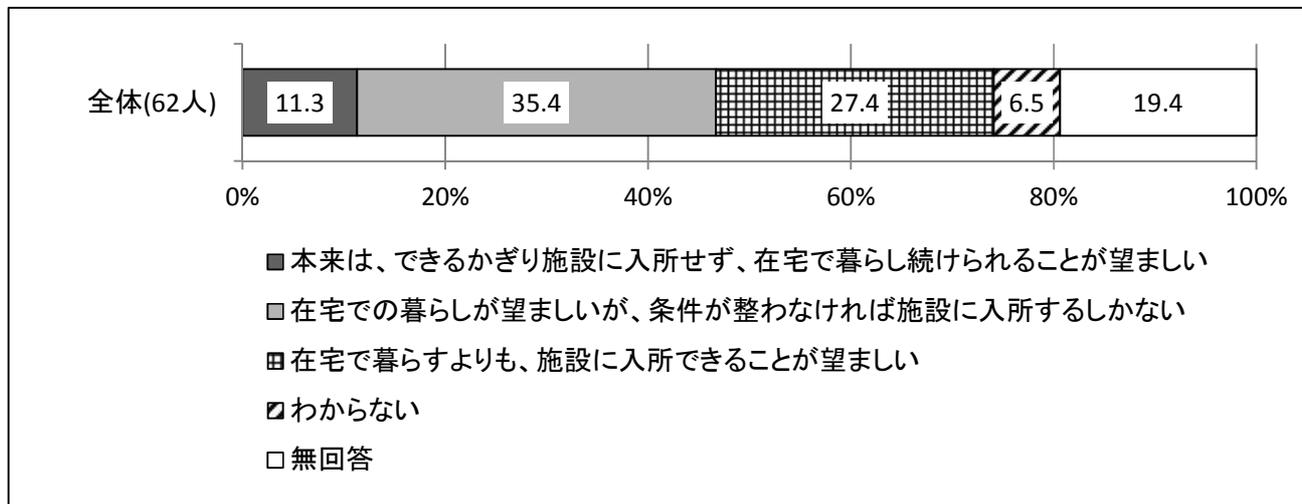
問3-6. 特別養護老人ホーム以外で入所申し込みをしている、または入所を検討している施設をお答えください。(〇はいくつでも)

「入所申し込みはしていない、検討していない」が33.9%と最も高く、次いで「介護老人保健施設」が16.1%、「介護療養型医療施設」が8.1%、「認知症高齢者グループホーム」が1.6%、「軽費老人ホーム(ケアハウス)」が1.6%、「有料老人ホーム」が0.0%、「サービス付き高齢者向け住宅」が0.0%、「その他」が0.0%、「無回答」が41.9%となっています。



問3-7. ご本人の施設入所に対する考えは、次のうちどれにもっとも近いですか。(〇はひとつ)

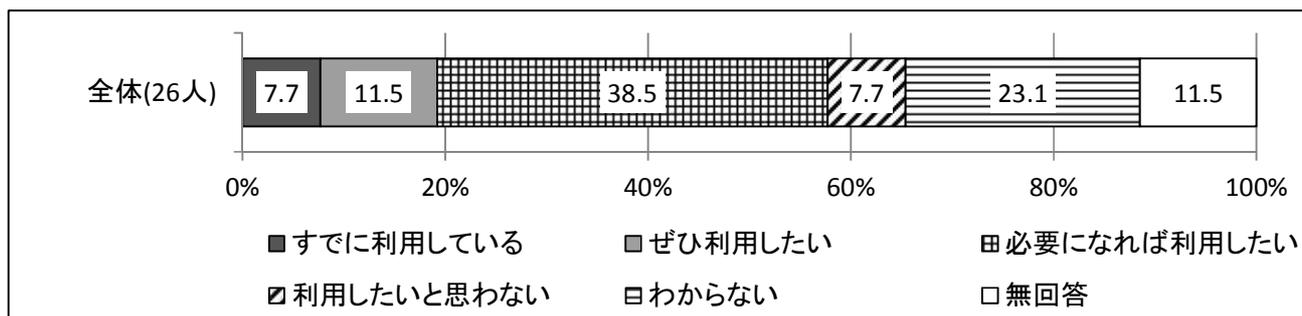
「在宅での暮らしが望ましいが、条件が整わなければ施設に入所するしかない」が35.4%と最も高く、次いで「在宅で暮らすよりも、施設に入所できることが望ましい」が27.4%、「本来は、できるかぎり施設に入所せず、在宅で暮らし続けられることが望ましい」が11.3%、となっています。



問4 自宅での暮らしについて（現在のお住まいが自宅の方への設問）

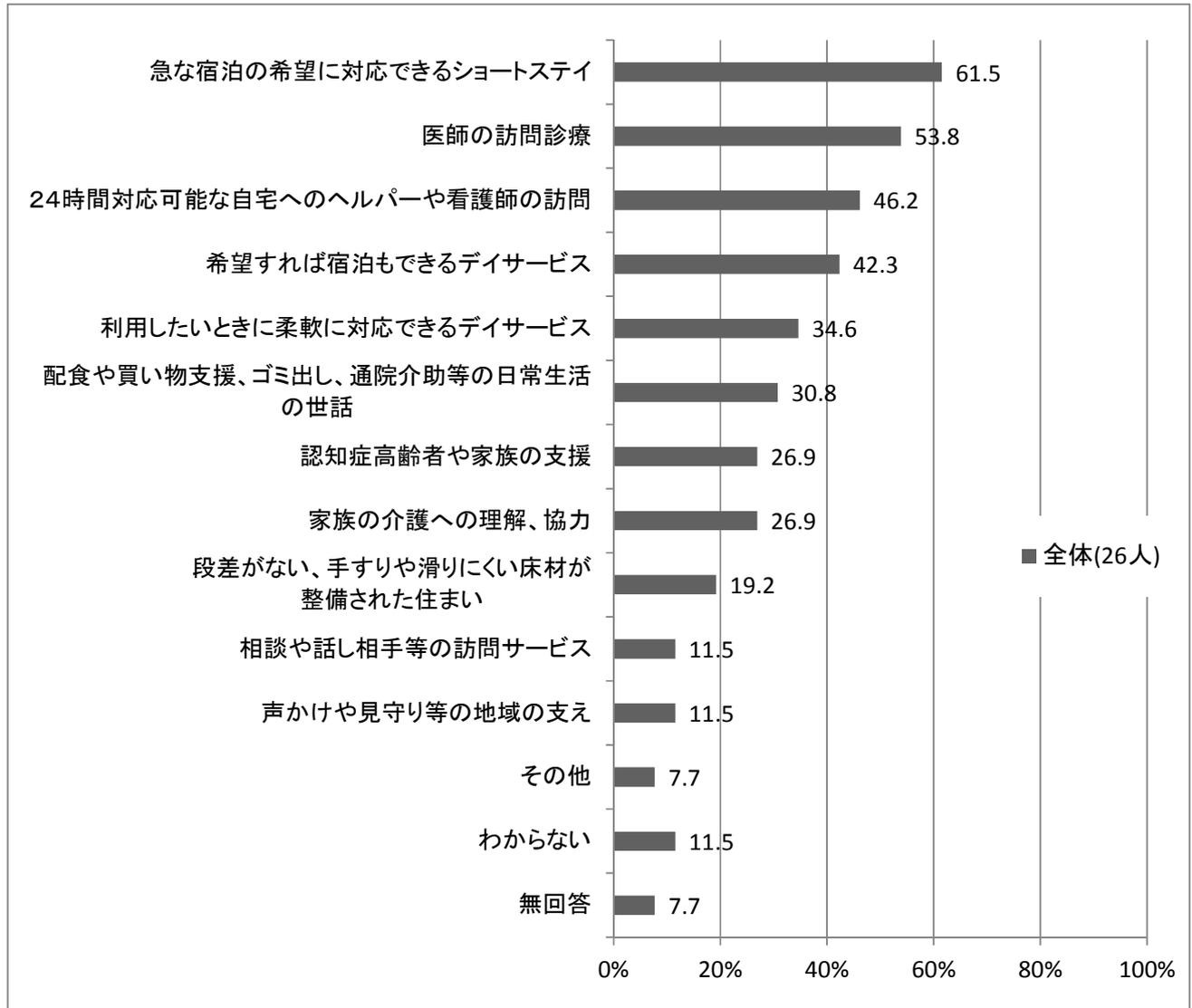
問4-1. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護という在宅サービスがありますが、このサービスの利用についてお答えください。(〇はひとつ)

「必要になれば利用したい」が38.5%と最も高く、次いで「わからない」が23.1%、「ぜひ利用したい」が11.5%、「すでに利用している」と「利用したいと思わない」が同じく7.7%と続いています。



問4-2. どのようなサービス等があれば、自宅で安心して暮らすことができると思いますか。(〇はいくつでも)

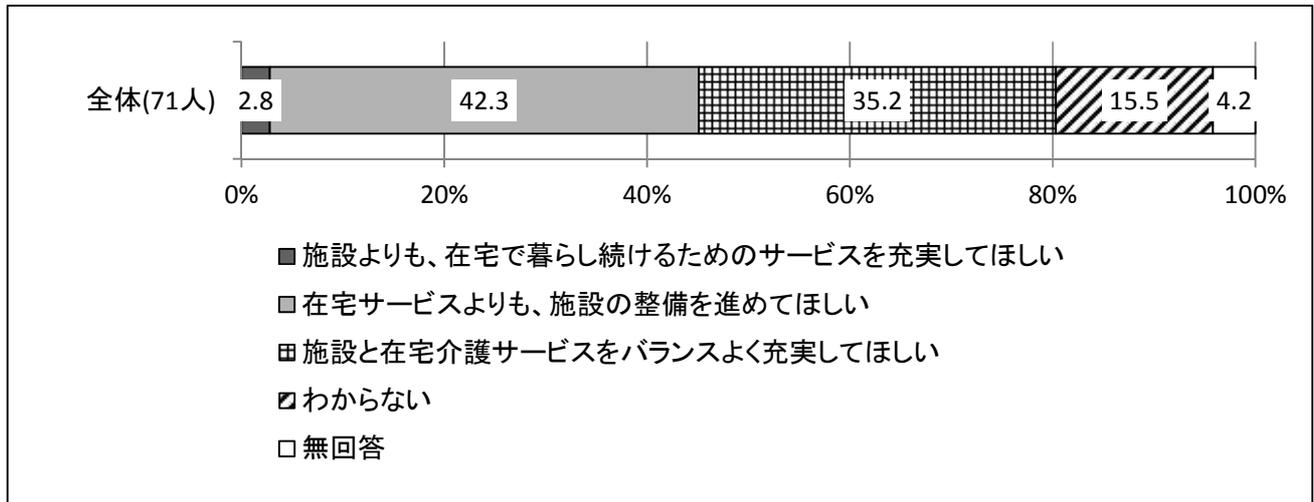
「急な宿泊の希望に対応できるショートステイ」が61.5%と最も高く、次いで「医師の訪問診療」が53.8%、「24時間対応可能な自宅へのヘルパーや看護師の訪問」が46.2%、「希望すれば宿泊もできるデイサービス」が42.3%と続いています。



問5 今後の介護サービスの充実について

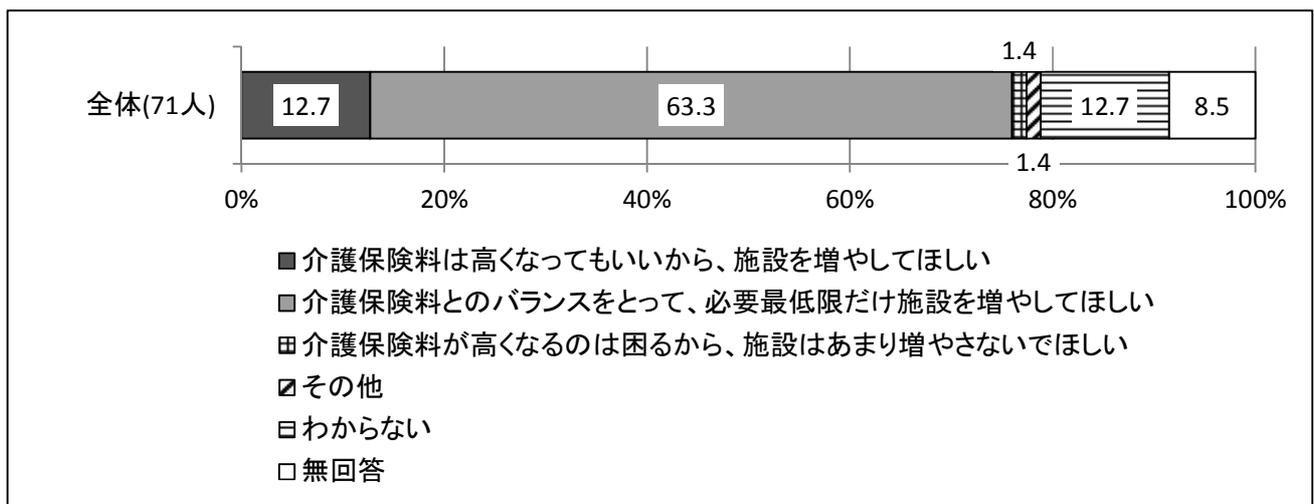
問5-1. 君津市の介護サービスの整備について、どのように思いますか。(〇はひとつ)

「在宅サービスよりも、施設の整備を進めてほしい」が42.3%と最も高く、次いで「施設と在宅介護サービスをバランスよく充実してほしい」が35.2%、「わからない」が15.5%、「施設よりも、在宅で暮らし続けるためのサービスを充実してほしい」が2.8%となっています。



問5-2. 介護保険料と特別養護老人ホームの整備に関する考え方は、次のどれにもっとも近いですか。(〇はひとつ)

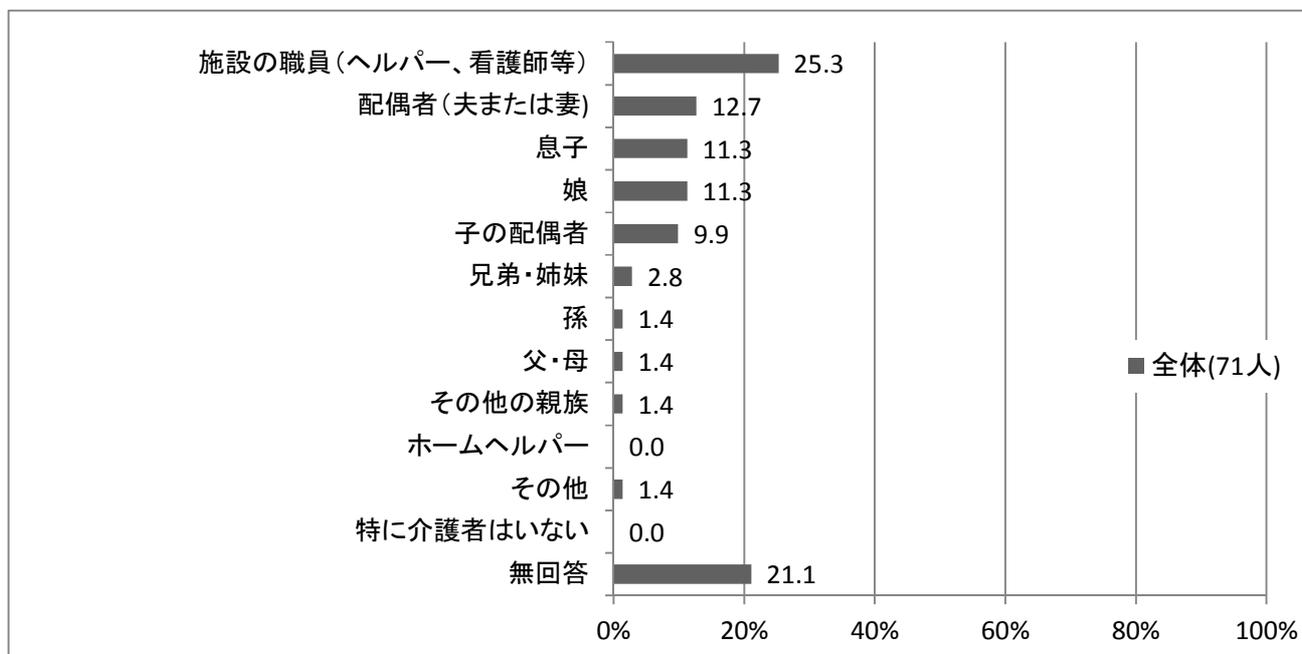
「介護保険料とのバランスをとって、必要最低限だけ施設を増やしてほしい」が63.3%と最も高く、次いで「介護保険料は高くなっていいから、施設を増やしてほしい」が12.7%、「わからない」が12.7%、「介護保険料が高くなるのは困るから、施設はあまり増やさないでほしい」が1.4%と続いています。



問6 介護をしている方（介護者）について

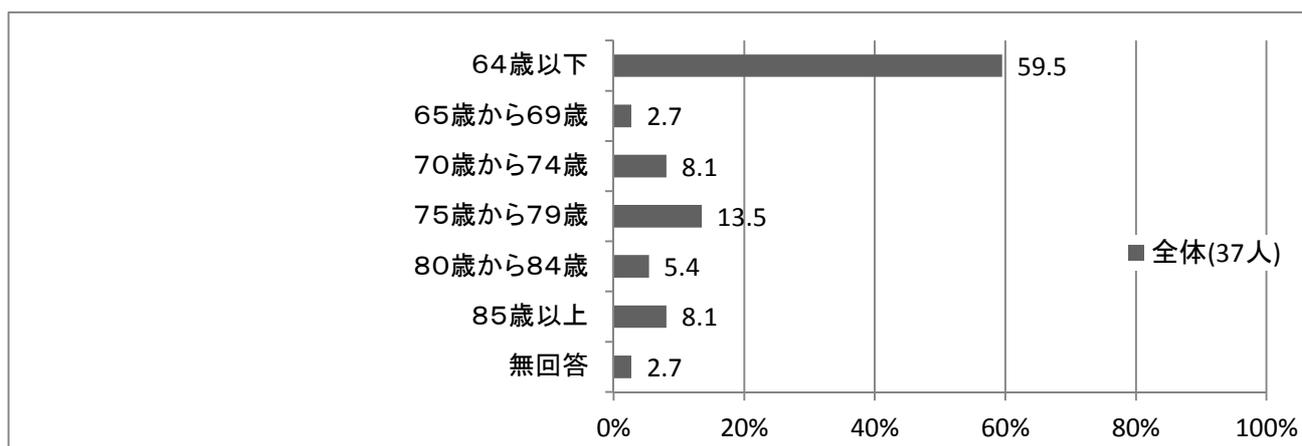
問6-1. ご本人の介護を主に（一番長い時間）行っている方は、ご本人から見てどのようなご関係にある方ですか。（〇はひとつ）

「施設の職員（ヘルパー、看護師等）」が25.3%と最も高く、次いで「配偶者（夫または妻）」が12.7%、「息子」が11.3%、「娘」が同じく11.3%と続いています。



問6-2. 主に介護している方の年齢はいくつですか。（〇はひとつ）

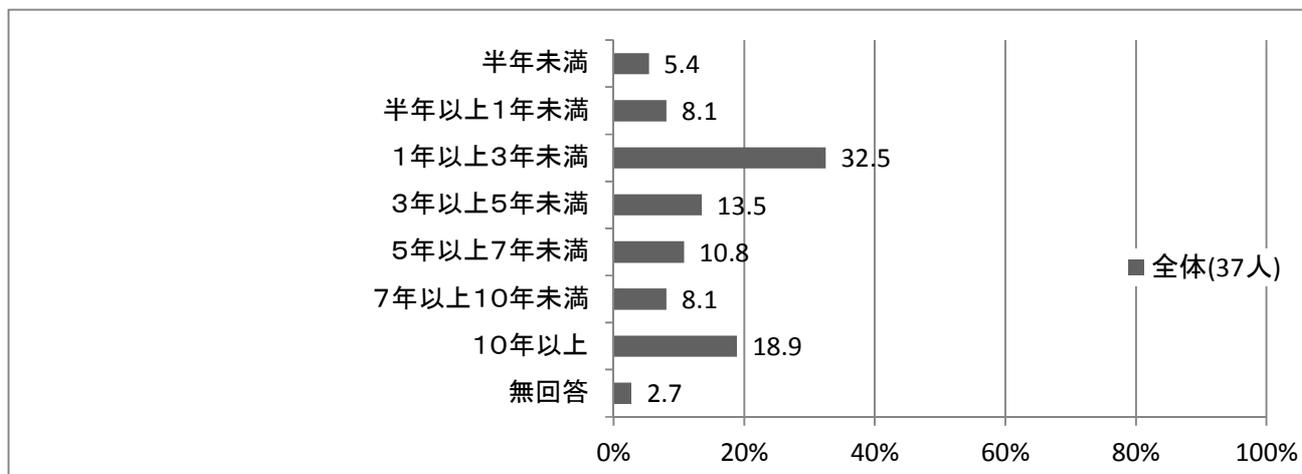
主に介護している方（※）の年齢は、「64歳以下」が59.5%と最も高く、次いで「75歳から79歳」が13.5%、「70歳から74歳」が8.1%、「85歳以上」が8.1%と続いています。



※施設の職員（ヘルパー、看護師等）、ホームヘルパー、その他を除きます。

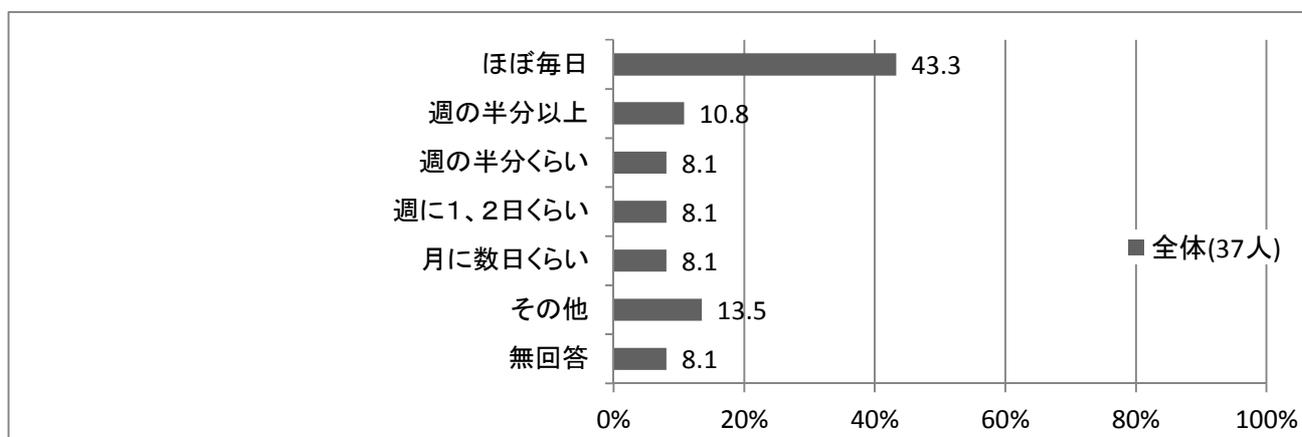
問6-3. 主に介護をしている方が、ご本人を介護してから現在までの期間は、どのくらいですか。(〇はひとつ)

「1年以上3年未満」が32.5%と最も高く、次いで「10年以上」が18.9%、「3年以上5年未満」が13.5%、「5年以上7年未満」が10.8%と続いています。



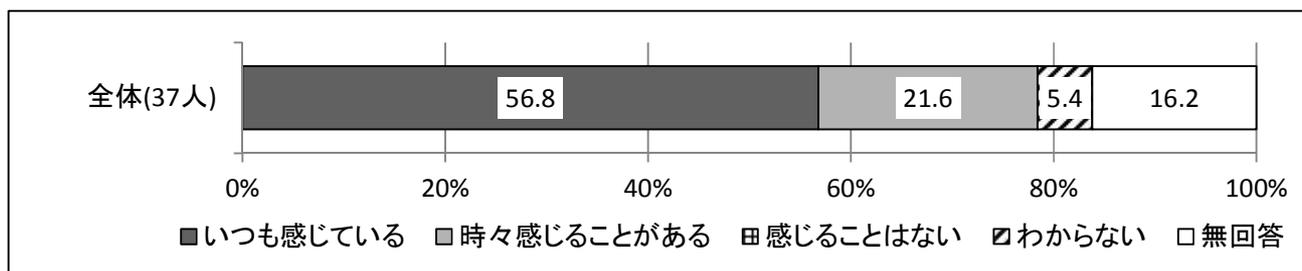
問6-4. どのくらいの頻度で介護をしていますか。(〇はひとつ)

「ほぼ毎日」が43.3%と最も高く、次いで「その他」が13.5%、「週の半分以上」が10.8%、「週の半分くらい」、「週に1、2日くらい」、「月に数日くらい」が同じく8.1%と続いています。



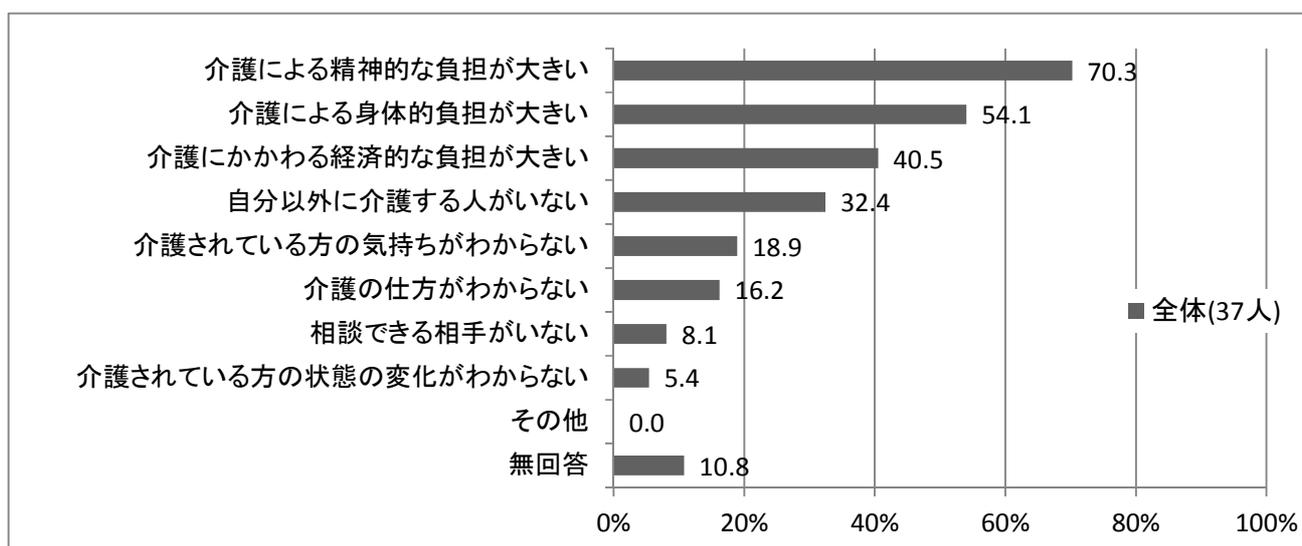
問6-5. 介護に負担や悩みを感じることはありますか。(〇はひとつ)

「いつも感じている」が56.8%と最も高く、「時々感じることもある」の21.6%を合わせると約80% (78.4%) となっています。



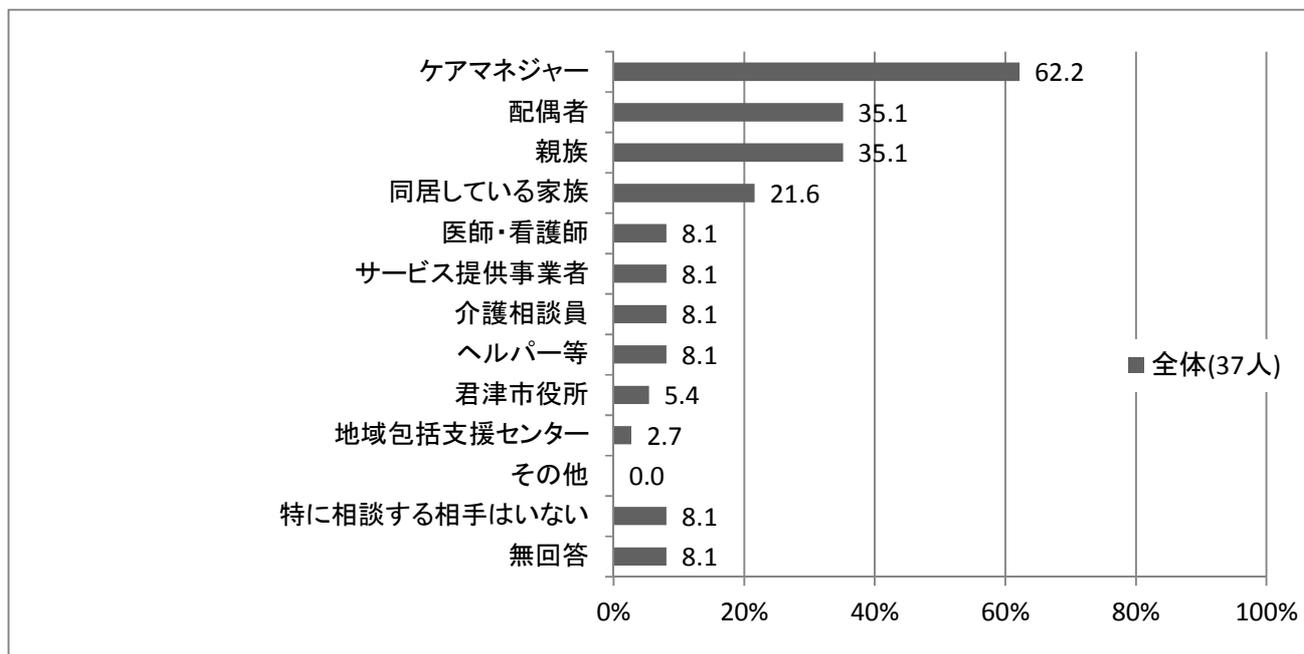
問6-5-1. どのようなことで、負担や悩みを感じるがありますか。(〇はいくつでも)

「介護による精神的な負担が大きい」が70.3%と最も高く、次いで「介護による身体的負担が大きい」が54.1%、「介護にかかわる経済的な負担が大きい」が40.5%、「自分以外に介護する人がいない」が32.4%と続いています。



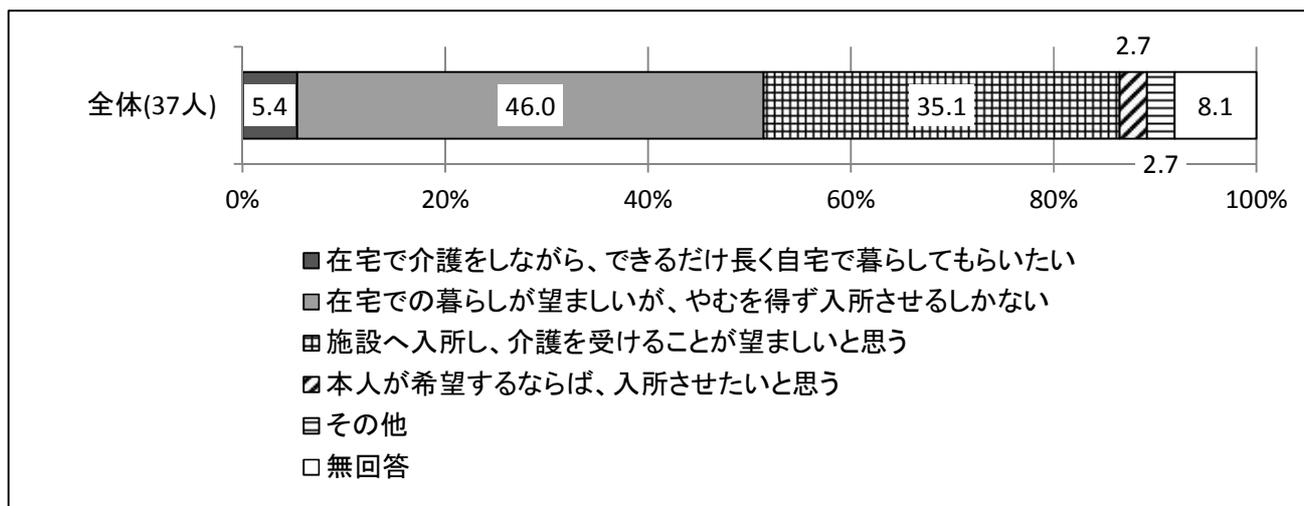
**問6-6. ご本人の介護にあたり、介護の悩みをどなた（どちら）に相談しますか。（〇は
いくつでも）**

「ケアマネジャー」が62.2%と最も高く、次いで「配偶者」が35.1%、「親族」が同じく35.1%、「同居している家族」が21.6%と続いています。



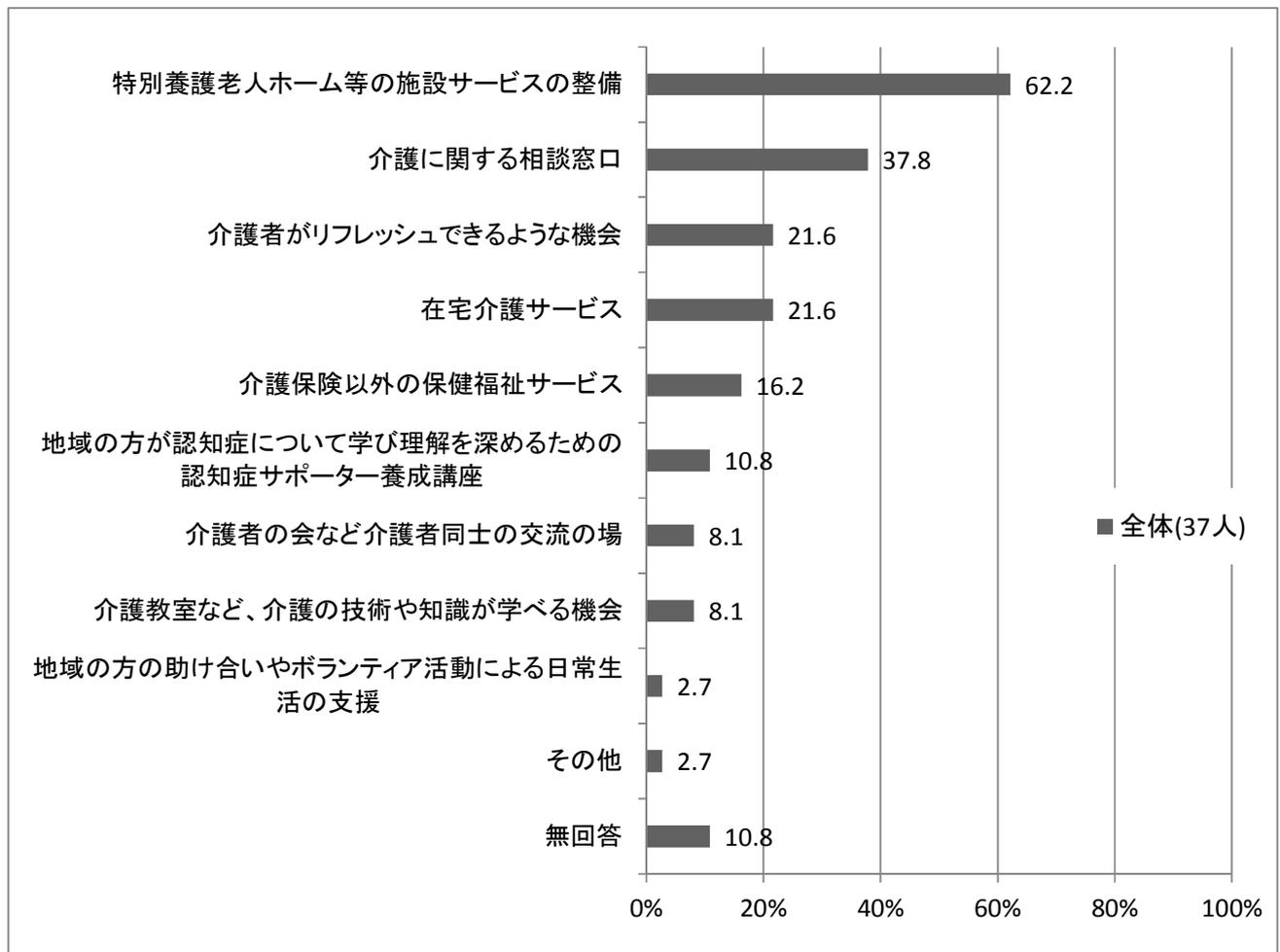
問6-7. 特別養護老人ホームへの入所についてどのように考えていますか。（〇はひとつ）

「在宅での暮らしが望ましいが、やむを得ず入所させるしかない」が46%と最も高く、次いで「施設へ入所し、介護を受けることが望ましいと思う」が35.1%、「在宅で介護をしながら、できるだけ長く自宅で暮らしてもらいたい」が5.4%と続いています。



問6-8. 介護をするなかで、充実を望むことは何ですか。(主なもの3つまで)

「特別養護老人ホーム等の施設サービスの整備」が62.2%と最も高く、次いで「介護に関する相談窓口」が37.8%、「介護者がリフレッシュできるような機会」が21.6%、「在宅介護サービス」が同じく21.6%と続いています。

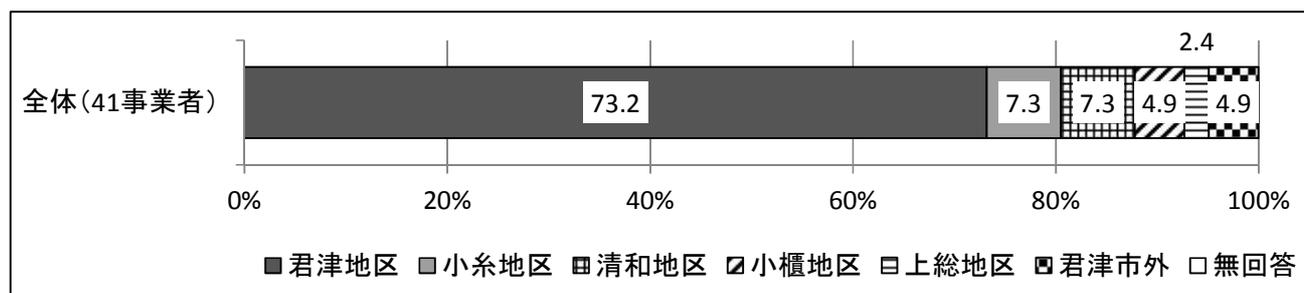


(4) 介護サービス事業者実態調査

問1 基礎情報について

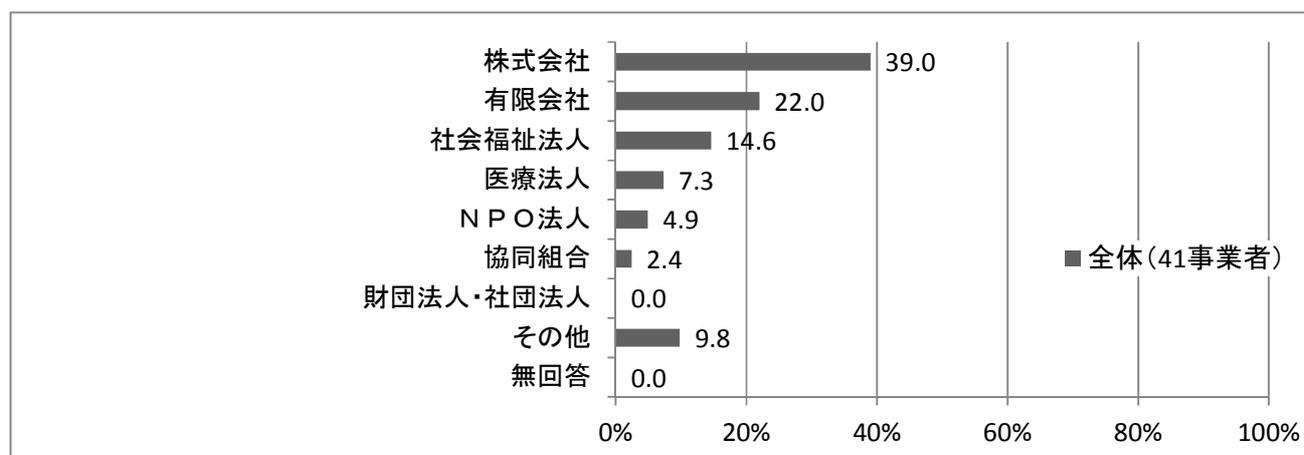
問1-1 貴事業者（法人等）の所在地をお聞きします。（〇はひとつ）

「君津地区」が73.2%と最も高く、次いで「小糸地区」が7.3%、「清和地区」が同じく7.3%、「小櫃地区」が4.9%、「上総地区」が2.4%で、「君津市外」が4.9%となっています。



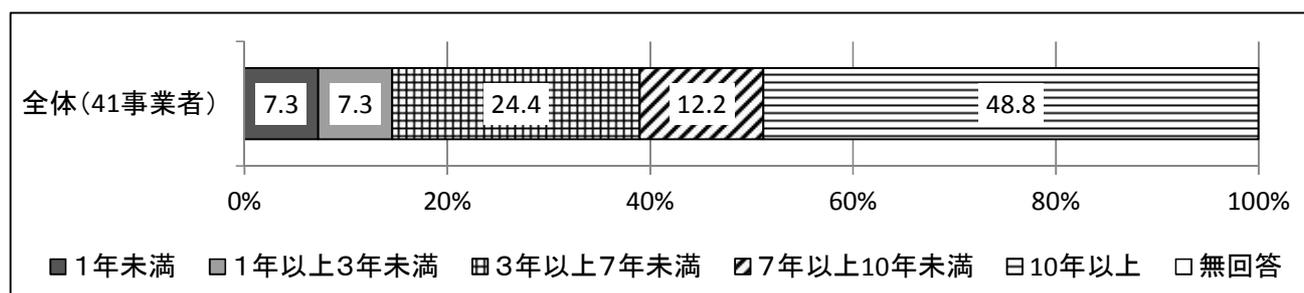
問1-2 貴事業者の運営主体をお聞きします。（〇はひとつ）

「株式会社」が39%と最も高く、次いで「有限会社」が22%、「社会福祉法人」が14.6%、「その他」が9.8%と続いています。



問1-3 介護サービスの運営年数はどれくらいですか。（〇はひとつ）

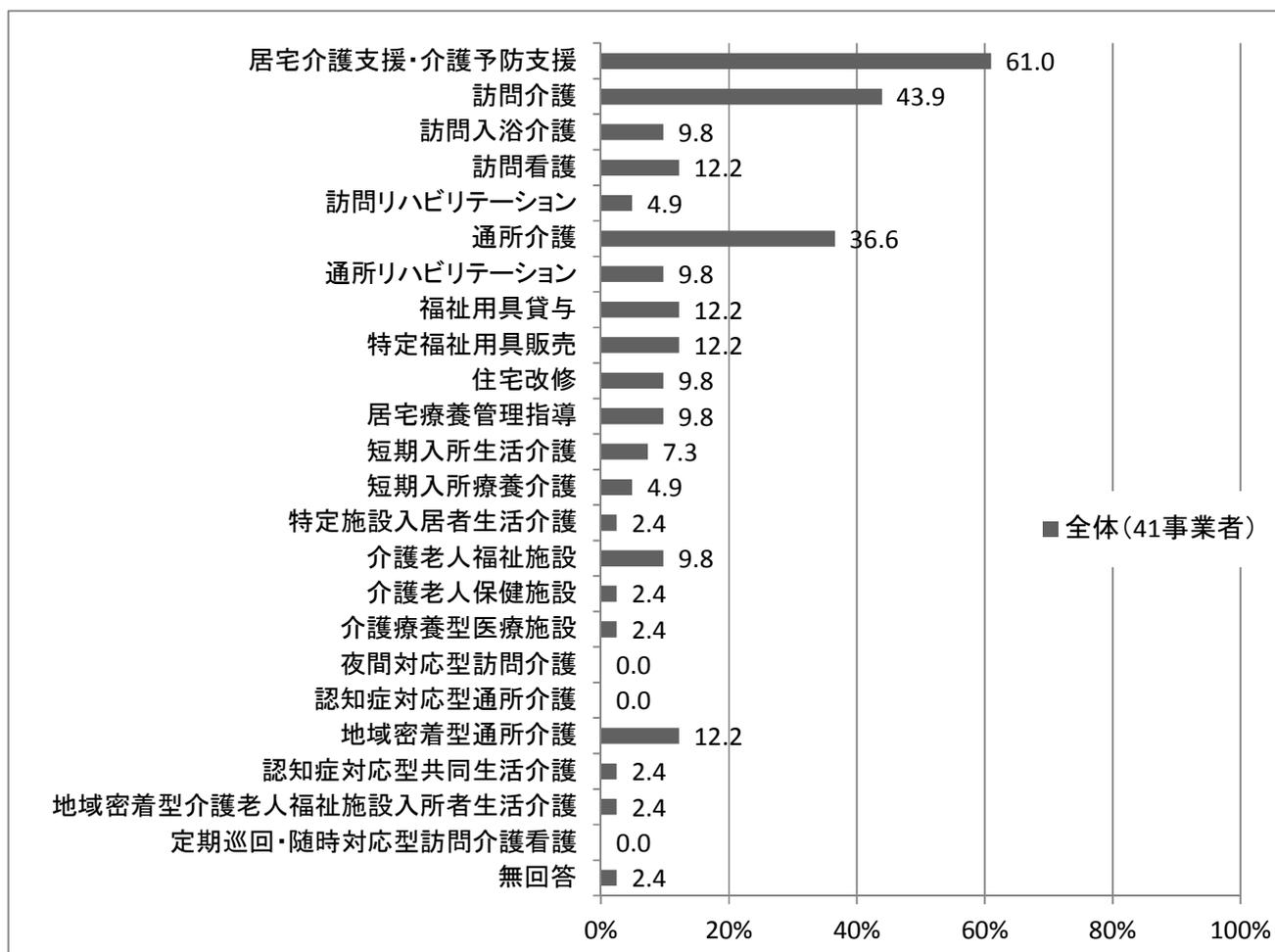
「10年以上」が48.8%と最も高く、次いで「3年以上7年未満」が24.4%、「7年以上10年未満」が12.2%、「1年未満」と「1年以上3年未満」が7.3%と続いています。



問2 介護サービス提供の現状と今後の意向について

問2-1 (1) 本市内で提供中の介護サービス

「居宅介護支援・介護予防支援」が61%と最も高く、次いで「訪問介護」が43.9%、「通所介護」が36.6%、「訪問看護」と「福祉用具貸与」、「特定福祉用具販売」、「地域密着型通所介護」が12.2%と続いています。



問 2-1 (2) 介護サービスを提供している地区

居宅介護支援・介護予防支援の「君津地区」が 23 と最も多く、居宅介護支援・介護予防支援の「小糸地区」が 15、訪問介護の「君津地区」が 14、居宅介護支援・介護予防支援の「清和地区」が 12、通所介護の「君津地区」が同じく 12 などとなっています。

サービス種別	事業者数	提供地区				
		君津地区	小糸地区	清和地区	小櫃地区	上総地区
居宅介護支援・介護予防支援	25	23	15	12	9	9
訪問介護	18	14	8	4	5	4
訪問入浴介護	4	3	3	1	2	1
訪問看護	5	3	3	2	2	1
訪問リハビリテーション	2	1	—	1	—	—
通所介護	15	12	7	5	2	2
通所リハビリテーション	4	3	1	2	1	1
福祉用具貸与	5	3	3	3	2	2
特定福祉用具販売	5	4	3	2	2	2
住宅改修	4	3	1	2	1	1
居宅療養管理指導	4	2	1	3	1	1
短期入所生活介護	3	3	1	—	—	—
短期入所療養介護	2	2	2	2	2	2
特定施設入居者生活介護	1	—	—	1	—	—
介護老人福祉施設	4	4	—	—	—	—
介護老人保健施設	1	1	1	1	1	1
介護療養型医療施設	1	1	1	1	1	1
夜間対応型訪問介護	—	—	—	—	—	—
認知症対応型通所介護	—	—	—	—	—	—
地域密着型通所介護	5	4	3	—	—	—
認知症対応型共同生活介護	1	1	1	1	—	1
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	1	—	—	—	—	1
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	—	—	—	—	—	—

単位：事業者

問 2-1 (3) 今後（平成 32 年度まで）の意向

「新設したい」は、居宅介護支援・介護予防支援、短期入所生活介護、介護老人福祉施設の各 1 サービスとなっており、「拡充したい」は、居宅介護支援・介護予防支援 4、訪問介護 8、訪問看護 5、居宅療養管理指導 3 など、合計で 36 サービスとなっています。

「縮小したい」は、居宅介護支援・介護予防支援、認知症対応型通所介護、地域密着型通所介護の各 1 サービス、「廃止したい」は、居宅介護支援・介護予防支援 2、通所介護 1 となっています。

サービス種別	新設 したい	拡充 したい	現状 維持	縮小 したい	廃止 したい	合計
居宅介護支援・介護予防支援	1	4	12	1	2	20
訪問介護	0	8	9	0	0	17
訪問入浴介護	0	2	1	0	0	3
訪問看護	0	5	1	0	0	6
訪問リハビリテーション	0	1	1	0	0	2
通所介護	0	1	9	0	1	11
通所リハビリテーション	0	2	1	0	0	3
福祉用具貸与	0	2	3	0	0	5
特定福祉用具販売	0	2	2	0	0	4
住宅改修	0	1	2	0	0	3
居宅療養管理指導	0	3	1	0	0	4
短期入所生活介護	1	0	3	0	0	4
短期入所療養介護	0	1	1	0	0	2
特定施設入居者生活介護	0	0	1	0	0	1
介護老人福祉施設	1	1	3	0	0	5
介護老人保健施設	0	1	0	0	0	1
介護療養型医療施設	0	0	1	0	0	1
夜間対応型訪問介護	0	0	0	0	0	0
認知症対応型通所介護	0	0	0	1	0	1
地域密着型通所介護	0	2	2	1	0	5
認知症対応型共同生活介護	0	0	0	0	0	0
地域密着型介護老人福祉施設 入所者生活介護	0	0	1	0	0	1
定期巡回・随時対応型訪問介護 看護	0	0	0	0	0	0
地域密着型特定施設入居者生活 介護	0	0	0	0	0	0
小規模多機能型居宅介護	0	0	0	0	0	0
看護小規模多機能型居宅介護 (複合型サービス)	0	0	0	0	0	0
療養通所介護	0	0	0	0	0	0
合計	3	36	54	3	3	99

問2-1(4) 今後の意向の理由

新設したい理由は、居宅介護支援・介護予防支援では、「需要が見込める」、「採算が取れる見込みがある」という理由があがっています。

【新設したい理由】

サービス種別	事業者数	理由				
		需要が見込める	採算が取れる見込みがある	現在の人材で対応が可能	現在の施設で対応が可能	無回答
居宅介護支援・介護予防支援	1	1	1	—	—	—
短期入所生活介護	1	—	—	—	—	1
介護老人福祉施設	1	—	—	—	—	1
合計	3	1	1	—	—	2

単位：事業者

拡充したい理由は、訪問看護をはじめ、「需要が見込める」という理由が最も多く、次いで「採算が取れる見込みがある」、「現在の人材で対応が可能」、「現在の施設で対応が可能」という理由があがっています。

【拡充したい理由】

サービス種別	事業者数	理由				
		需要が見込める	採算が取れる見込みがある	現在の人材で対応が可能	現在の施設で対応が可能	無回答
居宅介護支援・介護予防支援	4	2	—	—	—	2
訪問介護	8	1	1	—	—	6
訪問入浴介護	2	1	1	—	—	—
訪問看護	5	4	3	—	—	1
訪問リハビリテーション	1	—	—	—	—	1
通所介護	1	1	—	1	—	—
通所リハビリテーション	2	—	—	1	1	1
福祉用具貸与	2	1	1	—	—	1
特定福祉用具販売	2	1	1	—	—	1
住宅改修	1	1	1	—	—	—
居宅療養管理指導	3	2	—	—	—	1
短期入所療養介護	1	—	—	1	1	—
介護老人福祉施設	1	1	—	—	—	—
介護老人保健施設	1	—	—	1	1	—
地域密着型通所介護	2	1	—	2	1	—
合計	36	16	8	6	4	14

単位：事業者

縮小したい理由は、認知症対応型通所介護と地域密着型通所介護について、「採算がとれる見込みはない」という理由があがっています。

【縮小したい理由】

サービス種別	事業者数	理由			
		需要は見込めない	採算がとれる見込みはない	人材の確保が難しい	無回答
居宅介護支援・介護予防支援	1	—	—	1	—
認知症対応型通所介護	1	—	1	—	—
地域密着型通所介護	1	—	1	—	—
合計	3	—	2	1	—

単位：事業者

廃止したい理由は、居宅介護支援・介護予防支援と通所介護について、「人材の確保が難しい」という理由があがっています。

【廃止したい理由】

サービス種別	事業者数	理由			
		需要は見込めない	採算がとれる見込みはない	人材の確保が難しい	無回答
居宅介護支援・介護予防支援	2	1	1	1	—
通所介護	1	—	—	1	—
合計	3	1	1	2	—

単位：事業者

問 2-2 (1) 新設や拡充の予定年度

平成 29 年度に 3 サービス、平成 30 年度に 6 サービス、平成 31 年度に 3 サービスの新設や拡充の予定があがっています。

サービス種別	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
居宅介護支援・介護予防支援	1	2	—	—
訪問介護	1	2	—	—
訪問入浴介護	—	1	—	—
通所介護	—	—	1	—
福祉用具貸与	—	—	—	—
特定福祉用具販売	—	—	—	—
住宅改修	—	—	—	—
居宅療養管理指導	1	—	—	—
特定施設入居者生活介護	—	1	—	—
介護老人福祉施設	—	—	1	—
地域密着型通所介護	—	—	1	—
合計	3	6	3	—

単位：事業者

問 2-2 (2) 新設や拡充の規模

居宅サービスでは、平成 30 年度に居宅介護支援・介護予防支援などの利用者増があがっており、施設・居住系サービスでは、平成 30 年度に特定施設入居者生活介護 90、平成 31 年度に介護老人福祉施設 50 の定員増があがっています。

サービス種別	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
居宅介護支援・介護予防支援	1	155	—	—
訪問介護	1	20	—	—
訪問入浴介護	—	10	—	—
通所介護	—	—	10	—
福祉用具貸与	—	—	—	—
特定福祉用具販売	—	—	—	—
住宅改修	—	—	—	—
居宅療養管理指導	10	—	—	—
特定施設入居者生活介護	—	90	—	—
介護老人福祉施設	—	—	50	—
地域密着型通所介護	—	—	10	—

単位：人（月当たりの延利用者数や定員の概算）

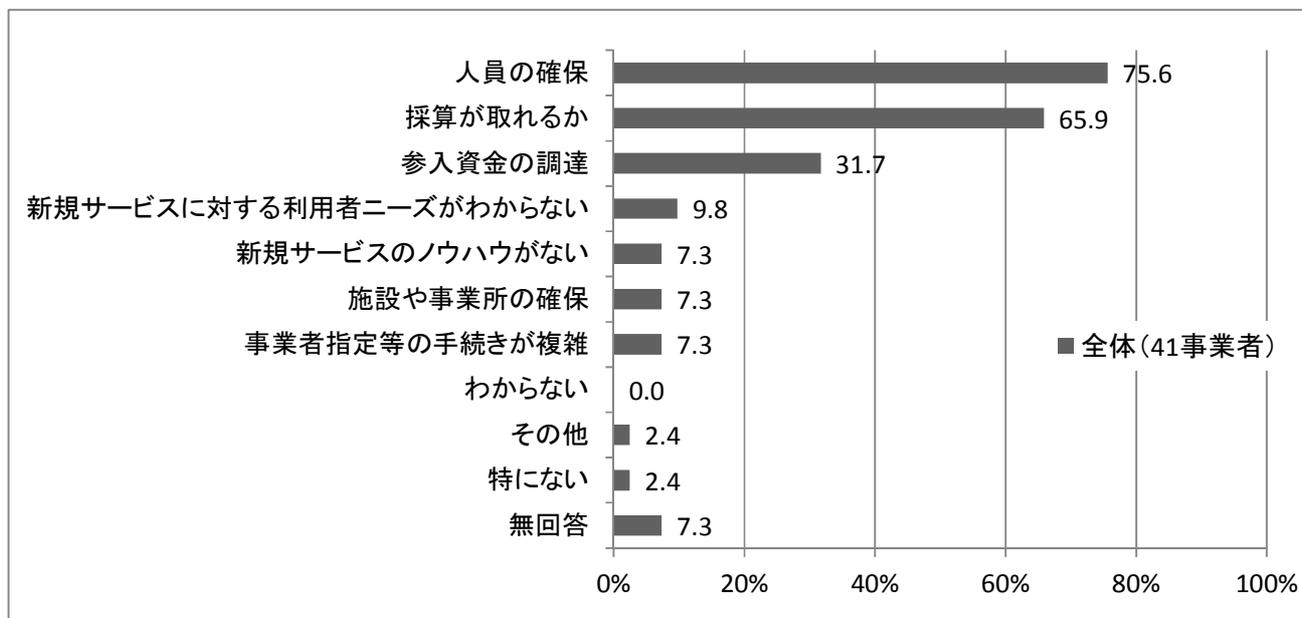
問 2-2 (3) 新設や拡充の予定地区

居宅サービスでは、居宅介護支援・介護予防支援が小櫃地区に3サービス、訪問介護が小櫃地区と上総地区に各3サービスなどがあがっており、施設・居住系サービスでは、特定施設入居者生活介護が清和地区に、介護老人福祉施設の小櫃地区への新設計画があがっています。

サービス種別	君津地区	小糸地区	清和地区	小櫃地区	上総地区
居宅介護支援・介護予防支援	1	1	1	3	2
訪問介護	2	2	2	3	3
訪問入浴介護	1	1	1	1	1
通所介護	1	1	0	0	0
福祉用具貸与	1	1	1	1	1
特定福祉用具販売	1	1	1	1	1
住宅改修	1	1	1	1	1
居宅療養管理指導	1	1	1	1	1
特定施設入居者生活介護	0	0	1	0	0
介護老人福祉施設	0	0	0	1	0
地域密着型通所介護	1	1	0	0	0

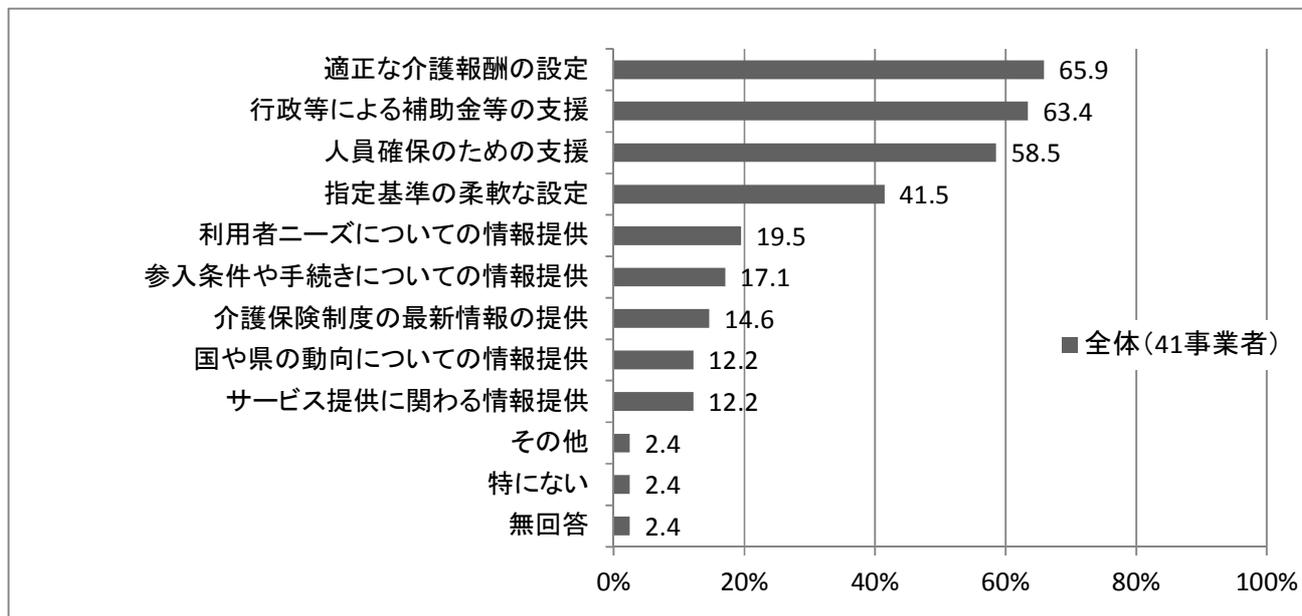
問 2-3 新規事業に参入する際に課題となることは何ですか。(〇はいくつでも)

「人員の確保」が75.6%と最も高く、次いで「採算が取れるか」が65.9%、「参入資金の調達」が31.7%、「新規サービスに対する利用者ニーズがわからない」が9.8%と続いています。



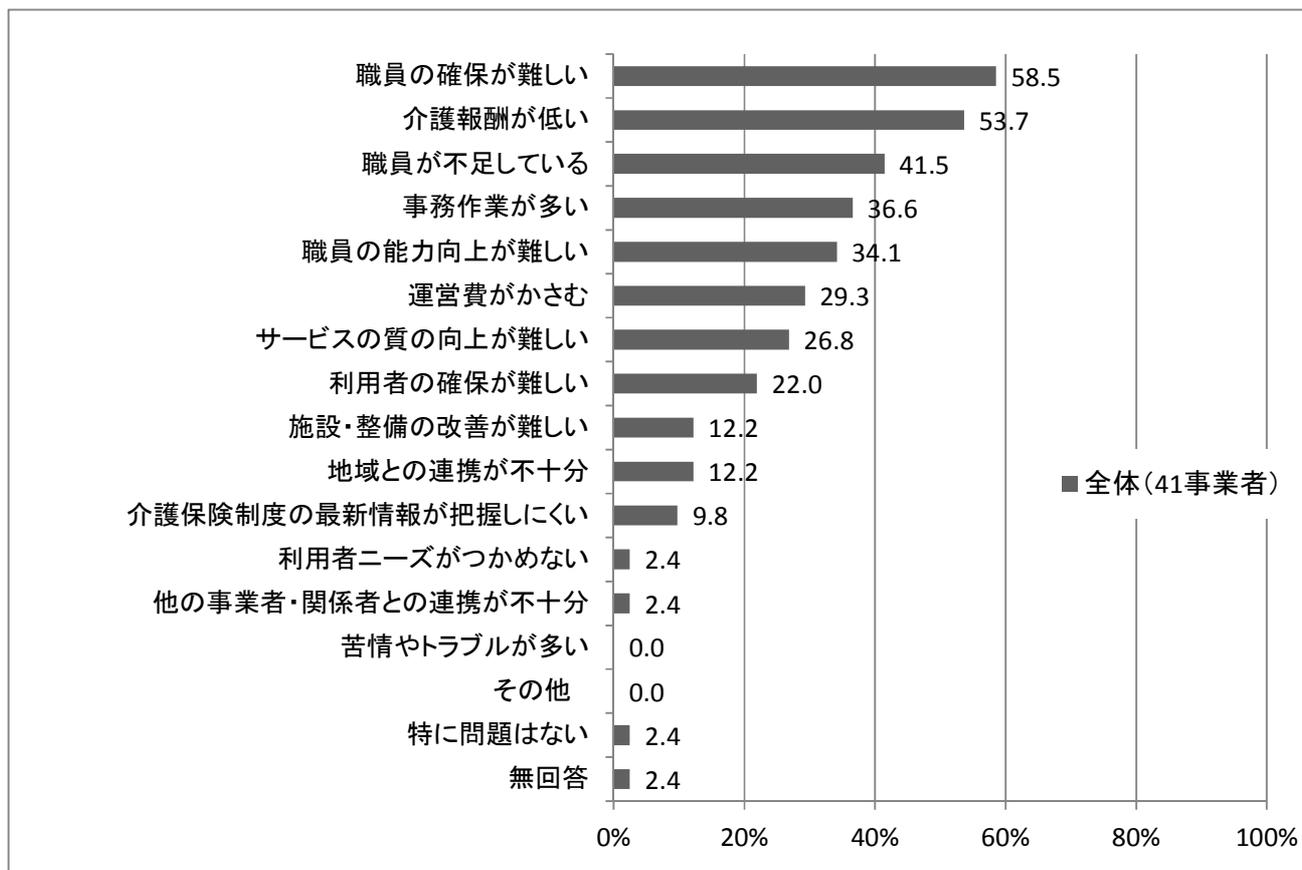
問2-4 新たに介護サービスの新設をすることを考えた場合、どのような支援があると良いと思いますか。(〇はいくつでも)

「適正な介護報酬の設定」が65.9%と最も高く、次いで「行政等による補助金等の支援」が63.4%、「人員確保のための支援」が58.5%、「指定基準の柔軟な設定」が41.5%と続いています。



問2-5 事業を運営するうえで問題となっていることは何ですか。(〇はいくつでも)

「職員の確保が難しい」が58.5%と最も高く、次いで「介護報酬が低い」が53.7%、「職員が不足している」が41.5%、「事務作業が多い」が36.6%と続いています。

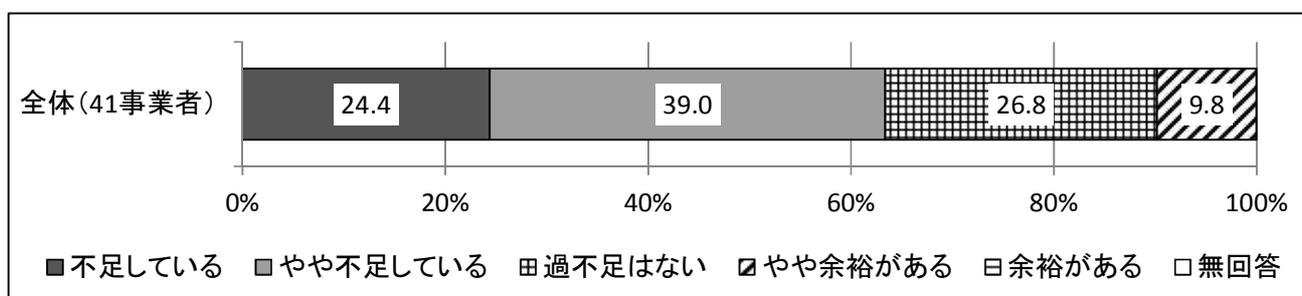


問3 職員について

問3-1 職員数の過不足を感じていますか。(〇はひとつ)

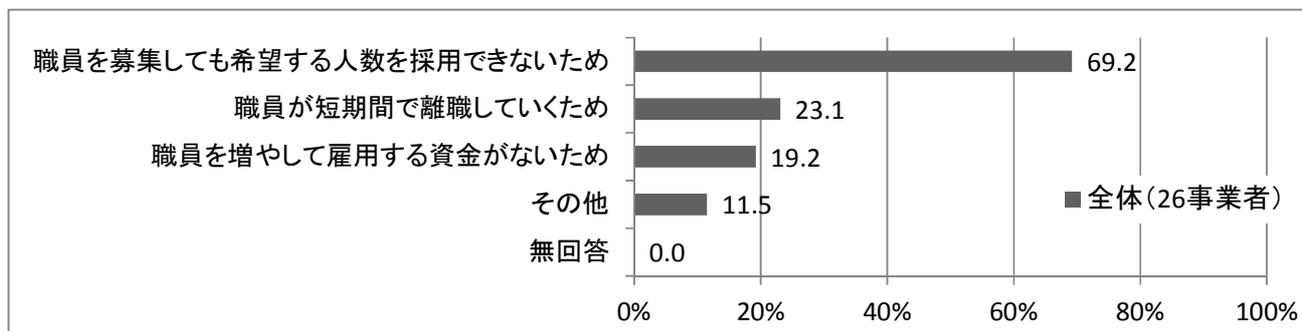
「やや不足している」が39%と最も高く、「不足している」の24.4%を合わせると60%以上(63.4%)となっています。

「過不足はない」が26.8%、「やや余裕がある」が9.8%となっています。



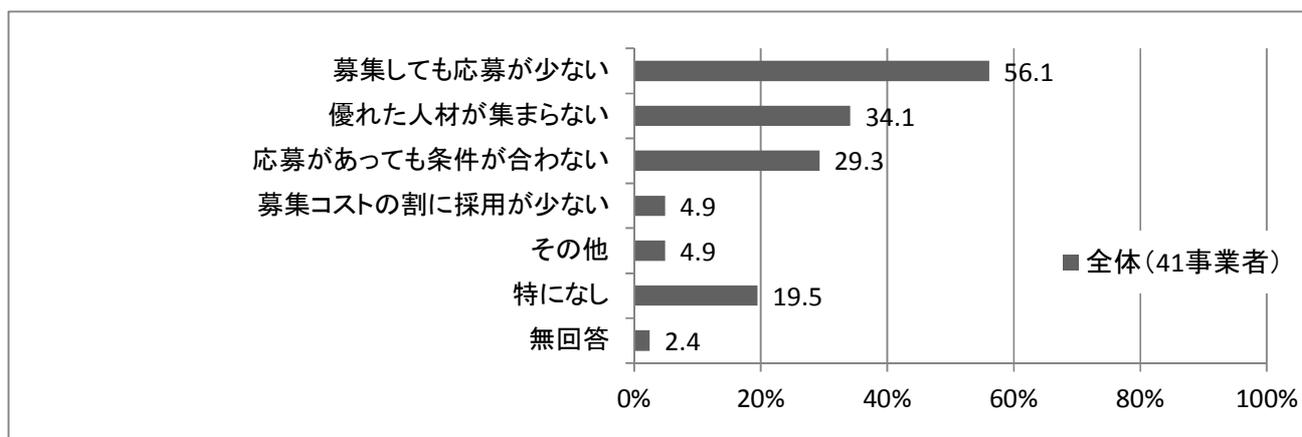
問3-2 職員数が不足している主な理由は何ですか。(〇はいくつでも)

「職員を募集しても希望する人数を採用できないため」が69.2%と最も高く、次いで「職員が短期間で離職していくため」が23.1%、「職員を増やして雇用する資金がないため」が19.2%と続いています。



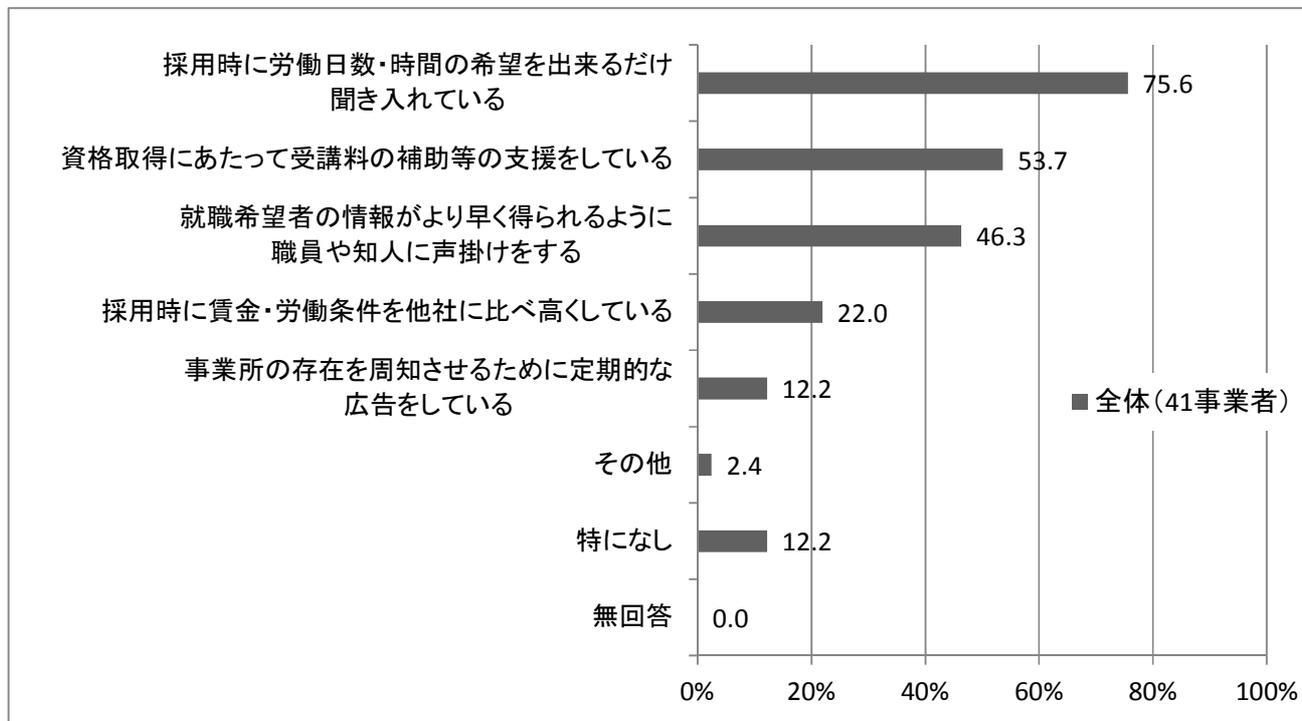
問3-3 職員を新たに確保する際に課題になっていることはありますか。(〇はいくつでも)

「募集しても応募が少ない」が56.1%と最も高く、次いで「優れた人材が集まらない」が34.1%、「応募があっても条件が合わない」が29.3%、「特になし」が19.5%と続いています。



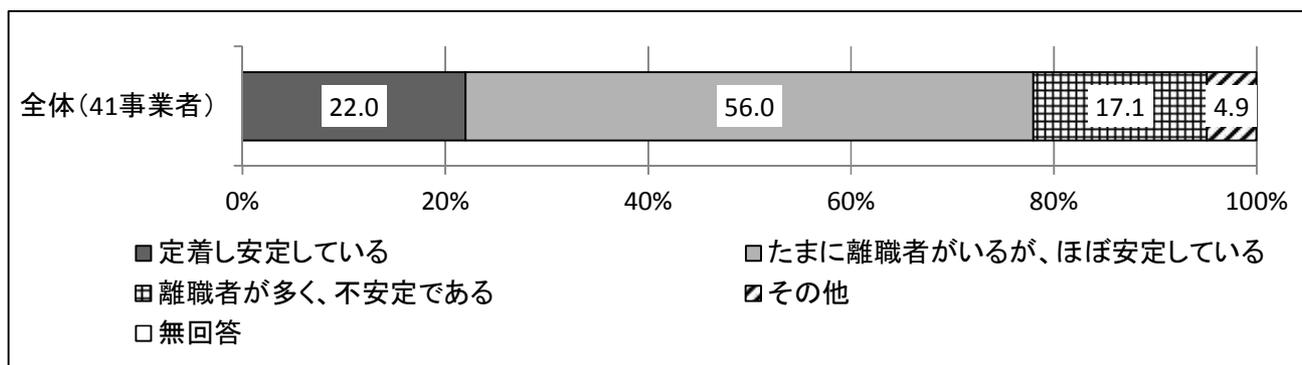
問3-4 人材確保に向けた取り組みを行っていますか。(〇はいくつでも)

「採用時に労働日数・時間の希望を出来るだけ聞き入れている」が75.6%と最も高く、次いで「資格取得にあたって受講料の補助等の支援をしている」が53.7%、「就職希望者の情報がより早く得られるように職員や知人に声掛けをする」が46.3%、「採用時に賃金・労働条件を他社に比べ高くしている」が22%と続いています。



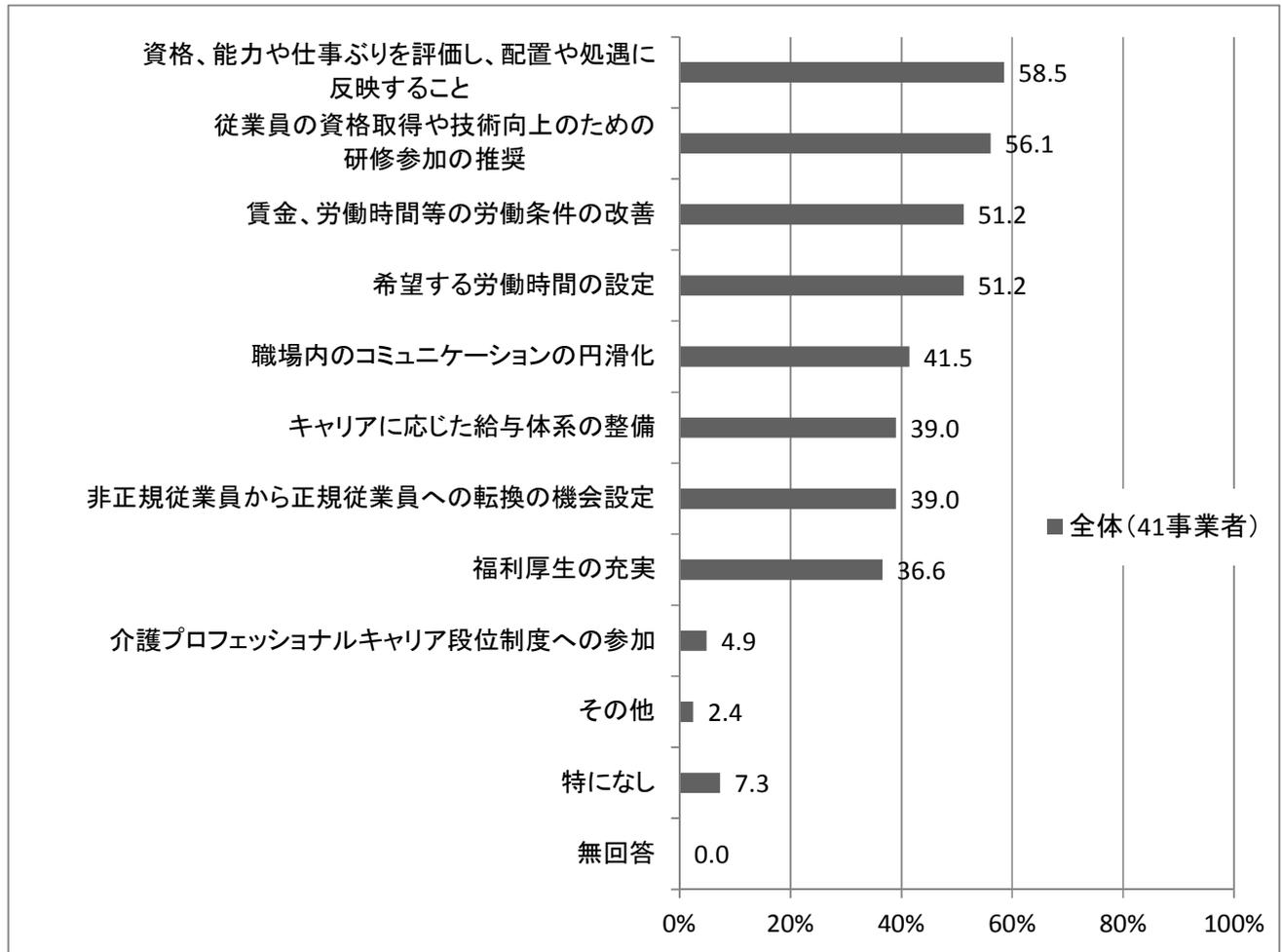
問3-5 職員の定着についてどのような状況ですか。(〇はひとつ)

「たまに離職者がいるが、ほぼ安定している」が56%と最も高く、次いで「定着し安定している」が22%、「離職者が多く、不安定である」が17.1%と続いています。



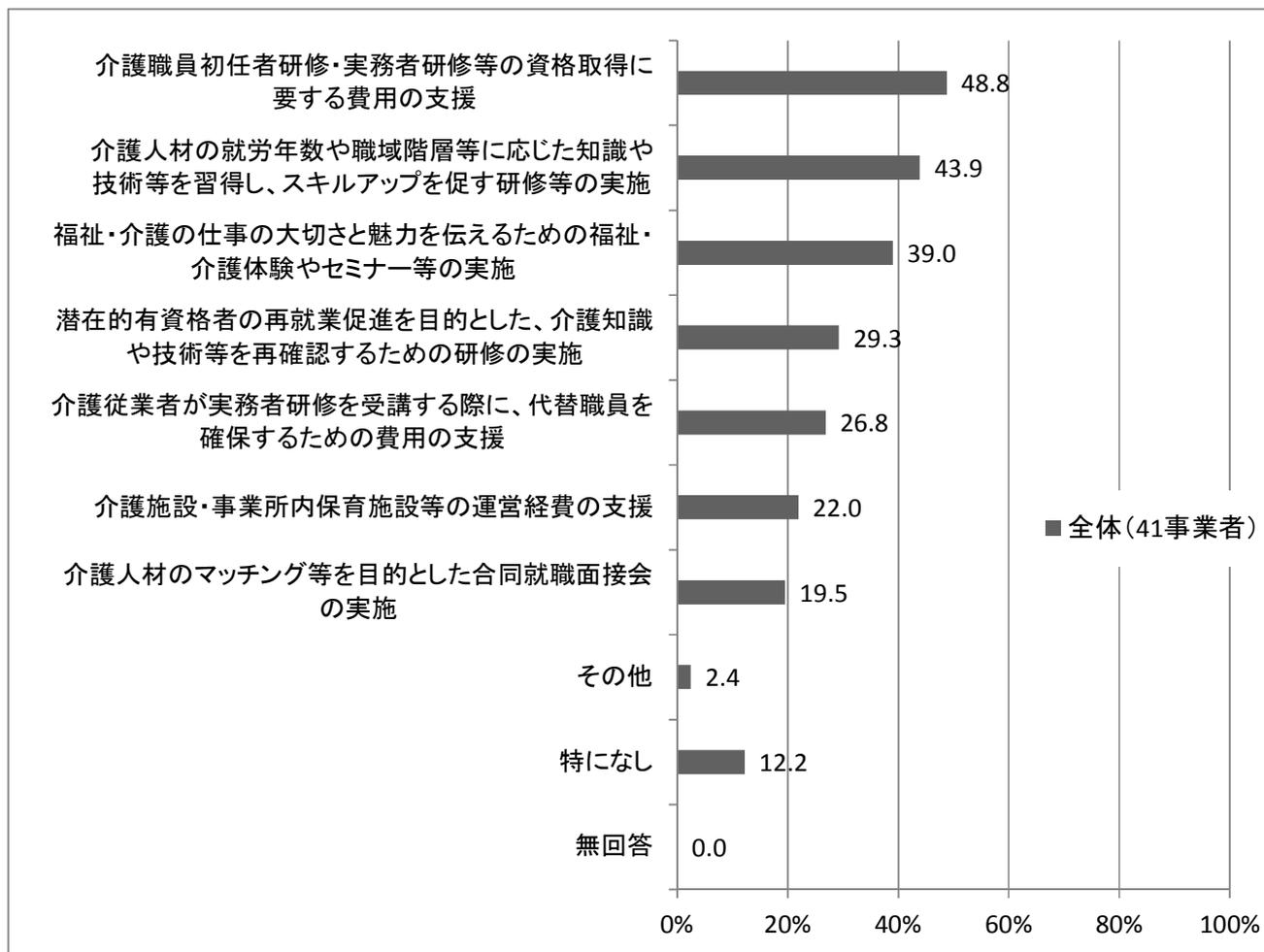
問3-6 職員を定着させるために取り組んでいることは何ですか。(〇はいくつでも)

「資格、能力や仕事ぶりを評価し、配置や処遇に反映すること」が58.5%と最も高く、次いで「従業員の資格取得や技術向上のための研修参加の推奨」が56.1%、「賃金、労働時間等の労働条件の改善」が51.2%、「希望する労働時間の設定」が同じく51.2%と続いています。



問3-7 介護人材の確保や定着などに向けて、行政からどのような支援があると良いと思いますか。(〇はいくつでも)

「介護職員初任者研修・実務者研修等の資格取得に要する費用の支援」が48.8%と最も高く、次いで「介護人材の就労年数や職域階層等に応じた知識や技術等を習得し、スキルアップを促す研修等の実施」が43.9%、「福祉・介護の仕事の大切さと魅力を伝えるための福祉・介護体験やセミナー等の実施」が39%、「潜在的有資格者の再就業促進を目的とした、介護知識や技術等を再確認するための研修の実施」が29.3%と続いています。



問4 君津市の介護サービス・高齢者向け福祉施策について

問4-1 (1) 不足しているまたは今後不足と感じている介護サービス

「訪問介護」が39%と最も高く、次いで「訪問看護」が31.7%、「短期入所生活介護」が26.8%、「夜間対応型訪問介護」が26.8%、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」が同じく26.8%と続いております。訪問系のサービスのほか、24時間や夜間対応のサービスが上位にあがっています。



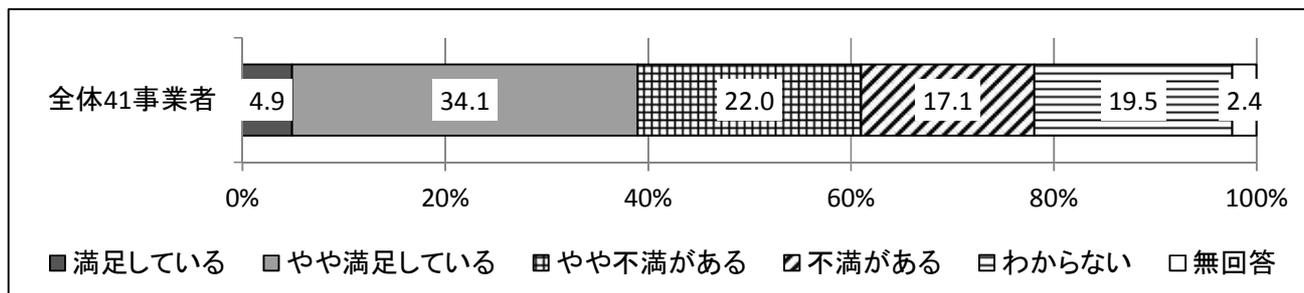
問４－１（２）不足しているまたは今後不足すると感じている地区

訪問看護の「小櫃地区」や「上総地区」、「清和地区」、夜間対応型訪問介護の「清和地区」や「小櫃地区」、看護小規模多機能型居宅介護（複合型サービス）の「清和地区」や「小櫃地区」などが、比較的多くの事業者があげたサービス・地区となっています。

サービス種別	君津地区	小糸地区	清和地区	小櫃地区	上総地区
訪問介護	4	3	5	4	2
訪問看護	8	7	9	11	11
短期入所生活介護	1	2	4	4	3
夜間対応型訪問介護	5	4	9	9	8
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	3	3	5	5	4
ボランティア等による見守り	1	1	3	4	4
居宅介護支援・介護予防支援	2	4	5	5	3
訪問リハビリテーション	1	1	1	1	1
通所介護	1	1	1	1	1
小規模多機能型居宅介護	1	1	1	1	1
配食サービス	2	2	2	2	2
通所リハビリテーション	4	5	6	7	6
認知症対応型共同生活介護	4	3	3	2	2
訪問型サービスA（緩和した基準）	3	2	2	2	2
訪問型サービスD（移動支援）	4	3	3	3	3
短期入所療養介護	4	2	3	3	2
介護老人保健施設	3	2	2	2	2
看護小規模多機能型居宅介護（複合型サービス）	6	5	9	9	8
療養通所介護	1	2	4	4	4
訪問型サービスB（住民主体による支援）	2	2	3	3	3
訪問型サービスC（短期集中予防サービス）	5	3	4	4	4
通所型サービスA（緩和した基準）	2	2	4	3	3
通所型サービスB（住民主体による支援）	7	4	7	7	6
訪問入浴介護	2	2	3	3	3
介護老人福祉施設	7	3	3	3	3
介護療養型医療施設	5	2	2	2	2
認知症対応型通所介護	3	1	2	2	2
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	4	3	4	5	5
通所型サービスC（短期集中予防サービス）	4	3	3	4	4
居宅療養管理指導	4	3	3	3	4
特定施設入居者生活介護	4	3	3	4	5
地域密着型通所介護	3	2	3	3	4
地域密着型特定施設入居者生活介護	4	3	3	4	4
福祉用具貸与	4	3	3	3	3
特定福祉用具販売	6	3	3	5	4
住宅改修	9	5	4	5	5
その他	—	—	—	—	—

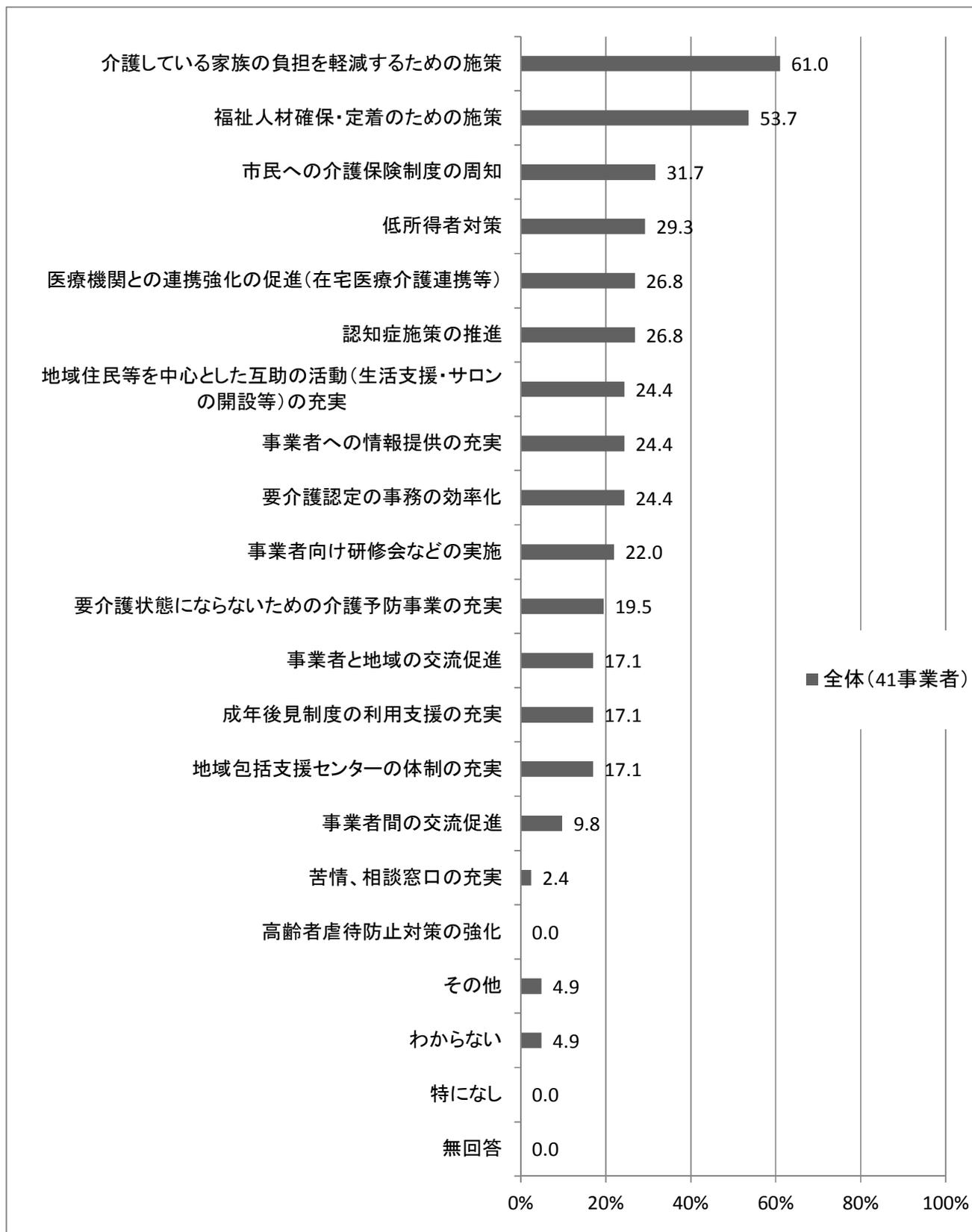
問4-2 君津市の高齢者向け福祉施策をどのように評価していますか。(〇はひとつ)

「やや満足している」が34.1%と最も高く、「満足している」の4.9%を合わせると満足率は39%となっており、「やや不満がある」(22%)と「不満がある」(17.1%)の合計(39.1%)と拮抗しています。



問4-3 今後の君津市の高齢者向け福祉施策に必要なことはどのようなことだと考えていますか。(特に必要と思われること5つまでに○)

「介護している家族の負担を軽減するための施策」が61%と最も高く、次いで「福祉人材確保・定着のための施策」が53.7%、「市民への介護保険制度の周知」が31.7%、「低所得者対策」が29.3%と続いています。



問5 地域包括ケアシステムの構築に向けた課題について

問5-1 地域包括ケアシステムの構築に向けて、取り組むべき課題-1 医療・介護の連携強化

- 個人情報関連
- 医療とのスピーディーな情報の共有
- ご利用者の入院時に地域生活連携シートで在宅での様子を医療機関にお伝えするが、退院時に入院中の情報を頂けない医療機関がある。
- 地域の各サービス事業者・事業所の特色等についての情報を持たず、ただ地域のケアマネジャーに丸投げして済まそうとするメディカルソーシャルワーカーが増えているように感じる。医師は「忙しいのは自分達」だから福祉側で時間を合わせる様にとよく言います。看護師には主導権を持たないと気が済まない方が時々いる。
- ベッドが空いているが、緊急の対応ができない病院がある。診療科が減ってきている。
- 今後最も必要な課題と思う。
- 医療、介護関係者両方が出席できる共同の研修会等があれば日ごろから関係が持てて良いと思う。
- 在宅で看取りができる体制を整えてほしい。かかりつけ医師が少ないので不安がある。
- 介護保険に理解のある医師とない医師の差が大きい、介護と医療の交流の機会が必要
- 在宅医療の不足
- 往診可能な医療機関は増えているが、夜間や緊急時対応がなかなかできないのが現状、24時間対応の医療機関の充実
- 連携のための専門職の不足
- 地域的に高齢、老々独居の家庭が多くなっている中で、身近（近所）に相談できる横の関係がないため、利用の方法、手段等が解らないのが現実
- 医療連携強化のためには、地域ケア会議への医師の参加は不可欠。また、ケアマネと医師の連携強化が医療と介護の連携強化のための第一段階となる。
- 医療、介護の連携強化、研修会等を通して顔を合わせる機会をもつ。

問5-1 地域包括ケアシステムの構築に向けて、取り組むべき課題-2 介護サービスの充実強化

- 将来的に安定した人材確保ができるのか。
- 定期巡回・随時対応型訪問介護看護、小規模多機能型居宅介護などの情報が乏しくサービスを導入することに戸惑っている。
- 何故行政が未だに「ベッド数」で考えているのか理解できない。「在宅」ではなく「施設への隔離」をしていく方向で考えているのか。
- 介護職の人材不足、訪問介護事業所の不足
- 認知症のデイの利用など1対1の対応が必要なサービスの提供ができる。
- 必要ではあるが運営していくうえで採算が取れなければ事業所としては成り立たないので事業者にとっては消極的にならざるを得ないのではないか。
- 未だイメージがわいてこないので利用者への説明が難しい。
- 定期巡回・随時対応型訪問介護看護、小規模多機能型居宅介護等、使いたくても事業者が少なすぎる。透析の需要が多すぎて介護タクシーが足りない。
- 小規模多機能型居宅介護が必要

- 地域での定期巡回・随時対応型訪問介護看護及び小規模多機能型居宅介護の提供施設が少なく選べない。
- 定期巡回・随時対応型訪問介護看護等のサービス事業者の不足

問5-1 地域包括ケアシステムの構築に向けて、取り組むべき課題-3 介護予防の推進

- 人員基準等の緩和
- 重度化したほうが、介護報酬が上がる体系の見直し。ワンパターンな体操教室メニューの見直し。外出機会を増やすため、高齢者等のバス無償化。ルート再検討
- 体操教室やサロンなどを増やす。送迎の支援
- 予防の利用者の採算が合わない。
- 本人・家族の認識が十分であるとは言い難い。家族の関わり方で寝たきりに進むケースも少なくはないのではないかと思う。
- 市により差がある。
- 高齢者が趣味を楽しめるようなサークルや今までにないデイサービスがあれば良い。(決まったような体操、ゲーム、カラオケばかりでなく、比較的しっかりした人でも楽しめる内容)
- 介護の相談窓口、認知症カフェなどの設置
- 地域の人達も仕事柄その役目も思うにまかせない様子。この現況を考えるとやはりお隣さん単価で情報把握ができてそれを気軽に相談できる様な流れ、システムを作ってほしいと思う。ここに項目としてあげられた内容はすべて求めているものであり、ひとつひとつピックアップできるものではない。全部につながりがある。
- 健康体操等が浸透しているが、継続する手段を考えないと自然消滅する心配がある。

問5-1 地域包括ケアシステムの構築に向けて、取り組むべき課題-4 多様な担い手による生活支援サービスの提供

- 安定したサービス提供に不安があるため、ケアプランには組み入れることができていない。
- (施設内ではなく) 在宅ボランティア等の時間を自ら将来的なケアを受ける時間として貯めていけるボランティア通帳の発行
- 担い手の育成、サービス提供のシステム化
- 地域にボランティアが少ない。色々なニーズに対応できない。
- 補助金・助成金などの整備 (NPO など資金はほぼ無い、銀行からの融資を受けても額が少ない。採算がとれなければ維持もできない。他県での情報も知りたい)
- 情報もれの心配がある。
- 担い手の高齢化、若い人が就労のため不在
- 外出支援、高齢者の行きたい場所 (病院、買い物) に絞って乗り合いサービスができないか。日中独居の方の見守りが欲しい。
- ボランティア等の生活支援サービスを積極的に活用したい。介護サービスではなくヘルパー資格を持ってなくても参加できる体制を整えてほしい。
- 元気な高齢者、団塊の世代をボランティアに誘う。ボランティアの担い手の養成
- NPO やボランティア等でどれだけの支援がしてもらえるのか。

- 介護保険では対応できないサービス（生活支援）が多く、利用者のニーズに応えられない。自己負担でも安くサービスを受けられる体制が必要
- 市街地の高齢者が社会参加しやすいシステムの構築
- 特養等を経営する社会福祉法人が積極的に関与すべきと思う。日中稼働しないデイサービスの車両による移送サービス等、できることはたくさんある。

問5-1 ②地域包括ケアシステムの構築に向けて、取り組むべき課題-5 高齢期になっても住み続けることのできるバリアフリーの高齢者の住まいの整備

- 補助金等の充実
- 多額の工事代をかけてもご本人のニーズに合わず結局あまり役に立たないこともよくある。ご本人にとって何が必要なのかの判断を誤って、かえって身体機能や活動性を落としてしまわぬよう留意。デンマークのように見せかけの「施設ゼロ」に向かってしまわぬよう日本人のご本人の考え方に立ち帰って考えることが重要
- 経済的な問題、・補助金の支援
- 近隣の助け合いほか、見守りシステムの構築（旧5人組のようなもの）
- 築年数の経っている日本家屋をバリアフリーにするには20万円ではとても無理
- 人材不足
- 同居家族が居る場合は可能であるが、ひとり暮らしの人にとっては？。
- 住宅ももちろんだが、市街地を車イスで行こうと思ったら障害が多すぎる。段差、狭さ等。
- サービス高齢者住宅は、訪問介護や通所介護を併設しているため、過剰にサービスを使う傾向になっている恐れがある。
- サ高住への支援の必要性
- 年収によりサ高住に入所できない人はどうすれば良いのか。

問6 その他君津市の介護保険・福祉行政へのご意見

問6 その他君津市の介護保険・福祉行政に関して、ご意見などありましたら、自由にお書きください

- 公共施設を統合して便利な地域を作り、住みたくなるような施策をしないと老人ばかりの地域になってしまう。
- 介護認定において審査会の合議体によって判定にばらつきがあるのではと感じるときもある。
- 利用者本位を貫き通せる地域にしたい。地域の潜在的マンパワーをもっともっと探し出し活用していきたいと思っている。
- 人材の確保のため、市等で低額で資格を取得できるようにしてほしい。
- 介護が必要な高齢者は増える、しかし介護するヘルパーまたは介護士が年々減少している。これでは今後福祉施設に対抗できない、市がヘルパー、介護士の学校を設立してほしいと思う。
- 望む人に必要なものだけを提供することが大切。それが“自分らしい人生を最後まで”につながる。医療、介護を押し付けないようにしたい。
- コンパクトシティを目指すべきではないか。

- 介護職の不足により訪問介護が思うように支援ができていない。特に生活支援（買い物）が、支援することが足りていない。また、低収入の認知症高齢者は在宅にいるしかないのか。
- お隣さん、ご近所さんと各々が安否確認、情報収集し問題が発したら、すぐ関係部署に繋げる、その手段、方法を各自治会単位で行政の側から道しるべを構築してほしい。

問7 介護予防・日常生活支援総合事業について（訪問型サービス）

問7-1（1）介護予防訪問介護（※）（要支援1、2）の利用者数

問7-1（2）（1）のうち、サービス内容に、身体介護が含まれている利用者数

問7-1（3）（1）のうち、訪問介護員による専門的な介護が必要と認められる利用者数

介護予防訪問介護（要支援1、2）の利用者数は合計で158人となっており、うち、サービス内容に、身体介護が含まれている利用者数は56人（35.4%）、うち、訪問介護員による専門的な介護が必要と認められる利用者数は12人（7.6%）となっています。

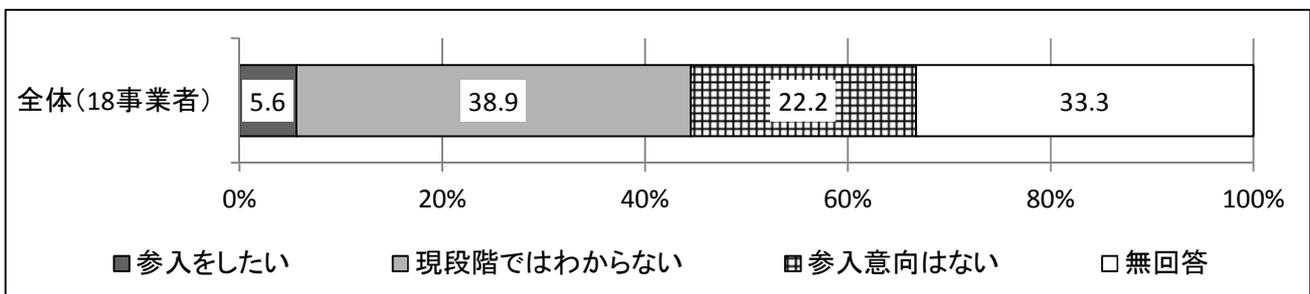
区分	介護予防訪問介護（要支援1、2）の利用者数		
		うち、サービス内容に、身体介護が含まれている利用者数	うち、訪問介護員による専門的な介護が必要と認められる利用者数
合計	158	56 (35.4%)	12 (7.6%)
1事業者平均	13	5	1

単位：人

※ 介護予防・日常生活支援総合事業の訪問型サービスを含みます。

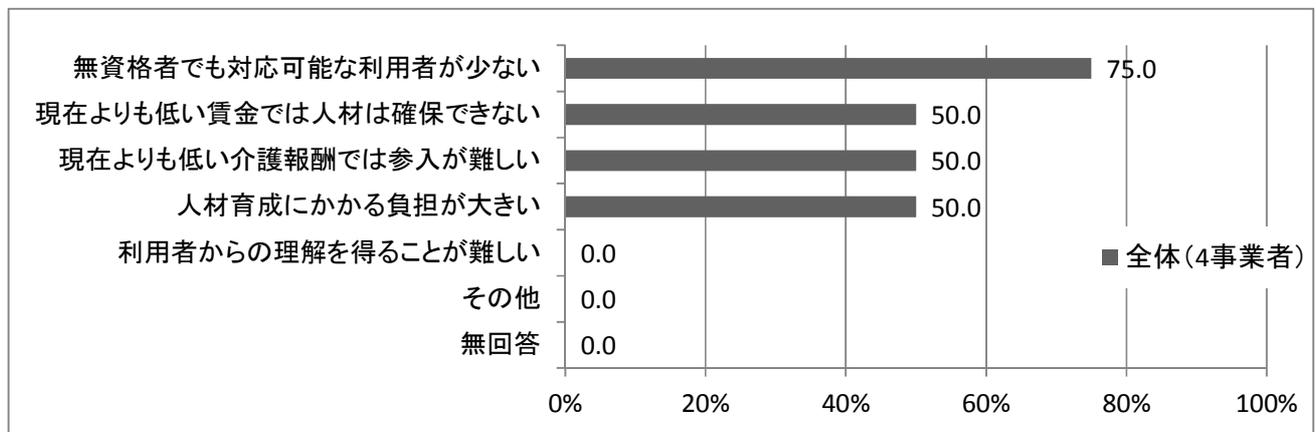
問7-2（1）「訪問型サービスA」への参入の意向について（〇はひとつ）

「現段階ではわからない」が38.9%と最も高く、次いで「参入意向はない」が22.2%、「参入をしたい」が5.6%となっています。



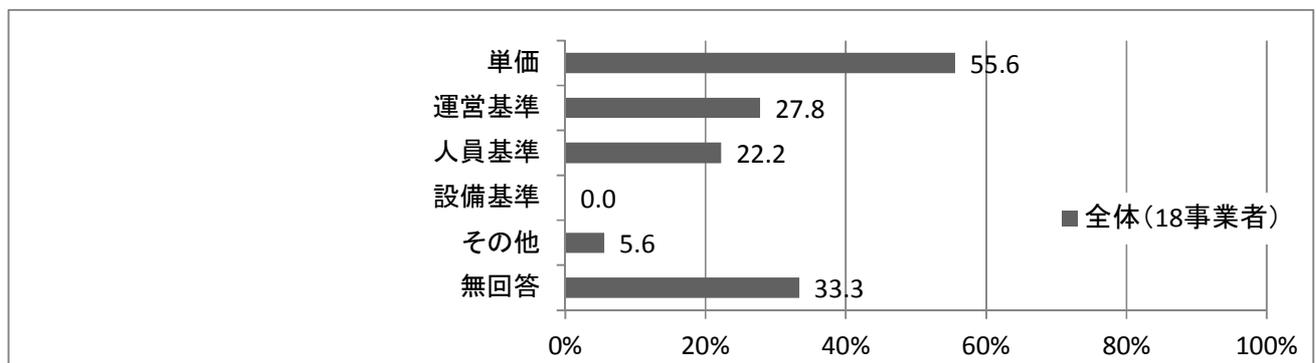
問7-2 (2) (1) で「参入意向はない」を選択した理由 (〇はいくつでも)

「無資格者でも対応可能な利用者が少ない」が75%と最も高く、次いで「現在よりも低い賃金では人材は確保できない」が50%、「現在よりも低い介護報酬では参入が難しい」が50%、「人材育成にかかる負担が大きい」が同じく50%となっています。



問7-3 「訪問型サービスA」への参入にあたっての条件として何を重視しますか。(〇はいくつでも)

「単価」が55.6%と最も高く、次いで「運営基準」が27.8%、「人員基準」が22.2%と続いています。



問7-4 本市において、「訪問型サービスA」を導入することを想定した場合、留意すべき事項や、緩和すべき基準など 【単価について】

- ヘルパー有資格者が行う生活援助と内容が変わらない事を理由に、将来的に訪問介護報酬引下げの口実に使われるのではないかと不安
- 単価は安ければ利用者のためには良いと思うが雇用側とすればリスクばかり高くメリットは少ないと思う。
- 訪問介護より低い単位で人材は集まるか。

問7 - 4 本市において、「訪問型サービスA」を導入することを想定した場合、留意すべき事項や、緩和すべき基準など 【人員・設備・運営基準について】

- 介護予防的な意味も込めて近隣在住高齢者等によるボランティア（有償）の活用という形態に向かうのか、あくまで訪問介護の一翼を担うものにするのかによって大きく異なると思う。いっそのこと、どこもやりたがらないと思うが、3級ヘルパー資格を復活させては。

問7 - 4 本市において、「訪問型サービスA」を導入することを想定した場合、留意すべき事項や、緩和すべき基準など 【その他】

- 自立を目指さず、おしゃべり相手欲しさから利用したがるような方が出て来ないような対策が必要
- 無資格者だと支援の切れ目がなく自身がまいてしまうと思う。
- 有資格者以外の従事者でも、認知症の知識を学ばなければ、事件・事故に繋がると思う。

問8 介護予防・日常生活支援総合事業について（通所型サービス）

問8 - 1（1）介護予防通所介護（※）の週あたり利用回数別の利用者数

要支援1は、「週1回」が31人となっており、要支援2は、「週1回」が32人、「週2回」が22人となっています。

区分	週1回	週2回	週2回超	不明	合計
要支援1	31	0	0	9	40
要支援2	32	22	0	15	69

単位：人

※ 介護予防・日常生活支援総合事業の通所型サービスを含みます。

問8 - 1（2）介護予防通所介護の1回あたりの利用時間別の利用者数

要支援1は、「7-9時間」が28人と最も多く、次いで「7-9時間」が10人と続いており、要支援2は、「7-9時間」が43人と最も多く、次いで「7-9時間」が26人となっています。

区分	2-3時間	3-5時間	5-7時間	7-9時間	合計
要支援1	1	1	10	28	40
要支援2	0	0	26	43	69

単位：人

問 8-2 8-1の利用者のうち、通所介護事業所の従業者による専門的な介護が必要と認められる利用者数

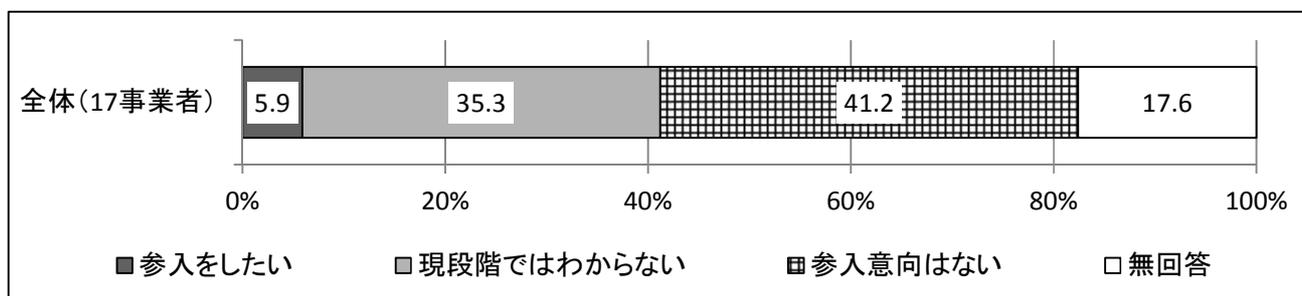
要支援1は8人(20%)、要支援2は18人(26.1%)となっています。

区分	通所介護事業所の従業者による専門的な介護が必要と認められる利用者数
要支援1	8 (20%)
要支援2	18 (26.1%)

単位：人

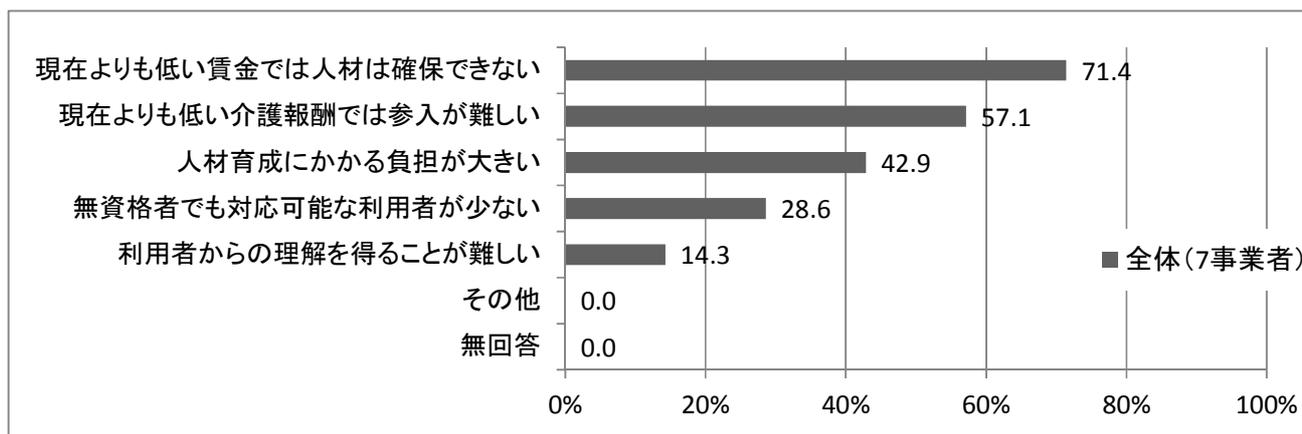
問 8-3 (1) 「通所型サービスA」への参入の意向について (〇はひとつ)

「参入意向はない」が41.2%と最も高く、次いで「現段階ではわからない」が35.3%、「参入をしたい」が5.9%となっています。



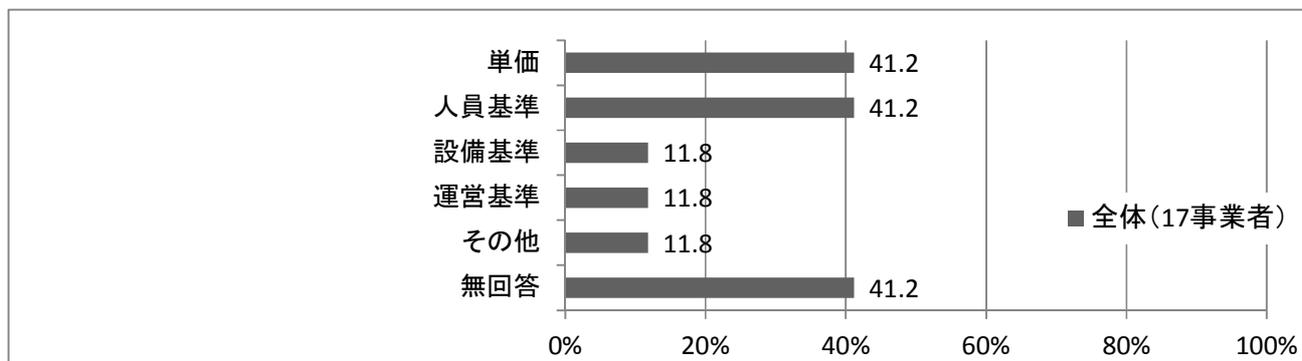
問 8-3 (2) (1)で「参入意向はない」を選択した理由 (〇はいくつでも)

「現在よりも低い賃金では人材は確保できない」が71.4%と最も高く、次いで「現在よりも低い介護報酬では参入が難しい」が57.1%、「人材育成にかかる負担が大きい」が42.9%、「無資格者でも対応可能な利用者が少ない」が28.6%と続いています。



問 8-4 「通所型サービスA」への参入にあたっての条件として何を重視しますか。(〇はいくつでも)

「単価」が41.2%、「人員基準」が同じく41.2%と最も高く、次いで「設備基準」が11.8%、「運営基準」が同じく11.8%などとなっています。



問 8-5 本市において、「通所型サービスA」を導入することを想定した場合、留意すべき事項や、緩和すべき基準など 【単価について】

- 前回の改定で単価が低くなった。それ以上の低い単価が予想されること

問 8-5 本市において、「通所型サービスA」を導入することを想定した場合、留意すべき事項や、緩和すべき基準など 【人員・設備・運営基準について】

- 意見なし

問 8-5 本市において、「通所型サービスA」を導入することを想定した場合、留意すべき事項や、緩和すべき基準など 【その他】

- 人材が集められないのではないか。

君津市高齢者保健福祉計画
・第7期介護保険事業計画
実態調査（アンケート）に係る
分析結果報告書
平成29年3月

発 行	君津市
企画・編集	保健福祉部高齢者支援課
住 所	〒299-1192 千葉県君津市久保2丁目13番1号
電 話	(0439)56-1610
F A X	(0439)56-1220
E - M A I L	kourei@city.kimitsu.lg.jp